

授 業 概 要

平成28年度

群馬医療福祉大学

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

目 次

授 業 内 容

基礎教養科目

【30回】

韓国語Ⅰ	2
韓国語Ⅱ	3
基礎演習Ⅰ	4
基礎演習Ⅱ	6
情報処理演習	8
スポーツ及びレクリエーション実技	10
専門演習Ⅰ	12
専門演習Ⅱ	14
中国語Ⅰ	16
中国語Ⅱ	17
ボランティア活動Ⅰ	18
ボランティア活動Ⅱ(社会福祉専攻)	20
ボランティア活動Ⅱ(子ども専攻)	22
レクリエーション活動援助法	24
レクリエーション活動援助法	26

【15回】

英会話	28
英語Ⅰ	29
英語Ⅱ	30
英語Ⅱ	31
英語Ⅲ	32
英語Ⅳ	33
教育原理(社会福祉専攻)	34
教育原理(子ども専攻)	35
経済学	36
健康論	37
児童文学	38
社会理論と社会システム	39
生涯学習概論	40
心理学的理論と心理的支援	41
政治学Ⅰ(世界と日本の関わり)	42
政治学Ⅱ(世界と日本の関わり)	43
世界史	44
地理学	45

哲 学	46
道徳教育	47
読書指導と文芸	48
特設科目 論語	49
日本国憲法	50
日本史Ⅰ	51
日本史Ⅱ	52
人間と宗教	53
福祉情報処理	54
ボランティア活動Ⅲ	55
ボランティア活動Ⅳ	56
マスメディア論	57
倫理学	58

専門科目

【30回】

アクティビティ・サービス援助技術	60
介護技術Ⅰ	62
介護技術Ⅱ	64
教育実習事前事後指導（中・高）2年	66
教育実習事前・事後指導（特支）	68
現代社会と福祉	70
公民科教育法	72
高齢者に対する支援と介護保険制度	74
子どもの保健Ⅰ（1）	76
子どもの保健Ⅰ（2）	77
児童文化（演習）	78
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	80
社会科教育法Ⅰ	82
社会科教育法Ⅱ	84
社会福祉特講Ⅱ	86
社会福祉特講Ⅲ	88
社会福祉特講Ⅳ	90
社会保障	92
小学校教科教育法（音楽）	94
小学校教科教育法（家庭）	96
小学校教科教育法（国語）	98

小学校教科教育法（算数）	100
小学校教科教育法（社会）	102
小学校教科教育法（図工）	104
小学校教科教育法（生活）	106
小学校教科教育法（体育）	108
小学校教科教育法（理科）	110
初等教育実習事前・事後指導（3年）	112
心理学実験実習Ⅰ	114
心理統計学	116
精神疾患とその治療	118
精神保健福祉に関する制度とサービス	120
精神保健の課題と支援	122
精神保健福祉援助演習基礎	124
精神保健福祉援助演習専門	126
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	128
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	130
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	132
相談援助演習Ⅱ	134
相談援助演習Ⅲ	136
相談援助実習指導Ⅱ	138
相談援助の基盤と専門職	140
相談援助の理論と方法Ⅰ	142
相談援助の理論と方法Ⅱ	144
地域福祉の理論と方法	146
乳児保育Ⅰ（演習）	148
発達心理学 a	150
福祉科教育法	152
福祉サービスの組織と経営	154
保育原理Ⅰ	156
保育実習指導Ⅰ（施設）	158
保育実習指導Ⅰ（保育所）	160
保育の表現技術Ⅰ（音楽）	162
保育の表現技術Ⅰ（図画工作①）	164
保育の表現技術Ⅰ（図画工作②）	165
保育の表現技術Ⅱ（美術）	166
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 A）	168

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 B）	170
保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法 C）	172

【15回】

LD 等教育総論	174
音楽概論	175
カウンセリング	176
学習指導と学校図書館	177
学習心理学	178
学校経営と学校図書館	179
学校図書館メディアの構成	180
家庭科概論	181
家庭支援論	182
教育実習事前事後指導（中・高）3年	183
教育実習事前事後指導（幼稚園）	184
教育実習（幼稚園）	185
教育社会学	186
教育心理学	187
教育相談論	188
教育方法論	189
教育方法論	190
教職概論	191
教職実践演習（小学校）	192
教職実践演習（中・高）	193
教職対策講座Ⅰ（中・高）	194
教職対策講座Ⅱ	195
権利擁護と成年後見制度	196
公衆衛生学	197
更生保護制度	198
高等学校教育実習（公民科）	199
高等学校教育実習（福祉）	200
国語科概論	201
国際福祉論	202
子どもの食と栄養	203
子どもの保健Ⅱ	204
肢体不自由教育Ⅰ	205
肢体不自由教育Ⅱ	206

肢体不自由者（児）の心理生理病理	207
社会科概論	208
社会心理学	209
社会調査の基礎（社会福祉専攻）	210
社会調査の基礎（子ども専攻）	211
社会調査の基礎（編入組）	212
社会的養護Ⅰ	213
社会的養護Ⅱ	214
社会的養護内容	215
社会福祉史	216
社会福祉特講Ⅰ	217
社会福祉法制	218
住環境福祉論	219
就職指導	220
就労支援サービス	221
障害児支援法総論	222
障害児（者）心理学	223
障害児保育（子ども専攻4年）	224
障害児保育（子ども専攻2年）	225
障害者に対する支援と自立支援制度	226
小学校教育実習	227
情報メディアの活用	228
初等教育実習事前・事後指導（4年）	229
人格心理学	230
人権教育論	231
人体の構造と機能及び疾病	232
心理学研究法	233
心理学実験実習Ⅱ	234
心理学実験実習Ⅲ	235
心理療法	236
数学概論	237
生活科概論	238
青少年の理解と援助	239
精神障害者の生活支援システム	240
精神保健福祉援助実習	241
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	242

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	243
生徒指導論	244
青年心理学	245
相談援助演習Ⅰ	246
相談援助実習	247
相談援助実習指導Ⅰ	248
相談心理学	249
卒業研究	250
体育概論	251
地域子育て支援論	252
知的障害教育Ⅰ	253
知的障害教育Ⅱ	254
知的障害者の生理・病理	255
中学校教育実習（社会科）	256
重複障害教育総論	257
低所得者に対する支援と生活保護制度	258
読書と豊かな人間性	259
特別活動研究	260
特別支援学校（肢体不自由・知的障害・病弱）教育実習	261
特別支援教育総論	262
人間関係論	263
認知心理学	264
発達心理学（保育の心理学Ⅰ）	265
発達心理学特講	266
美術概論	267
病弱教育	268
病弱児の心理生理病理	269
福祉行財政と福祉計画	270
福祉事務所運営論	271
福祉心理学	272
保育課程論	273
保育教職実践演習	274
保育実習Ⅰ（施設）	275
保育実習Ⅰ（保育所）	276
保育実習Ⅱ（保育所）	277
保育実習指導Ⅰ（施設）事後指導	278

保育実習指導Ⅱ（保育所）	279
保育者論	280
保育内容（環境）	281
保育内容（健康）	282
保育内容（言葉）	283
保育内容総論	284
保育内容（人間関係）	285
保育内容（表現）	286
保育の心理学Ⅱ（教育心理学）	287
保育の表現技術Ⅰ（体育）	288
保健医療サービス	289
幼児理解	290
理科概論	291
臨床心理学（社会福祉専攻）	292
臨床心理学（子ども専攻）	293
臨床心理学特講	294
老人心理学	295
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目）	297
群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（専門科目）	298
平成 28 年度 社会福祉学部 カリキュラム一覧	301
教科書の購入について	306

基礎教養科目

科目名	韓国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	韓国語Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字を読み、書けるようにする。韓国語の基礎会話力を身につける。韓国に興味を持ち、韓国と日本の社会・文化を比較して理解を深める。

■授業の概要

ハングルの特徴、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを、日常生活及び一般的な話題を通して学び、簡単な会話ができるように、何度も口に出して練習する。視聴覚教材なども用いる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ハングルの母音/出合いの挨拶
第3回	ハングルの子音1/別れの挨拶
第4回	ハングルの子音2/基本会話-「感謝」
第5回	ハングルの二重母音/基本会話-「謝罪」
第6回	ハングルの濃音/基本会話-「食事の時」
第7回	ハングルの激音/基本会話-「お願いの時」
第8回	ハングルのパッチム1/「分かる・分からない」の表現
第9回	ハングルのパッチム2/「ある・ない」の表現
第10回	映像で学ぶハングル1
第11回	ハングルの発音の規則
第12回	ハングルの日本語表記/ハングルでの動物の鳴き声
第13回	自己紹介/「～は～です」文型
第14回	指示代名詞1/「助詞～が」
第15回	指示代名詞2/「～が何ですか」の文型

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験（60%）、宿題・レポート（20%）、授業への取り組み（20%）を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語（文法編）」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	韓国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	朴 惠蘭	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	韓国語Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、「聴く」「読む」「書く」「話す」の四つの技能のうち、「話す」こと、「聴く」ことにやや比重をおいて授業を進めていく。そのことにより、「会話力」を身につける。

■授業の概要

教材の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら、韓国語と日本語の発想の違いなどを確認していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	否定文/「助詞～も」
第17回	疑問詞/「～は～ではありません」の文型
第18回	家族の呼び方/「～も～です」の文型
第19回	丁寧な会話体/「助詞～に」
第20回	位置を表す言葉/「～に～があります」の文型
第21回	時を表す言葉1/「助詞～で」
第22回	曜日の言い方/「～で～をします」の文型
第23回	漢数詞1/時を表す言葉2
第24回	映像で学ぶハングル2
第25回	漢数詞2/「番号・値段の言い方」
第26回	漢数詞3/「～月～日です」の文型
第27回	用言の「です・ます形」1/「助詞～と」
第28回	用言の「です・ます形」2/「～と～をします」の文型
第29回	否定・不可能の表現/「あまり～くありません」の文型
第30回	まとめ・復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

日本語にない発音が多いため、正しい発音を身につけるためには、積極的に出席し、何度も口に出して練習することが望ましい。初めての言語のため、文字を覚えるためには、繰り返しの練習、復習が必要である。韓国語Ⅰに引き続き、韓国語Ⅱの履修が望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、宿題・レポート(20%)、授業への取り組み(20%)を総合して評価する。

■教科書

金眞/柳圭相/芦田麻樹子 著 「みんなで学ぶ韓国語(文法編)」 朝日出版社

■参考書

なし

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。
- ③昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力養成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的教養力と自律的实践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①(学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの年間計画、履修届等の確認)
第2回	進路・資格取得プログラム①(4年後の目標(個人・クラス)、クラス目標の発表)
第3回	心身の健康プログラム①-生活の充実についてⅠ(防犯講座)
第4回	心身の健康プログラム②-健康管理についてⅠ(親睦スポーツ大会の練習)
第5回	建学の精神と実践教育プログラム②(二者面談、キャリアサポートカルテの記入、親睦スポーツ大会の振り返り)
第6回	建学の精神と実践教育プログラム③-生活を科学するⅠ(雑巾作成)
第7回	学士力養成プログラム①(図書館の利用の仕方)
第8回	学士力養成プログラム②(レポート作成Ⅰ、『知へのステップ』)
第9回	学士力養成プログラム③(レポート作成Ⅱ、『知へのステップ』)
第10回	学士力養成プログラム④(レポート作成Ⅲ、『知へのステップ』)
第11回	学士力養成プログラム⑤(インターネットの利用の仕方)
第12回	地域貢献プログラム①地域とのかかわりⅠ(昌賢祭の意義と内容)
第13回	地域貢献プログラム②地域とのかかわりⅡ(昌賢祭のテーマ設定、夏期休業中にすべきこと)
第14回	地域貢献プログラム③地域とのかかわりⅢ(障害者スポーツの理解と大会補助)
第15回	建学の精神と実践教育プログラム④前期総括(演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

基礎演習への取り組み内容(60%)、提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	1学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神と実践教育、学士力養成、進路・資格取得、地域貢献、心身の健康				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。
- ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。
- ③昌賢祭の研究発表を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践教育プログラム⑤(学長訓話・学部長講話、年金セミナー)
第17回	心身の健康プログラム③-生活の充実についてⅡ(デートDV防止)
第18回	地域貢献プログラム④地域とのかかわりⅣ(昌賢祭の制作活動・発表準備)
第19回	学士力育成プログラム⑥(学部間連携教育Ⅰ)
第20回	地域貢献プログラム⑤地域とのかかわりⅤ(昌賢祭の制作活動・発表準備)
第21回	地域貢献プログラム⑥地域とのかかわりⅥ(昌賢祭の制作活動・発表準備)
第22回	地域貢献プログラム⑦地域とのかかわりⅦ(昌賢祭の制作活動・発表準備)
第23回	地域貢献プログラム⑧地域とのかかわりⅧ(昌賢祭の振り返り)
第24回	学士力育成プログラム⑦(学部間連携教育Ⅱ)
第25回	進路・資格取得プログラム②(日本語能力試験)
第26回	学士力育成プログラム⑧(学部間連携教育Ⅲ)
第27回	心身の健康プログラム④-生活の充実についてⅢ(消費者被害防止教育)
第28回	建学の精神と実践教育プログラム⑥(環境美化活動・クラス活動の振り返り)
第29回	進路・資格取得プログラム③(4年生講話)
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑦(後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

基礎演習への取り組み内容(60%)、提出物(40%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2学年担当者	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動、学士力、研究発表力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確かなものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。
- 2 基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。
- 3 昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、[チームケア教育]で学部間での連携を通じて多職種連携のあり方の習得や、研究小論文を作成することにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践プログラム① 前期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、基礎演習Ⅱの内容等
第2回	心身の健康プログラム① 学生生活について(日常生活でのリスク回避)
第3回	心身の健康プログラム② 体力の育成についてⅠ(親睦スポーツ大会準備)
第4回	心身の健康プログラム③ 体力の育成についてⅡ(親睦スポーツ大会)
第5回	建学の精神と実践プログラム② 生活を科学するⅡ(雑巾作成)
第6回	建学の精神と実践プログラム③ ボランティア活動、環境美化活動の重要性についてⅡ
第7回	進路・資格取得プログラム① 一般常識テスト
第8回	学士力育成プログラム① 図書館、ネット利用等講話 研究小論文作成について
第9回	学士力育成プログラム② 研究小論文:個人またはグループ研究、研究目的、研究テーマ選定、活動報告レポート作成等
第10回	進路・資格取得プログラム② 日本語能力試験
第11回	心身の健康プログラム④ 命の大切さについて
第12回	進路・資格取得プログラム③ キャリアガイダンス
第13回	地域貢献プログラム① 地域との連携についてⅠ(昌賢祭 研究発表に向けて)
第14回	建学の精神と実践プログラム④ 前期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、夏期休暇中の活動について
第15回	学士力育成プログラム③合同オリエン・打ち合わせ(プログラムの概要・研究テーマの検討、テーマ決定計画実施)前橋または藤岡キャンパス

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取組・内容等(30%)、研究小論文(40%)、クラス課題等の提出物(30%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会(編著)『知へのステップ』くろしお出版、2002年

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	2学年担当者	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動、学士力、研究発表力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確かなものとする。基礎演習における学習の集大成である研究小論文の作成を行い、学士力の向上を図る。研究テーマを自主的に設定し、そのテーマを深めるのに適した研究方法に基づき、収集した資料を駆使して問題の構造等を明らかにしていく。同時に読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。

〔到達目標〕

- 1 礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行なうことができる。
- 2 基礎演習における学習の集大成である研究小論文の完成を目指す。
- 3 昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習すると共に、[チームケア教育]で学部間での連携を通じて多職種連携のあり方の習得や、研究小論文を作成することにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践プログラム⑤ 後期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、各委員会より、連絡事項等
第17回	地域貢献プログラム② 地域との連携についてⅡ (昌賢祭準備)
第18回	学士力育成プログラム④ 合同打ち合わせ(報告準備) 本町キャンパス
第19回	地域貢献プログラム③ 地域との連携についてⅢ (昌賢祭 研究発表に向けて:研究発表の仕上げ、活動報告レポート作成等)
第20回	地域貢献プログラム④ 地域との連携についてⅣ (昌賢祭 研究発表、活動報告レポート作成等)
第21回	学士力育成プログラム⑤合同打ち合わせGW(報告) 前橋キャンパス
第22回	進路・資格取得プログラム④ 外部講師講話
第23回	進路・資格取得プログラム⑤ 先輩学生(4年生)から伝えたいこと
第24回	学士力育成プログラム⑥ 発表会(発表) 藤岡キャンパス
第25回	学士力育成プログラム⑦ 発表会(発表) 藤岡キャンパス
第26回	学士力育成プログラム⑧ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第27回	学士力育成プログラム⑨ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第28回	学士力育成プログラム⑩ 研究小論文作成、活動報告レポート作成等
第29回	学士力育成プログラム⑪ 研究小論文発表
第30回	建学の精神と実践プログラム⑥ 後期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、春期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 基礎演習は本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

研究小論文、研究発表に関する資料収集・作成に要する時間は、授業時間外の活動が重要である。

■オフィスアワー

授業時に提示する。

■評価方法

演習への取組・内容等(30%)、研究小論文(40%)、クラス課題等の提出物(30%)を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)『咸有一徳』中央法規、2002年。中田勝(翻訳)初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会(編著)『知へのステップ』くろしお出版、2002年

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Word、Excel、PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・Excel・PowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉え、ひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、自己紹介スライド作成（タイピング練習をしておくこと）
第2回	情報化社会とリテラシー
第3回	ソフトウェアの基本操作、Wordによる文書処理（1）文書処理について
第4回	Wordによる文書処理（2）Wordの基本操作、演習「レポート」について
第5回	Wordによる文書処理（3）文章の入力・編集 ①
第6回	Wordによる文書処理（4）文章の入力・編集 ②
第7回	Wordによる文書処理（5）表・図表・図形の作成・編集 ①
第8回	Wordによる文書処理（6）表・図表・図形の作成・編集 ②
第9回	Wordによる文書処理（7）数式の挿入・段組みの設定
第10回	Wordによる集客広告（チラシ・ポスター）の作成
第11回	表計算ソフトウェアとは、Excelの基本操作
第12回	「表」の作成
第13回	ワークシートの書式設定
第14回	表の拡張
第15回	関数の使用方法（1）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・USBフラッシュメモリー（1～2GB程度で良い）を各自用意し、毎回必ず持参すること。

・復習をしっかりと行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

〔受講ルール〕

・演習は、毎日が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。

・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。

・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話、スマホ）の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・日々タイピングを練習し、技術向上に努めること。

・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

①試験（60%）

②課題の提出状況（40%）

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	情報処理演習	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、Word、Excel、PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

レポート作成・研究発表において必要不可欠なWord・Excel・PowerPointを活用できるようにする。

■授業の概要

本講義では、情報処理をコマンドの習得と捉えるのではなく、大学で「学習すること」の一環として捉えひとつのテーマに関し、レポート作成・分析・発表などの場面を通して具体的に習得していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	関数の使用方法（2）
第17回	関数の使用方法（3）
第18回	グラフの作成
第19回	関数・グラフを使った実践問題
第20回	データベース機能（1）
第21回	データベース機能（2）
第22回	Excel 総復習、実践問題
第23回	プレゼンテーションとは、よいプレゼンテーションをするために
第24回	プレゼンテーションの計画策定
第25回	PowerPointを使ったプレゼンテーション（1）
第26回	PowerPointを使ったプレゼンテーション（2）
第27回	PowerPointを使ったプレゼンテーション（3）
第28回	スライドショーの設定
第29回	発表の準備（リハーサル）
第30回	プレゼンテーション実施

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・USBフラッシュメモリー（1～2GB程度で良い）を各自用意し、毎回必ず持参すること。
- ・復習をしっかりと行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

〔受講ルール〕

- ・演習は、毎日が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。
- ・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話、スマホ）の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日々タイピングを練習し、技術向上に努めること。
- ・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

- ①試験（60%）
- ②課題の提出状況（40%）

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活躍できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解
第2回	アイスブレーキング（実践）
第3回	室内でできるレクリエーションゲーム（実践）
第4回	新聞紙を使ったレクリエーションゲーム（実践）
第5回	基礎理論 レクリエーションの意義について
第6回	基礎理論 レクリエーション運動の歴史とその背景
第7回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-1（制約のある空間での支援方法）
第8回	支援活動実習Ⅰ レクリエーションプログラムの企画と運営①-2（制約のない空間での支援方法）
第9回	支援活動実習Ⅰ レクリエーション評価とまとめ①
第10回	ニュースポーツ キンボール ルールの理解と基礎技術の獲得
第11回	ニュースポーツ キンボール ゲーム
第12回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-1（制約のある空間での支援方法）
第13回	支援活動実習Ⅱ レクリエーションプログラムの企画と運営②-2（制約のない空間での支援方法）
第14回	支援活動実習Ⅱ レクリエーション評価とまとめ②
第15回	前期の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。

（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	スポーツ及びレクリエーション実技	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク ニュースポーツ・支援実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活躍できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の意義を理解できる。
2. さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。
3. 他者への支援（指導）ができるようになる。

■授業の概要

レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者（指導者）としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	レクリエーションダンス（地域伝承踊り）
第17回	レクリエーションダンス（介護予防体操含む）
第18回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティとは
第19回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティの示し方
第20回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ルールの理解と基礎技術の獲得
第21回	ニュースポーツ ユニバーサルホッケー ゲーム
第22回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-1（制約のある空間での支援方法）
第23回	支援活動実習Ⅲ レクリエーションプログラムの企画と運営③-2（制約のない空間での支援方法）
第24回	支援活動実習Ⅲ レクリエーション評価とまとめ③
第25回	コミュニケーション・ワーク 集団に対するホスピタリティ
第26回	コミュニケーション・ワーク アイスブレーキングの意義と基本技術
第27回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-1（制約のある空間での支援方法）
第28回	支援活動実習Ⅳ レクリエーションプログラムの企画と運営④-2（制約のない空間での支援方法）
第29回	支援活動実習Ⅳ レクリエーション評価とまとめ④
第30回	1年間の振り返り まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・レクリエーション活動（実技）を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。
- ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。
- ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で収集するよう心がけること。
- ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

評価の基準：到達目標の達成度を評価する。

評価の方法：筆記試験 50% レポート等提出物（活動企画書）20% 実技 30% として総合的に評価する。

（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～
(財)日本レクリエーション協会編

■参考書

必要に応じて紹介する。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	3学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路の明確化、卒業研究・制作、学士力の育成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、専門演習における集大成である卒業研究・制作に向けて、リテラシー力を身に付け、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的に行う。
- ③昌賢祭での総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム① 前期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、専門演習Ⅰの内容等
第2回	建学の精神と実践教育プログラム② 生活を科学する(雑巾作成)Ⅲ
第3回	心身の健康プログラム① 心身の充実について(1) 親睦スポーツ大会準備
第4回	心身の健康プログラム② 心身の充実について(2) 親睦スポーツ大会準備
第5回	進路・資格取得プログラム① 進路決定に向けて(1) 一般常識テスト
第6回	学士力育成プログラム① リテラシーをみがく(1) ノート・テイキング
第7回	学士力育成プログラム② リテラシーをみがく(2) 情報を集める
第8回	地域貢献プログラム① 地域との深まりについて(1) 昌賢祭研究発表テーマ選定、資料収集、活動計画作成等
第9回	地域貢献プログラム② 地域との深まりについて(2) 昌賢祭研究発表に向けて;資料収集、活動内容作成等
第10回	学士力育成プログラム③ リテラシーをみがく(3) リーディング ①
第11回	学士力育成プログラム④ リテラシーをみがく(4) リーディング ②
第12回	地域貢献プログラム③ 地域との深まりについて(3) 昌賢祭研究発表に向けて;資料収集、活動内容作成等
第13回	進路・資格取得プログラム② 進路決定に向けて(2) 施設長講話
第14回	地域貢献プログラム④ 地域との深まりについて(4) 昌賢祭研究発表に向けて;資料収集、活動内容作成等
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③ 前期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、夏期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各担当教員に確認すること。

■評価方法

提出物(40%)、演習への取組・内容等(60%)を総合して評価する。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	3学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路の明確化、卒業研究・制作、学士力の育成				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、専門演習における集大成である卒業研究・制作に向けて、リテラシー力を身に付け、テーマの設定や資料収集等を積極的に行う。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通して、進路を明確化し、具体化させる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的に行う。
- ③昌賢祭での総合的な活動を通して、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を学習すると共に、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導並びに学生生活全般にかかわる個別相談に対する助言・指導を行う。さらに総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし、具体化させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践教育プログラム④ 後期オリエンテーション 学長訓話、学部長講話、学年担当者より、連絡事項等
第17回	進路・資格取得プログラム③ 進路決定に向けて(3) 就職作文試験
第18回	学士力育成プログラム⑤ リテラシーをみがく(4) ライティング ①
第19回	学士力育成プログラム⑥ リテラシーをみがく(4) ライティング ②
第20回	地域貢献プログラム⑤ 地域との深まりについて(5) 昌賢祭研究発表準備等
第21回	地域貢献プログラム⑥ 地域との深まりについて(6) 昌賢祭研究発表準備等
第22回	地域貢献プログラム⑦ 地域との深まりについて(7) 昌賢祭研究発表
第23回	地域貢献プログラム⑧ 地域との深まりについて(8) 昌賢祭発表振り返り
第24回	建学の精神と実践教育プログラム⑤ ボランティア・環境美化についてⅢ
第25回	進路・資格取得プログラム④ 進路決定に向けて(4) 就職模擬試験(論文試験)
第26回	進路・資格取得プログラム⑤ 進路決定に向けて(5) 卒業生講話
第27回	学士力育成プログラム⑦ 卒業研究・制作に向けて(1) 文献収集等 チーム教育を視野に入れて
第28回	学士力育成プログラム⑧ 卒業研究・制作に向けて(2) 文献収集等 チーム教育における多職種理解
第29回	進路・資格取得プログラム⑥ 進路決定に向けて(6) 進路ガイダンス、進路希望調査、キャリアサポートカルテ作成
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑥ 後期の総括:総括レポート作成、自己点検・自己評価、春期休暇中の活動について等

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考力を身に付けるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

各担当教員に確認すること。

■評価方法

提出物(40%)、演習への取組・内容等(60%)を総合して評価する。

■教科書

「咸有一徳」中央法規、「初編 伝習録」明治書院、「知のナビゲーター」くろしお出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4 学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路決定、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、専門演習Ⅰで行った3年次教育のステップアップを行う。専門演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、卒業研究・制作、進路決定等に自主的に取り組み、学士力を養成する。特に、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、テーマを自主的に設定し、資料収集、分析・考察等論理的な記述ができることを目的とする。テーマ設定においては、チームケア教育(学部間で連携して)の講義内容をふまえて行うことも有効である。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動について自主的に取り組むことができる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながら作成することができる。
- ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。クラス単位での授業では、「卒業研究・制作」と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文・制作等をグループ単位で追究する。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	建学の精神と実践教育プログラム①(学長訓話・学部長講話、演習Ⅱの計画と学士力養成)	中講義室
第2回	心身の健康プログラム—心身のバランス①(親睦スポーツ大会に向けて①)	アリーナ
第3回	心身の健康プログラム—心身のバランス②(親睦スポーツ大会に向けて②)	アリーナ
第4回	建学の精神と実践教育プログラム②(生活を科学する—雑巾縫いをとおして)	教室
第5回	学士力養成プログラム①(卒業研究・制作の概要:大学での学びと研究①)	教室
第6回	進路・資格取得プログラム①(小論文テスト)	中講義室
第7回	進路・資格取得プログラム②(福祉施設長等の講話)	中講義室
第8回	学士力養成プログラム②(卒業研究・制作にむけて:チームケア教育~大学での学びと研究②)	中講義室
第9回	学士力養成プログラム③(卒業研究・制作にむけて:チームケア教育~大学での学びと研究③)	中講義室
第10回	学士力養成プログラム④(卒業研究・制作にむけて:大学での学びと研究④)	教室
第11回	学士力養成プログラム⑤(卒業研究・制作にむけて:大学での学びと研究⑤)	教室
第12回	学士力養成プログラム⑥(卒業研究・制作:計画立案)	教室
第13回	進路・資格取得プログラム③(卒業生による講話)	中講義室
第14回	学士力養成プログラム⑦(卒業研究・制作:論文の作法・論文執筆要領等)	中講義室
第15回	建学の精神と実践教育プログラム③(前期総括)	教室

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている内容を予習し、わからない部分について授業にて解決するよう努力すること。卒業研究・制作についてはグループの進行状況を確認し、計画を立てて、わからないことは担当者へ相談に行くこと。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

卒業研究・制作(40%)、演習への取組・内容等(30%)、提出物(30%)の総合点とする。

■教科書

『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナビゲーター』くろしお出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	4学年担任	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、礼儀・挨拶、環境美化活動、進路決定、卒業研究・制作、学士力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

本学の建学の精神・教育目的に基づき、専門演習Ⅰで行った3年次教育のステップアップを行う。専門演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、卒業研究・制作、進路決定等に自主的に取り組み、学士力を養成する。特に、専門演習における集大成である卒業研究・制作では、テーマを自主的に設定し、資料収集、分析・考察等論理的な記述ができることを目的とする。テーマ設定においては、チームケア教育(学部間で連携して)の講義内容をふまえて行うことも有効である。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶、環境美化活動について自主的に取り組むことができる。
- ②専門演習の集大成である卒業研究・制作についてグループで協力しながら作成することができる。
- ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。

■授業の概要

授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキル習得、福祉施設等で働く外部講師による講義を予定している。クラス単位での授業では、「卒業研究・制作」と題し、4年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論文・制作等をグループ単位で追究する。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	建学の精神と実践教育プログラム④(学長訓話・学部長講話、演習Ⅱ後期の計画)	中講義室
第17回	学士力養成プログラム⑧(卒業研究・制作)	教室
第18回	心身の健康プログラム-心身のバランス③(ストレス社会にどう生きるか)	中講義室
第19回	学士力育成プログラム⑨(卒業研究・制作)	教室
第20回	学士力育成プログラム⑩(卒業研究・制作:クラス内中間報告)	教室
第21回	進路・資格取得プログラム④(クラス内研修)	教室
第22回	地域貢献プログラム①(地域貢献について、昌賢祭について)	中講義室
第23回	進路・資格取得プログラム⑤(租税教室)	中講義室
第24回	学士力育成プログラム⑪(卒業研究・制作)	教室
第25回	学士力育成プログラム⑫(卒業研究・制作:クラス内発表会(代表選出))	教室
第26回	学士力育成プログラム⑬(卒業研究・制作:全体発表会1)	中講義室
第27回	学士力育成プログラム⑭(卒業研究・制作:全体発表会2)	中講義室
第28回	進路・資格プログラム⑥(特別講話:「社会人としての心構え」)	中講義室
第29回	学士力養成プログラム⑮(クラス内研究活動)	教室
第30回	建学の精神と実践教育プログラム⑤(後期総括)	中講義室

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 専門演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。
- 2 私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。
- 3 全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている内容を予習し、わからない部分について授業にて解決するよう努力すること。卒業研究・制作についてはグループの進行状況を確認し、計画を立てて、わからないことは担当者へ相談に行くこと。

■オフィスアワー

各担当者に確認すること。

■評価方法

卒業研究・制作(40%)、演習への取組・内容等(30%)、提出物(30%)の総合点とする。

■教科書

『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナビゲーター』くろしお出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	中国語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を習得することにより、自己に関する簡単な事柄を言えるようにする。
- ②中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、(教科書P2・3を読んでおくこと)
第2回	第1課 你好(こんにちは) 中国語の音節 声調 ドリル
第3回	第2課 明天见(また明日) 単母音 複母音 ドリル
第4回	第3課 谢谢(ありがとう) 子音(1)ドリル
第5回	第4課 好久不见(お久しぶり) 子音(2) 鼻音 ドリル
第6回	第5課 迎接(出迎える) 名前の言い方尋ね方
第7回	第6課 欢迎会(歓迎パーティー) 動詞「是」・助詞「的」の使い方
第8回	第7課 打的(タクシーに乗る) 基本語順S+V+O 連動文
第9回	第8課 住宿(宿泊する) 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞
第10回	第9課 问路(道をたずねる) 動詞「在」・前置詞「从」「往」の使い方
第11回	第10課 买东西(ショッピングする) 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方。形容詞述語文
第12回	第11課 聊天儿(おしゃべりをする) 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方
第13回	第12課 点菜(料理を注文する) 量詞、動詞の重ね方
第14回	第13課 买足球票(サッカーのチケットを買う) 時刻の言い方、状態の変化を表す文末の「了」
第15回	前期総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、勘違いも甚だしいです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点(小テスト、課題など) 30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年2月

科目名	中国語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	漢語、中国語、簡体字、繁体字、中国、語学学習、異文化理解				

■授業の目的・到達目標

- ①中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を習得することにより、身の回りの日常的な事柄を表現できるようになります。
- ②中国語の学習を通じて、日本語及び日本文化の差異に着目します。
- ③真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
- ④語学学習を通じて、異文化理解の方法を学びます。

■授業の概要

中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語である。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。中国語Ⅱは中国語だけでなく、中国の文化・歴史にも着目し、授業を進めます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	第14課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表わす「了」
第2回	第15課 网吧（インターネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」
第3回	第16課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
第4回	第17課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」、二重目的語をとる動詞
第5回	第18課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
第6回	第19課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
第7回	第20課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）結果補語、様態補語
第8回	中国の日本事情
第9回	第21課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現-前置詞「比」
第10回	第22課 买衬衫（シャツを買う）方向補語①単純方向補語、「有点儿」と「一点儿」
第11回	第23課 生日晚会（誕生パーティー）「把」構文、方向補語②複合方向補語
第12回	第24課 看DVD（DVDを見る）程度補語、可能補語
第13回	第25課 看病（診察を受ける）主述述語文、受け身表現
第14回	第26課 回国之前（帰国前）「就要～了」構文、使役表現
第15回	総復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、積極的に参加し、発音の練習をすること。周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業前に必ず付属のCDを聞き、中国語に慣れ親しむこと。授業の時間だけで語学がマスターできたら、大間違いです。疑問が生じた時は、すぐに教員に質問をすること。後延ばしにしたら、理解が困難になります。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末試験 70%、平常点（小テスト、課題など）30%。

■教科書

陳淑梅 劉光赤『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014年1月

■参考書

相原茂他『Why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996年9月
倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973年1月

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、体験学習、人間形成				

■授業の目的・到達目標

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解している。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を明確化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ボランティア活動とは①（本学における位置づけ・意義、授業内容）
第3回	ボランティア活動とは②（活動の種類、各施設の説明、etc.）
第4回	継続ボランティアに向けて①（依頼の仕方、電話のかけ方）
第5回	継続ボランティアに向けて②（ボランティア紹介票の記入）
第6回	継続ボランティアに向けて③（報告書の書き方）
第7回	ボランティア活動で求められる基礎知識①車いすの体験
第8回	ボランティア活動で求められる基礎知識②ブラインドウォークの体験
第9回	七夕祭りボランティアに向けての準備①
第10回	七夕祭りボランティアに向けての準備②
第11回	七夕祭りボランティアに向けての準備③
第12回	七夕祭りボランティアに向けての準備④
第13回	前期中に行ったボランティア活動の報告
第14回	障害者スポーツ大会について
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

依頼ボランティアに関する掲示板（1号館2F）、ボランティアセンター（2号館3F）で、各自が主体的にボランティアに関する情報に接触するように心がけること。

■オフィスアワー

授業時に伝える。

■評価方法

授業への取り組み（発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、足立勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学の精神、体験学習、人間形成				

■授業の目的・到達目標

対人援助職の養成課程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけではなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Iでは、学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目標とする。

〔到達目標〕

- ①本学におけるボランティア活動について理解している。
- ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。
- ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を明確化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Iは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動のねらいやこれまでの活動の歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義および演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	夏季休業中のボランティア活動についての報告・反省
第17回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について①
第18回	ボランティア活動で困っていることや疑問点について②
第19回	地域の高齢者施設について
第20回	地域高齢者施設へのプレゼント製作①（プレゼントの選定）
第21回	地域高齢者施設へのプレゼント製作②（役割分担、制作計画）
第22回	地域高齢者施設へのプレゼント製作③（制作活動）
第23回	地域高齢者施設へのプレゼント製作④（制作活動）
第24回	地域高齢者施設へのプレゼント製作⑤（制作活動）
第25回	ボランティア・フォーラム
第26回	継続ボランティア活動報告の発表準備
第27回	継続ボランティア活動報告会①（各クラスでの発表）
第28回	継続ボランティア活動報告会②（各クラスでの発表）
第29回	継続ボランティア活動報告会③（代表者による全体での発表）
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習に準じ、責任をもって活動すること。また、施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。継続ボランティア活動のボランティア先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。「依頼ボランティア」、「行事ボランティア」、「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

依頼ボランティアに関する掲示板（1号館2F）、ボランティアセンター（2号館3F）で、各自が主体的にボランティアに関する情報に接触するように心がけること。

■オフィスアワー

授業時に伝える。

■評価方法

授業への取り組み（発表、提出物、レポート）60%、ボランティア先での活動40%で、総合的に評価する。詳細については、授業内で説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定 監修、足立勤一 編著）

■参考書

適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

到達目標：

グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。

地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。

グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。

継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	本学におけるボランティア活動Ⅱの位置づけ、単位認定の基準等について
第2回	オリエンテーション②	本科目の単位認定の基準等について
第3回	地域福祉について①	ボランティア活動の意義と目的
第4回	地域福祉について②	ボランティア活動の実際
第5回	地域におけるボランティア活動①	企画の進め方について、個人での企画案作成
第6回	地域におけるボランティア活動②	グループ分けとグループでの企画案作成
第7回	地域におけるボランティア活動③	企画したボランティア活動の意義と目的を考える
第8回	地域におけるボランティア活動④	企画したボランティア活動の実行可能性と課題を整理し、解決策を導き出す
第9回	地域におけるボランティア活動⑤	企画したボランティア活動に活用できる社会資源を整理する
第10回	地域におけるボランティア活動⑥	企画したボランティア活動を実行する際の留意点
第11回	地域におけるボランティア活動⑦	企画書の作成と提出
第12回	地域ボランティア活動企画の発表①	
第13回	地域ボランティア活動企画の発表②	
第14回	地域ボランティア活動企画の発表③	
第15回	前期のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実施する事。

①実習に準じ、責任を持って活動を行う事

②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること

③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない

④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションにて説明する。

■評価方法

講義・演習への取り組み(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ(社会福祉専攻)	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア活動Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

到達目標：

グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。

地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。

グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。

継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション	
第17回	地域ボランティア活動の振り返り①	グループで実践した活動の反省
第18回	地域ボランティア活動の振り返り②	企画したボランティア活動の意義と目的を達成できたか考察する
第19回	地域ボランティア活動報告の準備①	
第20回	地域ボランティア活動報告の準備②	
第21回	地域ボランティア活動報告の準備③	
第22回	地域ボランティア活動報告①	
第23回	地域ボランティア活動報告②	
第24回	地域ボランティア活動報告③	
第25回	継続ボランティア活動報告①	
第26回	継続ボランティア活動報告②	
第27回	継続ボランティア活動報告③	
第28回	継続ボランティア活動報告④	
第29回	地域ボランティア及び継続ボランティア活動の振り返り	
第30回	まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループでの活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実施する事。

①実習に準じ、責任を持って活動を行う事

②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること

③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない

④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションにて説明する。

■評価方法

講義・演習への取り組み(ボランティア活動報告書を含む)(60%)、ボランティア報告会でのプレゼンテーション(40%)を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他編著)

■参考書

適宜、授業中に紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	ボランティア委員会教員	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティア 子育て支援 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身につけることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。本学では学内における机上の研究（知識）、ボランティア活動（精神・心構え）、実習（技術）というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「子育て支援ボランティア」について①
第3回	「子育て支援ボランティア」について②
第4回	前期ボランティア活動①前橋七夕まつりの説明
第5回	前期ボランティア活動②前橋七夕まつりの活動計画の検討
第6回	前期ボランティア活動③前橋七夕まつりの活動計画の検討
第7回	前期ボランティア活動④前橋七夕まつり活動準備
第8回	前期ボランティア活動⑤前橋七夕まつり活動準備
第9回	前期ボランティア活動⑥前橋七夕まつり活動準備
第10回	前期ボランティア活動⑦前橋七夕まつり活動準備
第11回	前期ボランティア活動の実施：前橋七夕まつり会場にて実施
第12回	前橋七夕まつり 活動報告会の準備
第13回	前橋七夕まつり 活動報告会
第14回	「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティア活動の説明
第15回	前期のまとめ・夏休み中のボランティア活動計画について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行うこと。
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育や子育て支援に関することに常に留意すること。
保育実技に関する知識・技術を高めておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

講義への取り組む姿勢（30%）前期ボランティア・後期ボランティアに関するレポート（20%）継続・依頼ボランティアの活動報告書（50%）等を総合して評価する。

■教科書

ボランティアハンドブック（鈴木利定監修/足立勤一他監修）

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅱ(子ども専攻)	担当教員 (単位認定者)	ボランティア委員会教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照		
キーワード	ボランティア 子育て支援 地域貢献				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身につけることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ(施設)、保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育所) 幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。

■授業の概要

ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。本学では学内における机上の研究(知識)、ボランティア活動(精神・心構え)、実習(技術)というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	前期ボランティアの活動報告会①
第18回	前期ボランティアの活動報告会②
第19回	前期ボランティアの活動報告会③
第20回	前期ボランティアの活動報告会④
第21回	後期ボランティア活動①「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動計画の検討①
第22回	後期ボランティア活動②「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動計画の検討②
第23回	後期ボランティア活動③「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備①
第24回	後期ボランティア活動④「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備②
第25回	後期ボランティア活動⑤「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備③
第26回	後期ボランティア活動⑥「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備④
第27回	「前橋こども図書館」での子育て支援ボランティア活動の実施
第28回	子育て支援ボランティア活動報告会の準備
第29回	子育て支援ボランティア活動報告会
第30回	1年間のまとめ:継続ボランティア先への礼状送付について

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①実習に準じ、責任を持って活動を行うこと。
- ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。
- ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。
- ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育や子育て支援に関することに常に留意すること。
保育実技に関する知識・技術を高めておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

講義への取り組む姿勢(30%) 前期ボランティア・後期ボランティアに関するレポート(20%) 継続・依頼ボランティアの活動報告書(50%)等を総合して評価する。

■教科書

ボランティアハンドブック(鈴木利定監修/足立勤一他監修)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割
第2回	基礎理論	レクリエーションの意義
第3回	基礎理論	レクリエーション運動の歴史とその背景
第4回	基礎理論	レクリエーションへの期待
第5回	基礎理論	生活のレクリエーション化
第6回	基礎理論	レクリエーションの生活化
第7回	基礎理論	社会福祉の中でのレクリエーションの役割
第8回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方	
第9回	日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係	
第10回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術 ～アイスブレイキングの意義～
第11回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングの意義と基本技術 ～同時発声 同時動作 合図出し～
第12回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング ～プログラミングの原則～
第13回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング ～アイスブレイキングモデルの作成～
第14回	コミュニケーションワーク	アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表
第15回	まとめ（評価・ふりかえり）	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目（変更時は掲示する）

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20% （詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～（財）日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】（日本レクリエーション協会） 【レクリエーション活動援助法】（中央法規）

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	コミュニケーション・ワーク レクリエーション・ワーク 事業計画 ホスピタリティ アイスブレイキング A-PIEプロセス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕レクリエーション活動の社会的意義を理解し、様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、自信をもって実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

1. レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。
2. 対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。
3. レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。
4. 安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。

■授業の概要

年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	乳幼児期～児童期
第17回	支援論	ライフスタイルとレクリエーション	青年期～老年期
第18回	支援論	治療的意味合いを含めたレクリエーション	
第19回	目的に合わせたレクリエーションワーク	素材、アクティビティの選択	
第20回	目的に合わせたレクリエーションワーク	すり合わせのプロセス	
第21回	目的に合わせたレクリエーションワーク	ハードル設定	GSSプロセス
第22回	事業論	レクリエーション事業の展開方法	
第23回	事業論	アセスメントに基づいたプログラム計画	
第24回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(1)	～ニーズの確認～
第25回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(2)	～目標設定～
第26回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(3)	～展開～
第27回	事業論	レクリエーション事業のプログラムの組み立て方(4)	～期待される効果～
第28回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(1)	
第29回	事業論	レクリエーションプログラムの計画発表及び実践(2)	
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)		

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験(世代間交流)の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

■オフィスアワー

月曜日 5時間目 (変更時は掲示する)

■評価方法

筆記試験 60% 授業中レポート 20% グループワーク及び発表 20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

■教科書

レクリエーションインストラクター養成テキスト 【レクリエーション支援の基礎】 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編

■参考書

参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】 (日本レクリエーション協会) 【レクリエーション活動援助法】 (中央法規)

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会とレクリエーションの関わり、レクリエーション支援、事業、インストラクター資格取得				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕人々が元気で笑顔に満ちた、より豊かな生活を確立することを支えられる支援者になること。
 〔到達目標〕レクリエーションの意義を理解し、楽しさの技術・手法を身につけ、自信をもって様々なレクリエーションによる働きかけが展開できるようになる。それにより公認指導者資格（レクリエーション・インストラクター）も取得することができる。

■授業の概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、基礎理論、支援論、事業論、指導方法などの学習を通し、支援者として実践能力を高め、レクリエーション財の獲得や楽しさの雰囲気づくり等を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目	オリエンテーション	コミュニケーション・ワーク	(ホスピタリティ・アイスブレイキング)
第2回		コミュニケーション・ワーク		(ホスピタリティとは)
第3回		コミュニケーション・ワーク		(ホスピタリティの示し方)
第4回	基礎理論			(レクリエーションの意義)
第5回	基礎理論			(レクリエーションの歴史と背景 ①)
第6回	基礎理論			(レクリエーションの歴史と背景 ②)
第7回	基礎理論			(レクリエーション運動を支える制度)
第8回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク			(素材・アクティビティの選択)
第9回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク			(ハードル設定)
第10回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク			(相互作用の活用)
第11回	目的にあわせたレクリエーション・ワーク			(演習)
第12回	コミュニケーション・ワーク			(アイスブレイキングの意義)
第13回	コミュニケーション・ワーク			(アイスブレイキングのプログラミング)
第14回	コミュニケーション・ワーク			(演習)
第15回	半期のまとめ			(ふりかえり・評価)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習（実技）はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。
 課題は必ず提出すること。
 出席を常とし、遅刻をしないこと（遅刻3回で欠席1回とカウントする）。必要のないものは机上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を体験してください。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 授業への取り組み 10% （積極性・コミュニケーション能力）

■教科書

レクリエーション支援の基礎（公益財団法人）日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法	担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会とレクリエーションの関わり、レクリエーション支援、事業、インストラクター資格取得				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕人々が元気で笑顔に満ちた、より豊かな生活を確立することを支えられる支援者になること。
 〔到達目標〕レクリエーションの意義を理解し、楽しさの技術・手法を身につけ、自信をもって様々なレクリエーションによる働きかけが展開できるようになる。それにより公認指導者資格（レクリエーション・インストラクター）も取得することができる。

■授業の概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方、基礎理論、支援論、事業論、指導方法などの学習を通し、支援者として実践能力を高め、レクリエーション財の獲得や楽しさの雰囲気づくり等を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目	オリエンテーション	コミュニケーション・ワーク（アイスブレイキング・クラフト等）
第17回	支援論	（ライフスタイルとレクリエーション）	
第18回	支援論	（年代ごとの特徴と課題）	
第19回	支援論	（少子・高齢化社会の課題）	
第20回	支援論	（治療的意味合いを含めたレクリエーション）	
第21回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	（基本技術）	
第22回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	（アレンジの技術）	
第23回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	（演習、実技①）	
第24回	対象にあわせたレクリエーション・ワーク	（演習②）	
第25回	事業論	（レクリエーション事業とは）	
第26回	事業論	（プログラムの組み立て方）	
第27回	事業論	（事業計画Ⅰ）	
第28回	事業論	（事業計画Ⅱ）	
第29回	事業論	（安全管理の考え方）	
第30回	一年間の総まとめ	（ふりかえり・評価）	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業は教科書に沿って進めるが、演習（実技）はグループ・ワークで、楽しさの体験学習を行うので、積極的な授業参加を前提とする。授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。
 課題は必ず提出すること。
 出席を常とし、遅刻をしないこと（遅刻3回で欠席1回とカウントする）。必要のないものは机上に置かない。

■授業時間外学習にかかわる情報

学校外で開催される各種大会や講習会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験・人間交流の中でレクリエーション活動支援の在り方、技術、手法を体験してください。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 70% 課題提出 20% 授業の取り組み 10% （積極性・コミュニケーション能力）

■教科書

レクリエーション支援の基礎（公益財団法人）日本レクリエーション協会発行

■参考書

必要に応じて適宜紹介する。

科目名	英会話	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
英語を通じたコミュニケーションができるようになる。
〔到達目標〕
Toeic 700

■授業の概要

読む 聞く 話す 書く の4技能をバランスよく学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	Exchanging opinions. Clothes and fashion.
第2回	Planning a celebration. Planning a shopping trip.
第3回	Asking for permission. Using equipment in a building.
第4回	Review 1
第5回	Chance meetings. Accidents and injuries.
第6回	Vacation plans. School subjects.
第7回	Tourist information. Packing for a trip.
第8回	Review 2
第9回	At a hotel. At a restaurant.
第10回	Transportation and accommodations. Personal qualities needed for a job.
第11回	Problems on a vacation. Personality types.
第12回	Review 3
第13回	Exchanging news. Expressing emotions.
第14回	Responses to situations. Personal attitudes.
第15回	Home improvements. Changing your appearance.

■受講生に関わる情報および受講のルール

予習、復習を行い、授業では、積極的に発言する。

■授業時間外学習にかかわる情報

英語の新聞を読んだり映画を見たりして、英語に触れるチャンスを増やすことを心がける。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（読む 書く）50%、実技（話す 聞く）50%。

■教科書

Get Real 3

■参考書

Toeic 問題集 単語集

科目名	英語I	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語I				

■授業の目的・到達目標

「英語を読む」ことと「日本語に訳す」ことを同一視している人が見うけられますが、本来の読解力とは、「自分の文法、単語力だけでなく、あらゆる知識を総動員して文の内容理解に取り組む」というきわめて積極的な作業であると考えられます。

■授業の概要

上記の考えに基づき、どのようにしたら「英語の総合力としての読解力」を伸ばせるかを念頭に置いて英語力の養成を図ります。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	長文の読み方
第3回	S(主語)とV(動詞)を正しくつかむ
第4回	未知の単語に出会ったら
第5回	登場人物をつかむ
第6回	意味の固まり(センスグループ)ごとに理解する
第7回	論理の流れを追う
第8回	パラグラフ単位に大意をつかむ
第9回	常識、既習の知識をはたらかす
第10回	パラグラフ単位に大意をつかむ
第11回	まずは直訳してみる
第12回	共通項を探す
第13回	thatの用法
第14回	単語の意味は文の中で決まる
第15回	省略されている語句を見つける

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験の成績(60%)、授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	五十嵐 久子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育英語を通して子供の成長を簡単な英語で表現することを学びます。会話や歌を使って英語のリズムやイントネーションを身につけましょう。

〔到達目標〕

- ①基本的な語彙を習得すること
- ②英語の構造を理解すること
- ③自分の単語力と知識で文章を類推する力を身につけること

■授業の概要

教科書の各章のリスニングを繰り返し聞くことにより耳から英語に慣れていきます。動詞を聞き取って文脈から何を言おうとしているかを類推する力をつけましょう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション:英語で自己紹介し、自分の履歴も英語で書きます
第2回	第1章:子供の園保育園(1) 不定冠詞
第3回	第1章:子供の園保育園(2) 数量形容詞 所有格
第4回	第2章:えみの実習初日(1) 動詞の活用 規則動詞 不規則動詞
第5回	第2章:えみの実習初日(2) who whose の疑問文
第6回	第3章:さあ、出かけましょう(1) 接続詞 前置詞
第7回	第3章:さあ、出かけましょう(2) 前置詞と副詞の違い
第8回	第4章:バシャバシャ、水しぶき(1) 不定詞 動名詞(主語・目的語)
第9回	第4章:バシャバシャ、水しぶき(2) 動名詞の作り方
第10回	第5章:ホットケーキの日(1) 原形不定詞
第11回	第5章:ホットケーキの日(2) 副詞“ly”の作り方
第12回	第6章:本を読んで、お話を聞かせて 冠詞 授与動詞
第13回	第7章:スイカで遊ぼう 接続詞 名刺の複数形
第14回	第8章:お誕生会 形容詞・副詞の比較級
第15回	第9章:子供と遊び 数えられる名詞と数えられない名詞

■受講生に関わる情報および受講のルール

定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期考査2回の合計。(100%)

■教科書

Children's Garden成美堂

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	グジェビック・マレク	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英会話				

■授業の目的・到達目標

受講生は初歩的で実的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。

- (1) 単語同士が繋がった場合の発音、文中でのアクセント、イントネーション
- (2) 語彙 — 人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を練習する
- (3) 機能的な言語の構造 — さまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるもの
- (4) 文法 — 英語の文法の基本的な原則を勉強する

■授業の概要

さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション Self-introduction. Introducing people	(自己紹介、他者紹介すること)
第2回	Talking about people-friends, relatives, etc. Pastimes and hobbies	(他の人について話す、趣味・興味)
第3回	Making offers. Names of drinks and fruits	(提供すること)
第4回	Making suggestions. Expressing wishes, desires	(提案すること、意図・意思を表す)
第5回	Inviting people. Stating purpose. Giving reason	(招待する、理由を説明すること)
第6回	Talking about professions	(仕事について話す)
第7回	Describing jobs. Expressing opinions	(仕事の描写をすること、意見を表現すること)
第8回	Action happening now. Telling the time	(いまのところ起る活動、時間を数える)
第9回	Talking about one's plans	(自分の経験について話す)
第10回	Expressing ability. Lack of ability	(能力を表す、能力不足を表す)
第11回	Possibility. Permission	(可能性、許可・同意する)
第12回	Talking about past events and experiences	(昔の出来事・経験について話す)
第13回	Which is better? Which is the best?	(どちらが良い?どちらが一番良い?)
第14回	Touring the States - have you ever?	(アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか?)
第15回	General review and test preparation	(一般的な復習と試験の準備)

■受講生に関わる情報および受講のルール

会話のコースなので、次の点がとても重要。

- 授業に出席すること
- 授業の事柄を準備すること
- 練習に参加すること

■授業時間外学習にかかわる情報

オリエンテーション時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

1. 学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績(70%)。
2. 授業への取り組み、積極的に参加しているかという点から総合的に評価する(30%)。

■教科書

『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2016)

■参考書

授業時に指示する。

科目名	英語Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅲ				

■授業の目的・到達目標

英語圏に片寄らないさまざまな文化圏の人物が、日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際の異文化コミュニケーションを学ぶ。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

日常英語表現の習得を念頭に置き、Dialogueで基本的な表現を学び、Expressionsではそれらを発信力の向上へつなげる。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Toeicについて。
第3回	Convenience Stores 中国のコンビニエンス・ストアについて、日本との比較を食習慣の違いおよび接客態度の慣習の違いなどに着目する。
第4回	”
第5回	Norimaki 隣の国、韓国の食文化と日本との類似を知る。
第6回	”
第7回	“Hai” 外国語の一つとして、一般的に私達は「中国語」と分類するが、実際には多くの種類がある。その実状について学ぶ。
第8回	”
第9回	Ramen 穀物である小麦と米の文化の分布とその発展について学ぶ。
第10回	”
第11回	Flavors 特に東南アジアでは香辛料が重要な食文化の一部である。日本とは宗教的に異なる地域もあり、その違いを学ぶ。
第12回	”
第13回	Valentine's Day and International Women's Day 日本と韓国はバレンタイン・デーが定着したようであるが、他のアジア諸国では「国際婦人デー」の方がよく知られている。
第14回	Toeic Test 練習。
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験の成績(60%)・授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	英語担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	英語Ⅳ				

■授業の目的・到達目標

何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できることを目指す。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。

■授業の概要

クイズ形式のIntroduction、異文化体験のDialog、関連した話題を短い文章でまとめたCultural Notes、表現練習のExpressionsで構成。日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際の異文化コミュニケーションを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	Car Names 「カッコいい」という感覚は国によって異なる。それは語感から来るものかもしれない。その理由を考えてみる。
第3回	Fakes にせものが出回る現状を考えてみる。にせものと「似た物」の違いについてもその出現の背景を考察してみる。
第4回	”
第5回	It Doesn't Mean That 「言葉通りの意味ではない」のは日本語だけではない。コミュニケーションのルールの難しさについて学ぶ。
第6回	”
第7回	The Draft 韓国の徴兵制について、最近では多くの日本人が知っている。
第8回	”
第9回	The University System オーストラリアの大学制度について学ぶ。アメリカの制度ではなく、イギリスの制度を基本にしている。
第10回	”
第11回	Job-hunting 日本の学生にとって「就職活動」は大人への入り口とも言える。アメリカの学生はどのようなだろうか。
第12回	”
第13回	Toeic Test 練習。
第14回	”
第15回	”

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験の成績(60%)・授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。

■教科書

別に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育原理（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育思想の変遷、学校の歴史、義務教育の意義、「わかる」と「できる」、非言語・言語コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解し、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。

〔到達目標〕

- 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。
- 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。
- 3 教育現場の実態を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。

■授業の概要

- 1 教育における人間観を、哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及する。教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史に触れる。
- 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）-授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。教育における人間観-「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ
第2回	教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点
第3回	教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点
第4回	学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム
第5回	学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型
第6回	義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる
第7回	義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程
第8回	生産モデル体制（閉鎖性）の諸問題
第9回	人間モデルによる体制（開放性）
第10回	子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-
第11回	子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-
第12回	学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか-近言語的、非言語-
第13回	学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境-
第14回	言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割
第15回	教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。
- 2 授業中に課したミニレポートを必ず提出すること。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートとしてまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポートの内容 30%、試験またはレポートを 70%として総合的に評価する。

■教科書

柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005 年

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育原理（子ども専攻）	担当教員 （単位認定者）	江島 正子	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育原理の語源 教育の本質 教育目的の変遷 教育の場 わが国の学校教育 教育行政 教師像				

■授業の目的・到達目標

教育概念並びに教育に関する歴史的思想に触れ、今日のわが国における教育の根拠となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。こどもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。

■授業の概要

新教育の代表者の一人であるマリア・モンテッソーリは1937年にコペンハーゲン世界会議において、こどもの権利を擁護する講演を行った。21世紀の現在こどもたちの状況はどのようなのであろうか。2015年のいま緊急に解決されなければならない教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるかについて考察していきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 自己紹介と授業の進め方 「教育原理」の語源 教育とは何か
第2回	教育目的の変遷 古代ギリシア時代 ローマ時代 中世 ルネサンス 実学主義 啓蒙時代 新人文主義 現代
第3回	教育の場 家庭教育 就学前教育 学校教育 社会教育 生涯教育
第4回	わが国の学校教育 明治前期の教育 明治後期の教育 大正期の教育 昭和期の教育 平成期の教育
第5回	教育行政と学校制度 教育行政の組織 中央教育行政のしくみ 学校制度と学校経営 学級経営
第6回	教師 人間形成と教師 教育の本質における教師 教育愛 教師の威厳 教職の誕生
第7回	わが国における教師像の変遷 伝統的教育と聖職者の教師 教育の民主化と教育労働者 専門職としての教職
第8回	教員養成と免許制度 教員免許状更新講座
第9回	養成一採用一研修 教師の職務
第10回	学習指導法の類型 教師中心型 生徒中心型 プロジェクト法 ラボラトリ・メソッド
第11回	学習組織 グループ学習 個別学習 一斉学習
第12回	横割りクラス編成 縦割りクラス編成
第13回	現代の教育諸問題
第14回	教育情報 情報化の光と影
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（60％） レポート（20％） ディベート（20％）で総合的に判断する。

■教科書

岩田朝一編著 『教育学教程』 学苑社

■参考書

江島正子著 『世界のモンテッソーリ教育』 サンパウロ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	経済学	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	マクロ経済学				

■授業の目的・到達目標

経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解し、毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の目的とする。

■授業の概要

経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	イントロダクション
第2回	DI
第3回	CI
第4回	GDP
第5回	経済成長
第6回	金融(1)
第7回	金融(2)
第8回	金融(3)
第9回	まとめ
第10回	問題演習
第11回	国際経済学I
第12回	国際経済学II
第13回	ストック経済学
第14回	ゲーム理論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に紹介した文献については、各自で内容を確認すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	健康論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	健康、疾病予防、メンタルヘルス、体力、運動処方、生涯スポーツ、食育				

■授業の目的・到達目標

生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康を実現することを図る。特に、日常生活の身体を通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。

■授業の概要

健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康との関わりと自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 健康を考える(意識、意義、人間の幸福)
第2回	疾病予防論 (感染症、生活習慣病)
第3回	メンタルヘルス論 (心身相関、精神障害)
第4回	メンタルヘルス論 (健康増進と予防)
第5回	ヘルスマネジメント論 (意義、世界的潮流)
第6回	ヘルスマネジメント論 (わが国の動向)
第7回	体力論 (体力とは、体力診断、加齢と体力)
第8回	運動処方論 (運動処方の意義、方法、現実と課題)
第9回	運動文化論 (身体運動と文化)
第10回	生涯スポーツ論 (地域社会とスポーツ行政)
第11回	生涯スポーツ論 (地域スポーツと健康)
第12回	食と健康論(食と栄養素、疾病、健康)
第13回	健康つくりと運動 (ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践)
第14回	健康つくりと運動 (ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・生涯の健康つくりとして、日常生活に応用できる態度の受講。新聞、ニュースでの最新の健康に関する情報は特に意識するよう習慣づける。

〔受講のルール〕

・毎時間授業の「コメントカード」を提出する。健康つくりと運動では、運動のできる服装で受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関する情報は特に意識するよう習慣づけること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(70%) 日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点(30%)。

■教科書

USC 健康・スポーツ科学部:「健康論(三訂版)」 道和書院 平成22年

■参考書

健康・体力つくり財団:「健康日本21」 健康・体力つくり財団 2010

科目名	児童文学	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの文学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童文学について正しく理解し、単に子どもの本ではなくどんな年齢層にもアピールする魅力と、子どもの本の深さを理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①児童文学の成り立ちと発展の過程等について理解できる
- ②児童文学が扱うさまざまなテーマや主題に沿った各論について説明できる
- ③現在の子どもを取り巻く状況と児童文学の関係について考える

■授業の概要

実際の作品に触れながら、児童文学の豊かな世界を鑑賞する。「児童文学とはなにか」だけではなく、絵本、童話、ファンタジーなど児童文学の周辺を取り巻く用語について整理し、正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	児童文学とは
第3回	児童文学の成立
第4回	原作・アニメ・実写映画などの比較①
第5回	神話・伝説・昔話
第6回	ファンタジーとリアリズム
第7回	冒険物語
第8回	原作・アニメ・実写映画などの比較②
第9回	歴史小説
第10回	ノンフィクション
第11回	子どものための詩
第12回	戦争と平和を考える
第13回	原作・アニメ・実写映画などの比較③
第14回	絵本、幼年文学
第15回	ライトノベル

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60%、平常点（授業への取組、授業時に課すレポート）40%。

■教科書

- ①川端有子：児童文学の教科書

■参考書

授業時に指示する。

科目名	社会理論と社会システム	担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会理論と社会システム				

■授業の目的・到達目標

社会学の歴史と人名について、理解して覚えることが期待される。学習効果として挙げられる。社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを授業の到達目標とする。

■授業の概要

ジェンダー、児童虐待、DVについては、ビデオ学習も取り入れる。社会福祉士の受験科目である社会理論と社会システムで必要とされる人名や業績について包括的に学習する。また人口動態や社会指標では具体的なデータを取り上げて、説明を行う。社会福祉士の過去問題も授業では取り上げて、演習形式で学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ジェンダー
第3回	児童虐待
第4回	ドメスティック・バイオレンス
第5回	高齢者虐待
第6回	まとめ
第7回	問題演習
第8回	問題演習解説
第9回	組織
第10回	役割理論
第11回	いじめ
第12回	人口動態
第13回	福祉国家の理論
第14回	社会学人名(1)
第15回	社会学人名(2)

■受講生に関わる情報および受講のルール

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

必要とされる予備知識については、教科書を事前に通読しておくことが望ましい。社会福祉士の試験では社会理論と社会システムは暗記すべき項目が比較的多いため、授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。暗記は工夫すると覚えやすいので、授業の中でも紹介していく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	生涯学習概論	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	秘められた宝 だれでも どこでも いつでも				

■授業の目的・到達目標

生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。

■授業の概要

生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	国際社会における議論
第3回	日本での議論・政策
第4回	生涯学習の理念と理論(その1)
第5回	生涯学習の理念と理論(その2)
第6回	生涯学習の内容と形態
第7回	学校教育と生涯学習
第8回	外国の生涯学習(その1)
第9回	外国の生涯学習(その2)
第10回	生涯学習の先駆け(その1)
第11回	生涯学習の先駆け(その2)
第12回	社会教育制度
第13回	生涯学習支援の動向と課題
第14回	まちづくりと生涯学習
第15回	グローバリゼーションと生涯学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。

小論文、レポートは必ず提出すること。

5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということを意識して学習すること。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分。

■評価方法

定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。(目安)定期試験 70%、小論文・レポート 30%。

■教科書

「テキスト生涯学習 新訂版」学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学的理論と心理的支援	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	性格、感情、知覚、学習、認知、社会、発達、臨床				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

さまざまな領域の心理学を学びながら、心理学的な考え方を身につけ、人間に対する幅広い視野を持つことができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。
- ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。
- ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。
- ④心理的支援の方法と実際について理解できる。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理学的支援の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか
第2回	性格—性格理論(類型論と特性論)と資格理解のためのアセスメント
第3回	感情—感情・情緒・情動・気分の定義と感情の発達と変化
第4回	欲求と動機づけ—動機づけの諸理論、葛藤と欲求不満、現実社会への適応
第5回	感覚・知覚・認知—刺激と感覚の関係、感覚と知覚の違いと特性
第6回	学習—条件付け、観察学習と模倣学習、洞察学習
第7回	記憶—記憶システムと記憶内容、短期記憶から作動記憶へ
第8回	知能・創造性・思考—知能の発達と思考過程の理解
第9回	人間環境と集団—対人認知と対人魅力、集団の特徴と集団形成
第10回	対人交流とコミュニケーション—言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第11回	発達の概念—発達の定義と発達段階、生涯発達心理学の考え方
第12回	適応とストレス—ストレスに関する理論とストレスの影響、日常生活とこころの健康
第13回	面接・見立て・心理療法—心理検査法の概要と面接技法(カウンセリング)
第14回	脳と心—脳機能障害による思考や精神の機能障害の特徴とリハビリテーション
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援』 第3版
中央法規出版 2015年

■参考書

梅本堯夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』 サイエンス社 2002年

科目名	政治学I (世界と日本の関わり)	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界のなかの日本、平和、弱者、世界秩序				

■授業の目的・到達目標

世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国人のたちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。

■授業の概要

目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	21世紀の世界秩序
第2回	グローバリゼーションの時代
第3回	文明の衝突
第4回	イスラーム文明
第5回	ロシア正教文明など
第6回	日本文明
第7回	キリスト教文明とイスラーム文明間の対立と対話
第8回	ボスニア紛争・コソボ紛争
第9回	IS (ダーイシュ)
第10回	反グローバリゼーションの流れの中で
第11回	統合と分裂
第12回	スンニとシーア
第13回	Re-nationalization
第14回	民から官へ
第15回	余暇・研究・仕事

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験 (70%)、小レポート (20%)、リアクションペーパー (10%)。

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」(北樹出版)もそのうちの一つである。

科目名	政治学Ⅱ（世界と日本の関わり）	担当教員 （単位認定者）	久山 宗彦	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界のなかの日本、平和、弱者、世界秩序				

■授業の目的・到達目標

世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国人の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。

■授業の概要

目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	国際社会を生きる人材を育てる
第17回	政治 (politics) ということば、政治とことばは切り離せない
第18回	日本独特の政治のことば
第19回	平和について考える～聖遷（ヒジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～
第20回	社会福祉と平和憲法
第21回	カリタス・ジャパンと社会福祉
第22回	世界の貧困問題、日本人の孤立死・餓死についても考える
第23回	日本における国際ボランティア活動
第24回	世界を知ることは日本を知ること
第25回	歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道
第26回	聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点
第27回	鎖国は何故なされたのか
第28回	日中は同文同種？ 脱亜入欧
第29回	中東諸問題
第30回	世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）。

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。

科目名	世界史	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	世界史				

■授業の目的・到達目標

最初に世界史を通史として学習した上で、ヨーロッパの歴史を基盤に芸術が誕生した背景を学習し、社会人として求められる一般教養を身に付ける一助とする。

■授業の概要

前半の5回は、古代・中世・近代・現代をテーマとして世界史を概観し、後半の10回では、ヨーロッパ史の中から歴史的な事件と関係して作曲されたクラシック音楽が誕生した時代背景を学習し、必要に応じて音楽鑑賞を取り入れて授業を展開する。音楽鑑賞の基準は歴史に関係した事件から、古代と中世はそれぞれの時代を背景として作曲された音楽を、ルネサンス時代から現代までは作曲家の作品から歴史を概観する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 世界史の概要
第2回	古代の歴史 人類の誕生～西ローマ帝国の滅亡
第3回	中世の歴史 ゲルマン民族の移動～ビザンツ帝国の滅亡
第4回	近代の歴史 ルネサンス～市民革命
第5回	現代の歴史 帝国主義時代～21世紀の世界
第6回	古代オリエンと地中海世界ーオリエン地方と地中海世界を舞台として作曲された音楽
第7回	中世キリスト教世界と封建制度ーローマ・カトリック教会の発展とクラシック音楽の誕生
第8回	ルネサンスと宗教改革ールネサンス音楽の誕生
第9回	バロックと中央集権国家ーバロック音楽の誕生
第10回	絶対主義国家の衰退と市民階級の台頭ー古典派音楽(1)
第11回	市民革命と産業革命ー古典派音楽(2)
第12回	近代市民社会の成立と発展ーロマン派音楽(1)
第13回	市民階級の成長と自由主義ーロマン派音楽(2)
第14回	帝国主義と民族主義ー民族主義音楽
第15回	世紀末と現代世界ー世紀末芸術と現代音楽

■受講生に関わる情報および受講のルール

世界史の講義に必要な資料などは授業の際に配布する。教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立つ場合は、注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に関係する資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み(10%)・小論文(20%)・試験(70%)などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しないが、参考文献などは随時紹介する。

■参考書

世界史や音楽に関する書籍や、クラシック音楽の鑑賞に必要なコンパクト・ディスクは講義の中で紹介する。

科目名	地理学	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地理学				

■授業の目的・到達目標

- ・地理の基礎教養を身につける。
- ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。
- ・フィールド調査を通して、調査内容をレポートし、それを発表する素養を身につける。

■授業の概要

地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域においてフィールド調査によるレポートを書かせるうえで、要約して発表させ、地理学の調査活動の一端を実践させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	地理学の本質と中学校・高等学校における社会科・地歴科の教職
第2回	日本の文化財・遺産などの概況とレポート課題及びその調査方法
第3回	地球のあらましと世界地誌の概要
第4回	海外旅行に関する諸問題と世界観
第5回	世界の地形・国家と領域
第6回	世界の気候区分とその問題
第7回	最近の気候変化と温暖化
第8回	地図の基本と特徴
第9回	日本の地誌と地域区分
第10回	群馬県の地理概要
第11回	地震と自然災害
第12回	レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など
第13回	身近な地域の調査の発表と考察(1)
第14回	身近な地域の調査の発表と考察(2)
第15回	身近な地域の調査の発表と考察(3)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業への取り組みを重視します。すなわち、欠席・遅刻は減点し、おおむね欠席が4分の1を超過した場合、レポートや試験が良好でも、単位の取得は困難になります。
健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回、穴うめ作業・演習問題を含んだプリントを配布します。地図帳とプリントでよく復習して下さい。
フィールド調査を含むレポートを課します。地図を用意して現地に行き、写真を撮り、レポートをしっかりと書いて下さい。

■オフィスアワー

授業終了後、質問時間を設けますので利用して下さい。

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

ロム・インターナショナル編 日本地図の楽しい読み方 河出書房新社, 二宮書店 基本地図帳 二宮書店
(高校地理の授業で使った地図帳であれば、他社のものでも可(購入不要))

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	儒教 論語 孔子 孟子 老荘思想				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを釈く。民を新に釈く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを釈く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに關せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:成績評価は、筆記試験(70%)・レポート(20%)・授業取組み状況(10%)を鑑み、評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	道徳教育	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人間力を育てる学び				

■授業の目的・到達目標

人が社会にあって、人としてどうあるべきなのかを学び、実践できる力を身につける。
自己の考えを表現できる言語力・話力・能力をみがき、思考力・判断力を身につける。

■授業の概要

人間としての在り方・生き方について学び、積極的に社会に参加できる力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(講義内容・方法、授業時の留意事項、評価)・咸有一徳とは
第2回	事象の論説・事実把握・検証・論述すること(題材「ハチドリの一とせず」)
第3回	「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する
第4回	論語に見る「徳」「仁」の解釈。孔子の時代
第5回	小学校・中学校・高等学校学習指導要領に示された「道徳」の解説
第6回	〃
第7回	「真心」の解説(中国における儒学関係古典の解釈)・「心」の字源
第8回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは・知行合一(五常・五倫)の解説
第9回	豊かな人間性の涵養と、人格の向上について(交際・礼儀作法・エチケット)
第10回	家庭生活の基本マナー(儒学における関係古典文献より考察)
第11回	福祉界が望むマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第12回	学校生活での品位あるマナー(人間として大切であることを説く中国古典、先達のことばから考察)
第13回	〃
第14回	時事問題の考察・発表・解説(人としての在り方・生き方を考える)
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度であること。
日常生活において学びを実践すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

ニュース・新聞等より、社会現象、とくに人間としての在り方・生き方に関する事象について感心を持ってとらえ、どうあるべきかということに考えを巡らすこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物(40%)と定期試験(60%)によって評価。

■教科書

咸有一徳

■参考書

授業において紹介。

科目名	読書指導と文芸	担当教員 (単位認定者)	今年度は閉講	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書指導と文芸				

■授業の目的・到達目標

文字の出現が生んだ〈読書〉という行為は、人間の文化と精神に大きな変革をもたらした。しかし、〈読書〉は、いわば、〈読書〉以前の〈ことば〉と深く結び合っている。読書の意味と読書指導の方法を学び身に付ける。

■授業の概要

幼児・児童・生徒を対象とした読書指導の理論と実際が、そうした読書の本質や具体的文芸作品とどう関わっているかについて探求する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 読書の意味
第2回	読書論
第3回	読書指導と発達段階
第4回	読書指導の方法
第5回	ブックトークの方法
第6回	ブックトークシナリオ作成(1)
第7回	ブックトークシナリオ作成(2)
第8回	ブックトーク試演準備
第9回	ブックトーク試演(1)
第10回	ブックトーク試演(2)
第11回	ブックトーク試演(3)
第12回	ブックトークの評価
第13回	読書と古典
第14回	読書と現代文芸
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物(20%)、定期試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特設科目 論語	担当教員 (単位認定者)	中里 昌之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	建学精神、仁、論語、知行合一、道、述、詩、礼、楽、忠恕、日本文化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

建学の精神を深く理解し、実践することによって人を生かし自己を生かす力を身につける。

〔到達目標〕

- ①論語が示した道徳を説明し実践できる。
- ②論語と日本の道徳文化の影響関係が説明できる。
- ③建学の精神と論語の関係が説明できる。

■授業の概要

本学の建学の精神は、論語が示した道徳の実践にある。論語や陽明学がもたらしたわが国の道徳文化の受容史を学び、建学の精神と日常生活の結びつきを深め実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明。
第2回	建学の精神と日本の道徳文化の構造
第3回	イデオロギーとしての論語の受容
第4回	論語における文学の発生
第5回	第1回から第4回までの授業のまとめと課題レポート作成
第6回	論語における道の思想の受容
第7回	風雅としての道の受容と日本近世思想の内部構造
第8回	論語における述志と貧道の精神
第9回	論語における道の形而上的性格
第10回	第6回から第9回までの授業のまとめと課題レポート作成
第11回	論語における自己回帰の思想と日本の中世転形期の思想
第12回	論語学としての王陽明の思想と日本の中世芸道思想の構造
第13回	反近代思想と論語
第14回	疑似原郷テキストとしての論語の基本構造
第15回	第11回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。
- ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(レポート)の評価基準:

- ①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)
- ②文章表現が適切である。(20%)
- ③オリジナリティーがある。(20%)

■教科書

鈴木利定監修/中田勝編著:注解書下し論語全文、明治書院。その他オリジナルプリントを用いる。

■参考書

鈴木利定監修/中田勝著:咸有一徳、中央法規 鈴木利定著:儒教哲学の研究、明治書院

科目名	日本国憲法	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	基本的人権、自由権、社会権、国会、内閣、裁判所、地方自治				

■授業の目的・到達目標

日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

まずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律（特に行政法）の紹介も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、人権①（～前文）
第2回	人権②（天皇～私人間効力）
第3回	人権③（包括的基本権・法の下の平等）
第4回	人権④（精神的自由（1））
第5回	人権⑤（精神的自由（2））
第6回	人権⑥（経済的自由）
第7回	人権⑦（人身の自由）
第8回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利）
第9回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務）
第10回	統治①（統治機構・国会）
第11回	統治②（内閣）
第12回	統治③（裁判所Ⅰ）
第13回	統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
第14回	統治⑤（財政・地方自治）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。

■教科書

森長秀 編著「法学入門」光生館, 2015年

■参考書

小六法（例：「ポケット六法」有斐閣, 平成25）

科目名	日本史I	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	日本のあけぼの・古代国家の形成・武家社会の形成と転換				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕社会科の指導者として歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会・将来についてのあり方を考え、実践できる資質を養う。

〔到達目標〕

- ①日本史・原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。
- ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識する。
- ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 「歴史を学ぶ」ことの意義について理解する。
第2回	人物で学ぶ歴史…野口英世
第3回	日本列島と日本人
第4回	縄文時代
第5回	弥生時代
第6回	古墳と大和王権
第7回	飛鳥の宮廷
第8回	大化の改新
第9回	平城京の政治
第10回	摂関政治
第11回	院政
第12回	鎌倉幕府
第13回	蒙古襲来
第14回	室町幕府
第15回	応仁の乱～戦国の世

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・ノートをしっかりと積極的に授業に臨むこと。
- ・講義中に配布される資料・プリントをよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

岩宿遺跡・かみつけの里博物館・上野国分寺遺跡・県立歴史博物館等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(60%)、講義への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

講義内で適宜紹介する。

科目名	日本史Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富田 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	戦国大名・江戸幕府・三大改革・明治維新政府・戦争と現代日本				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会科の指導者として歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会・将来についてのあり方を考え、実践できる資質を養う。

〔到達目標〕

- ①日本史・戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。
- ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識する。
- ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。

■授業の概要

日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。
第2回	織田信長
第3回	豊臣秀吉
第4回	江戸幕府
第5回	将軍と大名
第6回	幕政の改革Ⅰ…享保の改革
第7回	幕政の改革Ⅱ…寛政の改革
第8回	幕政の改革Ⅲ…天保の改革と幕末
第9回	明治維新
第10回	廃藩置県
第11回	殖産興業
第12回	文明開化
第13回	自由民権運動
第14回	帝国議会
第15回	戦争と現代日本

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・ノートをしっかりとり積極的に授業に臨むこと。
- ・講義中に配布される資料・プリントをよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

県立歴史博物館・世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」等を巡検しレポートを提出する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験(60%)、講義への取り組む姿勢(40%)を総合して評価する。

■教科書

もういちど読む山川日本史(山川出版社)

■参考書

全集 日本の歴史(小学館) 岩波講座 日本の歴史(岩波書店)

科目名	人間と宗教	担当教員 (単位認定者)	相澤 伸央	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共に生きる				

■授業の目的・到達目標

物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだしてはじめて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。

■授業の概要

グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解し合える人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 評価の方法と人間としての体験の重要性
第2回	宗教の基礎知識として人間の特徴と弱点
第3回	宗教の基礎知識 縄文人と現代人との比較を通し、現代日本人の特性と弱さを知る
第4回	宗教の基礎知識 科学と宗教および芸術や哲学との比較により、宗教の特性を知る
第5回	世界の宗教1 アジアの自然環境の中で活動する宗教としての仏教の特性を見る
第6回	世界の宗教2 インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特長を見る
第7回	世界の宗教3 オリент地域での自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る
第8回	世界の宗教4 ユダヤ教とキリスト教をその環境・社会を通じ比較する
第9回	世界の宗教5 キリスト教の成長と西欧社会の背景をさぐる
第10回	世界の宗教6 イスラム教の成立する社会とタリバンの特長を知る
第11回	日本の宗教1 空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特徴を知る
第12回	日本の宗教2 鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る
第13回	日本の宗教3 近世以降の日本社会の特性や文化と仏教の関係を見る
第14回	日本の宗教4 現代日本の社会的文化の中で仏教はどんな状態かを知る
第15回	まとめ 人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・自分の現在まで生きてきた状況を見つめなおし、今後の生き方をしっかり考えてみる。

〔受講のルール〕

・自分の生き方として何かを得るように、積極的に受講する。

・当然一人の社会人として、人に迷惑をかけるのではなく、共生に努める。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み(積極的な授業参加)を30%とし、筆記試験(自分の生き方の問題を中心)を70%として評価します。

■教科書

相澤貞順著「人間と宗教」ノンブル社出版(平成19年)

■参考書

教科書に多数あります。

科目名	福祉情報処理	担当教員 (単位認定者)	情報処理担当教員	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報処理、PowerPoint、プレゼンテーション、スピーチ、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

福祉現場のみならず、実社会でも不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的とする。

〔到達目標〕

- ①「プレゼンテーション」本来の意味を理解し、実践できる。
- ②PowerPointを利活用できる。

■授業の概要

本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、スピーチ、グループワークなども取り入れ、「聞く力」「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、スライド作成
第2回	プレゼンテーションの基本、インタビュー
第3回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(1)
第4回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(2)
第5回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(3)
第6回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(4)
第7回	スピーチ、プレゼンテーションの作成(5)
第8回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(1)
第9回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(2)
第10回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(3)
第11回	スピーチ、訴求力のあるスライドの作成(4)
第12回	紙面づくりの基本と作成(1)
第13回	紙面づくりの基本と作成(2)
第14回	プレゼンテーションの実施
第15回	プレゼンテーションの実施

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・USBフラッシュメモリー(1~2GB程度で良い)を各自用意し、毎回必ず持参すること。
- ・復習をしっかり行い、操作内容・手順を習得しておくこと。

〔受講ルール〕

- ・毎日が成果の積み重ねとなる為、欠席で成果が途切れることのないよう心がけること。
- ・テキスト、USBメモリーは必ず持参すること。
- ・グループワークは積極的に参加すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話、スマホ)の使用は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、全ての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。(欠席時も同様)
- ・授業で学んだ「伝える技術」は、本授業以外でも実践するよう心がけること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

- ①試験(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

別に指示する。

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	ボランティア活動Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティアリーダー・コーディネータ・インターンシップ				

■授業の目的・到達目標

この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や社会福祉施設等に就労しボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身に付ける。併せて、社会貢献活動が出来る人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か?を体験し探究できる能力を身に付ける。

■授業の概要

これまでのボランティア活動は、予め決められた内容或いは、主催者側から指示された活動が主であった。この講義では、自ら地域社会との接点としてのボランティア活動とは何か?を実践し探求する。毎時間、ボランティア活動体験の報告会を行う。最後に、年間活動報告書をまとめ、提出する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション。学生ボランティア活動の目的とは何か。①学生ボランティア活動史(世界・本学)
第2回	地域社会が求めているボランティア活動とは?①本学のボランティアセンターの任務と活動
第3回	発表1:各自(グループ)の考える地域社会における福祉の向上としてのボランティア活動とは?
第4回	発表2:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第5回	発表3:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第6回	発表4:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第7回	前期のまとめ。中間活動報告会実施。その後ディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書提出。
第8回	発表5:夏季休暇中の活動報告会実施。その後ディベートを行う。後期活動計画書の提出。
第9回	発表6:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第10回	発表7:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第11回	発表8:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第12回	発表9:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第13回	発表10:今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第14回	年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。
第15回	年間活動報告会:活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 活動メンバーで協議し、活動計画書を作成、実践・評価・改善する。(P.D.C.A.に基づく活動)
- 毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- 活動に伴う経費負担については、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- 受講希望者が10名未満の場合は開講しない。

■授業時間外学習にかかわる情報

福祉職の将来像を描き、学外での活動が多い。活動計画書を提出し、指導教員の許可を得て実践する事。

■オフィスアワー

担当教員の出校日を確認し、事前予約すること。

■評価方法

- ①活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。(40%)
- ②各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。(20%)
- ③「年間活動報告書」の内容を評価する。(30%)
- ④活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する。(10%)

■教科書

『わかる みつかる できる』財団法人 内外学生センター

■参考書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

科目名	ボランティア活動Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	足立 勤一	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ボランティアリーダー・コーディネータ・インターンシップ・NPO法人				

■授業の目的・到達目標

ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設や関係団体等への就職後の任務（活動）を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネートの能力を身に付けることである。人を動かすリーダーシップと人（施設や団体）と人とを結びつけるコーディネート力は、人間的魅力にも通じる。

■授業の概要

これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、人を動かすリーダーシップ、人（施設や団体）と人を結びつけるコーディネート力を身に付けることが重要である。その人間的魅力は、正に本学の建学の精神にある「仁」の精神である。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動である。実践活動を通して、それらの能力を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション。学生ボランティア活動の目的とは何か。①学生ボランティア活動史（世界・本学）
第2回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学のボランティアセンターの任務と活動
第3回	発表1: 各自（グループ）の考える地域社会における福祉の向上としてのボランティア活動とは？
第4回	発表2: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第5回	発表3: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第6回	発表4: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第7回	前期のまとめ。中間活動報告会実施。その後ディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書提出。
第8回	発表5: 夏季休暇中の活動報告会実施。その後ディベートを行う。後期活動計画書の提出。
第9回	発表6: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第10回	発表7: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第11回	発表8: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第12回	発表9: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第13回	発表10: 今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
第14回	年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。
第15回	年間活動報告会: 活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 活動メンバーで協議し、活動計画書を作成、実践・評価・改善する。（P.D.C.A.に基づく活動）
- 毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を必要部数印刷し準備すること。
- 活動に伴う経費負担については、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ、ボランティアセンターで保管する。
- 受講希望者が10名未満の場合は開講しない。

■授業時間外学習にかかわる情報

福祉職の将来像を描き、学外での活動が多い。活動計画書を提出し、指導教員の許可を得て実践する事。

■オフィスアワー

担当教員の出校日を確認し、事前予約すること。

■評価方法

- ①活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（40%）
- ②各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（20%）
- ③「年間活動報告書」の内容を評価する。（30%）
- ④活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する。（10%）

■教科書

『よくわかる NPO法人・ボランティア』 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編 ミネルヴァ書房

■参考書

講義初めの授業内で適宜紹介する。

科目名	マスメディア論	担当教員 (単位認定者)	新井 英司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	マスメディア論				

■授業の目的・到達目標

これからの人生で自分を輝かせて行くにはどうしたらよいか。ジャーナリズムの精神である「なんでも見てやろう」「なんでもやってやろう」という生活態度を身につけ、今日の高度な情報化社会を明るく楽しく生きる実践力を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①グローバル化をめぐる世界情勢への関心が高まる。
- ②客観的な見方を習得する。
- ③ものの見方、考え方を深める。
- ④メディア・リテラシーの自覚と実践が可能となる。
- ⑤コミュニケーションの起源「ありがとう」を再認識する。

■授業の概要

ものの見方、考え方の窓ともいえることわざや慣用句を通して先人の智慧を学ぶとともに、日常生活の中から具体的な話題を取り上げ、深めて、自分を輝かせる智慧、術を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	「木を見て森を見ず」 ～複眼的視点～
第3回	「駕籠に乗る人担ぐ人」 ～参加と責任～
第4回	「他山の石」 ～二項対立～
第5回	「事実は小説より奇なり」 ～事 実～
第6回	「因果応報」 ～思想 宗教 科学～
第7回	「温故知新」 ～歴史と時間～
第8回	「悪貨は良貨を駆逐する」 ～資本主義～
第9回	「両刃の剣」 ～両義性～
第10回	「人間万事塞翁が馬」 ～幸 不幸～
第11回	「水は方円の器に従う」 ～受け入れ～
第12回	「石の上にも三年」 ～精 進～
第13回	「急がば回れ」 ～選 択～
第14回	まとめ① 「客観的認識」とは
第15回	まとめ② 「ありがとうで前進」

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎日のテレビ、新聞等のニュースを取り上げ、意見や感想を發表し合います。その都度、資料も配付しますので、積極的に授業に参加して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

特に指定しませんが、どんな国語辞典でも良いですからいつも携帯して下さい。(電子辞書も可)

■参考書

日々の新聞、テレビ。

科目名	倫理学	担当教員 (単位認定者)	岡野 康幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理学				

■授業の目的・到達目標

社会とは人間と人間の関係性の中で構築されている。その中で我々は日々決断を求められているが、その際に確固たる基準はあるのだろうか。我々が普段下す判断を倫理的に考察することにより、よりよく生活をおくることが可能である。

■授業の概要

人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか。倫理学の思考に基づき考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業オリエンテーション、諸注意、人を助けるために嘘をつくことは許されるか
第2回	10人の命を救うために1人の命を殺すことは許されるか
第3回	10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかない時、誰にわたすか
第4回	エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか
第5回	どうすれば幸福の計算ができるか
第6回	判断能力の判断は誰がするか
第7回	〈……である〉から〈……べきである〉を導き出すことはできないか
第8回	正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか
第9回	思いやりだけで道徳の原則ができるか
第10回	正直者が損をすることはどうしたら防げるか
第11回	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか
第12回	貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか
第13回	現在の人間には未来の人間に対する義務はあるか
第14回	正義は時代によって変わるか
第15回	科学の発達に限界を定めることができるか、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①授業中は、単に授業を聞くといった受身の態度ではなく、「人が学び続けるとはどういう意義か」を、自己に問いかけながら、積極的に参加すること。
- ②周囲の迷惑になるので、私語を慎むこと。注意しても改めない時は退席を命じる。
- ③本人の責に帰す遅刻早退は認めない。ただし公共機関の遅れによるものはその限りではない。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義に臨む前に、指定箇所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。

■オフィスアワー

なし。ただし随時質問は受け付けます。

■評価方法

期末試験 70%、平常点（小テスト・課題など）30%。

■教科書

加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫1997年2月）

■参考書

新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』（世界思想社、2000年9月）

專 門 科 目

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者（高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等）の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション:履修上の注意と授業の受け方、学習の進め方について説明する。
第2回	『レクリエーションからアクティビティ・サービスへ』
第3回	垣内理論の成り立ち:生活の快論と社会福祉
第4回	ワークショップ:お年寄りと自分の人生の比較/日本の文化
第5回	アクティビティ・サービスとは何か
第6回	日常生活支援とコミュニケーション
第7回	ワークショップ:高齢者の知識と生きてきた道を知る/コミュニケーション・ギャップ
第8回	ワーク・ショップ:DVD鑑賞 高齢者の子ども時代
第9回	アクティビティ・サービスの効果について
第10回	アクティビティ・ワーカーの資質
第11回	ワーク・ショップ:DVD鑑賞 アクティビティ・ワーカーに求められるユーモアとは
第12回	援助のための人間理解とは:高齢者とは
第13回	演習 特別養護老人ホームにおける個別支援
第14回	高齢者を理解する:心理的側面、身体的側面、社会的側面
第15回	アクティビティ・サービスの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払うこと。

■オフィスアワー

月曜日 5時限（変更時は掲示する）

■評価方法

筆記試験 60%、授業中レポート 20%、グループワーク及び発表 20%。（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

アクティビティ・サービス（心身と生活の活性化を支援する）：中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術	担当教員 (単位認定者)	田口 敦彦	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アクティビティ、生活の快、余暇と余暇活動、生活支援、自立支援、人間の尊厳、現代史(生活史と文化史)				

■授業の目的・到達目標

福祉サービス利用者（高齢者施設、障害者施設、保育所、医療機関等）の心身と生活の活性化を支援するための知識と技術を身に付けるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を体得し、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指すことを目的とする。

■授業の概要

近年、福祉施設や医療機関の分野で使われるようになってきた『アクティビティ』という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳の保持』『自立支援・自律支援』『その人らしい生き方に対する支援』の視点から、実践的な知識と技術を身に付けるために、講義と演習による授業を展開する。特にレクリエーションとアクティビティの違いについて基本的な言葉の誤解からきめ細かく説明し、生活支援としての福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生活環境の全体整備とは何か
第17回	情報の提供について
第18回	リアリティ・オリエンテーション：認知症について考える
第19回	アクティビティサービスにおけるICFと支援の基本について
第20回	演習 通所介護の個別支援
第21回	アクティビティサービスにおける計画とは
第22回	アクティビティプログラムの計画を立てる前の確認
第23回	演習 介護老人保健施設の行事
第24回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成 ～ プログラムの立て方 ～
第25回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成 ～ プログラムの展開 ～
第26回	ワークショップ アクティビティ・プログラムの作成 ～ プログラムの評価 ～
第27回	アクティビティ・プログラム 発表
第28回	アクティビティサービスと死 ～援助者に必要な死への気づき～
第29回	アクティビティサービスと死 ～快い旅立ちへの援助とは～
第30回	アクティビティ・サービスのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。
- ・授業シラバスを必ず確認すること。
- ・支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。
- ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃より高齢者に関する情報や明治、大正、昭和の歴史に興味・関心を持つ。また、障害者スポーツなどの記事や報道にも注意を払うこと。

■オフィスアワー

月曜日 5時限（変更時は掲示する）

■評価方法

筆記試験 60%、授業中レポート 20%、グループワーク及び発表 20%。（詳細な評価基準は授業シラバス参照）

■教科書

アクティビティ・サービス（心身と生活の活性化を支援する）：中央法規出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生活支援技術 専門的コミュニケーション ころとからだのしくみ ボディメカニクス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護を必要とする人たちが、尊厳をもって日々その人らしく暮らしていけるように支援するための、全人的な介護の知識と技術を習得し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護とは何か、介護と生活支援との関係について理解することができる。
- ②専門的コミュニケーションの目的と役割および技術のポイントを理解することができる。
- ③生活行為に関連したころとからだのしくみについて理解し、具体的援助方法が実践できる。
- ④ボディメカニクスを活用した、安全で安楽な介護技術を実践することができる。
- ⑤要介護者の意欲を引き出し、残存機能を生かした介護技術を実践することができる。

■授業の概要

介護対象者の「人間理解」と「自立支援」の観点から、基本的な日常の「生活支援技術」に焦点をあて、介護技術の根拠となる人体の構造と機能などを理解した上で、具体的な介護場面を想定した介護の技法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	介護と生活支援の関係 (生活支援技術の立脚点)
第3回	生活歴と介護
第4回	コミュニケーション技術 ①(専門的コミュニケーション)
第5回	コミュニケーション技術 ②(状態別・介護場面におけるコミュニケーション)
第6回	生活環境の整備 (ベッドメイキング リネン類のたたみ方)
第7回	ベッドメイキング シーツ交換
第8回	移動に関連したころとからだのしくみ
第9回	自立に向けた移動の介護 (ボディメカニクス・移動に関するアセスメント)
第10回	ベッド上での移動・移乗動作援助 ①
第11回	ベッド上での移動・移乗動作援助 ②
第12回	車いす使用時の基礎知識 (車いすの移乗・移動方法)
第13回	杖歩行の技法と援助
第14回	総合演習
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は学校指定の運動着とシューズを着用すること。

イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。

長い爪とマニキュアは禁止。

長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

挨拶や身だしなみを整えること。

演習時の教材の準備、後片付けは、グループメンバーと協力して行うこと。

教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み、社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60% 実技試験 20% グループワーク 20%(詳細な評価基準は授業シラバス参照)を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	脳の機能 誤嚥予防 自助具 排尿障害 脱健着患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護を必要とする人たちが、尊厳をもって日々その人らしく暮らしていけるように支援するための、全人的な介護の知識と技術を習得し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護を必要とする人のこととからだのしくみについて理解することができる。
- ②生活行為に関連したこととからだのしくみについて理解し、具体的援助方法ができる。
- ③ボディメカニクスを活用した、安全で安楽な介護技術を実践することができる。
- ④要介護者の意欲を引き出し、残存機能を活かした介護技術を実践することができる。

■授業の概要

介護対象者の「人間理解」と「自立支援」の観点から、基本的な日常の「生活支援技術」に焦点をあて、介護技術の根拠となる人体の構造と機能などを理解した上で、具体的な介護場面を想定した介護の技法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	生活行為に関連したからだのしくみ 「脳のはたらき」
第18回	食事に関連したこととからだのしくみ
第19回	食事介護の実際 ①
第20回	食事介護の実際 ②
第21回	排泄に関連したこととからだのしくみ
第22回	排泄介護の実際 ①
第23回	排泄介護の実際 ②
第24回	入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみ
第25回	安全な入浴・清潔保持の援助の方法
第26回	清潔保持の援助の実際
第27回	身だしなみに関連したこととからだのしくみ
第28回	衣服の着脱の援助
第29回	総合演習
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は学校指定の運動着とシューズを着用すること。
イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。
長い爪とマニキュアは禁止。

長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

挨拶や身だしなみを整えること。

演習時の教材の準備、後片付けは、グループメンバーと協力して行うこと。

教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み、社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 80% グループワーク 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	老化現象 生活の質(QOL) バイタルサイン 感染症 身体障害 重複障害 内部障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要とする幅広い対象者に質の高い実践的な介護が提供できるよう、基礎的な知識と具体的な援助方法を修得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①加齢に伴う身体機能低下と生活状況の変化について理解することができる。
- ②バイタルサインの基本的な医療知識と観察方法、その対応について理解し実践できる。
- ③高齢者や障害のある人におこりやすい感染症対策について理解することができる。
- ④身体、重複障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法を理解することができる。

■授業の概要

高齢者の病気の特徴と老化が生活に及ぼす影響や身体障害、重複障害のある人への関わり方、また医療や他職種との連携など介護や医療の関係性や介護の方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	老化現象と生活への影響
第3回	生活の質(QOL)と介護
第4回	心身状態とバイタルサインの観察
第5回	身体不調時、異常時の介護 ①
第6回	身体不調時、異常時の介護 ②
第7回	医療機関と他職種との連携
第8回	感染症
第9回	身体障害のある人への理解 ①
第10回	身体障害のある人への理解 ②
第11回	重複障害のある人への理解 ①
第12回	重複障害のある人への理解 ②
第13回	内部障害のある人への理解 ①
第14回	内部障害のある人への理解 ②
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は学校指定の運動着とシューズを着用のこと。
イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。
長い爪とマニキュアは禁止。
長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。
挨拶や身だしなみを整えること。
演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。
教材は大切に使用し、整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は、人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 80% 授業中レポート 20% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規
「新 社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	介護技術Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	春山 典子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	認知症 応急手当 介護と医行為 終末期 グリーフケア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要とする幅広い利用者に対し、質の高い実践的な介護が提供できるよう、基礎的な知識と具体的な援助方法を修得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①認知症に伴うこころとからだの変化と介護の方法について理解することができる。
- ②予想される高齢者の事故とその予防、応急手当のポイントについて説明することができる。
- ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。

■授業の概要

本講義では、系統的な知識で介護実践の根拠を理解し、視聴覚教材や演習などで「介護の本質」と「人間関係形成技術」を再確認する。主に社会問題でもある「認知症」「終末期介護」に焦点を当て、介護の現状と支援方法について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	認知症の医学的理解
第18回	認知症のある人の暮らしと生活
第19回	認知症に対する介護技術
第20回	介護過程の意義
第21回	緊急事故時の対応 ①
第22回	緊急事故時の対応 ② 応急手当
第23回	緊急事故時の対応 ③ 応急手当
第24回	介護と医療行為
第25回	薬剤使用時の介護
第26回	終末期の介護 ①
第27回	終末期の介護 ②
第28回	高齢者へのアクティビティ・サービス
第29回	介護従事者の安全と健康管理
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

演習は、学校指定の運動着とシューズを着用すること。

イヤリング、ネックレス、腕時計は着けないこと。

長い爪とマニキュアは禁止。

長い髪は束ねること。

〔受講のルール〕

他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

挨拶や身だしなみを整えること。

演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。

教材は大切に使用し整理・整頓を心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

介護は、人間らしく生きることの支援でもあるので、幅広い多面的な知識と多様な生活文化を知らないと講義の内容が理解できない。日頃から新聞などを読み社会情勢や介護・医療問題等にも関心をもつことが大切である。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 80% 授業中レポート 20%（詳細な評価基準は授業シラバス参照）を総合して評価する。

■教科書

「新 大学社会福祉・介護福祉講座 介護技術論」 第一法規

「新 社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病」 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)2年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の意義と目的、教育実習生の心構え、学習指導案、模擬授業、授業研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習の事前と事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。
- 2 学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。
- 3 生徒理解に努めることができる。

■授業の概要

- 1 3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。
- 2 中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。
- 3 学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教職への招待・ガイダンス 大学の事前指導で何を学ぶか
第2回	教職に就くにあたり:教師を目指した理由-プレゼンテーション-
第3回	教育実習の意義と目的
第4回	教育実習の課題と実習生としての心構え
第5回	観察実習の書き方、学習指導案とは何か
第6回	学習指導案を作成する
第7回	先輩の研究授業の視聴 ① 中学校(社会科)
第8回	先輩の研究授業の視聴 ② 高等学校(公民科)
第9回	中学校授業参観(朝の会、社会科、意見交換会)
第10回	中学校授業参観の検討会(朝の会、社会科、意見交換会)
第11回	板書の仕方
第12回	発問とは何か
第13回	模擬授業の実践 ① 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第14回	模擬授業の実践 ② 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第15回	授業研究 ① ①、②の模擬授業の振り返り:KJ法を活用し、授業検討会を実施する

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で実習を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察記録・意見・感想を次の授業日までに提出すること。KJ法のまとめは授業者が行き、次の授業日までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテの内容(30%)、模擬授業の実践(30%)、試験またはレポート(40%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)道徳編』、文京出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)2年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の意義と目的、教育実習生の心構え、学習指導案、模擬授業、授業研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習の事前と事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。
- 2 学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。
- 3 生徒理解に努めることができる。

■授業の概要

- 1 3年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。
- 2 中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ること、本実習に向けての意識を高める。
- 3 学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	模擬授業の実践 ③	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第17回	模擬授業の実践 ④	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第18回	授業研究 ②	模擬授業③、④の振り返り:KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第19回	高等学校授業参観	(福祉もしくは公民、意見交換会)
第20回	高等学校授業参観の検討会	(福祉もしくは公民、意見交換会)
第21回	模擬授業の実践 ⑤	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第22回	模擬授業の実践 ⑥	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第23回	授業研究 ③	⑤、⑥の模擬授業の振り返り:KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第24回	模擬授業の実践 ⑦	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第25回	模擬授業の実践 ⑧	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第26回	授業研究 ④	模擬授業⑦、⑧の振り返り:KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第27回	模擬授業の実践 ⑨	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第28回	模擬授業の実践 ⑩	中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第29回	授業研究 ⑤	模擬授業⑨、⑩の振り返り:KJ法を活用し、授業検討会を実施する
第30回	まとめ	本実習に向けて

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は3年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で実習を認めない)や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。KJ法のまとめは授業者が行き、次回の授業日までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテの内容(30%)、模擬授業の実践(30%)、試験またはレポート(40%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)道徳編』、文京出版

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	教育実習事前・事後指導（特支）	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援学校の実習の意義、実習の基本的知識、障害児理解、指導案、指導技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援学校の教育実習にあたり、実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通し特別支援学校の教員となる資質と意欲を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。
- ②障害児について、指導目標を立て、実際に授業を組み立て指導することができる。

■授業の概要

教育実習を行うために必要な、障害のある児童生徒の理解の仕方、実習への取り組む姿勢などを学ぶ。指導案の書き方を学んだり、模擬授業などを行う。実習後は反省やまとめなどの中で教員になるための資質を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 特別支援学校教育実習のDVD視聴によるガイダンス
第2回	実習の意義と目的、心構え
第3回	実習態度、健康管理
第4回	実習の内容について 授業観察、授業参加、実習録
第5回	学習指導案の構成
第6回	学習指導案の書き方
第7回	学習指導案作成
第8回	学習指導案作成
第9回	学習指導案作成
第10回	授業研究会について
第11回	模擬授業・授業研究会
第12回	模擬授業・授業研究会
第13回	模擬授業・授業研究会
第14回	模擬授業・授業研究会
第15回	教育実習に

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出ること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生に迷惑となる行為（私語・スマホ等）、授業の流れや雰囲気壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・実習校の情報に注意を向け、学校公開などの機会に参加すること。
- ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。
- ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学習指導案 50%、レポート 50%。

■教科書

群馬医療福祉大学「教育実習へのガイドブック」
文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領」「解説総則等編」「解説自立活動編」

■参考書

（独法）「特別支援教育の基礎・基本」 著作 国立特別支援教育総合研究所 ジアーズ教育新社

科目名	教育実習事前・事後指導(特支)	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援学校の実習の意義、実習の基本的知識、障害児理解、指導案、指導技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

特別支援学校の教育実習にあたり、実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通し特別支援学校の教員となる資質と意欲を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。
- ②障害児について、指導目標を立て、実際に授業を組み立て指導することができる。

■授業の概要

教育実習を行うために必要な、障害のある児童生徒の理解の仕方、実習への取り組む姿勢などを学ぶ。指導案の書き方を学んだり、模擬授業などを行う。実習後は反省やまとめなどの中で教員になるための資質を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	児童生徒の理解 発達課題 (教育実習)
第17回	保護者の理解 保護者の心情 (教育実習)
第18回	特別支援学校の今日的課題を考察する (教育実習)
第19回	障害者関連法から見た特別支援学校 (教育実習)
第20回	学級経営1 (教育実習)
第21回	学級経営2 (教育実習)
第22回	特別支援学校教諭について考える1 (教育実習)
第23回	特別支援学校教諭について考える2 (教育実習)
第24回	教育実習報告・研究会1
第25回	教育実習報告・研究会2
第26回	教育実習報告・研究会3
第27回	初等教育との交流会
第28回	教育実習報告・研究会4
第29回	教育実習報告・研究会5
第30回	「特別支援学校教諭として」 グループディスカッション

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出ること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生に迷惑となる行為(私語・スマホ等)、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・特別支援学校の実際に積極的に関わること(見学、ボランティア等)。
- ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学習指導案 50%、レポート 50%。

■教科書

群馬医療福祉大学「教育実習へのガイドブック」
文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領」「要領解説総則等編」「要領解説自立活動編」

■参考書

(独法)「特別支援教育の基礎・基本」 著作 国立特別支援教育総合研究所 ジアーズ教育新社

科目名	現代社会と福祉	担当教員 (単位認定者)	川島 良雄	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会 社会福祉 社会政策 福祉サービス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解する。

〔到達目標〕

- ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。
- ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる。
- ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。
- ・福祉政策の構成要素について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる。

■授業の概要

現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。これに対して、社会的に緩和や解決を図るために社会福祉が存在している。この社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目のオリエンテーション、社会福祉の新たな展開と福祉政策理解の枠組み
第2回	社会福祉の歴史 ①社会福祉の前身
第3回	社会福祉の歴史 ②市民権の確立と福祉国家の成立
第4回	社会福祉の歴史 ③福祉国家の変容
第5回	社会福祉の歴史 ④現代社会の変化と福祉
第6回	社会福祉の概念
第7回	社会福祉の拡大と限定
第8回	福祉政策の展開と社会福祉士
第9回	福祉の思想と哲学
第10回	社会政策と福祉政策
第11回	福祉政策の発展過程 ①近代社会と福祉政策
第12回	福祉政策の発展過程 ②高度経済成長期の福祉政策
第13回	福祉政策の発展過程 ③少子高齢化時代の福祉政策
第14回	福祉政策における必要と資源
第15回	中間まとめ～福祉とは何か?考えてみよう～

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。
- ・授業の予習・復習は、必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業は、パワーポイントを使って行います。パワーポイントのスライドの内容、テキスト、講義内容を基にノートを作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・テキストは、必ず、事前に読んで授業に臨むこと。
- ・シラバスで指示された、予習・復習は必ず行うこと。

■オフィスアワー

- ・授業終了後の10分間

■評価方法

- ・授業への取り組み・参加度 20%
- ・授業時の小レポート 30%
- ・筆記試験 50%

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	現代社会と福祉	担当教員 (単位認定者)	川島 良雄	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	現代社会 社会福祉 社会政策 福祉サービス				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解する。

[到達目標]

- ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。
- ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる。
- ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。
- ・福祉政策の構成要素について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる。

■授業の概要

現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。これに対して、社会的に緩和や解決を図るために社会福祉が存在している。この社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	福祉政策の理念
第17回	福祉政策資源の配分システム
第18回	福祉政策の関連領域 ①人権擁護と福祉政策
第19回	福祉政策の関連領域 ②保健医療と福祉政策
第20回	福祉政策の関連領域 ③所得保障・雇用と福祉政策
第21回	福祉政策の関連領域 ④教育と福祉政策
第22回	社会福祉制度の体系
第23回	福祉サービスの提供
第24回	福祉サービスと援助活動
第25回	福祉政策の国際比較 ①北欧型・ヨーロッパ大陸型の福祉政策
第26回	福祉政策の国際比較 ②アメリカ型の福祉政策
第27回	福祉政策の国際比較 ③東アジア諸国の福祉政策
第28回	福祉政策の課題と展望
第29回	包摂的福祉政策への展開
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。
- ・授業の予習・復習は、必ず行うこと。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業は、パワーポイントを使って行います。パワーポイントのスライドの内容、テキスト、講義内容を基にノートを作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・テキストは、必ず、事前に読んで授業に臨むこと。
- ・シラバスで指示された、予習・復習は必ず行うこと。

■オフィスアワー

- ・授業終了後の10分間

■評価方法

- ・授業への取り組み・参加度 20%
- ・授業時の小レポート 30%
- ・筆記試験 50%

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版 2014

■参考書

必要に応じて適宜指示する。

科目名	公民科教育法	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公民科教育法				

■授業の目的・到達目標

1. 高等学校公民科の免許を取得するための必修科目なので、含まれる科目全体の概要を学ぶ。
2. 中学校公民分野の学習指導内容(教科書)をしっかりと理解し、主要項目と重要用語・内容を把握する。
3. 公民分野を主体に、社会科・地理歴史科全体の教員採用試験問題を正答し得る資質を養う。

■授業の概要

1. 戦後日本における高度経済成長などを通じた生活や社会の変容を概観する。
2. 政治・経済・法律の分野における幾つかの社会的諸課題を、事例的に考察する。
3. 上記分野における各自の得意項目に関する調査研究レポートを作成する。
4. レポートの内容を一層研鑽し、授業研究の一環として発表しあい、長短所や問題意識を共有する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	公民分野の概要と学習指導要領の変遷、前期授業の概要説明
第2回	経済成長と社会生活の変化：電化・電気製品などの普及、オイルショックとその後、IT革命
第3回	労働・年金福祉の問題：男女雇用均等法、高齢者の再雇用・天下り、若者の就職、派遣や非正規労働
第4回	課題レポートの指示(上記に即して、各自の興味ある項目について調査)
第5回	日本経済の変容と市場(為替相場)、身近な社会問題：消費税、年金問題、デフレ
第6回	世界の国々と国際関係：領土問題、グローバル化、国際交流レポートの提出
第7回	法律関係の問題：裁判員裁判、訴訟や裁判の原則、法律と現実のギャップ
第8回	法務省専門職員の概説と特徴・長短所(この発表に向けての留意事項と1回目の資料配布)
第9回	政治や選挙の問題(1票の格差、選挙制度=大中小選挙区制度)、レポートの提出
第10回	レポート発表に向けての留意事項とその資料配布
第11回	教育実習に向けた意気込みと準備
第12回	受講生皆さんのレポート発表
第13回	〃
第14回	〃
第15回	レポートや授業中提出した課題の返却・試験に向けての指示

■受講生に関わる情報および受講のルール

健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・毎回穴埋め作業や演習問題を含んだプリントを配布します。プリントや教科書でよく復習して下さい。
- ・レポートを課します。図書館で本を検索したり、新聞など資料を集めて、しっかり書いてください。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

『新しい社会 公民』(東京書籍)、『基本地図帳』(二宮書店)
(いずれも、2年次の社会科教育法や地理学で使用したもの)

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	公民科教育法	担当教員 (単位認定者)	大島 登志彦	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公民科教育法				

■授業の目的・到達目標

1. 高等学校公民科の免許を取得するための必修科目なので、含まれる科目全体の概要を学ぶ。
2. 中学校公民分野の学習指導内容(教科書)をしっかりと理解し、主要項目と重要用語・内容を把握する。
3. 公民分野を主体に、社会科・地理歴史科全体の教員採用試験問題を正答し得る資質を養う。

■授業の概要

1. 日常生活や社会のなかでの高度経済成長やIT社会によるひずみや社会問題を考察する。
2. 車社会・環境問題・エネルギー問題など、豊かな生活がもたらした社会問題を、事例的に考察する。
3. 上記分野における各自の得意項目に関する調査研究レポートを作成する。
4. レポートの内容を一層研鑽し、授業研究の一環として発表しあい、長短所や問題意識を共有する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期授業の概要説明と課題レポートの指示(上記に即して、各自の興味ある項目を重点調査)
第17回	自家用車社会の進展と諸問題:地域公共交通の衰退、バリアフリーとその課題
第18回	様々な公共交通機関(1):新幹線と並行在来線、JR在来線や地方私鉄等(地域鉄道)
第19回	“(2):路線バスの実態と近年の動向と諸問題(この日レポート提出)
第20回	規制緩和:緩和の目的と種類、規制緩和の弊害、具体的問題と事故の続発要因
第21回	観光と交通:観光の活性化や誘客と二次交通、群馬の観光スポットの近年の動向
第22回	世界と日本の気候と気候区分
第23回	日本の温暖化の実態と諸問題
第24回	自然災害と資源エネルギー問題
第25回	食糧問題、レポート提出
第26回	レポート発表に向けての留意事項と1回目の資料配布
第27回	受講生皆さんのレポート発表
第28回	”
第29回	”
第30回	レポートや授業中提出した課題の返却・試験に向けての指示

■受講生に関わる情報および受講のルール

健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・毎回穴埋め作業や演習問題を含んだプリントを配布します。プリントや教科書でよく復習して下さい。
- ・レポートを課します。図書館で本を検索したり、新聞など資料を集めて、しっかり書いてください。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(50%)、授業参加状況(25%)、レポートとそれを基にした授業中の発表(25%)を総合して評価します。

■教科書

『新しい社会 公民』(東京書籍)、『基本地図帳』(二宮書店)
(いずれも、2年次の社会科教育法や地理学で使用したもの)

■参考書

講義の中で適宜紹介していきます。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担当教員 (単位認定者)	眞下 誠治	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者に対する支援と介護保険制度				

■授業の目的・到達目標

高齢者を取り巻く諸環境問題を理解し、またそれに係わる法・諸施策（特に介護保険制度に重点をおく）を把握して、高齢者に対する支援方法を考える。

■授業の概要

我が国の高齢化の現状を把握し、介護保険制度をはじめとした諸制度を理解することは、高齢者支援にとって極めて重要なことである。福祉専門職者（社会福祉士）として押さえておくべき下記事項を中心に概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション（授業の進め方等概説）
第2回	高齢者の特性（社会的理解・身体的理解）
第3回	高齢者の特性（精神的理解・総合的理解）
第4回	少子高齢社会と高齢者①
第5回	少子高齢社会と高齢者②
第6回	高齢者保健福祉の発展①
第7回	高齢者保健福祉の発展②
第8回	高齢者支援の関係法規①
第9回	高齢者支援の関係法規②
第10回	高齢者支援の関係法規③
第11回	第1回～第10回までのおさらい
第12回	介護保険制度の基本的枠組み①
第13回	介護保険制度の基本的枠組み②
第14回	介護保険制度の基本的枠組み③
第15回	前期授業の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

座席を指定する（前後期で指定かえ）。私語は慎み、積極的に受講すること。授業の理解度を確認するため、前後期各一回の小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習をし授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカード等で質問し解決すること。高齢者介護施設等のボランティア体験し、理解を深めることを期待する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期・後期筆記試験 80%、小テスト 20%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（最新版） 中央法規

■参考書

介護保険制度を中心とした資料を適宜配布します。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担当教員 (単位認定者)	眞下 誠治	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者に対する支援と介護保険制度				

■授業の目的・到達目標

高齢者を取り巻く諸環境問題を理解し、またそれに係わる法・諸施策（特に介護保険制度に重点をおく）を把握して、支援方法を考える。

■授業の概要

我が国の高齢化の現状を把握し、介護保険制度をはじめとした諸制度を理解することは、高齢者支援にとって極めて重要なことである。そこで、福祉専門職者（社会福祉士）として押さえておくべき下記事項を中心に概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	介護保険制度の仕組み①
第17回	介護保険制度の仕組み②
第18回	介護保険制度の仕組み③
第19回	介護保険制度総括
第20回	介護保険サービスの体系①
第21回	介護保険サービスの体系②
第22回	介護保険サービスの体系③
第23回	高齢者を支援する組織と役割①
第24回	高齢者を支援する組織と役割②
第25回	高齢者支援の方法と実際①
第26回	高齢者支援の方法と実際②
第27回	高齢者を支援する専門職の役割と実際
第28回	介護の概念や対象①
第29回	介護の概念や対象②
第30回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、積極的に受講すること。授業の理解度を確認するため、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習をし授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカード等で質問し解決すること。高齢者介護施設等のボランティア体験をし、理解を深めることを期待する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期・後期筆記試験 80%、小テスト 20%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（最新版）中央法規

■参考書

介護保険制度を中心とした資料を適宜配布します。

科目名	子どもの保健I(1)	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	感染症、先天疾患、後天疾患、事故、発達障害、事故防止、安全対策				

■授業の目的・到達目標

子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につけている。子ども保健の講義で学んだことを、社会人(母親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。更に、卒業後も自ら勉学を続けることができる。

■授業の概要

子ども保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。子ども保健I(2)では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、子どもの健康概念
第2回	健やか親子21
第3回	子どもの保健の実践と課題
第4回	子どもの身体発育の経過と発育曲線
第5回	新生児期、乳児期の身体発育
第6回	幼児期、学童期、思春期の身体発育
第7回	身体発育とその評価
第8回	呼吸機能・循環機能の発達
第9回	免疫機能・消化機能の発達
第10回	尿排泄機能・体温調節機能の発達
第11回	内分泌機能の発達、睡眠リズム
第12回	感覚機能の発達
第13回	神経機能の発達
第14回	精神機能・情緒・行動の発達
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末筆記試験(80%)とノート(20%)を総合的に評価する。

■教科書

佐藤益子編著　子どもの保健I　ななみ書房　最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	子どもの保健I(2)	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	感染症、先天疾患、後天疾患、事故、発達障害、事故防止、安全対策				

■授業の目的・到達目標

子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につけている。子ども保健の講義で学んだことを、社会人(母親、保育士)になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。更に、卒業後も自ら勉学を続けることができる。

■授業の概要

子ども保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。子ども保健I(2)では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	オリエンテーション、子どもの病気の特徴
第17回	ウイルス感染症
第18回	細菌感染症
第19回	先天異常
第20回	アレルギー性疾患
第21回	消化器疾患
第22回	呼吸器・循環器・血液系の疾患
第23回	神経系・泌尿器・皮膚の疾患
第24回	眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
第25回	人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
第26回	子どもの精神保健
第27回	発達障害
第28回	保育現場の事故防止と安全対策
第29回	主な母子保健対策と保育
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末筆記試験(80%)とノート(20%)を総合的に評価する。

■教科書

佐藤益子編著　子どもの保健I　ななみ書房　最新版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	児童文化（演習）	担当教員 （単位認定者）	田中輝幸・矢島崇裕 吉澤 幸	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童文化、保育実践、あそび、言語表現				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育現場における児童文化財の活用・実践を理解し、児童文化を介した豊かな遊びを作り出す企画・実践力を養う。

〔到達目標〕

- ①「児童文化」の歴史や考え方を学び、「児童文化」の概念を理解する。
- ②児童文化財の保育への展開を理解し、実践できる。
- ③児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。

■授業の概要

児童文化財を保育にいかす方法や児童文化財を用いた実践事例について解説し、児童文化財別に実践の場につなげるための基礎知識を学び、実際に体験することで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	児童文化の歴史
第3回	保育実践としての児童文化
第4回	児童文化の現状と課題
第5回	児童文化が保育実践に与える効果
第6回	児童文化財1 絵本①
第7回	児童文化財1 絵本②
第8回	児童文化財2 紙芝居①
第9回	児童文化財2 紙芝居②
第10回	児童文化財3 おはなし
第11回	児童文化財4 ことばあそび
第12回	児童文化財5 ペープサート①
第13回	児童文化財5 ペープサート②
第14回	児童文化財5 ペープサート③
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・適宜発表を行うので、計画的に製作等すすめておくこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・グループ活動も行うので協調性をもって臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実践活動は「見る人がいる」ことを意識し、製作を行うこと、製作がゴールではなく、活用することで得るものも多いので、多くの場面で活用すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み、発表姿勢 20%、提出物 30%、定期試験 50%。

■教科書

ことばと表現力を育む 児童文化 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子 編著 萌文書林

■参考書

新幼児と保育、小学館

科目名	児童文化（演習）	担当教員 （単位認定者）	田中輝幸・矢島崇裕 吉澤 幸	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童文化、保育実践、あそび、言語表現				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育現場における児童文化財の活用・実践を理解し、児童文化を介した豊かな遊びを作り出す企画・実践力を養う。

〔到達目標〕

- ①「児童文化」の歴史や考え方を学び、「児童文化」の概念を理解する。
- ②児童文化財の保育への展開を理解し、実践できる。
- ③児童文化を通じたコミュニケーションや「育ち」を実践する視点を持つ。

■授業の概要

児童文化財を保育にいかす方法や児童文化財を用いた実践事例について解説し、言語表現活動と児童文化財等を結びつけるための基礎知識を学び、実際に体験することで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	児童文化財6 エプロンシアター①製作
第18回	児童文化財6 エプロンシアター②製作
第19回	児童文化財6 エプロンシアター③発表
第20回	児童文化財7 パネルシアター①製作
第21回	児童文化財7 パネルシアター②製作
第22回	児童文化財7 パネルシアター③発表
第23回	児童文化財8 わらべうた・伝承あそび①
第24回	児童文化財8 わらべうた・伝承あそび②
第25回	児童文化財9 おもちゃ①製作
第26回	児童文化財9 おもちゃ②製作・発表
第27回	その他の児童文化財
第28回	児童文化財を生かした保育環境
第29回	子どもの経験や言語表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開①
第30回	子どもの経験や言語表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・適宜発表を行うので、計画的に製作等すすめておくこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
- ・グループ活動も行うので協調性をもって臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実践活動は「見る人がいる」ことを意識し、製作を行うこと、製作がゴールではなく、活用することで得るものも多いので、多くの場面で活用すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み、発表姿勢 20%、提出物 30%、定期試験 50%。

■教科書

ことばと表現力を育む 児童文化 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子 編著 萌文書林

■参考書

新幼児と保育、小学館

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子ども家庭福祉の原理、子ども家庭の現状・課題・ニーズ、子ども家庭福祉の法体系・実施体制・専門職・権利擁護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもや家庭の現状と課題を理解し、子どもや家庭に対する子育て支援のあり方や具体的な福祉制度を学ぶことにより、児童福祉分野における学士力を身に付けるとともに、社会福祉業務に携わる者に必要な基本的な知識を身に付けることができる。

〔到達目標〕

- ①現代社会の子どもや家庭の現状と課題、子ども家庭福祉にかかわる法律・実施体制・財政・専門職・支援制度について理解できる。
- ②社会福祉士、社会福祉主事、児童指導員及び保育士等に必要な基礎的な知識を身に付けることができる。
- ③子ども家庭福祉に関する研究課題のヒントを得ることができる。

■授業の概要

- ①前期は、教科書、福祉小六法及び参考資料により、少子高齢化社会における子育ての現状と課題、次世代育成支援策の展開状況、子ども家庭福祉のニーズ、子ども家庭の福祉の原理と理念、子ども家庭の権利保障、子ども家庭福祉の発展及び子ども家庭福祉の法体系・実施体制・財政・専門職・権利擁護等について講義を行う。
- ②講義内容の理解度の確認及び社会福祉士国家試験対策の一環として教科書の単元毎にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション	子ども家庭福祉の理念
第2回	子どものための福祉の原理	子どもと家庭の権利保障
第3回	子ども家庭福祉の発展①(日本の子ども家庭福祉の発展)	
第4回	子ども家庭福祉の発展②(イギリス及びアメリカの子ども家庭福祉の発展)	
第5回	現代社会と子ども・家庭	
第6回	子どもの育ち、子育てのニーズ	子ども家庭福祉の計画的進展と子育て支援制度の創設①(子育て支援対策の経緯)
第7回	子ども家庭福祉の計画的進展と子ども・子育て支援制度の創設②(新しい子ども・子育て支援制度)	
第8回	子ども家庭福祉の法体系①(児童福祉法等の児童福祉を直接支える法律)	
第9回	子ども家庭福祉の法体系②(児童買春・児童ポルノ法等の関連法)	
第10回	子ども家庭福祉の実施体制①(児童相談所等の行政機関)	
第11回	子ども家庭福祉の実施体制②(児童養護施設等の児童福祉施設)	
第12回	子ども家庭福祉の財政	子ども家庭福祉の専門職①(児童福祉司等の行政機関の専門職)
第13回	子ども家庭福祉の専門職②(児童指導員等児童福祉施設の専門職)	
第14回	苦情解決と権利擁護	
第15回	子どもの貧困の防止	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書と福祉小六法は必ず持参すること。
- ・授業は教科書に沿って進めるので予習と復習は必ず行うこと。
- ・A版のファイルを用意し、プリント、参考資料、ミニテスト問題用紙・解答用紙を整理しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・座席は、原則として、聴覚・視覚に障害がある者を除き、半年ごとにクラス単位で指定する。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用等)は行わないこと。
- ・欠席あるいは遅刻をする場合は事務局に事前に連絡をし、欠席届を必ず提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教科書内容以外の参考資料を用意するので自己学習に心掛けること。
- ・各節単位毎に授業終了後若しくは授業冒頭にミニテストを行うので、指示された範囲について気持ちを集中して学習すること。

■オフィスアワー

(※非常勤のため登校日が少ないので、確認・不明な点についてはコメントカードを積極的に活用すること。)

■評価方法

期末試験(記述・選択)60% ミニテスト(記述・選択)35% 授業への取り組み5%の合計点により評価し、60%以上を確保することにより単位の取得となる。総合評価は、前期評価と後期評価の平均評価とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第6版中央法規出版 2016 「福祉小六法」みらい2016

■参考書

授業時に指示する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担当教員 (単位認定者)	浅野 康夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	母子保健、障害・難病児、ひとり親家庭、社会的養護、保育、非行児・情緒障害児、被虐待児、要保護女子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもや家庭の現状と課題を理解し、子どもや家庭に対する子育て支援のあり方や具体的な福祉制度を学ぶことにより、児童福祉分野における学士力を身に付けるとともに、社会福祉業務に携わる者に必要な基本的な知識を身に付けることができる。

〔到達目標〕

- ①現代社会の子どもや家庭の現状と課題、子ども家庭福祉にかかわる法律、実施体制、財政、専門職の業務、支援制度について理解できる。
- ②社会福祉士、社会福祉主事、児童指導員及び保育士等に必要となる基礎的な知識を身に付けることができる。
- ③子ども家庭福祉に関する研究課題のヒントを得ることができる。

■授業の概要

- ①後期は、教科書、福祉小六法及び参考資料により、母子保健、障害・難病児、健全育成、保育を必要とする児童、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護児童、非行児童、情緒障害児、被虐待児童等に対する具体的な支援策について講義を行う。
- ②講義内容の理解度の確認や評価を行うため、また、社会福祉士国家試験対策の一環として教科書の単元(節)毎にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて説明します。

第16回	母子保健
第17回	障害・難病のある子どもと家族への支援①(障害児の定義、障害児支援制度)
第18回	障害・難病のある子どもと家族への支援②(難病の子どもに対する支援制度)
第19回	児童健全育成
第20回	保育①(保育制度、認可保育所、認定こども園)
第21回	保育②(保育に関わる事業 待機児童対策)
第22回	地域子育て支援
第23回	ひとり親家庭の福祉①(ひとり親家庭の実態 児童扶養手当等の経済的支援策)
第24回	ひとり親家庭の福祉②(就業支援策 母子生活支援施設等の施設支援策)
第25回	社会的養護①(社会的養護の体系 社会的養護対策の経緯 児童相談所等社会的養護にかかわる機関)
第26回	社会的養護②(児童養護施設等の社会的養護にかかわる施設)
第27回	非行児童・情緒障害児への支援
第28回	児童虐待対策①(児童虐待の定義 児童虐待の実態)
第29回	児童虐待対策②(子どもを虐待から保護する仕組み)
第30回	子どもと家庭にかかわる女性福祉

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・福祉小六法は必ず持参すること。
- ・授業は教科書に沿って進めるので予習と復習を必ず行うこと。
- ・A4版のファイルを用意し、プリントやミニテストの問題用紙・解答用紙を整理しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・原則として、聴覚や視覚に障害がある者を除き、クラス単位で座席を指定する。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑となる行為(私語、携帯電話の使用等)は行わないこと。
- ・欠席あるいは遅刻をする場合は事務局に事前に連絡し、欠席届を必ず提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教科書内容以外の参考資料を用意するので、自己学習に心掛けること。
- ・各節単位毎に授業終了後若しくは授業冒頭にミニテストを行うので、指示された範囲について気持ちを集中して学習すること。

■オフィスアワー

(*非常勤のため登校日が少ないので、確認・不明な点についてはコメントカードを積極的に活用すること。)

■評価方法

期末試験(記述・選択)60%、ミニテスト(記述・選択)35%、授業への取り組み5%の合計点により行い、60%以上を確保することにより単位の取得となる。総合評価は、前期評価と後期評価の平均評価とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」第6版中央法規出版 2016 「福祉小六法」みらい 2016

■参考書

授業時に指示する。

科目名	社会科教育法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会科教育法Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な素養を身に付ける。

■授業の概要

教育実習に必要な知識を教授した上で、模擬授業を実施する。また、戦前・戦後の社会科の歴史と学習要領について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 授業に関する要望から、大学の誕生と歴史
第2回	授業展開論(1)
第3回	授業展開論(2)
第4回	模擬授業(1)
第5回	模擬授業(2)
第6回	模擬授業(3)
第7回	教育の歴史
第8回	社会科教育の歴史(1)
第9回	社会科教育の歴史(2)
第10回	社会科教育の歴史(3)
第11回	社会科教育の歴史(4)
第12回	社会科教育の歴史(5)
第13回	社会科教育の歴史(6)
第14回	社会科教育の歴史(7)
第15回	社会科教育の目標論

■受講生に関わる情報および受講のルール

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立ち注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義の際に必要な資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み(10%)・小論文(20%)・試験(70%)などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	須田 幸秀	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会科教育法Ⅰ					

■授業の目的・到達目標

中学校・高等学校の社会科の教員として必要な基礎的・基本的な素養を身に付ける。

■授業の概要

教育の目標と地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容と関係法令や教科書検定と採択制度について学習する。また、小論文の書き方、読書法、現在の教育がかかえる問題などについても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	社会科教育の内容構成論(1)
第17回	社会科教育の内容構成論(2)
第18回	社会科教育の授業構成論
第19回	中学校社会科地理の授業内容(1)
第20回	中学校社会科地理の授業内容(2)
第21回	中学校社会科地理の授業内容(3)
第22回	中学校社会科歴史の授業内容(1)
第23回	中学校社会科歴史の授業内容(2)
第24回	中学校社会科公民の授業内容
第25回	教育法規
第26回	教科書検定と教科書採択
第27回	文章表現論(1)
第28回	文章表現論(2)
第29回	読書論
第30回	学校教育論

■受講生に関わる情報および受講のルール

教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りが目立ち注意をした上でも態度が改まらない場合は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義の際に必要な資料は、その都度作成して配布する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み(10%)・小論文(20%)・試験(70%)などを総合して評価する。

■教科書

毎回、自作の講義資料を作成して学生に配布するため教科書は使用しない。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	社会科教育法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「社会科学学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」について理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究会等「実践的な授業」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション、社会科学学習ゲーム
第17回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（公民的分野「民主主義と政治」）
第18回	学習指導案事前検討会（公民的分野「民主主義と政治」）
第19回	模擬授業（公民的分野「民主主義と政治」）、授業研究会
第20回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
第21回	学習指導案事前検討会（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
第22回	模擬授業（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）、授業研究会
第23回	みんなで学習指導案細案を作ろう！（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）
第24回	学習指導案事前検討会（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）
第25回	模擬授業（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）、授業研究会
第26回	社会科授業におけるIT
第27回	社会科授業におけるノート指導、学習指導案事前検討会（代表授業）
第28回	模擬授業（代表授業）
第29回	目指す社会科教師像（特別支援教師像）
第30回	1年間のまとめ（含む教育理論）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）。

■教科書

- ①中学校生徒用教科書「新版 新しい社会 公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会 歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書「社会科中学生の地理」帝国書院、④「中学校学習指導要領解説（社会編）」日本文教出版、⑤その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とする。

〔到達目標〕

- ① 1年次に履修した科目(2年次前期に履修した科目)の基本的事項を説明できる。
- ② 課題の内容をグループ全員に理解してもらえるように、資料をまとめ、説明ができる。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。

特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる①
第2回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第3回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス(グループワーク)
第4回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第5回	過去問等を解いてみる②
第6回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第7回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス(グループワーク)
第8回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第9回	過去問等を解いてみる③
第10回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第11回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス(グループワーク)
第12回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第13回	過去問等を解いてみる④
第14回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第15回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス(グループワーク)及びまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと理解するように努めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

定期試験 70% 各回の課題の提出(30%)

■教科書

1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

社会福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、社会福祉士として適切な役割を果たせる力を身につけることを到達目標とする。

〔到達目標〕

- ① 1年次に履修した科目(2年次前期に履修した科目)の基本的事項を説明できる。
- ② 課題の内容をグループ全員に理解してもらえるように、資料をまとめ、説明ができる。

■授業の概要

社会福祉士国家試験を合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るために、グループワークでの学習を進める。
特に1年次に履修した科目を中心に行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる①
第17回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第18回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス/社会調査の基礎(グループワーク)
第19回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第20回	過去問等を解いてみる②
第21回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第22回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス/社会調査の基礎(グループワーク)
第23回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第24回	過去問等を解いてみる③
第25回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第26回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス/社会調査の基礎(グループワーク)
第27回	相談援助の基盤と専門職/高齢者に対する支援と介護保険制度(グループワーク)
第28回	過去問等を解いてみる④
第29回	人体の構造と機能及び疾病/心理学理論と心理的支援/社会理論と社会システム(グループワーク)
第30回	福祉行財政と福祉計画/保健医療サービス/社会調査の基礎(グループワーク)及びまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくことが望ましい。授業で学習した内容はその日のうちにしっかりと理解するように努めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

定期試験 70% 各回の課題の提出(30%)

■教科書

1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会福祉特講Ⅲ		担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験					

■授業の目的・到達目標

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲で、学習を進める上で重要となる点について焦点化し授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能及び疾病
第3回	地域福祉の理論と方法
第4回	心理学理論と心理的支援
第5回	権利擁護と成年後見制度
第6回	社会理論と社会システム
第7回	社会調査の基礎
第8回	低所得者に対する支援と生活保護制度
第9回	月例テスト
第10回	福祉行財政と福祉計画
第11回	現代社会と福祉
第12回	月例テスト
第13回	保健医療サービス
第14回	相談援助の基盤と専門職
第15回	前期のまとめのテスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各月の最終週での授業において、月例テストを実施する。社会福祉特講Ⅳと一体的に実施するため、日程の詳細については、第1回オリエンテーションにおいて説明する。また、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

この授業では、国家試験対策として学習すべき内容を焦点化することを目的としており、受講者自身が学習を進めるための目標の明確化と学習材料を増やす事を主眼に置いている。したがって、重要事項について解説し切れない領域が多くなるため、受講者自身が自らの意欲と方法で学習を進めることが前提となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

試験(60%)、月例テスト(後期分のみ)(20%)、授業中の課題や提出物及び授業への取り組み(20%)。

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」(最新版)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅲ		担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験					

■授業の目的・到達目標

社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。

■授業の概要

社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲で、学習を進める上で重要となる点について焦点化し授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	相談援助の理論と方法
第17回	高齢者に対する支援と介護保険制度
第18回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
第19回	月例テスト
第20回	就労支援サービス
第21回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
第22回	社会保障
第23回	月例テスト
第24回	更生保護制度
第25回	福祉サービスの組織と経営
第26回	月例テスト
第27回	国家試験重要ポイント 解説 ①
第28回	国家試験重要ポイント 解説 ②
第29回	月例テスト
第30回	まとめ 総括テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各月の最終週での授業において、月例テストを実施する。社会福祉特講Ⅳと一体的に実施するため、日程の詳細については、第1回オリエンテーションにおいて説明する。また、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

この授業では、国家試験対策として学習すべき内容を焦点化することを目的としており、受講者自身が学習を進めるための目標の明確化と学習材料を増やす事を主眼に置いている。したがって、重要事項について解説し切れない領域が多くなるため、受講者自身が自らの意欲と方法で学習を進めることが前提となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションにて説明する。

■評価方法

試験(60%)、月例テスト(後期分のみ)(20%)、授業中の課題や提出物及び授業への取り組み(20%)。

■教科書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」(最新版)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅳ		担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講Ⅳ					

■授業の目的・到達目標

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになる。
社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	問題演習
第3回	問題演習
第4回	月例テスト
第5回	問題演習
第6回	問題演習
第7回	月例テスト
第8回	問題演習
第9回	問題演習
第10回	問題演習
第11回	月例テスト
第12回	問題演習
第13回	問題演習
第14回	問題演習
第15回	月例テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となる。試験の結果によって課題を課すので、課題を提出する事。

■授業時間外学習にかかわる情報

個人での学習とグループ学習を併用し最後までモチベーションを維持し国家試験に臨むこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び授業への取り組み（40%）を総合して評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 21 資料編 中央法規出版

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版） その他自分にあった参考書

科目名	社会福祉特講Ⅳ		担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会福祉特講Ⅳ					

■授業の目的・到達目標

毎時間の演習問題と月例テストにより、自分自身の学習進捗状況を知り学習課題を焦点化し、学習に繋げる。試験時間や試験の問題内容になれることにより国家試験の問題を読み解くことになる。
社会福祉士国家試験に合格を到達目標とする。

■授業の概要

この授業では、毎時間の演習問題と月例テストを行い、社会福祉士国家試験の問題と解答時間になれていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	問題演習
第17回	月例テスト
第18回	問題演習
第19回	問題演習
第20回	月例テスト
第21回	問題演習
第22回	問題演習
第23回	問題演習
第24回	月例テスト
第25回	問題演習
第26回	問題演習
第27回	問題演習
第28回	月例テスト
第29回	問題演習
第30回	問題演習

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回試験を行うため、自分自身での学習が大切となる。試験の結果によって課題を課すので、課題を提出する事。

■授業時間外学習にかかわる情報

個人での学習とグループ学習を併用し最後までモチベーションを維持し国家試験に臨むこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び授業への取り組み（40%）を総合して評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 21 資料編 中央法規出版

■参考書

医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、(最新版) その他自分にあった参考書

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障論				

■授業の目的・到達目標

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目であるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	現代社会と社会保障
第3回	日本と欧米における社会保障の歴史的展開
第4回	社会保障制度の体系
第5回	社会保障の費用
第6回	社会保障と財源
第7回	社会保障と経済
第8回	年金保険制度の沿革と概要
第9回	国民年金・厚生年金とは
第10回	年金保険制度をめぐる最近の動向
第11回	医療保険制度の沿革と概要
第12回	健康保険と共済制度
第13回	国民健康保険制度と後期高齢者医療制度
第14回	国民医療費と医療をめぐる最近の動向
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・自己責任（無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。
- ・毎日の自己研鑽により自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。
- ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（90％）・ミニテスト・授業への取り組み（10％）

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』中央法規出版（株）

■参考書

社会福祉省六法・社会福祉用語辞典（最新版）

科目名	社会保障	担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会保障				

■授業の目的・到達目標

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目であるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	介護保険制度創設の経緯
第17回	介護保険制度をめぐる最近の動向
第18回	労働保険制度の沿革と概要
第19回	労働者災害補償保険・雇用保険
第20回	労働保険制度をめぐる最近の動向
第21回	社会福祉制度の沿革と概要
第22回	生活保護制度・児童福祉・障害者福祉とは
第23回	母子・寡婦福祉・高齢者福祉と社会手当とは
第24回	社会保障と民間保険の役割
第25回	少子高齢化社会の動向
第26回	労働市場の変化と社会保障
第27回	少子高齢化の社会経済的影響
第28回	諸外国の社会保障
第29回	社会保障の国際化
第30回	総括的まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・自己責任（無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。
- ・毎日の自己研鑽により自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。
- ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（90％）・ミニテスト・授業への取り組み（10％）

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』中央法規出版（株）

■参考書

社会福祉省六法・社会福祉用語辞典（最新版）

科目名	小学校教科教育法（音楽）	担当教員 （単位認定者）	奈良 紀子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 基礎能力の育成 学習指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践を出来ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラムの構造と内容を理解出来る。
- ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得することが出来る。
- ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につけることが出来る。
- ④音楽活動に積極的に関わることが出来る。

■授業の概要

小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を実践や演習を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明等）
第2回	音楽科の目標と指導内容
第3回	音楽科の学習指導計画と評価
第4回	授業実践にあたって
第5回	歌唱の学習と指導について（1）
第6回	歌唱の学習と指導について（2）
第7回	歌唱の学習と指導について（3）
第8回	器楽の学習と指導について（1）
第9回	器楽の学習と指導について（2）
第10回	器楽の学習と指導について（3）
第11回	音楽づくりの学習と指導について（1）
第12回	音楽づくりの学習と指導について（2）
第13回	音楽づくりの学習と指導について（3）
第14回	鑑賞の学習と指導について（1）
第15回	鑑賞の学習と指導について（2）

■受講生に関わる情報および受講のルール

ソプラノ・リコーダーと五線紙を各自用意しておくこと。

実習にはグループ活動も取り入れるので、協力しながら授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。

さまざまな音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

学習指導案の作成および提出と筆記試験（70%）実技試験（30%）

■教科書

「最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕」音楽之友社 小学校の教科書「小学生の音楽1～6年」教育芸術社

■参考書

小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

科目名	小学校教科教育法（音楽）	担当教員 （単位認定者）	奈良 紀子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学習指導要領 基礎能力の育成 学習指導案 模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践を出来ることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラムの構造と内容を理解出来る。
- ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得することが出来る。
- ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につけることが出来る。
- ④音楽活動に積極的に関わることが出来る。

■授業の概要

小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を実践や演習を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明等）
第17回	学習指導案について
第18回	教材研究の視点とその実践
第19回	模擬授業（1）
第20回	模擬授業（2）
第21回	模擬授業（3）
第22回	模擬授業（4）
第23回	模擬授業（5）
第24回	模擬授業（6）
第25回	模擬授業（7）
第26回	模擬授業（8）
第27回	日本の伝統音楽について
第28回	音楽科における幼・小の連携について
第29回	他教科等との関連について
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ソプラノ・リコーダーの学習をするため、各自用意しておくこと。
 実習にはグループ活動も取り入れるので、協力しながら授業に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

学習指導案の作成および提出と筆記試験（70%）実技試験（30%）

■教科書

「最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕」音楽之友社 小学校の教科書「小学生の音楽1～6年」教育芸術社

■参考書

小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

科目名	小学校教科教育法（家庭）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭経済 家庭経営				

■授業の目的・到達目標

家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。

■授業の概要

家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス・家庭科教育の意義（家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育）
第2回	家庭科教育の目標： 家庭・地域社会との関連 現代の家族の特質について解説する。
第3回	家庭生活と家族： 家族の生活と役割しらべを理解するためのグループワークを行い、ワークシートに記入する。
第4回	家庭生活と家族： ライフコースを作成する。
第5回	物や金銭の使い方と買い物： 賢い消費者になるための工夫につながるグループワークを実施する。
第6回	衣服への関心： 衣服の形態と素材を観察する。
第7回	衣服への関心： 洗濯に関する実験を実施する。
第8回	生活に役立つものの製作① 基礎縫いの技法に基づき作品を製作する。
第9回	生活に役立つものの製作② "
第10回	食事への関心： 献立を作成する。
第11回	簡単な調理： 調理実習の計画を立て、発表し合う。
第12回	簡単な調理： 調理実習を行う。
第13回	住まいへの関心： 汚れ調べと清掃に関する実験を実施する。
第14回	住まいへの関心： 明るさ・風通し・暖かさ（涼しさ）に関する実験・実践を実施する。
第15回	家庭生活の工夫： 家族との団らんの工夫のための体験と、それに基づく工夫を行う。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

実践活動に関する積極性（20％） 提出物（80％）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領家庭編』 ワークシートを配布

■参考書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）

科目名	小学校教科教育法（家庭）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭経済 家庭経営				

■授業の目的・到達目標

家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。

■授業の概要

家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイデア豊かな教材開発も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①： 指導の形態（一斉指導・グループ学習・個別学習など）について解説する。
第17回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導②： 様々な学習指導の方法と効果的な領域について、学習内容毎に説明する。
第18回	家庭科教育の学習指導計画①： 種類と形式・年間指導計画 "
第19回	家庭科教育の学習指導計画②： 題材指導計画・時案 "
第20回	家庭科教育の評価： 目的と対象・手順などについて実例をあげ説明する。
第21回	実践研究（1）： 衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実施する。
第22回	実践研究（2）： 被服製作の基礎技能を楽しく身につけるための学習の指導例を考え、実施する。
第23回	実践研究（3）： 調理に関する2年間を見通しての学習計画を立案する。
第24回	実践研究（4）： 調理の基礎技能を、体験を通して身につけるための学習指導例を考え、実施する。
第25回	実践研究（5）： 住まいや住まい方について、問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。
第26回	実践研究（6）： 環境に配慮した生活の工夫について、体験的学習の指導例を考え、実施する。
第27回	実践研究（7）： 家庭生活と家族の内容と、日常の食事・調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する。
第28回	実践研究（8）： 被服等の製作と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え実施する。
第29回	実践研究（9）： 身近な消費生活と環境について、課題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。
第30回	まとめ： 衣・食・住・家庭経済の内容を盛り込んだ会食を企画し、実施する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

実践活動に関する積極性（20%） 提出物（80%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領家庭編』 ワークシートを配布

■参考書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）

科目名	小学校教科教育法（国語）	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、T・T、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解（教科書での具体化）
第2回	学習指導要領と解説の理解（配当漢字、教科の目標、各学年の目標と内容、各領域と伝国）
第3回	国語科教師の基礎基本（国語科におけるT・T）
第4回	国語科教師の基礎基本（ことわざ・慣用句・故事成語、漢字・平仮名・片仮名の由来）
第5回	国語科教師の基礎基本（音読と黙読、範読、読み聞かせ）
第6回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方（細案、T・Tの学習指導案の書き方、児童の実態の把握方法）
第7回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方（細案、児童の実態の書き方）
第8回	教材研究の仕方、学習指導案の書き方（細案、考察・評価規準以降の書き方）
第9回	学習指導案事前検討会（説明文「めだか」T・T）
第10回	模擬授業、授業研究会（説明文「めだか」T・T）
第11回	学習指導案事前検討会（物語文「一つの花」T・T）
第12回	模擬授業、授業研究会（物語文「一つの花」T・T）
第13回	学習指導案事前検討会（話す・聞く「根拠や理由を明らかにして話し合う～討論会をしよう～」T・T）
第14回	模擬授業、授業研究会（話す・聞く「根拠や理由を明らかにして話し合う～討論会をしよう～」T・T）
第15回	漢字の指導方法

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）。

■教科書

- 1 文部科学省：小学校学習指導要領「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（国語）	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導案、T・T、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。
- ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。
- 2 実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	学習指導案事前検討会（文化「春はあけぼの」）
第17回	模擬授業、授業研究会（文化「春はあけぼの」）
第18回	模擬授業、授業研究会（学生が単元・題材を選択、単独授業）
第19回	模擬授業、授業研究会（学生が単元・題材を選択、単独授業）
第20回	模擬授業、授業研究会（学生が単元・題材を選択、単独授業）
第21回	模擬授業、授業研究会（学生が単元・題材を選択、単独授業）
第22回	模擬授業、授業研究会（学生が単元・題材を選択、単独授業）
第23回	作文の指導方法
第24回	論文の書き方
第25回	論文を実際に書く
第26回	教師の話し方・聞き方
第27回	コミュニケーション力の向上、集団討議
第28回	コミュニケーション力の向上、集団討議
第29回	国語科指導に必要な専門教養
第30回	1年間のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学年末試験（50%）、学習指導案作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）。

■教科書

- 1 文部科学省：小学校学習指導要領「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（算数）	担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校算数科指導内容、数量・図形・数量関係等領域別指導法、算数教書教材の研究、算数授業技術の方法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数教育の目標・内容についての法的根拠を理解できる。
- ②算数の教材研究に小学校学習指導要領（算数）解説書を活用できる。
- ③模擬授業の指導案の作成の仕方を理解し、自分が実施する学習指導案が作成できる。
- ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、充実した指導をするための創意工夫の仕方がわかる。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容について理解を深め、それらの目標・内容に基づく教科書教材等を具体的に究明する。さらに、これらの学習成果をもとにして模擬授業を実施・授業分析等を通して、小学校教師としての算数指導力を磨き合う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、前期の学習内容や学習上の留意点について	
第2回	講義・演習	第1・2学年の「数と計算」
第3回	講義・演習	第3・4学年の「数と計算」
第4回	講義・演習	第5・6学年の「数と計算」
第5回	講義・演習	第1・2学年の「量と測定」
第6回	講義・演習	第3・4学年の「量と測定」
第7回	講義・演習	第5・6学年の「量と測定」
第8回	講義・演習	第1・2学年の「図形」
第9回	講義・演習	第3・4学年の「図形」
第10回	講義・演習	第5・6学年の「図形」
第11回	講義・演習	第1・2学年の「数量関係」
第12回	講義・演習	第3・4学年の「数量関係」
第13回	講義・演習	第5・6学年の「数量関係」
第14回	講義・演習	算数教師範ビデオ教材による授業分析
第15回	講義・演習	算数学習指導案の構成要素

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「小学校学習指導要領解説（算数）」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。
- ・課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にし、教員採用試験の準備をしておこう。
- また、模擬授業の実施に当たっては、先輩の模擬授業のビデオ等を参考にしよう。
- ※模擬授業はDVDにして全先輩に贈呈しているので適宜借り活用すること。

■オフィスアワー

- ・質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し、後日メモで解答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

- 授業中の板書・口頭説明の記録の充実度（50%）
 - テキスト中の課題の解答（20%）
 - 授業への積極性（発言・質問の内容・回数等）（30%）
- 総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- ※基本的には配布したテキストを中心に進めます。

■参考書

- 「小学校学習指導要領解説（算数編）」（文部科学省刊 東洋館出版）
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕

科目名	小学校教科教育法（算数）	担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	算数科の数と計算・量と測定・図形・数量関係等領域別指導法、教書書教材の研究、授業技術				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校の教材に即した指導方法を実践的に深めて模擬授業ができるようにし、さらに算数教師として必要な数学の知識・技能等の演習を通して、教員採用試験の数学の問題に対応できる能力をつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数教育の目標・内容についての法的根拠を理解できる。
- ②算数の教材研究に小学校学習指導要領（算数）解説書が活用できる。
- ③模擬授業の指導案の作成の仕方を理解し、自分が実施する学習指導案が作成できる。
- ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、充実した指導をするための創意工夫の仕方がわかる。

■授業の概要

小学校学習指導要領の目標・内容について理解を深め、それらの目標・内容に基づく教科書教材等を具体的に究明する。さらに、これらの学習成果をもとにして模擬授業を実施・授業分析等を通して、小学校教師としての算数指導力を磨き合う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション、模擬授業のビデオ鑑賞1と授業分析①
第17回	模擬授業のビデオ鑑賞2と授業分析②
第18回	模擬授業の分担計画の作成
第19回	指導案の作成準備
第20回	指導案作成の実際①
第21回	指導案作成の実際②
第22回	※「数と計算」領域に関する模擬授業の展開①
第23回	※「数と計算」領域に関する模擬授業の展開②
第24回	※「量と測定」領域に関する模擬授業の展開①
第25回	※「量と測定」領域に関する模擬授業の展開②
第26回	※「図形」領域に関する模擬授業の展開①
第27回	※「図形」領域に関する模擬授業の展開②
第28回	※「数量関係」領域に関する模擬授業の展開①
第29回	※「数量関係」領域に関する模擬授業の展開②
第30回	模擬授業に活用した指導案・模擬授業の反省、レポート記録用紙等の提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「小学校学習指導要領解説（算数）」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。
- ・課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にして教員採用試験の準備をしておこう。
- また、模擬授業の実施に当たっては、先輩の模擬授業のビデオ等を参考しよう。
- ※模擬授業はDVDにして全先輩に贈呈しているので適宜借りられます。

■オフィスアワー

質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し提出、後日回答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

- 毎時間の学習ノートを含むレポート（40%）
 - 模擬授業の充実度（指導案、教材準備、声の大きさ・発問等指導力）（30%）
 - 授業への積極性（発言・質問の内容・回数等）（30%）
- 総合評価は60%を超えていることが前提となる。

■教科書

※基本的には配布したテキストを中心に進めます。

■参考書

- 「小学校学習指導要領解説（算数編）」（文部科学省刊 東洋館出版）
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕
- 算数指導能力に関する形成的評価問題〔講師持参〕

科目名	小学校教科教育法（社会）	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	問題解決学習 見学・調査 表現活動 複線型授業 博物館・資料館の活用				

■授業の目的・到達目標

小学校社会科の学習方法や教材・教具について理解すること。

■授業の概要

授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。
様々な学習方法や教材・教具について理解すること。
実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、授業とは①・・授業の組み立て
第2回	授業とは②・・本時の授業をつくる。求められる授業技術（発問）
第3回	授業とは③・・求められる授業技術（板書・ノート）
第4回	授業とは④・・動機付け、主体性と指導性
第5回	授業とは⑤・・社会的事象の意味を考える授業
第6回	授業とは⑥・・主体的に調べて考える授業
第7回	授業とは⑦・・能力や技能を育てる授業
第8回	授業とは⑧・・社会的な見方や考え方を育てる授業、望ましい学習環境のあり方
第9回	社会科の学習・指導方法①・・個別学習、グループ学習、一斉学習、系統学習、ごっこ・劇化・構成活動
第10回	社会科の学習・指導方法②・・作業学習・体験学習、プログラム学習
第11回	社会科の学習・指導方法③・・ロールプレイング、ディベート、シミュレーションゲーム
第12回	社会科の学習・指導方法④・・問答・討議法、講義法、支援
第13回	社会科の学習・指導方法⑤・・表現活動、チーム・ティーチング
第14回	社会科の学習・指導方法⑥・・問題解決学習、複線型授業
第15回	社会科の学習・指導方法⑦・・見学・調査・観察（社会科見学・地域調査）

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
社会科概論を履修していること。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。

■オフィスアワー

火曜日の5限

■評価方法

筆記試験 70%、学習指導案 20%、模擬授業 10%を目安として総合的に評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

「小学校社会科教師の専門性育成」 東京学芸大学社会科教育学研究室編 教育出版

科目名	小学校教科教育法（社会）	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地図を読む 4観点 評価と指導の一体化（形成的評価） 発問				

■授業の目的・到達目標

地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。
学習評価について理解すること。
指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。

■授業の概要

地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶ。
社会科における学習評価について学ぶ。
指導案の作成方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	教材・教具について①・教科書、学習ノート、郷土資料、現物資料
第17回	教材・教具について②・統計資料、年表、博物館・郷土資料館の活用、副読本、放送利用、コンピュータ利用
第18回	教材・教具について③・地図指導 様々な地図について知る。地図を読む。
第19回	社会科における学習評価①・学習評価の分類、観点別学習状況の評価（4観点）
第20回	社会科における学習評価②・評価規準と評価基準、指導計画・評価計画の作成
第21回	社会科における学習評価③・具体的な評価方法、学習評価の記録法、学習評価の課題
第22回	指導案の作成①（学習指導案とは・教材研究とは・学習活動研究とは・児童理解とは）
第23回	指導案の作成②（基本的な指導案の作成方法）
第24回	指導案の作成③（模擬授業用略案の作成）
第25回	模擬授業及び授業研究① ※原則として全員が模擬授業を行い、授業後に授業研究会を実施する。
第26回	模擬授業及び授業研究②
第27回	模擬授業及び授業研究③
第28回	模擬授業及び授業研究④
第29回	模擬授業及び授業研究⑤
第30回	模擬授業及び授業研究⑥

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
社会科概論を履修していること。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。

■オフィスアワー

火曜日の5限

■評価方法

筆記試験 70%、学習指導案 20%、模擬授業 10%を目安として総合的に評価する。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

「小学校社会科教師の専門性育成」 東京学芸大学社会科教育学研究室編 教育出版

科目名	小学校教科教育法（図工）	担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	指導要領 領域 目標 項目 事項	A表現	B鑑賞	〔共通事項〕	指導案 模擬授業

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校図画工作科を指導する上で必要な造形的な理論と技能を講義や、教材研究、模擬授業体験等を通して習得する。

〔到達目標〕

- ①小学校図画工作科の授業構成に関する基礎的な知識が理解できる。
- ②つくってみることによる教材研究を通して教材の概要をとらえ、子どもを想像し、学習活動を構想できる。
- ③模擬授業体験から子どもの創造性を伸ばす楽しい授業のあり方について指導技術を高める。

■授業の概要

造形教育の基礎理論として、指導要領の解説を中心に講義を行う。造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞の授業で製作するものを実際につくってみることによる教材研究を行う。模擬授業を通して指導の実際を学び、授業構成のあり方について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	造形活動の意義 指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容）
第3回	指導要領の概要（各領域及び〔共通事項〕の内容）
第4回	指導要領の概要（指導計画の作成と内容の取扱い）
第5回	授業の組み立てと学習指導案
第6回	「造形遊び」の指導の展開（教材研究及び指導案作成）
第7回	「造形遊び」の指導の展開（教材研究及び指導案作成）
第8回	「造形遊び」の指導の展開 模擬授業
第9回	「造形遊び」の指導の展開（教材研究及び指導案作成）
第10回	「造形遊び」の指導の展開（教材研究及び指導案作成）
第11回	「造形遊び」の指導の展開 模擬授業
第12回	教材研究 「紙工作 ポップアップカード」
第13回	教材研究 「紙工作 ポップアップカード」
第14回	教材研究 「紙工作 ポップアップカード」
第15回	教材研究 「紙工作 ポップアップカード」

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（50%）、製作実技作品、指導案、資料等の提出（40%）、授業への取り組み（10%）。

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編著 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（図工）		担当教員 （単位認定者）	宗 幸子	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	指導要領	目標	領域	事項	項目	A表現 B鑑賞 [共通事項] 指導案 模擬授業

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
 小学校図画工作科を指導する上で必要な造形的な理論と技能を、講義や教材研究、模擬授業体験等を通して習得する。
 〔到達目標〕
 ①小学校図画工作科の授業構成に関する基礎的な知識が理解できる。
 ②つくってみることによる教材研究を通して教材の概要をとらえ、子どもを想像し、学習活動を構想できる。
 ③模擬授業体験から子どもの創造性を伸ばす楽しい授業のあり方について指導技術を高める。

■授業の概要

造形教育の基礎理論として、指導要領の解説を中心に講義を行う。造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などの授業で製作するものを実際につくってみることによる教材研究を行う。模擬授業を通して指導の実際を学び、授業構成のあり方について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	教材研究 「紙工作 ポップアップカード」
第17回	教育評価の考え方と方法
第18回	教材研究 「絵に表す 水彩画の指導のあり方」
第19回	教材研究及び指導案作成
第20回	教材研究及び指導案作成
第21回	模擬授業「絵に表す」
第22回	模擬授業「絵に表す」
第23回	模擬授業「立体に表す」
第24回	模擬授業「立体に表す」
第25回	模擬授業「工作に表す」
第26回	模擬授業「工作に表す」
第27回	模擬授業「鑑賞の指導」
第28回	模擬授業「導入段階の指導」
第29回	模擬授業「導入段階の指導」
第30回	児童画の見方・育て方 まとめ 図画工作科と教師の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
 ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
 ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。
 〔受講のルール〕
 ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
 ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（50%）、製作実技作品、指導案、資料等の提出（40%）、授業への取り組み（10%）。

■教科書

「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 文部科学省、「小学校図画工作科の指導」新井哲夫編著 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（生活）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然 社会 家庭 文化(行事)				

■授業の目的・到達目標

児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。

■授業の概要

生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス（生活科の目標・生活科の内容）
第2回	実践研究：春の景色（四季の変化を理解するために適する場所を選んで、スケッチする）
第3回	実践研究：植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実施する）〈開始〉
第4回	実践研究：春を探そう（春の植物を探し、それをもとに研究する）
第5回	実践研究：春を探そう（春に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第6回	実践研究：生きものの採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる）
第7回	実践研究：植物の栽培と観察
第8回	実践研究：夏の景色（春の景色と夏の景色の違いを理解する）
第9回	実践研究：夏を探そう（夏の植物を探し、それをもとに研究する）
第10回	実践研究：夏を探そう（夏に特徴のある生きものを探し、それをもとに研究する）
第11回	課題研究：家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える）
第12回	課題研究：自分を取り巻く環境について考えよう（学校生活の中でお世話になっている人たち・地域の生活などについて気づかせる方法を考える）
第13回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）
第14回	実践研究：地域（学校）マップの作成（学校周辺の地域について調べ、マップを作成する）
第15回	実践研究：植物の栽培と観察のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

実践活動に対する積極性（50％）、提出物（50％）・・・全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（生活）	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然 社会 家庭 文化（行事）				

■授業の目的・到達目標

児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。

■授業の概要

生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等）
第17回	実践研究： 不要になったものを使って、遊ぶものを作ろう（生活の中で生じる不要品を用いて、おもちゃなどを作る）
第18回	実践研究： 前回作ったおもちゃを使った遊びを考えよう（各グループが製作した手作りおもちゃを用いて、遊びを工夫する）
第19回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（公共交通機関を調べ、マナーについて考える）
第20回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の植物を探し検討する）
第21回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の生きものを探し検討する）
第22回	実践研究： バスに乗ってぐんまの森に行こう（集中講義）（秋の景色の概観をとらえ、自然を理解する）
第23回	実践研究： 秋の植物や実を使った製作（集中講義の際に入手した自然の産物で、おもちゃ・生活用品等を作る）
第24回	実践研究： 冬の植物・生きものを探そう（冬の植物や生きものの様子を観察し、研究する）
第25回	課題研究： 学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考案する
第26回	課題研究： 植物の栽培・動物の飼育についての学習指導を考案する
第27回	実践研究： 冬の景色（冬の景色をスケッチする） 冬の暮らし（冬ならではの暮らし方・遊び・行事を検討する）
第28回	課題研究： 季節の変化と生活についての学習指導を考案する
第29回	課題研究： 家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考案する
第30回	課題研究： 公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する 　　まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。

■授業時間外学習にかかわる情報

植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

実践活動に対する積極性（50％）、提出物（50％）・・・全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。

■教科書

『小学校学習指導要領生活編』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（体育）	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校体育教科の指導について必要な知識・技能を学び、実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解ができる。
- ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的におこなえる。
- ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(体育の特色、学習指導要領、発育・発達、体力、生活、安全、保健)
第2回	体づくり運動(体ほぐし運動)
第3回	体づくり運動(多様な動きをつくる運動)
第4回	体づくり運動(体力を高める運動)
第5回	模擬授業と指導研究
第6回	器械運動(マット運動)
第7回	器械運動(鉄棒運動)
第8回	器械運動(跳び箱運動)
第9回	模擬授業と指導研究
第10回	陸上運動(走の運動)
第11回	陸上運動(跳の運動)
第12回	模擬授業と指導研究
第13回	水泳(泳法指導・安全指導)
第14回	水泳(基礎泳法)
第15回	水泳(応用泳法)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・体育概論(2年)を踏まえ、各教材の実践的な学習の後に模擬授業と指導研究をおこなう。運動着、運動靴の準備。実技でもメモの用意をする。夏季に水泳の集中講座を実施する。

〔受講のルール〕

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施、野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前後期とも筆記試験・レポート(50%)実技試験(50%)。

■教科書

文部科学省:小学校学習指導要領解説「体育編」:東洋館出版社:平成20年
小学校体育:高島二郎:玉川大学:平成25年

■参考書

杉山重利:保健体育科教育法:大修館:平成21年

科目名	小学校教科教育法（体育）	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心と体、健康と安全、体育とスポーツ、発育発達、運動に親しむ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校体育教科の指導について必要な知識・技能を取得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①心と体を一体として捉え、運動や健康・安全についての理解ができる。
- ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的におこなえる。
- ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけられる。

■授業の概要

基本の運動、ゲーム、体づくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通してながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	模擬授業と指導研究（水泳）
第17回	ボール運動（ゴール型）
第18回	ボール運動（ネット型）
第19回	ボール運動（ベースボール型）
第20回	模擬授業と指導研究
第21回	表現運動（表現・リズム）
第22回	模擬授業と指導研究
第23回	実技教材の研究とまとめ
第24回	課題研究：準備運動の作成
第25回	課題研究：準備運動の作成
第26回	課題研究：準備運動の作成
第27回	課題研究：準備運動の作成
第28回	課題研究：研究発表と評価
第29回	課題研究：研究発表と評価
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・実技の実践的な学習と模擬授業と指導研究をおこなう。課題研究（作品制作と発表）はCDでまとめる。運動着、運動靴の準備をする。実技でもメモの用意をする。

〔受講のルール〕

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力する。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前後期とも筆記試験・レポート（50%）実技試験（50%）。

■教科書

文部科学省：小学校学習指導要領解説「体育編」：東洋館出版社：平成20年
高島二郎：小学校体育：玉川大学：平成25年

■参考書

杉山重利：保健体育科教育法：大修館：平成21年

科目名	小学校教科教育法(理科)	担当教員 (単位認定者)	中津瀬 隆	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	理科教育、初等科理科、理科カリキュラム、理科の授業、生物、地学、化学の基礎				

■授業の目的・到達目標

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、小学校で授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

この授業には超高倍率・超スローモーション、超高速カメラ等による映像が紹介されるので学習内容の理解が深まる。
前期 第1～15回では主としてB区分「生命」(生物)、「地球」(地学)の分野を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 1. 理科教育の意義と役割 2. 理科教育の目標と内容 3. 理科教育の指導法と評価				
第2回	学習: 桜の美しさの秘密、桜のクローン	指導法: 教材、小4「さくら」			
第3回	学習: 学習指導案の作成				
第4回	B区分「生命」の学習: 1. ねらいと内容 2. 教材研究と授業づくり 3. 実践 教材、小3「種からな一んだ」				
第5回	学習: 身近な植物の種、発芽、成長、結実	指導法: 左記のテーマにおける小3と小5児童の指導の相違			
第6回	学習: 植物の生活と水	指導法: 教材、小6「植物の養分と水の通り道」			
第7回	学習: 光合成	指導法: 教材、小4「植物の成長と季節」			
第8回	学習: 植物の環境への適応、植物ホルモン、花芽形成				
第9回	学習: 世界に生息する蟻	指導法: 教材、小3「蟻の観察」、「アリの世界」			
第10回	学習: 擬態	指導法: 教材、小3「昆虫の育ち方」、「野原の虫」			
第11回	学習: 蝶の羽の不思議、昆虫の能力とその利用、理科工作: 送風ゴムの力で動く昆虫おもちゃの作成				
第12回	体験学習: 博物館の効果的な利用法				
第13回	体験学習: 博物館バックヤード(収蔵庫等)の見学				
第14回	体験学習: 博物館内展示物の見学と問題演習 その1				
第15回	体験学習: 博物館内展示物の見学と問題演習 その2				

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。学習内容をよく理解し、判断力・思考力の養成に努力してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回配布されるプリントに基づいて十分に復習をする。

■オフィスアワー

授業終了後1時間

■評価方法

受講態度 15%、定期試験 85%。

■教科書

別に指示する。

■参考書

「理科概論」で用いた教科書: 身近な現象の物理と化学、鈴木智恵子著 東海大学出版部、その他授業内で適宜紹介する。

科目名	小学校教科教育法（理科）	担当教員 （単位認定者）	中津瀬 隆	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	理科教育、初等科理科、理科カリキュラム、理科の授業、学習指導案、地学、化学				

■授業の目的・到達目標

小学校で理科を指導する際に不可欠な基礎知識や指導上の留意点などについて学び、小学校で授業を行なうための指導力の育成、楽しい授業を展開する為の指導法を習得する。

■授業の概要

後期 第15～30回ではB区分「生命」（生物）と「地球」（地学）の分野に加え、A区分「物質」（化学）の分野も学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	オリエンテーション、1.栽培と飼育、2.学習：秋の虫、虫の音 指導法：教材 小3「たんけん秋の森」
第17回	学習：小学校理科地学分野の構成、各学年地学分野の目標と内容。 指導法：教材 小5「移り変わる天気」、小5「秋の天気と台風」
第18回	学習：豪雨の際の注意、大峡谷の成因 指導法：教材 小5「大地をけずる水」
第19回	学習：風雨の働きと地形 指導法：教材 小5「水の恵みと災害」、小5「かたちを変える川」
第20回	学習：紅葉、黄葉のメカニズム、種子の散布、小学校理科工作：遠くへ飛ぶことの出来る植物の種の模型づくり
第21回	学習：地殻変動のあかし 指導法：教材 小6「地層の出来方と化石」
第22回	学習：活断層と地震、プレートの動き 指導法：教材 小6「ゆれる大地」
第23回	学習：海溝形地震、地震と揺れの周期、東日本大震災と神戸・淡路大震災の違いと原因
第24回	学習：津波への対応
第25回	学習：火山活動とその影響、世界の活火山 指導法：教材 小6「火を噴く山」
第26回	学習：プレートは動く、大地溝帯（エチオピア、アイスランド）、小学校理科化学分野の構成、各学年化学分野の目標と内容。
第27回	学習：酸と塩基 指導法：教材 小6「酸とアルカリ」
第28回	学習：水素イオン濃度とpH 指導法：教材 小6「役に立つ化学」
第29回	学習：日本における新エネルギー開発 指導法：教材 小6「未来のエネルギー」
第30回	授業における安全管理

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回配布されるプリントに基づいて十分に復習をする。

■オフィスアワー

授業終了後1時間と14:15～15:15

■評価方法

受講態度 15%、定期試験 85%。

■教科書

別に指示する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(3年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	観察実習、教育実習の理解、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。
- ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
- ④教員採用試験の概要を理解し、第一次試験、第二次試験に合格する力量を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。
- 2 現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。
- 3 模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解(意義と目的、3年次・4年次の流れ)
第2回	教育実習の理解(実習オリエンテーション)、観察実習について。
第3回	小学校教師の基礎基本(個人情報、発達段階)
第4回	小学校教師の基礎基本(職員・保護者とのコミュニケーション)
第5回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校低学年)
第6回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校低学年)
第7回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校中学年)
第8回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校中学年)
第9回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校高学年)
第10回	観察実習の実施(前橋市立大利根小学校高学年)
第11回	観察実習の報告
第12回	観察実習の報告
第13回	観察実習の報告
第14回	学習指導と生活指導(具体的な場面をとりあげて)
第15回	学習指導と生活指導(学級経営)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

観察実習の実施・報告会(30%)、模擬授業(20%)、教育実習への関心・意欲・態度(20%)、ミニテスト(30%)。

■教科書

群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(3年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	観察実習、教育実習の理解、模擬授業、授業研究会				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。
- ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
- ④教員採用試験の概要を理解し、第一次試験、第二次試験に合格する力量を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。
- 2 現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。
- 3 模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	模擬授業、授業研究会(社会)
第17回	模擬授業、授業研究会(算数T・T)
第18回	道徳の授業について
第19回	教科外の学習について
第20回	教育実習を迎えるにあたって(悩みや不安の軽減)
第21回	教育実習を迎えるにあたって(コミュニケーション能力)
第22回	教育実習を迎えるにあたって(学校組織、学級経営)
第23回	模擬試験(教科)
第24回	教育実習を迎えるにあたって(褒め方・叱り方)
第25回	教育実習を迎えるにあたって(4年生の先輩からの教育実習体験)
第26回	教育実習を迎えるにあたって(履修カルテの記入)
第27回	教育実習を迎えるにあたって(児童理解)
第28回	模擬試験(特別活動)
第29回	教員採用試験合格者体験談
第30回	1年のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

観察実習の実施・報告会(30%)、模擬授業(20%)、教育実習への関心・意欲・態度(20%)、ミニテスト(30%)。

■教科書

群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学実験、質問紙、実験レポート、量的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕
心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕
実験の手続きを理解できるようになる。
独立変数・従属変数を操作・測定する方法を学ぶ。
実験改善を立案する力を得る。
実験レポートを作成できるようになる。

■授業の概要

通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス・相関と因果関係
第2回	相関と因果関係
第3回	錯視実験
第4回	錯視実験
第5回	錯視実験
第6回	統計グラフの書き方
第7回	ストループ課題(解説)
第8回	ストループ課題(実験)
第9回	ストループ課題(解説)
第10回	ストループ課題(説明)
第11回	レポートの書き方
第12回	記憶実験(解説)
第13回	記憶実験(実験)
第14回	記憶実験(解説)
第15回	記憶実験(解説)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕
事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。

〔受講のルール〕
各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

レポート(70%)、授業内小テスト(30%)。

■教科書

なし。講義中に資料を配布する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学実験、質問紙、実験レポート、量的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験の手続きを理解できるようになる。

独立変数・従属変数を操作・測定する方法を学ぶ。

実験改善を提案する力を得る。

実験レポートを作成できるようになる。

■授業の概要

通年の実験実習をととして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ガイダンス
第17回	アクションスリップ(解説)
第18回	アクションスリップ(実験)
第19回	アクションスリップ(分析解説)
第20回	アクションスリップ(分析解説)・課題提出
第21回	漢字とかなの処理過程(解説)
第22回	漢字とかなの処理過程(実験)
第23回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)
第24回	漢字とかなの処理過程(解説・分析)・課題提出
第25回	統計グラフの書き方・ミニ課題提出
第26回	スキーマ課題(解説)
第27回	スキーマ課題(実験)
第28回	スキーマ課題(解説・分析)
第29回	スキーマ課題(解説・分析)・課題提出
第30回	まとめおよびミニ課題提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。

〔受講のルール〕

各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

レポート(60%)、授業内小テスト(30%)、授業内でのコメント(10%)。

■教科書

なし。授業中にプリントを配布する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理統計学	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計学、心理学研究法				

■授業の目的・到達目標

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 心理学研究の基礎としての統計学
第2回	統計学の初歩I 「統計をとる」ことの意義
第3回	統計学の初歩II 変数と尺度、シグマ(Σ)記号の意味
第4回	度数分布I 質的変数の度数分布
第5回	度数分布II 量的変数の度数分布
第6回	基本統計量I 代表値(平均値、中央値、最頻値)
第7回	基本統計量II 散布度(分散、標準偏差)
第8回	基本統計量III 分布型(歪度、尖度、正規性)
第9回	基本統計量IV 標準正規分布の使い方
第10回	相関と回帰I 散布図、相関関係の理解
第11回	相関と回帰II ピアソンの積率相関係数
第12回	相関と回帰III 相関行列、多変数間の相関分析
第13回	相関と回帰IV 回帰分析
第14回	相関と回帰V 回帰分析の応用(重回帰分析)
第15回	前期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分な学習意欲・態度をもって臨んでください。また、受講に際しては**必ず恒常的に出席してください**。なお、欠席した場合は**別途、授業外課題に取り組んで頂きます**。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(80%)に、平常点(20%)(授業への取り組み、提出物)を加味した総合評価を行います。

■教科書

松田文子・三宅幹子・橋本優花里(著)「わかって楽しい心理統計法入門 Ver.2」北大路書房,2012年.

■参考書

適宜紹介

科目名	心理統計学	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計学、心理学研究法				

■授業の目的・到達目標

本講義は、心理データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的としている。そのため、単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく、人の心や行動に関する情報を統計的根拠に則して読み解ける素養の育成に力点を置くことになる。

■授業の概要

授業は講義形式での説明のほか、模擬データを配布して実際に分析を行い、その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	統計的検定Ⅰ 母集団と標本
第17回	統計的検定Ⅱ 統計的検定の考え方
第18回	カイ2乗検定Ⅰ ピアソンの適合度の検定
第19回	カイ2乗検定Ⅱ ピアソンの独立性の検定
第20回	t検定Ⅰ 対応のある標本の平均値の差の検定
第21回	t検定Ⅱ 独立2標本の平均値の差の検定
第22回	t検定Ⅲ ウェルチの方法による平均値の差の検定
第23回	分散分析Ⅰ 分散分析の考え方
第24回	分散分析Ⅱ 一元配置の分散分析
第25回	分散分析Ⅲ 多重比較検定
第26回	その他の検定 中央値の検定 ほか
第27回	統計的検定をめぐる諸問題 その限界と適用上の留意点
第28回	多変量解析の概説Ⅰ 因子分析
第29回	多変量解析の概説Ⅱ クラスタ分析
第30回	後期の総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

数学的素養はほとんど必要ありませんが、数値情報を読解するための根気と思考力を要します。十分な学習意欲・態度をもって臨んでください。また、受講に際しては**必ず恒常的に出席してください**。なお、欠席した場合は**別途、授業外課題に取り組んで頂きます**。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期・後期の筆記試験の結果(80%)に、平常点(20%)(授業への取り組み、提出物)を加味した総合評価を行います。また、後期は演習課題が多くなります。扱う単元ごとのレポートは全て提出することが原則です。

■教科書

松田文子・三宅幹子・橋本優花里(著)「わかって楽しい心理統計法入門 Ver.2」北大路書房,2012年。

■参考書

適宜紹介

科目名	精神疾患とその治療	担当教員 (単位認定者)	重田 理佐	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神医学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学的知識を身につける。

〔到達目標〕

- 1、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。
- 2、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。
- 3、精神医学の概念、診断の基本について理解する。
- 4、代表的な精神障害について理解する。
- 5、精神障害の治療の概要について理解する。
- 6、病院精神医学および地域精神医学について理解する。

■授業の概要

精神医学についての基本的な知識の習得を目指すと共に、精神科病院勤務医としての経験から精神医療の現状と課題についても触れていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業オリエンテーション
第2回	精神医学と精神医療の歴史
第3回	精神現象の生物学的基礎
第4回	精神障害の概念
第5回	精神疾患の症状と診断1
第6回	精神疾患の症状と診断2
第7回	心理検査と身体的検査
第8回	器質性精神障害
第9回	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
第10回	統合失調症1
第11回	統合失調症2
第12回	躁うつ病1
第13回	躁うつ病2
第14回	神経症性障害1
第15回	神経症性障害2

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

予習復習を行う。分かりづらいことについては積極的に質問する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期末にレポート課題(20%)を行う。後期末に筆記試験(80%)を行う。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業において適宜紹介する。

科目名	精神疾患とその治療	担当教員 (単位認定者)	重田 理佐	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神医学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学的知識を身につける。

〔到達目標〕

- 1、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。
- 2、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。
- 3、精神医学の概念、診断の基本について理解する。
- 4、代表的な精神障害について理解する。
- 5、精神障害の治療の概要について理解する。
- 6、病院精神医学および地域精神医学について理解する。

■授業の概要

精神医学についての基本的な知識の習得を目指すと共に、精神科病院勤務医としての経験から精神医療の現状と課題についても触れていきたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	生理的障害および身体的要因に関連した障害
第17回	成人のパーソナリティ及び行動の障害
第18回	精神遅滞、発達障害
第19回	小児期のおよび青年期に通常発症する行動および情緒の障害
第20回	神経系の疾患、てんかん
第21回	治療法1 薬物療法
第22回	治療法2 電気けいれん療法、身体療法
第23回	治療法3 環境社会療法、リハビリテーション
第24回	精神医療の現状
第25回	医療観察法と司法精神医学
第26回	人権擁護、精神科救急医療
第27回	産業精神医学
第28回	復習
第29回	復習
第30回	復習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

予習復習を行う。分かりづらいことについては積極的に質問する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

前期末にレポート課題(20%)を行う。後期末に筆記試験(80%)を行う。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業において適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の生活支援				

■授業の目的・到達目標

- 1) 精神障害者の人権について理解させる。障害に配慮した生活支援について理解させる。
- 2) 精神保健福祉法、障害者自立支援法、医療観察法に関する法律の意義を理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。

■授業の概要

精神障害者の理解のために、障害者福祉の理念基本施策を学ぶ。社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士としての支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷
第3回	精神保健福祉法の主な内容①
第4回	同 ② と精神保健福祉士の役割
第5回	精神保健福祉制度と障害者自立支援法①
第6回	同 ②
第7回	同 ③
第8回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討
第9回	精神保健福祉に関する行政組織
第10回	医療観察法成立の経緯と背景
第11回	更生保護制度と精神保健福祉
第12回	映画①
第13回	感想レポート
第14回	関連施策、医療保険制度・介護保険制度
第15回	年金保険制度と障害者年金

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験・レポート(100%)による評価。

■教科書

精神障害者の生活支援一制度・システムとサービス へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の生活支援				

■授業の目的・到達目標

- 1) 精神障害者の人権について理解させる。障害に配慮した生活支援について理解させる。
- 2) 精神保健福祉法、障害者自立支援法、医療観察法に関する法律の意義を理解させる。
- 3) 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。

■授業の概要

精神障害者の理解のために、障害者福祉の理念基本施策を学ぶ。社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえて精神保健福祉士としての支援ができるようになることを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	雇用保険・労災保険制度
第17回	公的扶助その他経済的負担の軽減
第18回	地域生活支援と退院促進（地域移行・地域定着）
第19回	生活支援システムのパラダイムシフト
第20回	医学モデルから社会モデル
第21回	精神障害者の実態把握
第22回	家族調査、精神障害者自身の体験
第23回	イギリスのコミュニティーケアから学ぶもの、精神科デイケア
第24回	心理家族教室 ピアサポーター 他
第25回	実態からの提言・課題
第26回	精神障害者の居住支援
第27回	精神障害者の雇用・就労
第28回	映画②感想レポート
第29回	生活支援システム①
第30回	生活支援システム②

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。
原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験・レポート（100%）による評価。

■教科書

精神障害者の生活支援一制度・システムとサービス へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健の課題と支援	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健学				

■授業の目的・到達目標

精神保健についての基本的知識について理解させる。ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神保健とは何か? 保健とメンタルヘルス
第3回	ライフサイクルと精神保健
第4回	ライフサイクルと精神保健
第5回	ライフサイクルと精神保健
第6回	ライフサイクルと精神保健
第7回	ライフサイクルと精神保健
第8回	ライフサイクルと精神保健
第9回	精神保健の実際
第10回	精神保健の実際
第11回	精神保健福祉法と精神保健
第12回	精神科治療とリハビリテーションの特殊性
第13回	薬物依存、アルコール依存と精神保健
第14回	自殺、いじめと精神保健
第15回	世界の精神保健の動向

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験・レポート（100%）による評価。

■教科書

精神保健学 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健の課題と支援	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健学				

■授業の目的・到達目標

精神保健についての基本的知識について理解させる。ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。

■授業の概要

精神保健を縦軸（ライフサイクル）と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	精神保健の歴史①（異常とは？量、質）
第17回	精神保健の歴史②ベルギー、ゲールの地域活動
第18回	大脳、中枢神経、記憶の障害
第19回	知能の異常、知覚の異常
第20回	感情の異常、不安、パニック、抑うつ
第21回	不眠と精神保健
第22回	精神障害者対策、精神障害者の現状
第23回	精神保健福祉法の成立と見直し
第24回	障害者自立支援法
第25回	医療観察法
第26回	更生保護との関連
第27回	生活保護法との関連
第28回	地域保健と地域精神保健
第29回	世界の精神保健、アメリカ、イギリスの現状と実際
第30回	精神保健学の新しい取り組み

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い）

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験・レポート（100%）による評価。

■教科書

精神保健学 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉援助演習基礎	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、他者理解、記述方法、表現方法、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対人援助専門職を目指す学生として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。
- ② 基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。
- ③ 対人援助専門職を目指す学生として、自己理解し、自己表現できるようになる。
- ④ 対人援助専門職を目指す学生として、他者を理解し、受容できるようになる。
- ⑤ 精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。

■授業の概要

対人援助専門職としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。また、相談援助実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、次年度の精神保健福祉援助実習に活かせる援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第2回	援助者としての自己覚知 ① 自己の価値観
第3回	援助者としての自己覚知 ② 自分の傾向を知る
第4回	援助者としての自己覚知 ③ 他者を知る
第5回	援助者としての自己覚知 ④ 自己と他者の相違点
第6回	コミュニケーションと対人関係 ① 関わりを考える
第7回	コミュニケーションと対人関係 ② 方法を考える
第8回	コミュニケーションと対人関係 ③ 実践する
第9回	コミュニケーションと対人関係 ④ 工夫する
第10回	コミュニケーションと対人関係 ⑤ 振り返る
第11回	倫理と守秘義務について ① 精神保健福祉士の倫理綱領
第12回	倫理と守秘義務について ② 社会福祉士の倫理綱領との相違点
第13回	援助者としての自己覚知 ⑤ 自己と他者の価値観
第14回	援助者としての自己覚知 ⑥ 視点と考え方
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ② 精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③ グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④ 授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤ 提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ① 授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25% ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40% ③ 定期試験および課題レポート 35%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 / ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子著 みらい2011

■参考書

「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習基礎	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神障害者の理解、自己覚知、他者理解、記述方法、表現方法、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対人援助専門職を目指す学生として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。
- ② 基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。
- ③ 対人援助専門職を目指す学生として、自己理解し、自己表現できるようになる。
- ④ 対人援助専門職を目指す学生として、他者を理解し、受容できるようになる。
- ⑤ 精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。

■授業の概要

対人援助専門職としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。また、相談援助実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、次年度の精神保健福祉援助実習に活かせる援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について オリエンテーション
第17回	記録の記述方法 ① 個別事例の検討
第18回	記録の記述方法 ② 個別事例の検討
第19回	記録の記述方法 ③ 個別事例の検討
第20回	記録の記述方法 ④ 個別事例の検討
第21回	記録の記述方法 ⑤ 個別事例の検討
第22回	記録の記述方法 ⑥ 個別事例の検討
第23回	記録の記述方法 ⑦ 個別事例の検討
第24回	記録の記述方法 ⑧ 個別事例の検討
第25回	記録の記述方法 ⑨ 個別事例の検討
第26回	記録の記述方法 ⑩ 個別事例の検討
第27回	観察と考察 ①
第28回	観察と考察 ②
第29回	振り返りと今後の課題
第30回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ② 精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③ グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④ 授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤ 提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ① 授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%
- ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40%
- ③ 定期試験および課題レポート 35%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 / ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子著 みらい2011

■参考書

「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習専門	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	記述方法、表現方法、面接技法、自己覚知、他者理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉士として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①話す、聴く、書く、観ることを含めた基本的な面接技法を身につけ、実践できるようになる。
- ②対人援助専門職として、自己理解し、自己表現できるようになる。
- ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間とその家族を理解し、受容できるようになる。
- ④精神保健福祉士として相談、確認、報告ができるようになる。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、今後の現場での実践に活かせる専門的援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義オリエンテーションおよび見学実習の振り返り
第2回	援助者としての自己覚知 ① 自己の価値観に気づく
第3回	援助者としての自己覚知 ② 他者との違い
第4回	倫理と秘密保持について ① 精神保健福祉士の倫理綱領
第5回	倫理と秘密保持について ② 実習先での守秘義務
第6回	倫理と秘密保持について ③ 誓約書について
第7回	コミュニケーションと対人関係 ① 精神病患者との対応方法
第8回	コミュニケーションと対人関係 ② 精神疾患について
第9回	コミュニケーションと対人関係 ③ 面接方法
第10回	コミュニケーションと対人関係 ④ ロールプレイ
第11回	コミュニケーションと対人関係 ⑤ ロールプレイ
第12回	援助者としての自己覚知 ③ 精神疾患と個人
第13回	援助者としての自己覚知 ④ 個人と集団
第14回	倫理と秘密保持について ④ 倫理綱領と守秘義務
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言やグループワークへの参加状況）30%
- ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40%
- ③ 定期試験および課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007

■参考書

PSW実習ハンドブック実習生のための手引き 荒田寛 へるす出版 2013 / こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院 2007 / 実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 / 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助演習専門	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	記述方法、表現方法、面接技法、自己覚知、他者理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神保健福祉士として自己および他者を含めた人間理解を行い、対人援助専門職として話す、聴く、書く、観ることを身につけ、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①話す、聴く、書く、観ることを含めた基本的な面接技法を身につけ、実践できるようになる。
- ②対人援助専門職として、自己理解し、自己表現できるようになる。
- ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間とその家族を理解し、受容できるようになる。
- ④精神保健福祉士として相談、確認、報告ができるようになる。

■授業の概要

精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。また、配属実習の振り返りをとおして、記録の具体的記述方法や、個別援助について学び、自己の実習だけでなく他者の実習での援助方法を具体的に学び、今後の現場での実践に活かせる専門的援助技術を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について	オリエンテーション
第17回	配属実習の振り返り	① 個別事例の検討
第18回	配属実習の振り返り	② 個別事例の検討
第19回	配属実習の振り返り	③ 個別事例の検討
第20回	配属実習の振り返り	④ 個別事例の検討
第21回	配属実習の振り返り	⑤ 個別事例の検討
第22回	配属実習の振り返り	⑥ 個別事例の検討
第23回	配属実習の振り返り	⑦ 個別事例の検討
第24回	実習報告会	①
第25回	実習報告会	②
第26回	実習報告会	③
第27回	実習報告会	④
第28回	実習報告会	⑤
第29回	振り返りと今後の課題	
第30回	全体のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言やグループワークへの参加状況）30%
- ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40%
- ③ 定期試験および課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」及び「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版
日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007

■参考書

PSW実習ハンドブック実習生のための手引き 荒田寛 へるす出版 2013 / こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院 2007 / 実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 / 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、アイデンティティ、精神障害者の理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。

〔達成目標〕

- ① 配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。
- ② 実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。
- ③ 精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。
- ④ 精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え
第2回	精神保健福祉現場実習について 配属施設の決定
第3回	自己紹介表の意義と目的および作成
第4回	実習計画書の作成 実習先施設の情報収集及び概要書作成指導
第5回	実習計画書の作成 ① 作成の意義・目的
第6回	実習計画書の作成 ② 内容の検討
第7回	実習計画書の作成 ③ 内容の検討
第8回	現場実習に係わる留意事項 ① 守秘義務
第9回	現場実習に係わる留意事項 ② 契約と誓約書
第10回	現場実習に係わる留意事項 ③ 卒業生講話
第11回	実習記録・日誌の記述方法 ①
第12回	実習記録・日誌の記述方法 ②
第13回	実習先への事前訪問について
第14回	自らの課題検討
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ② 精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③ グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④ 授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤ 提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ① 授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ② 実習の事前準備および、事後の振り返りを行い、実習報告の準備に取り組むこと。
- ③ 授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）30%
- ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40%
- ③ 定期試験および課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習及び「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 / PSW 実習ハンドブック実習生のための手引き 荒田寛 へるす出版 2013

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
 こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院 2007
 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、アイデンティティ、精神障害者の理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解を通して、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。

〔達成目標〕

- ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。
- ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。
- ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人間を理解し、受容できるようになる。
- ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。

■授業の概要

実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について	オリエンテーション	現場実習の振り返り	① レポートの作成方法について
第17回	配属実習の振り返り	② 個別事例の検討		
第18回	配属実習の振り返り	③ 個別事例の検討		
第19回	配属実習の振り返り	④ 個別事例の検討		
第20回	配属実習の振り返り	⑤ 個別事例の検討		
第21回	配属実習の振り返り	⑥ 個別事例の検討		
第22回	配属実習の振り返り	⑦ 個別事例の検討		
第23回	配属実習の振り返り	⑧ 個別事例の検討		
第24回	自らの課題検討	実習報告会	①	
第25回	自らの課題検討	実習報告会	②	
第26回	自らの課題検討	実習報告会	③	
第27回	自らの課題検討	実習報告会	④	
第28回	自らの課題検討	実習報告会	⑤	
第29回	振り返りと今後の課題			
第30回	全体のまとめ			

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ②実習の事前準備および、事後の振り返りを行い、実習報告の準備に取り組むこと。
- ③授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）30%
- ② 授業レポート（内容および提出状況含む）40%
- ③ 定期試験および課題レポート 30%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習及び「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック（学生用）社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2012 / 実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011 / PSW 実習ハンドブック実習生のための手引き 荒田寛 へるす出版 2013

■参考書

「臨床に必要な人間関係学」福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 2007
 こんなとき私はどうしてきたか 中井久夫 医学書院 2007
 「相談援助演習」社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと支援活動について理解する。

〔到達目標〕

社会福祉活動における専門技術の体系について理解させる。精神保健福祉士と専門技術について理解する。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。初めにSST(生活技能練習)を学び次に個別支援に入る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	
第2回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第3回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第4回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第5回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第6回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第7回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第8回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第9回	精神障害者を対象にした集団援助技術(グループワーク)	SST
第10回	ストレス脆弱性モデルとSST	
第11回	シナリオロールプレイ	
第12回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第13回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第14回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	
第15回	精神障害者を対象にした個別援助技術(ケースワーク)	教科書の事例

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験(60%)・レポートに(40%)による評価。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 へるす出版

■参考書

1年時使用の「精神保健福祉相談援助の基盤」、常時持参すること。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開I	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと支援活動について理解する。

〔到達目標〕

社会福祉活動における専門技術の体系について理解させる。精神保健福祉士と専門技術について理解する。

■授業の概要

障害に配慮した援助技術を理解するためにグループワークから入る。初めにSST（生活技能練習）を学び、次に個別支援に入りケアプランの作成を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）	支援計画を立てる
第17回	精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）	支援計画を完成
第18回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第19回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第20回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第21回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第22回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第23回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第24回	地域支援援助技術（コミュニティーワーク）	コミュニティーミーティング
第25回	コミュニティーケアからデイケア・家族心理教育プログラム	
第26回	障害者総合支援法による地域生活支援	
第27回	障害者総合支援法による地域生活支援	
第28回	障害者総合支援法による地域生活支援	
第29回	障害者総合支援法による地域生活支援	
第30回	障害者総合支援法による地域生活支援	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。

〔受講のルール〕

授業中に予備知識、技術上のポイント、学習面の助言を行う。内容理解に遠慮なく質問をし、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間のほか、放課後18時過ぎ。

■評価方法

試験（60％）・レポートに（40％）による評価。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉の専門的な援助技法を精神科リハビリテーションの視点で理解させる。新しい視点に立った相談援助の実際の適用分野を具体的事例を持って理解する。

■授業の概要

前年の「理論と展開Ⅰ」で学んだ理論、実践方法を前提にさらに具体的事例を持って内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	精神科リハビリテーションの概念
第2回	精神科リハビリテーションと精神保健福祉士の役割
第3回	精神科リハビリテーションの対象
第4回	精神科リハビリテーションの実施機関(精神科病院、診療所、社会復帰施設等)
第5回	精神科リハビリテーションのプロセス
第6回	ソーシャルワークと精神科リハビリテーション(ストレングス モデル、エンパワメントアプローチ他)
第7回	「理論と展開」とライフサイクル
第8回	援助技法・作業療法①
第9回	援助技法・作業療法②
第10回	就労支援①
第11回	就労支援②
第12回	集団療法、グループプロセス SST
第13回	認知行動療法、SST
第14回	認知行動療法、SST
第15回	心理家族教育プログラム、SST

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイントを、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問紙、精神保健福祉の特殊性を体感すること。適宜、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後18時過ぎ。

■評価方法

試験レポート(100%)による評価。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開-2(精神保健福祉におけるリハビリテーション) へるす出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉の専門的な援助技法を精神科リハビリテーションの視点で理解させる。新しい視点に立った相談援助の実際の適用分野を具体的事例を持って理解する。

■授業の概要

前年の「理論と展開Ⅰ」で学んだ理論、実践方法を前提にさらに具体的事例を持って内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	SST・シナリオロールプレイ
第17回	チームアプローチ・医療チーム・アウトリーチチーム他
第18回	デイケア、ナイトケア、デイ・ナイトケア
第19回	居住支援
第20回	就労支援、IPSと準備性
第21回	障害者雇用促進法と就労支援
第22回	地域を基盤にしたケアマネジメント
第23回	地域生活支援と障害者総合支援法
第24回	セルフヘルプグループ（アノニマス系と障害系）
第25回	無力、ハイヤーパワー
第26回	ピア活動、ピアヘルパーの役割
第27回	リハビリと精神科リハビリテーション
第28回	コミュニティーワーク訪問支援
第29回	精神保健福祉ボランティア
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントを、学習面の助言が多い）内容理解には遠慮なく質問紙、精神保健福祉の特殊性を体感すること。適宜、小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後18時過ぎ。

■評価方法

試験レポート（100%）による評価。

■教科書

精神保健福祉の理論と相談援助の展開-2（精神保健福祉におけるリハビリテーション） へるす出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	相談援助演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理綱領、行動規範、面接技法、記録技法、ケースワーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。
- ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等の基本を養う。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。
- ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。
- ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。
- ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	ソーシャルワークの価値と倫理 倫理綱領
第3回	ソーシャルワークの価値と倫理 行動規範
第4回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接の目的
第5回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接に入る心構え
第6回	ソーシャルワーク実践 面接技法 インテーク面接
第7回	ソーシャルワーク実践 面接技法 傾聴の方法
第8回	ソーシャルワーク実践 面接技法 面接の具体的技法
第9回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の意義と目的
第10回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の種類
第11回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録の内容と方法
第12回	ソーシャルワーク実践 記録技法 記録における留意点
第13回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク
第14回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク
第15回	ソーシャルワークの展開過程 ケースワーク個別支援計画

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1)履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2)学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。

(3)予備知識や技能

相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得する事。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート(40%)、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み(60%)。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法(最新版のもの) 社会福祉用語辞典

科目名	相談援助演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	倫理綱領、行動規範、面接技法、記録技法、ケースワーク				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。
- ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等の基本を養う。

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。
- ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。
- ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。
- ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	オリエンテーション	ソーシャルワークの展開過程	ケースワーク	個別援助計画
第17回	ソーシャルワークの展開過程	グループワーク		
第18回	ソーシャルワークの展開過程	グループワーク		
第19回	ソーシャルワークの展開過程	グループワーク		
第20回	地域を基盤とした相談援助演習			
第21回	地域を基盤とした相談援助演習			
第22回	地域を基盤とした相談援助演習			
第23回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	治療モデル	環境モデル	生活モデル
第24回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	ストレングスモデル		
第25回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	心理社会的アプローチ		
第26回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	問題解決アプローチ		
第27回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	危機介入アプローチ		
第28回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	行動変容アプローチ		
第29回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	エンパワーメントアプローチ		
第30回	実践モデルやアプローチに関する相談援助について	家族システム論		

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努める事。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。

■授業時間外学習にかかわる情報

社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し習得する事。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート(40%)、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み(60%)。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助演習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	展開過程、ストレングス、エンパワーメント、ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。

〔到達目標〕

1. 実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。
2. グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。
3. 実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。
4. 総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。
5. ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。

■授業の概要

- ・グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。
- ・実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援
第3回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援 退院支援
第4回	社会問題を基盤とした相談援助について 就労支援 退院支援
第5回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待
第6回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待 DV
第7回	社会問題を基盤とした相談援助について 虐待 DV
第8回	対象者別にみた相談援助について 低所得者の相談援助
第9回	対象者別にみた相談援助について 低所得者・ホームレスの相談援助
第10回	対象者別にみた相談援助について 低所得者・ホームレスの相談援助
第11回	対象者別にみた相談援助について 高齢者への相談援助
第12回	対象者別にみた相談援助について 高齢者への相談援助
第13回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助
第14回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助
第15回	対象者別にみた相談援助について 障害者への相談援助

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかりと行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典

科目名	相談援助演習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	展開過程、ストレングス、エンパワーメント、ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。

〔到達目標〕

1. 実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。
2. グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。
3. 実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。
4. 総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。
5. ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。

■授業の概要

- ・ グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。
- ・ 実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第18回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第19回	事例研究 成年後見制度と相談援助
第20回	事例研究 苦情解決の対処方法
第21回	事例研究 苦情解決の対処方法
第22回	実習での学びを基に事例検討
第23回	実習での学びを基に事例検討
第24回	実習での学びを基に事例検討
第25回	実習での学びを基に事例検討
第26回	実習での学びを基に事例検討
第27回	実習での学びを基に事例検討
第28回	実習での学びを基に事例検討
第29回	実習での学びを基に事例検討
第30回	演習まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

(1) 履修上の注意

本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁。

(2) 学習上の助言

社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。

(3) 予備知識や技能

上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかりと行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）。

■教科書

社会福祉シリーズ 21 ソーシャルワーク演習 『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 実習プログラム 実習計画書 事前訪問				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ① [相談援助実習指導Ⅰ]を踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。
- ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項(姿勢、倫理、技能等)を総合的に修得する。
- ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ① 社会福祉士(ソーシャルワーカー)の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。
- ② 実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。
- ③ 実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集(根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等)を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。

後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	前期オリエンテーション(シラバス説明、授業方法と留意事項、実習先の確認)
第2回	実習の意義と目的の理解(事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法)
第3回	実習体験者(先輩)の講話(実習への心構え・事前学習の必要性)
第4回	実習先機関・施設の基本的理解(設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容)
第5回	相談援助実習資格試験
第6回	実習プログラムの理解(実習委託契約書の理解)
第7回	実習計画書作成の理解(実習の目的・実習先選定の動機)
第8回	実習計画書作成の理解(実習の目標・実習課題)
第9回	実習計画書作成の理解 *「実習計画書」の完成、*「実習生紹介票」、「誓約書」
第10回	実習プログラムの理解(個別支援プログラムの作成)
第11回	事前訪問(事前オリエンテーション)の理解(連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項)
第12回	実習受け入れ体制の理解(実習指導者の講話(全体))
第13回	記録方法の理解①(実習記録)
第14回	実習生に求められる基本姿勢の理解(職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理)
第15回	全体オリエンテーション(学長講話・巡回指導及び帰学日指導等)

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ② 提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。
- ③ 欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④ 無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉実習部会で対応について協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

レポート(30%)、課題への取り組み(巡回及び帰学日指導状況を含む)(50%)、提出物の提出状況及び内容(20%)を総合して評価する。ただし、相談援助実習資格試験に合格しなかった場合および相談援助実習の単位が不認定になった場合は単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編 社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導 弘文堂/社会福祉小六法、社会福祉用語辞典

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 スーパービジョン プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ① [相談援助実習指導Ⅰ]を踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。
- ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。
- ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項(姿勢、倫理、技能等)を総合的に修得する。
- ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ① 社会福祉士(ソーシャルワーカー)の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。
- ② 実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。
- ③ 実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。

■授業の概要

前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集(根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等)を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。

後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション(シラバス説明、授業方法と留意事項)
第17回	記録方法の理解(実習報告書、実習レポート等・礼状作成)
第18回	実習評価の理解(自己評価、実習先評価、実習指導者の講評)
第19回	実習の振り返り(事前学習*グループ討議と発表)
第20回	実習の振り返り(自己理解、自己覚知、職業倫理*グループ討議と発表)
第21回	実習の振り返り(クライアントとの関わり、職員との関わり*グループ討議と発表)
第22回	実習後の個別スーパービジョン①(実習レポート等の作成)
第23回	実習後の個別スーパービジョン②(実習レポート等の作成)
第24回	実習後の個別スーパービジョン③(実習レポート等の作成)
第25回	実習の総括(※実習レポート等の完成)
第26回	実習の総括(クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術)
第27回	実習の総括(クラス内実習報告会)
第28回	実習の総括(クラス内実習報告会)
第29回	実習の総括(クラス内実習報告会)
第30回	全体実習報告会

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ② 提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。
- ③ 欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④ 無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉実習部会で対応について協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

レポート(30%)、課題への取り組み(巡回及び帰学日指導状況を含む)(50%)、提出物の提出状況及び内容(20%)を総合して評価する。ただし、相談援助実習資格試験に合格しなかった場合および相談援助実習の単位が不認定になった場合は単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編 社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導 弘文堂/社会福祉小六法、社会福祉用語辞典

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワーカー、社会福祉士、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。

■授業の概要

社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素や形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション	
第2回	第1章 社会福祉士の役割と意義	第1節社会福祉士の役割と意義
第3回	第1章 社会福祉士の役割と意義	第1節社会福祉士の役割と意義
第4回	第1章 社会福祉士の役割と意義	第2節現代社会と地域生活
第5回	第1章 社会福祉士の役割と意義	第2節現代社会と地域生活
第6回	第2章 相談援助の定義と構成要素	第1節ソーシャルワークの概念
第7回	第2章 相談援助の定義と構成要素	第1節ソーシャルワークの概念
第8回	第2章 相談援助の定義と構成要素	第2節ソーシャルワークの構成要素
第9回	第2章 相談援助の定義と構成要素	第2節ソーシャルワークの構成要素
第10回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ	第1節ソーシャルワークの源流
第11回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ	第1節ソーシャルワークの源流
第12回	第3章 相談援助の形成過程Ⅰ	第2節ソーシャルワークの基礎確立期
第13回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ	第1節ソーシャルワークの発展期
第14回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ	第2節ソーシャルワークの展開期
第15回	第4章 相談援助の形成過程Ⅱ	第3節ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク、前期授業まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 60%、課題への取り組み 40%とする。課題は1回10点の配点であり、半期ごとに評価に算定する。配点については初回授業時に伝える。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
- ②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教員 (単位認定者)	柳澤 充	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルワーカー、社会福祉士、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。

■授業の概要

社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素や形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	第5章 相談援助の理念I 第1節ソーシャルワークの価値
第17回	第5章 相談援助の理念I 第2節ソーシャルワーク実践と価値
第18回	第5章 相談援助の理念I 第3節ソーシャルワーク実践と権利擁護
第19回	第6章 相談援助の理念II 第1節クライアントの尊厳と自己決定
第20回	第6章 相談援助の理念II 第2節ノーマライゼーションと社会的包摂
第21回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ 第1節専門職倫理の概念、第2節倫理綱領の意義と内容
第22回	第7章 専門職倫理と倫理的ジレンマ 第2節倫理綱領の意義と内容、第3節ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
第23回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 第1節総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景、第2節地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
第24回	第8章 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 第2節地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、第3節地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能
第25回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 第1節ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点
第26回	第9章 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 第2節ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質
第27回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 第1節相談援助専門職の概念、第2節相談援助専門職の範囲
第28回	第10章 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 第2節相談援助専門職の範囲、第3節諸外国の動向
第29回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能 第1節予防機能、第2節新しいニーズへの対応機能、第3節総合的支援機能
第30回	第11章 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能 第4節権利擁護機能、第5節社会資源開発機能、後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。

■オフィスアワー

講義初回時に伝える。

■評価方法

定期試験 60%、課題への取り組み 40%とする。課題は1回10点の配点であり、半期ごとに評価に算定する。配点については初回授業時に伝える。

■教科書

- ①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
- ②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版

■参考書

適宜、紹介する。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助 ニーズ 援助関係 人と環境の全体性 展開過程				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

1) クライアントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2) 社会福祉士が認識し呼応すべきクライアントのニーズの種類を述べるができる。3) クライアント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4) ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べるができる、ことがⅠ前期のポイントです。

■授業の概要

1) 相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2) クライアント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3) 実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いつながりながら、その各々の目的や意義についてていねいに説明します。Ⅰ前期は、支援終結と活動評価までがテーマです。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士
第2回	クライアント-環境-社会資源-社会福祉士
第3回	人と環境の相互作用をシステムとして理解する
第4回	相談援助の構造
第5回	相談援助の展開過程 1 ケース発見
第6回	相談援助の展開過程 2 受理面接
第7回	相談援助の展開過程 3 問題の把握とニーズの確定
第8回	相談援助の展開過程 4 評価から目標設定へ
第9回	相談援助の展開過程 5 支援計画の立案と実施
第10回	相談援助の展開過程 6 経過観察
第11回	相談援助の展開過程 7 再評価
第12回	相談援助の展開過程 8 支援終結
第13回	相談援助の展開過程 9 支援の効果測定
第14回	相談援助の展開過程10 地域支援
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずで。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅰ 新・社会福祉士養成講座7 中央法規 2015年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	クライアント-社会福祉士関係 経過観察 介入 コミュニケーション 記録				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕

クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライアント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べる事ができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる、ことがⅠ後期のポイントです。

■授業の概要

1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライアントへの接近について解説を追加し、2) クライアント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3) 連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	前期の復習 相談援助活動をより精緻にするために
第17回	地域福祉とアウトリーチ
第18回	相談援助活動における契約
第19回	相談援助活動におけるアセスメント 1 問題の多面的統一的とらえ方
第20回	相談援助活動におけるアセスメント 2 得べき情報項目と情報理解のための視覚化の手法
第21回	相談援助活動におけるアセスメント 3 得た情報の整理と活用
第22回	支援介入の意義と方法
第23回	経過観察(モニタリング) 1 対象 方法・手順
第24回	経過観察(モニタリング) 2 状況分析から再アセスメントへ
第25回	相談援助活動の効果性の検証
第26回	相談援助活動における面接
第27回	記録をすること 1 意義と目的および種類
第28回	記録をすること 2 記録業務のIT化と倫理的配慮
第29回	交渉と支援チーム連携
第30回	相談援助の理論と方法Ⅰのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずですが、ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅰ 新・社会福祉士養成講座7 中央法規 2015年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ケースマネジメント 集団力動 コーディネーション 地域福祉 社会資源				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕

クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことごらを理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕

1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライアントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べるができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワークの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べるができる。以上がⅡ前期のポイントです。

■授業の概要

2年次Ⅰから引き続き、1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 相談援助活動の考え方 福祉ニーズの多様性
第2回	相談援助の対象
第3回	ケースマネジメント 1 目的と構成要素
第4回	ケースマネジメント 2 実践過程の概要
第5回	ケースマネジメント 3 アセスメントとケアプラン
第6回	相談援助活動における集団の活用
第7回	集団の特性とそのグループワークの展開過程 1 自助グループ 当事者組織
第8回	集団の特性とそのグループワークの展開過程 2 サポートグループ グループワーク
第9回	地域福祉関係者間のコーディネーション
第10回	地域福祉実践とネットワーク
第11回	地域ケアシステム
第12回	社会資源 1 定義と目的
第13回	社会資源 2 活用と調整
第14回	社会資源 3 開発 ソーシャルアクション
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずで。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅱ 新・社会福祉士養成講座8 中央法規 2015年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実践モデル・アプローチ スーパービジョン ケースカンファレンス 個人情報 事例研究				

■授業の目的・到達目標

〔授業目的〕

クライアントは、身体上または精神上的の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライアントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライアントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライアントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことからの理論的・方法的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。

〔到達目標〕1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べるができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3) ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べることができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる、ことがⅡ後期のポイントです。

■授業の概要

- 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。
- 2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。
- 3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。
- 4) 相談援助活動に不可欠な個人情報の保護と活用について理解を深めます。
- 5) I・IIの総括として、クライアントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	ガイダンス 前期の復習 相談援助活動をより精緻にするために
第17回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 1 治療モデル 生活モデル ストレングスモデル
第18回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 2 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ
第19回	相談援助活動の基盤としての実践モデル 3 課題中心アプローチ 危機介入アプローチ 行動変容アプローチ
第20回	相談援助活動に基盤としての実践モデル 4 エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ その他のアプローチ
第21回	スーパービジョンとコンサルテーション 1 スーパービジョン
第22回	スーパービジョンとコンサルテーション 2 コンサルテーション
第23回	ケースカンファレンス 1 ケースカンファレンスの意義と目的
第24回	ケースカンファレンス 2 ケースカンファレンスの展開と運営
第25回	ケースカンファレンス 3 事例の読み解き
第26回	相談援助活動にともなう個人情報の保護
第27回	相談援助におけるICTの活用
第28回	事例の研究と分析
第29回	相談援助の実際
第30回	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

視覚的な板書を心がけますから、口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようとして下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずで、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編 相談援助の理論と方法Ⅱ 新・社会福祉士養成講座8 中央法規 2015年

■参考書

授業中に適宜紹介・提示します。

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルサポート 社会資源 住民参加				

■授業の目的・到達目標

様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され、地域住民が主体となるまちづくり、地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場として、ソーシャルワーカーには地域住民主体の活動のあり方を模索し、推進する役割が求められている。

〔到達目標〕

- 1) 「地域」のとらえ方に関する理論を理解し、住民ニーズや解決すべき問題が把握できる(把握の方法を想定できる)。
- 2) コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し、住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。また、ソーシャルワーカーとして協働すべき資源やそのネットワークのあり方が想定できる。
- 3) 現時点の受講者自身の思考の範囲や能力を再認識し、実践者として必要な今後の学修課題を設定できる。

■授業の概要

この講義では、これらの実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し、受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得することを目標とする。集団や地域の捉え方に関する理論、地域ニーズの捉え方に関する視点、生活課題として表出する問題認識の視点を基にコミュニティソーシャルワークの実践過程を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 講義の進め方、評価法、レポート課題など
第2回	地域福祉の基本的考え方
第3回	地域福祉の発展過程
第4回	地域福祉の主体
第5回	市民と福祉教育
第6回	行政組織と民間組織 福祉多元主義とコミュニティケア
第7回	行政組織と民間組織の役割と実際 福祉計画
第8回	ソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネス
第9回	コミュニティソーシャルワークの考え方
第10回	コミュニティソーシャルワーク実践のためのシステムと方法
第11回	専門多職種とのチームアプローチ
第12回	専門職連携と住民参加
第13回	住民参加の方法
第14回	ソーシャルサポートネットワークの考え方
第15回	ソーシャルサポートネットワークを活用したコミュニティソーシャルワーク

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回、次の講義の資料を配布する。予習した上で講義に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

時間外学習の課題をWEB上で提示する。

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションで提示する。

■評価方法

定期試験 40% レポート(任意)及び小課題 40% 各回での考察 20% これらに時間外学習の取り組みを加算する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 中央法規出版

■参考書

授業中に紹介する。

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	ソーシャルサポート 社会資源 住民参加				

■授業の目的・到達目標

様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され、地域住民が主体となるまちづくり、地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場として、ソーシャルワーカーには地域住民主体の活動のあり方を模索し、推進する役割が求められている。

〔到達目標〕

- 1) 「地域」のとりえ方に関する理論を理解し、住民ニーズや解決すべき問題が把握できる(把握の方法を想定できる)。
- 2) コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し、住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。また、ソーシャルワーカーとして協働すべき資源やそのネットワークのあり方が想定できる。
- 3) 現時点の受講者自身の思考の範囲や能力を再認識し、実践者として必要な今後の学修課題を設定できる。

■授業の概要

この講義では、これらの実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し、受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得することを目標とする。集団や地域の捉え方に関する理論、地域ニーズの捉え方に関する視点、生活課題として表出する問題認識の視点を基にコミュニティソーシャルワークの実践過程を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	地域における社会資源の捉え方
第17回	社会資源の活用、調整、開発
第18回	地域における福祉ニーズの捉え方
第19回	福祉ニーズを把握する方法と実際
第20回	地域トータルケアシステムの考え方
第21回	地域トータルケアシステムの今後のあり方 全世代型、全対象型地域包括支援
第22回	地域における福祉サービス評価の考え方
第23回	福祉サービス評価の方法と実際
第24回	災害時の生活ニーズの捉え方
第25回	災害支援とソーシャルワーク
第26回	コミュニティソーシャルワークの視点から考えるまちづくり 合理的配慮
第27回	地域福祉推進における計画、実施、評価の実際
第28回	諸外国と日本の地域福祉推進の相違と今後
第29回	コミュニティソーシャルワーク実践における専門職の役割 再考
第30回	コミュニティソーシャルワーク実践の実際と今後の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回、次の講義の資料を配布する。予習した上で講義に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

時間外学習の課題をWEB上で提示する。

■オフィスアワー

第1回オリエンテーションで提示する。

■評価方法

定期試験 40% レポート(任意)及び小課題 40% 各回での考察 20% これらに時間外学習の取り組みを加算する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法 中央法規出版

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	乳児保育I（演習）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	乳児保育	3歳未満児	発達	健康と安全	保育所保育指針

■授業の目的・到達目標

保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目指します。乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを目標とします。

■授業の概要

乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 「乳児」とは？グループワーク
第2回	乳児保育の理念と意義
第3回	乳児保育の役割と機能
第4回	保育所における乳児保育の現状と課題
第5回	新しい保育制度と乳児保育
第6回	乳児保育における基本的な援助やかかわり
第7回	6ヵ月未満児の発達と保育内容①演習1,2
第8回	6ヵ月未満児の発達と保育内容②演習まとめ
第9回	6ヵ月から1歳3ヵ月未満児の発達と保育内容①演習1,2
第10回	6ヵ月から1歳3ヵ月未満児の発達と保育内容②演習まとめ
第11回	1歳3ヵ月から2歳未満児の発達と保育内容①演習1,2
第12回	1歳3ヵ月から2歳未満児の発達と保育内容②演習まとめ
第13回	2歳児の発達と保育内容①演習1,2
第14回	2歳児の発達と保育内容②演習まとめ
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

講義内でのレポート・小テスト（30%）提出物（10%）定期試験（60%）

■教科書

乳児保育 基本保育シリーズ⑩ 寺田清美 大方美香 塩谷香 編集 中央法規出版

■参考書

「保育所保育指針」

科目名	乳児保育I（演習）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	乳児保育	3歳未満児	発達	健康と安全	保育所保育指針

■授業の目的・到達目標

保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目指します。乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを目標とします。

■授業の概要

乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	乳児院における乳児保育の現状と課題
第17回	家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
第18回	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第19回	グループワーク ～子育て支援について～
第20回	乳児保育の計画と記録と評価① 演習1,2
第21回	乳児保育の計画と記録と評価② 演習まとめ
第22回	乳児保育の環境づくり① 演習1,2
第23回	乳児保育の環境づくり② 演習まとめ
第24回	乳児保育における保育者の役割① 演習1,2
第25回	乳児保育における保育者の役割② 演習まとめ
第26回	乳児保育における保護者との連携① 演習1,2
第27回	乳児保育における保護者との連携② 演習まとめ
第28回	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携① 演習1,2
第29回	保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携② 演習まとめ
第30回	後期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

講義内でのレポート・小テスト（30%）提出物（10%）定期試験（60%）

■教科書

乳児保育 基本保育シリーズ⑩ 寺田清美 大方美香 塩谷香 編集 中央法規出版

■参考書

「保育所保育指針」

科目名	発達心理学a	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生涯発達、発達段階、発達課題				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持つてみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人の発達の变化的過程を理解できる。
- ②人の発達の变化を踏まえたうえで、各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

この授業では、生涯発達心理学の視点にたち、各発達段階の心理的特性とその発達の变化的過程をさまざまな角度から学習する。さらには、様々なトピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション—生涯発達心理学とは
第2回	生命の誕生
第3回	人間の潜在能力
第4回	発達を規定する要因
第5回	発達の原理・発達心理学の研究手法
第6回	発達段階の区分・発達課題
第7回	乳児期の発達（身体機能の発達）
第8回	乳児期の発達（認知的発達）
第9回	愛着について
第10回	幼児期の発達（身体機能の発達）
第11回	幼児期の発達（認知発達・ピアジェの理論）
第12回	幼児期の発達（社会性の発達）
第13回	児童期の発達（身体機能の発達）
第14回	児童期の発達（社会的側面・認知的側面から見た発達）
第15回	前期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「心理学理論と心理的支援」および、「福祉心理学」を受講中、もしくは受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題（小レポート等）40%（前期分20%、後期分20%）②学期末試験60%（前期分30%、後期分30%）
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

高橋一公・中川佳子編著 『生涯発達心理学15講』 北大路書房 2015年再版

■参考書

松原達哉編 『発達心理学 健やかで幸せな発達をめざして』 丸善出版 2015年

科目名	発達心理学a	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生涯発達、発達段階、発達課題				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

この授業では、獲得や喪失を含めて生涯の中で起こる変化を発達と考える。発達現象を生涯発達という視点を持つてみると「発達では何が重要なテーマかを考える」「社会とともに生きている人間を考える」「新しい概念、枠組みに気づく」という3点に注目することが求められる。これらを考察し理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人の発達の变化的過程を理解できる。
- ②人の発達の变化を踏まえたうえで、各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

この授業では、生涯発達心理学の視点にたち、各発達段階の心理的特性とその発達の变化的過程をさまざまな角度から学習する。さらには、様々なトピックスを踏まえながら考察していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	思春期の発達(身体的特徴)
第17回	思春期の発達(心理的特徴、生じやすい問題)
第18回	青年期(成人初期)の発達(アイデンティティ)
第19回	青年期(成人初期)の発達(キャリア発達)
第20回	青年期・成人期の発達(恋愛・結婚における心理学的意義)
第21回	青年期・成人期の発達(親になること)
第22回	青年期・成人期の発達(親子関係の発達)
第23回	青年期・成人期の発達(父親の役割)
第24回	青年期・成人期の発達(さまざまな家族の問題について)
第25回	中年期の発達(心理的危機を考える)
第26回	中年期の発達(社会的側面と身体的側面)
第27回	高齢期の発達(身体的側面)
第28回	高齢期の発達(認知的側面)
第29回	高齢期の発達(高齢者を理解するために)
第30回	後期総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「心理学理論と心理的支援」および、「福祉心理学」を受講中、もしくは受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

- ①授業時に課す課題(小レポート等)40%(前期分20%、後期分20%)
 - ②学期末試験60%(前期分30%、後期分30%)
- ①～②を総合的に評価する。

■教科書

高橋一公・中川佳子編著 『生涯発達心理学15講』 北大路書房 2015年再版

■参考書

松原達哉編 『発達心理学 健やかで幸せな発達をめざして』 丸善出版 2015年

科目名	福祉科教育法	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術				

■授業の目的・到達目標

高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。

■授業の概要

「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義・役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう(プロフィール票の作成・提出)
第2回	障害者と自立・ビデオ視聴(感想文を提出)
第3回	対人援助技術の原則(コミュニケーション技術)
第4回	コミュニケーションスキルを磨く・演習とビデオ視聴(コミュニケーション技術)
第5回	伝達について(コミュニケーション技術)
第6回	信頼関係を結ぶ面接技術とは
第7回	コンセンサス(合意)について(コミュニケーション技術)
第8回	家族について
第9回	社会福祉制度(身近な問題から)①
第10回	社会福祉制度(身近な問題から)②
第11回	正しい敬語の使い方
第12回	学習指導要領(福祉)
第13回	学習指導要領(福祉)
第14回	学習指導要領(課外活動)
第15回	学習指導要領(道徳教育)

■受講生に関わる情報および受講のルール

「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習・介護技術等の科目も併せて履修すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。
模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

レポート(50%)と学習指導案(50%)により評価する。

■教科書

社会福祉基礎(実教出版)後期開始時まで、群馬県教科書特約供給所にて各自で購入すること
(詳しくは授業中に説明する)。

■参考書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版

科目名	福祉科教育法	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術				

■授業の目的・到達目標

高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。

■授業の概要

「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義・役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	模擬授業について①指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数・内容等は受講者数によって変更があります）
第17回	模擬授業について②指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数・内容等は受講者数によって変更があります）
第18回	模擬授業① 社会福祉と日本国憲法
第19回	模擬授業② 現代の福祉理念
第20回	模擬授業③ 社会福祉をささえる諸原理
第21回	模擬授業④ 近代社会福祉の誕生・社会福祉の先覚者
第22回	模擬授業⑤ 地域福祉の先駆け
第23回	模擬授業⑥ 社会事業への着手
第24回	模擬授業⑦ 障害と障害者
第25回	模擬授業⑧ 障害の予防とリハビリテーション
第26回	模擬授業⑨ 障害者の自立支援
第27回	模擬授業⑩ 障害者の生活支援
第28回	模擬授業⑪ 障害者の施設福祉
第29回	模擬授業⑫ 障害者福祉の課題
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解すると同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習・介護技術等の科目も併せて履修すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。
模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

レポート（50%）と学習指導案（50%）により評価する。

■教科書

社会福祉基礎（実教出版）後期開始時まで、群馬県教科書特約供給所にて各自で購入すること（詳しくは授業中に説明する）。

■参考書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版

科目名	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	社会福祉施設経営論				

■授業の目的・到達目標

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学、経営理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識を修得する。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えて基礎理解のため図・表等を板書する。また、随時補助資料のプリントを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。

初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション（社会福祉事業・社会福祉施設）
第2回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革
第3回	企業経営・経営理念
第4回	経営理論（伝統的管理論）
第5回	経営理論（人間関係論）
第6回	企業形態と株式会社
第7回	福祉サービスにおける組織・経営
第8回	法人とは
第9回	社会福祉法人
第10回	特定非営利活動法人
第11回	戦略
第12回	事業計画
第13回	組織論
第14回	管理運営の基礎理論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

経営学や簿記会計学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。試験は「ノート持ち込み可」とするので講義内容をノートに良く整理すること。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施し、理解を深める。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、関連図書、インターネット等により授業に関わる項目については自主的に自ら調べ勉強すること。

■オフィスアワー

コメントカードの質問に次回返答する。

■評価方法

中間・期末試験（100%）を実施し、平均点で評価する。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	福祉サービスの組織と経営	担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉施設経営論				

■授業の目的・到達目標

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学、経営理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識を修得する。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えて基礎理解のため図・表等を板書する。また、随時補助資料のプリントを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。

初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第16回	リーダーシップ
第17回	サービスマネジメント
第18回	サービスの質の評価
第19回	苦情対応とリスクマネジメント
第20回	人事・労務管理(1)
第21回	人事・労務管理(2)
第22回	労働法規
第23回	労働基準法(1)
第24回	労働基準法(2)
第25回	人材育成
第26回	会計管理・財務管理(1)
第27回	会計管理・財務管理(2)
第28回	社会福祉施設の建物・設備管理
第29回	情報管理
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

経営学や簿記会計学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。試験は「ノート持ち込み可」とするので講義内容をノートに良く整理すること。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施し、理解を深める。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、関連図書、インターネット等により授業に関わる項目については自主的に自ら調べ勉強すること。

■オフィスアワー

コメントカードの質問に次回返答する。

■評価方法

中間・期末試験(100%)を実施し、平均点で評価する。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	保育原理Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育の意義、保育内容・方法、保育の歴史、保育の現状と課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の意義および保育の基本を理解し、保育者として基本的な知識を習得し、保育者としての専門性を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

保育の意義について理解する・保育の基本を理解する・保育の思想と歴史の変遷について理解する・保育の現状と課題について考える。

■授業の概要

保育の思想、歴史、制度等についての基礎的事項および保育の方法や評価方法について学び、保育の本質について理解できるように説明していく。また今日の保育の問題を捉え、新しい動向に対応できる視座を持つことの大切さを説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、教科目としての保育原理の目的と内容
第2回	保育の理念と概念 育つこと・育てること
第3回	保育の社会的役割と責任① 保育への信頼と期待
第4回	保育の社会的役割と責任② こどもの虐待防止と保育
第5回	保育の制度的位置づけ① 日本の保育制度
第6回	保育の制度的位置づけ② 社会的養護と保育
第7回	保育所保育指針に基づく保育① 保育所保育指針と幼稚園教育要領
第8回	保育所保育指針に基づく保育② 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第9回	保育の特性と保育実践① 養護と保育の一体性
第10回	保育の特性と保育実践② 保育実践の基本
第11回	保護者支援① 子育てをめぐる様々な問題
第12回	保護者支援② 保育所における地域子育て支援
第13回	保育の目標① 保育所保育指針における保育の目標
第14回	保育の目標② どのように保育の質を保障していくのか
第15回	前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・保育についていつも関心を持っておくこと。
- ・保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
- ・欠席の場合はレポートを提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。分からない部分は授業で解決するように努力する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60%、平常点（授業への取り組み、授業時に課すレポート 40%）。
総合評価は筆記試験、平常点ともに 60%を超えていることが前提となる。

■教科書

①天野珠路他：基本保育シリーズ 保育原理 中央法規 2015 ②保育所保育指針解説 ③幼稚園教育要領解説

■参考書

授業時に指示する。

科目名	保育原理Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	4 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育の意義、保育内容・方法、保育の歴史、保育の現状と課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の意義および保育の基本を理解し、保育者として基礎的な知識を習得し、保育者としての専門性を高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①保育の意義について理解する。
- ②保育所保育指針における保育の基本を理解する。
- ③保育の内容と方法の基本について理解する。
- ④保育の思想と歴史の変遷について理解する。
- ⑤保育の現状と課題について考える。

■授業の概要

保育の思想、歴史、制度等についての基礎的事項および保育の方法や評価方法等について学び、保育の本質について理解できるよう説明していく。また、今日の保育の問題を捉え、新しい動向に対応できる視座を持つことの大切さを説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	保育の方法①	保育所保育指針にみる保育の方法
第17回	保育の方法②	協同的な学び—幼保小の連携という問題—
第18回	保育の計画・実践および評価①	保育の計画と実践
第19回	保育の計画・実践および評価②	保育の評価と改善
第20回	諸外国の保育の思想と歴史①	中世までの保育と保育思想
第21回	諸外国の保育の思想と歴史②	児童中心主義の思想家・実践家
第22回	日本の保育の思想と歴史①	近代までの日本の保育の思想と歴史
第23回	日本の保育の思想と歴史②	保育制度の整備と保育施設の広がり
第24回	諸外国の保育の現状と課題①	世界の保育の制度
第25回	諸外国の保育の現状と課題②	世界の保育
第26回	日本の保育の現状と課題①	子育てにかかわる現状と課題
第27回	日本の保育の現状と課題②	子ども・子育て支援新制度のこれから
第28回	日本の保育の現状と課題③	すべての子どもの教育・保育保障
第29回	後期のまとめ	
第30回	前・後期のまとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。分からない部分は授業で解決するように努力する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示される文献は必ず確認し、理解して授業に挑むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60%、平常点（授業への取組、授業時に課すレポート）40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

①天野珠路他：基本保育シリーズ 保育原理 中央法規 2015 ②保育所保育指針解説 ③幼稚園教育要領解説

■参考書

授業時に指示する。

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）	担当教員 （単位認定者）	川端 奈津子	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の意義と目的、実習施設の理解、実習記録の書き方、事前学習の重要性、実習の心構え				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実習における施設実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。

〔到達目標〕

- 1 実習の意義と目的を理解し、実習生としての心得等を身につけ実行できる。
- 2 実習施設の法的根拠、目的、配置職員、子ども（利用者）の状況、1日の流れ等を述べることができる。
- 3 施設の子ども（利用者）への支援の方法について説明できる。
- 4 実習記録や関係書類を適切に記載することができる。

■授業の概要

前期では、施設実習の意義と目的を確認し、様々な種別の実習対象施設の法的根拠、設置目的、業務内容等を広く学び、各学生の実習先を決定する。さらに、事前学習として自らの実習施設へのボランティア活動等を行うことにより、実習施設について理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション（保育実習体系・授業概要の説明・1年間の流れ）
第2回	施設実習の意義と目的・実習先種別の理解
第3回	実習施設の理解と実習内容① 乳児院
第4回	実習施設の理解と実習内容② 児童養護施設
第5回	実習施設の理解と実習内容③ 児童相談所及び一時保護所
第6回	実習施設の理解と実習内容④ 福祉型障害児入所施設
第7回	実習施設の理解と実習内容⑤ 医療型障害児入所施設
第8回	実習生紹介表を書いてみよう
第9回	実習施設の理解と実習内容⑥ 障害者支援施設（障害者総合支援法①）
第10回	実習施設の理解と実習内容⑦ 障害福祉サービス事業所（障害者総合支援法②）
第11回	実習施設の理解と実習内容⑧ 児童発達支援センター
第12回	実習先決定・実習先について調べよう
第13回	実習施設概要書の作成
第14回	前年度の実習生（先輩）講話
第15回	夏期休養中の事前学習指導（実習先ボランティア等）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・保育士資格を取得する学生は全ての講義に出席すること。やむを得ず遅刻・欠席の場合は必ず事前に届け出ること。
- ・実習関係書類や配布資料を整理するためのファイルを用意し、毎回の授業に持参する。紛失の場合、再配布はしない。
- ・実習施設の種別は個々の学生で異なるが、全ての種別の学習に対して意欲的に取り組むこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻や欠席は事前に必ず届け出ること。
- ・日頃の学校生活における身だしなみや礼儀作法など、実習生となるのに相応しくないと認められた場合は、実習が中止されることもあるので留意する。
- ・書類の提出期限等は、絶対厳守。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・障害児保育、児童・家庭福祉制度、社会的養護などの科目と関連が深いので、積極的に学んでおくこと。
- ・日頃から新聞やニュースの情報で「虐待」「障害」「貧困」等の語句に敏感になり、情報を得ておくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で伝達します。

■評価方法

定期試験 70% 提出物状況（期間厳守・内容）30%

■教科書

- 1 群馬医療福祉大学 発行：実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学 2016
- 2 施設実習パーフェクトガイド わかば社 2014

■参考書

社会福祉小六法

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）	担当教員 （単位認定者）	川端 奈津子	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の意義と目的、実習施設の理解、実習記録の書き方、事前学習の重要性、実習の心構え				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育実習における施設実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。

〔到達目標〕

- 1 実習の意義と目的を理解し、実習生としての心得等を身につけ実行できる。
- 2 実習施設の法的根拠、目的、配置職員、子ども（利用者）の状況、1日の流れ等を述べることができる。
- 3 施設の子ども（利用者）への支援の方法について説明できる。
- 4 実習記録や関係書類について適切な記載ができる。

■授業の概要

後期では、実習施設の概要や利用児（者）について理解した上で、実習計画書を作成する。また、実習日誌の書き方や漢字テスト、実習事後処理の内容について学習する。さらに、実習オリエンテーションの対応方法や、実習直前の再確認を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	児童発達支援センターでの体験学習
第17回	後期の授業内容を確認 実習計画書の作成について
第18回	実習計画書の作成①
第19回	実習計画書の作成② 「誓約書」の記入
第20回	実習日誌の書き方練習① DVDを観て事実と感想を記録する
第21回	実習日誌の書き方練習② 話し言葉と書き言葉
第22回	実習日誌の書き方練習③ 重要共通項目の確認
第23回	介護の基本技術① 講義編
第24回	介護の基本技術② 実技編
第25回	実習オリエンテーションについて（目的・電話のかけ方・諸注意）
第26回	実習関係書類について（実習日誌・巡回用案内地図・後期試験の対応・自家用車使用届ほか）について
第27回	実習直前指導① 巡回指導への対応 細菌検査の説明 実習反省会
第28回	実習直前指導② こんなときどうする？トラブルシューティング
第29回	実習直前指導③ 種別グループ指導（実習日誌記載の再確認・実習のポイントほか）
第30回	実習直前指導④ 実習終了後（礼状・日誌返却）の対応確認 直前最終チェック

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・保育士資格を取得する学生は全ての講義に出席すること。やむを得ず遅刻・欠席の場合は必ず事前に届け出ること。
- ・実習関係書類や配布資料を整理するためのファイルを用意し、毎回の授業に持参する。紛失の場合の再配布はしない。
- ・実習施設の種別は個々の学生で異なるが、全ての種別の学習に対して意欲的に取り組むこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻や欠席は事前に必ず届け出ること。
- ・日頃の学校生活における身だしなみや礼儀作法など、実習生となるのに相応しくないと認められた場合は、実習が中止されることもあるので留意する。
- ・書類の提出期限等は、絶対厳守。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・障害児保育、児童・家庭福祉制度、社会的養護などの科目と関連が深いので、積極的に学んでおくこと。
- ・日頃から新聞やニュースの情報で「虐待」「障害」「貧困」等の語句に敏感になり、情報を得ておくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で伝達します。

■評価方法

定期試験 70% 提出物状況（期間厳守・内容）30%

■教科書

- 1 群馬医療福祉大学 発行：実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学 2016
- 2 施設実習パーフェクトガイド わかば社 2014

■参考書

社会福祉小六法

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 観察実習 部分実習 実習記録 指導案 保育実技				

■授業の目的・到達目標

保育実習Ⅰ（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習の流れ、依頼の仕方
第3回	保育実習の具体的内容の実習計画
第4回	実習施設の理解①実習園を知る
第5回	実習施設の理解②デイリープログラム
第6回	保育実技①集団遊び・リズム体操
第7回	保育実技②新聞紙遊び等
第8回	観察実習のポイント
第9回	実習課題の明確化
第10回	個人調書と自己紹介
第11回	実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等
第12回	実習の心構えと理解②実習生としての心構え
第13回	保育実技③読み聞かせについて
第14回	保育実技④紙芝居について
第15回	前期まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50％）授業内レポート（30％）小テスト（20％）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 石橋裕子 林 幸範 同文書院
「実習へのガイドブック」 群馬医療福祉大学

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	1 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 観察実習 部分実習 実習記録 指導案 保育実技				

■授業の目的・到達目標

保育実習Ⅰ（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	後期オリエンテーション
第17回	保育実技⑤（視覚的教材等）
第18回	部分・責任実習について
第19回	実習記録について①本日のねらいについて
第20回	実習記録について②実習生の動き・気づいた点・環境構成の記入の仕方について
第21回	部分実習のポイント
第22回	部分実習のポイント 指導案について①子どもの姿の記入について
第23回	部分実習のポイント 指導案について②年齢ごとの配慮点について
第24回	服装と身だしなみ・持ち物・実習園が実習生に期待すること
第25回	オリエンテーションについて、実習関係書類について
第26回	視覚的教材提出及び実演
第27回	保育実習Ⅰ（保育所）先輩の体験談
第28回	実習記録・部分実習について
第29回	実習直前指導
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50％）授業内レポート（30％）小テスト（20％）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに

■参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」 石橋裕子 林 幸範 同文書院
「実習へのガイドブック」 群馬医療福祉大学

科目名	保育の表現技術I (音楽)	担当教員 (単位認定者)	佃 朋子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、ピアノ、表現、音楽、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育や幼児教育の現場において求められている表現活動について理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。音楽・楽譜に対する基礎知識やピアノ演奏についての基本技術を身につける。

〔到達目標〕

保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ演奏について、基本技術（楽譜の読み方や演奏法等）を学び、楽譜の内容を音楽として自力で表現できるようになること。ピアノ技術・能力は向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌うこと、伴奏・コードを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目(前期)オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏)：読譜力・演奏姿勢・指の使い方
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏)：読譜力・演奏姿勢・指の使い方
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：ピアノ演奏法
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：ピアノ演奏法
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：ピアノ演奏法
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：ピアノ演奏法
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：歌唱・伴奏(コード)
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：歌唱・伴奏(コード)
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：歌唱・伴奏(コード)
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：歌唱・伴奏(コード)
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：前期試験にむけて
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：前期試験にむけて
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ演奏・弾き歌い)：前期試験にむけて
第15回	前期実技試験について 前期のまとめ。試験は暗譜で公開演奏する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。(ピアノ)では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。またスマートフォンは電源を切り各自しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

実技試験 80% 授業内評価 20%

■教科書

- ①バイエルピアノ教則本(全音楽譜出版社)②ブルクミュラー 25の練習曲(全音楽譜出版社)
③ソナチネアルバムI(全音楽譜出版社)④ソナタアルバムI(全音楽譜出版社)
⑤小林美実編:こどものうた 200.チャイルド本社.⑥小林美実編:続・こどものうた 200.チャイルド本社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I（音楽）	担当教員 (単位認定者)	佃 朋子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い、ピアノ、表現、音楽、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育や幼児教育の現場において求められている表現活動について理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。音楽・楽譜に対する基礎知識やピアノ演奏についての基本技術を身につける。

〔到達目標〕

保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できるようになること。ピアノ演奏について、基本技術（楽譜の読み方や演奏法等）を学び、楽譜の内容を音楽として自力で表現できるようになること。ピアノ技術・能力は向上できるよう、個別に指導する。

■授業の概要

（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌うこと、伴奏・コードを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目（後期）オリエンテーション
第17回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第18回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第19回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第20回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第21回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第22回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第23回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第24回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第25回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第26回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：ピアノ演奏法・歌唱・伴奏
第27回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第28回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第29回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ演奏・弾き歌い）：後期試験にむけて
第30回	後期実技試験について 後期のまとめ。試験は暗譜で公開演奏する。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。こどもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は、各自で準備すること。（ピアノ）では、レッスン受講票を必ず毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、現時点での疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。またスマートフォンは電源を切り各自しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

実技試験 80% 授業内評価 20%

■教科書

- ①バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社）②ブルクミュラー 25の練習曲（全音楽譜出版社）
③ソナチネアルバムI（全音楽譜出版社）④ソナタアルバムI（全音楽譜出版社）
⑤小林美実編：こどものうた 200. チャイルド本社. ⑥小林美実編：続・こどものうた 200. チャイルド本社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の表現技術I(図画工作①)	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育要領 保育所保育指針 表現 造形表現 表出と表現 子どもの描画の発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼児の造形活動の支援に必要な知識や技能について基本を学習する。また、現場で用いる多様な教材や用具に触れ、実際につくってみることによる教材研究を通して自己の造形表現の能力を高めるとともに幼児への指導方法を高める。

〔到達目標〕

- ①幼児の造形表現に関する基本的な知識が理解できる。
- ②描画における子どもの発達段階、表現の傾向・類型、支援方法について理解できる。
- ③現場で用いる多様な教材や用具に触れ、実際につくってみることによる教材研究を通して表現や指導を体験する。

■授業の概要

幼児の造形表現について基本的な考え方、幼稚園教育要領解説、子どもの描画の発達段階、子どもの絵の見方、育て方、色彩の基礎理論等について学ぶ。また、教材研究としてスクラッチや紙工作に取り組み、自己の表現技術を高めたり、幼児への指導方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	造形表現のねらいと内容、特質 【幼稚園教育要領、保育所保育指針】
第3回	造形遊びの教材研究「スクラッチ」の製作と指導方法
第4回	造形遊びの教材研究「スクラッチ」の製作と指導方法
第5回	造形遊びの教材研究「スクラッチ」の制作と指導方法
第6回	子どもの描画の発達段階(錯画期、象徴期、前図式期)
第7回	子どもの描画の発達段階(図式期、擬実期)
第8回	子どもの描画表現にあらわれる類型
第9回	子どもの描画表現にあらわれる傾向と問題点
第10回	紙工作の教材研究 「ペーパースカルプチャー」 製作と指導方法
第11回	紙工作の教材研究 「ペーパースカルプチャー」 製作と指導方法
第12回	紙工作の教材研究 「ペーパースカルプチャー」 製作と指導方法
第13回	紙工作の教材研究 「ペーパースカルプチャー」 製作と指導方法
第14回	造形遊びの教材研究
第15回	色彩の基礎理論 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作の日は、衣服を汚す心配があるので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を準備しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・授業終了後簡易清掃を当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生に迷惑になるような行為は慎むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(50%)、実技製作作品(40%)、授業への取り組み(10%)。

■教科書

「図画工作」長谷喜久一(著)建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術I (図画工作②)	担当教員 (単位認定者)	本田 真芳	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育の表現技術I (図画工作)				

■授業の目的・到達目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い豊かな情操を養う。

目標①美しいものや優れたものに接して感動できる豊かな人間性を高める。②発想や構想の能力を高める。③日常での着実な研究心と探究心を培う。④日々の生活の中で何かを表す意識をもったときそれが表現の原点であることを身につける。

■授業の概要

図画工作としての基礎基本、バランスのとれた指導計画等を学ぶ。又版画の歴史、流れを学び版画の種類、(ドライポイント・エッチング)等の実技制作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション 図画工作を考える
第2回	発想 表現 鑑賞について 描き 作ることの意味
第3回	美術の概念
第4回	新しい造形と教育
第5回	版画の歴史について考える
第6回	版画の種類について学ぶ ①
第7回	版画の種類について学ぶ ②
第8回	基本技法について ①
第9回	基本技法について ②
第10回	製版の準備 ①
第11回	製版の準備 ②
第12回	製版の実践 刷り ①
第13回	製版の実践 刷り ②
第14回	製版の実践 刷り ③
第15回	製版の実践 刷り ④

■受講生に関わる情報および受講のルール

シラバスを確認し積極的に授業にとりくむこと。時には服が汚れないためのエプロン、軍手が必要なこともあります。授業中の私語は十分つつしむこと。工作室等できめられた座席を守ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

作業内容を十分に理解し授業に臨むこと。

■オフィスアワー

コメントカードに質問を記載すれば返答する。

■評価方法

課題作品 70% (作品の構成 (バランス・プロポーション・コントラスト) 等で評価します)、試験 (レポート) 30% 等の総合評価で行う。

保育の表現技術I (図画工作) は①と②で2単位。

■教科書

長谷喜久一 (著) 図画工作 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（美術）	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育要領 保育所保育指針 表現 造形表現 素材 表現と表出 保育室の環境構成 造形表現指導案 模擬保育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼児の造形表現指導に必要な知識と技能を修得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し実践できる力を身に付ける。

〔到達目標〕

- ① 幼児との造形活動に関する基礎的な知識が理解できる。
- ② つくってみることによる教材研究を通して学生自身の表現力を高めるとともに、幼児の造形活動を構想する力を育む。
- ③ 造形表現の指導計画を立案し、模擬保育の実践を通して子どもへの指導技術を高める。

■授業の概要

1年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ(図画工作)」の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を身に付ける内容となっている。前半は主に造形活動を通してその意義や物的環境の理解を深め、後半は模擬保育を通して指導計画、環境設定、言葉かけ、人的環境にかかわる事柄を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	幼児期と表現の教育
第3回	領域「表現」のねらいと内容
第4回	紙素材「子どもとつくるカード作り」
第5回	紙素材「子どもとつくるカード作り」
第6回	紙素材「子どもとつくるカード作り」
第7回	紙素材「子どもとつくるカード作り」
第8回	造形表現の指導計画・方法・留意点
第9回	子どもの感性と表現①「幼児の絵の見方、育て方」
第10回	造形表現で保育環境を豊かに（壁面装飾の意義と方法）
第11回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第12回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第13回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第14回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第15回	子どもが参加する壁面共同製作

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（50%）、実技製作作品（40%）、授業への取り組み（10%）。

■教科書

「保育内容 造形表現の指導（第3版）」 村内哲二編者 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（美術）	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育要領 保育所保育指針 表現 造形表現 造形材料 表現と表出 保育室の環境構成 模擬保育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

幼児の造形表現に必要な知識と技能を修得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し実践できる力を身に付ける。

〔到達目標〕

- ①幼児の造形活動に関する基礎的な知識が理解できる。
- ②つくってみることによる教材研究を通して、学生自身の表現力を高めるとともに幼児の造形活動を構想する力を育む。
- ③造形表現の指導計画を立案し、模擬保育の実践を通し子どもへの指導技術を高める。

■授業の概要

1年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ(図画工作)」の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を身に付ける内容となっている。前半は主に造形活動を通してその意義や物的環境の理解を深め、後半は模擬保育を通して指導計画、環境設定、言葉かけ、人的環境にかかわる事柄を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	子どものための紙レリーフによる壁面装飾
第17回	指導の計画・方法・留意点
第18回	造形表現指導案作成
第19回	自然物を使って作る「松ぼっくりのクリスマスツリー」
第20回	模擬保育①「マーブリング」
第21回	模擬保育②「ドリッピング」
第22回	模擬保育③「デカルコマニー」
第23回	模擬保育④「スパッタリング」
第24回	模擬保育⑤「にじみ絵」
第25回	模擬保育のまとめ
第26回	造形遊びの教材研究「ランチョンマット」
第27回	造形遊びの教材研究「折り染め」
第28回	材料・用具の種類と扱い方
第29回	子どもの感性と表現②「子どもの絵の見方育て方」
第30回	望ましい指導のあり方

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・実技製作が多いので、汚れてもかまわぬ服装で受講すること。
- ・はさみ、2Bまたは4B鉛筆を用意すること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れを乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為（私語、携帯電話、スマートフォン利用）は慎むこと。
- ・簡易清掃は授業終了後当番制で行い、机ふき、黒板ふき、床掃き等を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（50%）、実技製作作品（40%）、授業への取り組み（10%）。

■教科書

「保育内容 造形表現の指導（第3版）」 村内哲二編者 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	担当教員 (単位認定者)	峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅰ(音楽)にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

バイエルを修了し、ブルグミュラー、ソナチネ等を演奏することができる。弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができる。こどもの発達に即したパフォーマンスができる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じて個別にレッスンする。弾き歌いについては基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。また、総合的な表現の発表や指導ができるよう、こどもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等)
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等)
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等)
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等)
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い、カデンツ)
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い、カデンツ)
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い、コード奏)
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い、コード奏)
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い)
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い)
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い)
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第15回	学生それぞれの進度に応じたレッスン・前期実技試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後の10分間

■評価方法

実技試験 80%・授業内課題 20%

■教科書

①『こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ②『続こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ③『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社 ④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社 ⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	担当教員 (単位認定者)	峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅰ(音楽)にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、実践できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

バイエルを修了し、ブルグミュラー、ソナチネ等を演奏することができる。弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができる。こどもの発達に即したパフォーマンスができる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じて個別にレッスンする。弾き歌いについては基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。また、総合的な表現の発表や指導ができるよう、こどもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入等について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ曲・弾き歌い)
第18回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ曲・弾き歌い)
第19回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ曲・弾き歌い)
第20回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(ピアノ曲・弾き歌い)
第21回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第22回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第23回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第24回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第25回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第26回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第27回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第28回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第29回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・創作課題)
第30回	学生それぞれの進度に応じたレッスン・後期実技試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後の10分間

■評価方法

実技試験 80%・授業内課題 20%

■教科書

①『こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ②『続こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ③『ブルグミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社 ④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社 ⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	担当教員 (単位認定者)	峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。こどもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンをを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・コード奏：I・IV・V・V ₇)
第3回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・コード奏：I・IV・V・V ₇)
第4回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第5回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第6回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第7回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第8回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第9回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第10回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第11回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第12回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等)
第13回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第14回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第15回	学生それぞれの進度に応じたレッスン・前期実技試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

実技試験 70%・授業内課題 30%

■教科書

①『こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ②『続こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ③『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社 ④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社 ⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社

授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	担当教員 (単位認定者)	峯岸 梓	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	弾き歌い・保育実技・ピアノ・幼児音楽教育・表現・音楽・歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。こどもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場における表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できる。

■授業の概要

5名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・コード奏：I・IV・V・V ₇)
第18回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・コード奏：I・IV・V・V ₇)
第19回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第20回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第21回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・伴奏アレンジ)
第22回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第23回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第24回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第25回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第26回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第27回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調)
第28回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第29回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(試験課題仕上げ)
第30回	学生それぞれの進度に応じたレッスン・後期実技試験について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。使用する楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日必ず練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

実技試験 70%・授業内課題 30%

■教科書

①『こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ②『続こどものうた200』小林美実編:チャイルド本社 ③『ブルクミュラー 25の練習曲』全音楽譜出版社 ④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社 ⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
授業内にて各学生の進度に応じた選曲をし、個別に決定する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	担当教員 （単位認定者）	足立 勤一	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、弾き歌い、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。

〔到達目標〕

保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。

■授業の概要

有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個別レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目（前期）オリエンテーション	
第2回	進度に応じたレッスン	ピアノ演奏技術の向上（和声をつけて演奏できる。Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）
第3回	進度に応じたレッスン	ピアノ演奏技術の向上（和声をつけて演奏できる。Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ ₇ ）
第4回	進度に応じたレッスン	ピアノ演奏技術の向上（移調奏できる。完全2度上下）
第5回	進度に応じたレッスン	ピアノ演奏技術の向上（移調奏できる。短3度上下）
第6回	進度に応じたレッスン	歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ音より声の音量を大きく）
第7回	進度に応じたレッスン	歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ音より声の音量を大きく）
第8回	進度に応じたレッスン	歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしのモデル唱のみで指導できる。）
第9回	進度に応じたレッスン	歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしのモデル唱のみで指導できる。）
第10回	進度に応じたレッスン	弾き歌い技術の向上（感情を表現する。歌詞を朗読で表現する。）
第11回	進度に応じたレッスン	弾き歌い技術の向上（強弱をつけて、弾き歌いで表現できる。）
第12回	進度に応じたレッスン	弾き歌い技術の向上（強弱をつけて、弾き歌いで表現できる。）
第13回	進度に応じたレッスン	弾き歌い技術の向上（総合的表現技術で表現できる。）
第14回	前期試験曲の決定	季節感・行事に関わる選曲の基準を考えて2～3曲選ぶ。
第15回	前期実技試験	前期のまとめ。前期実技試験は暗譜で公開演奏できる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に、初等教育コースの学生は「学習指導要領（音楽）」を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノを毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、子どもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

授業上評価（30%）、実技試験の評価（70%）。

■教科書

- ①小林美実編『続 こどものうた 200』チャイルド社。2011 ②『ソナティネ アルバム』全音楽譜出版社
③（初等教育コース）小学校教科書（音楽）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	担当教員 （単位認定者）	足立 勤一	単位数 （時間数）	2 （60）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育実技、ピアノ、幼児音楽教育、表現、弾き歌い、歌唱				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。

〔到達目標〕

保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。

■授業の概要

有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個別レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第16回	科目（後期）オリエンテーション	
第17回	進度に応じたレッスン	理論と実際について（日本民謡等に和音をつける。完全5度・短5度等）
第18回	進度に応じたレッスン	理論と実際（日本音階・旋法について）
第19回	進度に応じたレッスン	理論と実際について（世界の民族音楽や旋法について）
第20回	進度に応じたレッスン	理論と実際について（西洋音楽と民族音楽の違いについて）
第21回	進度に応じたレッスン	理論と実際について（西洋音楽の和声理論に基づくアレンジ）
第22回	進度に応じたレッスン	総合的な表現技術の向上（弾き歌い。音楽形式に基づく演奏法）
第23回	進度に応じたレッスン	総合的な表現技術の向上（簡単な指揮法について）
第24回	進度に応じたレッスン	総合的な表現技術の向上（音色・音質・和声進行。長調・短調について）
第25回	進度に応じたレッスン	総合的な表現技術の向上（歌詞を感情移入し朗読で表現する。）
第26回	進度に応じたレッスン	総合的な表現技術の向上（身体的パフォーマンスで表現する。）
第27回	進度に応じたレッスン	保育・小学校現場の実際と表現活動指導について（身体表現を引き出す。）
第28回	進度に応じたレッスン	保育・小学校現場の実際と表現活動指導について（身体表現を引き出す。）
第29回	後期試験曲の決定	季節感・行事に関わる選曲基準を考えて、2～3曲選ぶ。
第30回	後期実技試験	後期のまとめ。後期実技試験は暗譜で公開演奏できる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に、初等教育コースの学生は「学習指導要領（音楽）」を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。

〔受講のルール〕

表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノを毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、子どもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。

■オフィスアワー

授業終了後10分間

■評価方法

授業内評価（30%）、実技試験の評価（70%）。

■教科書

- ①小林美実編『続 こどものうた 200』チャイルド社。2011 ②『ソナティネ アルバム』全音楽譜出版社
③（初等教育コース）小学校教科書（音楽）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	LD等教育総論	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	LD、ADHD、高機能自閉症、発達障がい、困り感、LD通級指導教室				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。

〔到達目標〕

- LD、ADHD、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。
- LD、ADHD、高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。
- LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。

■授業の概要

- 特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD、ADHD、高機能自閉症といわれる発達障がいのある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。
- LD通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探る。学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）	特殊教育から特別支援教育へ
第2回	LDとは	LDの定義-アメリカにみる歴史的な背景-
第3回	ADHDとは	ADHDの定義
第4回	高機能自閉症と自閉症	自閉症の定義
第5回	LD、ADHD、高機能自閉症、それぞれの特性	
第6回	WISC-Ⅲから子どもの特徴を捉える	
第7回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	① 読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方
第8回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	② 算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方
第9回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	③ 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方
第10回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援	④ 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方
第11回	LD通級指導教室の指導の実際	① 子どもの実態を把握する
第12回	LD通級指導教室の指導の実際	② 子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える
第13回	LD通級指導教室の指導の実際	③ 子どもの実態に合った教材・教具を考える
第14回	LD通級指導教室の指導の実際	④ 教材・教具の有効的な活用方法
第15回	保護者との関わり/まとめ	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 授業中に課したミニレポート・履修カルテを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートと履修カルテにまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテの内容(30%)、発表(20%)、試験またはレポート(50%)を総合して評価する。

■教科書

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』、東洋館出版、2005年

■参考書

佐藤暁著 『見てわかる 困り感に寄り添う支援の実際』 学習研究社、2008年

科目名	音楽概論	担当教員 (単位認定者)	島村 武男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	音楽概論				

■授業の目的・到達目標

音楽理論を理解する。
腹式呼吸の歌い方を習得する。
ひきがたりが出来る様にする。

■授業の概要

音楽の理論を習得し、腹式呼吸の歌い方を習得し、簡単な伴奏のつけ方を習得して、簡単な童謡のひきがたりをする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目のオリエンテーション、教科書“声力”のレポート提出
第2回	基礎音楽理論
第3回	歌を歌う為の基礎
第4回	呼吸法における腹式呼吸のリトミックⅠ・Ⅱ
第5回	腹式呼吸のリトミックⅢ・Ⅳ・Ⅴ
第6回	“ ” VI・Ⅶ・Ⅷ
第7回	腹式呼吸リトミックを用いた腹式歌唱の基礎
第8回	腹式歌唱を用いての歌の歌い方(校歌、童謡等)
第9回	“ ”
第10回	音楽理論の和音(二和音、三和音)
第11回	“ ”
第12回	上を使つての伴奏のつけ方
第13回	簡単な童謡を使つての伴奏をつけての弾き方
第14回	“ ”
第15回	腹式呼吸で歌って、自分で伴奏をつけての弾きがたり

■受講生に関わる情報および受講のルール

毎回の授業を理解して復習しておく。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業でやった事を自宅で何回も練習する。

■オフィスアワー

水曜日3時間目又は5時間目。

■評価方法

毎回の授業毎に理解出来ているかを毎回小テスト(100%)する。

■教科書

声力 島村武男著

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	カウンセリング	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	カウンセリングマインド、守秘義務と倫理、積極的傾聴、共感的理解				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職の援助技法としてのカウンセリングについて、その基本的技能と研鑽の方法について理解し、一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。

〔到達目標〕

- ①カウンセリングの考え方について説明できるようになる。
- ②カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。
- ③自分の「聴き方」の特徴を把握し、振り返り・反省ができるようになること。

■授業の概要

対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉えることは重要な課題である。本講義では、カウンセリングの基本的な考え方について学んだ上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」の基礎的なトレーニングを行う。講義は座学と演習によって進める予定であり、受講生間でのロールプレイと記録の作成、またボランティア学生との模擬面接を通じて技能の習得を目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約
第2回	カウンセリングで何をするのか
第3回	初回面接の持つ意味：自己紹介と守秘義務
第4回	面接における観察とその技法
第5回	傾聴技法(1) 明確化・感情反映
第6回	傾聴技法(2) 言い換え・要約
第7回	ロールプレイの意義と方法
第8回	ロールプレイの実施と振り返り
第9回	活動技法(1) 探索
第10回	活動技法(2) 情報提供と自己開示
第11回	模擬面接に備えた課題設定
第12回	研究課題発表(1)
第13回	" (2)
第14回	" (3)
第15回	" (4)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため、遅刻/欠席については厳密に連絡を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

模擬面接のコーディネート時に受講生・ボランティア学生・教員との間で授業時間外に時間設定を行うため、中長期的な予定を確認しておくこと。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

講義内外での課題提出:35%、課題内容および授業内での課題評価:30%、研究課題発表の評価:35%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

大谷 彰:「カウンセリングテクニック入門」二瓶社,2004.

■参考書

氏原 寛・藤田博康(著)「ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ」創元社, 2014.

科目名	学習指導と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	鈴木 淳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校図書館 司書教諭 図書館活用 情報リテラシー 学習指導				

■授業の目的・到達目標

この科目は、文科省学校図書館司書教諭講習規程で指定されている5科目のうちの1つです。

〔授業目的〕

学校図書館法および学習指導要領に示されているように、諸学校における学習展開に学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、基礎を身につけます。

〔到達目標〕

1) 学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2) 情報リテラシー育成の諸段階を具体的に説明できる。3) 児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。

■授業の概要

1) 図書館および図書館員の役割・業務について概説したのち、2) 学校図書館という館種の機能特性、3) 学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4) 司書教諭の役割、5) 学校図書館というインフラの整備・経営、6) レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 社会における図書館とは何か
第2回	学校図書館の意義・目的 教育課程の編成と学校図書館 児童・生徒の発達段階と学校図書館資料の選択
第3回	学校図書館利用指導 図書館活用教育・情報リテラシー教育 読書センター機能と学習情報センター機能
第4回	学校図書館というインフラの整備と経営
第5回	学習/教育活動を支援する情報サービス；レファレンスサービス等
第6回	教科学習と学校図書館活用
第7回	総合的な学習と学校図書館活用
第8回	特別支援教育と学校図書館
第9回	情報リテラシー教育の理論的背景
第10回	情報リテラシー教育の過程
第11回	情報リテラシー育成の実際 1 テーマの設定 情報探索
第12回	情報リテラシー育成の実際 2 情報・資料の収集と活用・まとめと評価
第13回	レファレンスサービス各論
第14回	レファレンスサービス演習
第15回	まとめ 司書教諭という仕事

■受講生に関わる情報および受講のルール

受講学生の多くは、初めて図書館学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらかじめ通読する、ノートを見返すことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。なお、教育実習期間等と重なる場合には、複数回数の補講を別途設定することになります。これについては後日案内しますが、欠席しないように日程等に十分注意して下さい。

■授業時間外学習にかかわる情報

図書館学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です。

■オフィスアワー

第1回授業時に、案内をする予定です。

■評価方法

学期末課題レポート(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。

■教科書

堀川照代 新訂 学習指導と学校図書館 放送大学振興協会 2010年

■参考書

図書館ハンドブック編集委員会編 図書館ハンドブック 第6版補訂版 日本図書館協会 2010年

科目名	学習心理学	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	心理学、学習、条件づけ、観察学習、記憶、社会的学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心理学の基礎知識習得を目的とする。

〔到達目標〕

古典的条件付け・オペラント条件付け・観察学習についての概念説明ができる。

学習心理学に関連した用語、学習のプロセスについての知識をえる。

■授業の概要

本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見いだされた研究の解説を体系的に行うことになる。内容としては、学習の基本的メカニズム、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、社会的学習、記憶と学習を取り上げる。理解をより深化させるために、簡単な実験や小テスト、アンケートの実施を予定している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	心理学における学習とは 研究の方法と応用
第2回	人間の学習と動物の学習
第3回	馴化(じゅんか)と鋭敏化 日常例と研究例の紹介
第4回	古典的条件づけ(1) 研究紹介と基本的特徴
第5回	古典的条件づけ(2) 信号機能
第6回	古典的条件づけ(3) 学習の内容と発現システム
第7回	オペラント条件づけ(1) 研究紹介と基本的メカニズム
第8回	オペラント条件づけ(2) 強化・制御
第9回	オペラント条件づけ(3) 強化・制御
第10回	概念学習・観察学習・問題解決(1) 研究紹介
第11回	概念学習・観察学習・問題解決(2)
第12回	記憶と学習(1)
第13回	記憶と学習(2) 実験 到達テスト内容告知
第14回	記憶と学習(3)
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

講義の際に10分程度の小テストが行われる場合がある。実験・アンケート実施に伴い準備等の協力が求められることがある。

〔受講のルール〕

ノートをかならず冊子としてまとめておくこと。理解度把握のため、ノートのチェックが行われる場合がある。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

小テスト・アンケートの提出(40%)、授業内発言・コメント(20%)、到達テスト(40%)。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	学校経営と学校図書館	担当教員 (単位認定者)	井ノ口 雄久	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校経営 学校図書館 司書教諭 学校司書				

■授業の目的・到達目標

学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。

■授業の概要

学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を、制度化される課程と実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習
第2回	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会
第3回	これからの学校教育とあるべき学びの形
第4回	メディアと人間の循環
第5回	学校の中の図書館
第6回	学校図書館の歴史(アメリカ)
第7回	学校図書館の歴史(日本)
第8回	日本の学校図書館の現状
第9回	学校図書館の目的と機能
第10回	学校図書館の図書館サービス
第11回	学校図書館の教育活動
第12回	学校図書館の担当者
第13回	学校図書館のマネジメント
第14回	学校図書館の設計
第15回	学校図書館研究と学校図書館の発展

■受講生に関わる情報および受講のルール

テキストの該当部分は事前に読んでおくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中に参考図書を紹介するので、各自読書すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業の取り組み(40%)、レポート提出(2回-各30%)。

■教科書

司書教諭テキストシリーズⅡ…1 『学校経営と学校図書館』 中村百合子編 2015 樹村房

■参考書

授業で、適宜紹介。

科目名	学校図書館メディアの構成	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	学校図書館メディア、情報資源組織法、資料組織法、目録法、分類法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。
- ②「日本目録規則 1987年版 改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。
- ③「日本十進分類法 新訂9版」により学校図書館メディアの分類ができる。

■授業の概要

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織法の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、学校図書館メディアの教育的意義及び役割
第2回	学校図書館メディアの種類と特性
第3回	学校図書館メディアの選択と構成
第4回	学校図書館メディアの組織化（1）分類の意義と機能
第5回	学校図書館メディアの組織化（2）日本十進分類法の使い方①
第6回	学校図書館メディアの組織化（3）日本十進分類法の使い方②
第7回	学校図書館メディアの組織化（4）日本十進分類法の使い方③
第8回	学校図書館メディアの組織化（5）日本十進分類法の使い方④
第9回	学校図書館メディアの組織化（6）日本十進分類法の使い方⑤
第10回	学校図書館メディアの組織化（7）件名標目の概要、目録の意義と機能
第11回	学校図書館メディアの組織化（8）日本目録規則の使い方①
第12回	学校図書館メディアの組織化（9）日本目録規則の使い方②
第13回	学校図書館メディアの組織化（10）日本目録規則の使い方③
第14回	学校図書館メディアの組織化（11）目録の電算化
第15回	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・指定した予習・復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

『日本十進分類法 新訂9版』の第2次区分表（教科書にあり）を暗記すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』第一法規（最新版）

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	家庭科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	家族、衣・食・住・家庭管理、生活科学、生活文化				

■授業の目的・到達目標

小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活（衣・食・住・家庭管理）に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。

■授業の概要

“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済の各分野についての基礎知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス：「生活科学チェックテスト」の実施（生活者としての習熟度チェック）
第2回	家庭科とは：実践的・体験的教科としての家庭科 家庭科と家政学
第3回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）：家族・家庭生活の現状 家族周期と生活設計 生活時間
第4回	家庭生活と家族（家庭生活の経営と管理）：家庭経済と消費生活 消費生活の課題
第5回	食事への関心（食生活）：身体の機能と栄養 食品の成分と保存・保管 食品の安全
第6回	食事への関心（食生活）：献立作成と調理 食材の選び方
第7回	食事への関心（食生活）：食材の調理法 調理操作の概要
第8回	衣服への関心（衣生活）：衣服の役割と機能 衣服の選択
第9回	衣服への関心（衣生活）：被服素材と品質表示 被服の衛生
第10回	衣服への関心（衣生活）：被服の管理
第11回	洗淨理論
第12回	住まいへの関心（住生活）：住居の役割と機能 快適な室内環境
第13回	住まいへの関心（住生活）：住居の安全と管理 バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回	生活文化：日本の生活の中の文様・色彩
第15回	まとめ：生活を統合する（総合科学としての家庭科）

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

試験（50％） 提出物（30％） 授業における積極性（発言・発表等）（20％）

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年 『小学校学習指導要領解説家庭編』

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	家庭支援論		担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	家族 社会的養護 家庭支援に係る法 子育て支援					

■授業の目的・到達目標

- ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。
- ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。
- ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。

■授業の概要

テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	現代社会と家庭
第3回	家庭支援の意義と役割1
第4回	家庭支援の意義と役割2
第5回	家庭支援と法制度
第6回	家庭を支援する技術1
第7回	事例検討
第8回	家庭を支援する技術2
第9回	家庭支援の形態
第10回	家庭支援に関わる社会資源
第11回	子育て支援政策
第12回	保育所の子育て支援機能
第13回	保育所における子育て支援サービス
第14回	特別な配慮の必要な家庭への支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習、復習をすること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで必要に応じて伝える。

■評価方法

期末試験 80% 授業への取り組み 20%

■教科書

小野・田中・大塚編「家庭支援論」ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	教育実習事前事後指導(中・高)3年	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	1 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員の資質、教育実習の留意事項、教育実習、教育実習録、教育実習報告				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。

〔到達目標〕

- 1 学校の組織・運営や生徒指導および学習(教科)指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができる。
- 2 本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。

■授業の概要

- 1 2年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。
- 2 生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 教育実習に臨み -教育実習の範囲と内容-
第2回	実習を受け入れる立場から ① -中学校の立場から-
第3回	実習を受け入れる立場から ② -高等学校の立場から-
第4回	教育実習で留意すること
第5回	観察実習、教育実習録の書き方
第6回	教育実習の実際 ①
第7回	教育実習の実際 ②
第8回	本実習前オリエンテーション
第9回	研究授業案の作成
第10回	模擬授業の実践 ① 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第11回	模擬授業の実践 ② 中学校(地理、歴史、公民分野)もしくは高等学校(公民、福祉)の授業実践を実施する
第12回	教育実習報告・検討会 ① 中学校及び高等学校教育実習
第13回	教育実習報告・検討会 ② 中学校及び高等学校教育実習
第14回	教育実習報告・検討会 ③ 中学校及び高等学校教育実習
第15回	教育実習報告・検討会 ④ 中学校及び高等学校教育実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や授業態度の悪い学生は、本実習の中止も有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱心に学習すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示し、曜日と時間を研究室のドアに掲示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテの内容(40%)、実習報告書の内容(20%)、試験またはレポート(40%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学
- 2 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 3 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)道徳編』、文京出版

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教育実習事前事後指導（幼稚園）	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	幼稚園教育実習、責任実習、指導案				

■授業の目的・到達目標

幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。

■授業の概要

事前指導では教育実習（幼稚園）の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案・保育実技等を習得する。事後指導では実習の総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	教育実習（幼稚園）の意義・目的。具体的内容と方法
第3回	教育実習（幼稚園）の実習計画、実習方法と心構え
第4回	実習施設理解 幼稚園長講話（外部講師招聘）
第5回	実習記録について 実習記録の意義と内容、実習日誌の書き方
第6回	指導計画① 指導計画と指導案の書き方、指導案作成
第7回	指導計画② 指導案作成
第8回	教材研究と指導技術
第9回	直前指導 実習準備事項の確認
第10回	事後指導① 実習総括と自己評価
第11回	事後指導② 実習総括と自己課題
第12回	事後指導③ 実習反省会に向けた準備（1）
第13回	事後指導④ 実習反省会に向けた準備（2）
第14回	実習反省会
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

平常点（授業への取り組み、授業中に課す課題等）（50%）、授業中に実施したレポート、発表および提出物（50%）を総合的に評価する。

■教科書

『実習ガイドブック』群馬医療福祉大学.2012

■参考書

講義中に適宜指示する。

科目名	教育実習（幼稚園）	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	4 (100)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習、幼稚園、幼稚園教諭、責任実習				

■授業の目的・到達目標

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義、演習を通して得た専門的知識・技能を活かし実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

- 1 幼稚園の保育教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 保育教育活動の実践を通して、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神および保育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「幼稚園教諭」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げるものとする。

- ① 将来、幼稚園教諭として教育現場で働く意思を強く持っている者。
- ② 幼児教育の学習および実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当であると認める者。
- ③ 「幼稚園教育実習事前事後指導」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。
- ④ 実習に関する書類を期限内に提出していること。

■実習時期及び実習日数・時間

原則として4学年の6月に160時間（4週間）の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加できる要件を備えていること（必修単位取得）
- 2 事前ガイダンスの受講および「教育実習の記録」を必須とする。

【実習中止の措置】

本学指導教員および実習先指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動等があった場合は直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- ・事前ガイダンスへの参加（10%）
- ・実習園の評価（50%）
- ・「教育実習の記録」の評価（40%）

科目名	教育社会学	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会化、家族集団、仲間集団、近隣集団、学校集団、マス・メディア、ニューメディア、ジェンダー、生涯学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察することができる。

〔到達目標〕

- ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に理解できる。
- ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。

■授業の概要

- ・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。
- ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 一子どもの発達と社会化
第2回	家族集団と子どもの社会化
第3回	仲間集団と子どもの社会化
第4回	近隣集団と子どもの社会化
第5回	学校集団と子どもの社会化(1) 一学校の構造と組織一
第6回	学校集団と子どもの社会化(2) 一学校集団の社会化機能一
第7回	学校集団と子どもの社会化(3) 一その現代的課題一
第8回	マス・メディアと社会化環境
第9回	ニューメディアと子どもたち
第10回	社会の変動と少年非行
第11回	社会問題化する児童虐待
第12回	現代社会の不登校とひきこもり
第13回	教育におけるジェンダーをめぐる諸問題
第14回	学校から社会・職業への移行
第15回	生涯学習社会の展望

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努める。
- ・教育に関するニュースなどに関心を持ち、常に問題意識を持ちながら受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・教育に関する新聞報道等に関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努める。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする(90%)
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する(10%)

■教科書

住田正樹・高島秀樹(編著)「変動社会と子どもの発達—教育社会学入門」北樹出版、2015

■参考書

加野芳正・越智康詞(編著)「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房、2012
 岩永雅也・稲垣恭子(編著)「新版 教育社会学」放送大学教育振興会、2007

科目名	教育心理学	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達段階と発達課題、教授方法とその理論的背景、教育評価、適応/不適応				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

学校における授業実践や学習指導をはじめ、さまざまな対象「教える」という活動を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法について理解し、実践を考える際にその知識を活用した工夫が考案できるようになること。

〔到達目標〕

- ①発達段階や個人差に応じた教育方法を適切に選択できるようになるための知識を得ること。
- ②効果的な教育方法を目指した工夫の背景にある心理学の知識を得ること。
- ③学習指導や情報を伝える方法を考える際、教育心理学の基礎知識を活用した工夫を考案できるようになること。

■授業の概要

教育心理学の主要領域である「発達」「教授・学習」「評価・測定」「適応・不適応」に関する基礎知識を解説し、『誰かに何かを教える』場面で心理学の理論に基づいた工夫を考察・実践ができるようになるための演習を行う。また、受講生の関心に応じ「いじめ」「不登校」「特別支援教育」「教員のメンタルヘルス」等の話題も紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、発達段階と発達課題(1) 発達段階とは何か
第2回	発達段階と発達課題(2) 遺伝と環境の影響
第3回	教授・学習(1) 教えるのに「適した」時期を考える(成熟論的アプローチ)
第4回	“(2) 学習と行動主義
第5回	“(3) 物事の認識の仕方に関する発達段階(ピアジェの認知発達段階説)
第6回	“(4) 記憶の仕組みと学習方略
第7回	“(5) 協働学習を促すための考え方
第8回	評価・測定(1) 教育の成果や成績をどのように測定するか
第9回	“(2) 知的な能力をどのように測定・評価するか
第10回	“(3) 教育・学習に関する個人差をどのように測定・評価するか
第11回	“(4) 教育評価を効果的に活用する授業プログラム
第12回	適応・不適応(1) 適応/不適応とは何か
第13回	“(2) 教育現場における様々な不適応
第14回	“(3) 教育問題に対する教育心理学的なアプローチを考える
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・教科書の内容を要約した資料をほぼ毎回配布するため、ファイル等を用いて各自が管理することが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

レポート課題の提出:25%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価:35%、定期試験:40%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

櫻井茂男(監修):「実践につながる教育心理学」北樹出版 2012.

■参考書

中澤 潤(編):「よくわかる 教育心理学」ミネルヴァ書房 2008. など

科目名	教育相談論	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育相談論				

■授業の目的・到達目標

予習課題（個別学習）や話し合い・講義・実習等をとおして、教師として児童生徒の悩みや諸課題の解決への援助ができる能力や人間としての心の痛みを理解できたり、一人ひとりの児童生徒の能力を引き出すことができたりする資質の育成を図る。

■授業の概要

教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について個別学習（予習課題）や話し合い等をとおして学ぶとともに、カウンセリング実習をとおして教育相談の基礎的技法を身に付け、教師としての必要な教育相談的資質や能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、教育相談の意義と目的	予習課題
第2回	教育相談の心理的基礎①	予習課題
第3回	教育相談の心理的基礎②	予習課題
第4回	教育相談の心理的基礎③	予習課題
第5回	教育相談の進め方①	予習課題
第6回	教育相談の進め方②	予習課題
第7回	教育相談の進め方③	中間試験 予習課題
第8回	心理アセスメント①	予習課題
第9回	心理アセスメント②	予習課題
第10回	教育相談の技法①	予習課題
第11回	教育相談の技法②	予習課題
第12回	教育相談（カウンセリング）実習①	予習課題
第13回	教育相談（カウンセリング）実習②、教育相談の技法③	予習課題
第14回	問題行動の理解と指導①	予習課題
第15回	問題行動の理解と指導②、まとめ	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。班編成をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

中間試験・定期試験（80%）、予習課題の予習状況（10%）及び自己達成度評価（10%）を総合して評価します。

■教科書

江川玫成編著 教育相談—その理論と方法— 学芸図書株式会社 定価 1,400 円+税

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育と保育の指導方法 教師の援助の仕方 幼児の発達 発達の個人差				

■授業の目的・到達目標

幼い子どもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。

■授業の概要

幼児期の教育は、こどもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最善な教育方法を探究する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 自己紹介とアンケート 保育と教育の基本
第2回	アンケート結果の紹介 フランスの幼稚園のDVDに学ぶ
第3回	教育と保育の方法論上の基本 環境・生活の展開・遊び・こどもの発達の特性 幼稚園や保育所
第4回	幼児についての理解とその方法 幼児理解とは何か 幼児理解を深める大人の注意点
第5回	人間の進化・発達 発達のとらえ方 その姿
第6回	環境構成と活動の展開 環境としての教師 こどもの楽しさとの共有 こどもの活動の充実
第7回	一人ひとりに応じた援助 個人差 一人ひとりの興味・関心の違い 大人の温かな援助の仕方
第8回	生活の指導 基本的な生活習慣の指導とこどもの自立 集団の中で生きる内的な喜び
第9回	自己主張と自己抑制 幼稚園・保育所と家庭との連携 具体的な場面での援助の仕方
第10回	専門職としての保育者 保育の基本の理解 こどもの理解 発達・一人ひとりの育ち 保育者の役割
第11回	学びの場所 縦割り保育と横割り保育 一人ひとりのクラス作り 学びへの環境のあり方
第12回	こどもの援助の形態 さまざまな保育形態 グループ活動・個別活動・一斉保育
第13回	園内外の環境を生かした保育 園内環境にかかわる 保育室 園外環境にかかわる 散歩
第14回	保育環境に求められること 幼稚園・保育所・小学校との連携 保護者と地域社会との連携
第15回	ディベート まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%) レポート(20%) ディベート(20%)などで総合的に判断する。

■教科書

神長美津子編著 『保育方法』 光生館

■参考書

江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社 そのつど授業中に紹介する。

科目名	教育方法論	担当教員 (単位認定者)	塚本 忠男	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育諸活動に意欲的な取り組みができるために				

■授業の目的・到達目標

- ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。
- ・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。
- ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。

■授業の概要

- ・教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	・オリエンテーション(講義方法、内容と評価)・授業と学びの世界へ(教室の思い出・教室の風景・授業の世界・学びの世界)
第2回	・変貌する教室(転換期の学校・世界の教室と日本の教室・21世紀の教室の風景)
第3回	・変貌する教室・フィンランドの教育の特徴 授業の形式(考えるという行為の2つの意味 他)
第4回	・授業の歴史(日本)(近代学校と授業の成立・新教育の展開と学びの改革・戦後新教育と授業の改革)
第5回	・教育の技術(教育技術の特質とは・集団づくりの意義と方法)
第6回	・授業のデザイン(授業の組織・授業の構造・授業をデザインし創造する)
第7回	”
第8回	・学習指導案の意義と作成手順・授業(教) 目標づくりとは(構造・種類と性格)・教師に必要な資質5
第9回	・教材研究と教材解釈・展開のある授業とは・教師の姿勢と心構え
第10回	・仮説実験授業とは・発問のある授業とは・教師の表現(伝え方)
第11回	・授業における説明の役割と方法・学習集団の意義と方法・違いを認め合い補い合う
第12回	・体験的学習の意義と課題・練習の意義と方法・自分のキャラクターを分析する
第13回	・「いじめ防止対策推進法」の論説をもとに、ディスカッション(まとめ)
第14回	・学習活動の個別化と個性化
第15回	・「教えるということ」(大村はま著)より教師像を描く

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・意欲的な学習態度であること。
- ・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。
- ・授業で配付する資料はファイルして保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関するニュースや専門的事柄について興味関心を持って積極的に受け止め、分析し、どうあるべきかを考えること。

■オフィスアワー

授業終了後から12時まで

■評価方法

提出物(20%)、討議・発表(20%)、定期試験(60%)による評価。

■教科書

田中耕治・鶴田清司 新しい時代の教育方法 有斐閣

■参考書

授業において紹介する。

科目名	教職概論	担当教員 (単位認定者)	木部 日出雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	カリキュラム、授業力、生徒指導、学級経営、学校経営、服務義務、キャリア教育、学校評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解できる。

〔授業の目標〕

- ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。
- ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。
- ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。

■授業の概要

- ・学校教育の概要を理解し、そこにおける教員の使命や服務義務について理解する。
- ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。
- ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えを構築する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 一教師とは何か
第2回	学習指導(1) 一カリキュラムを作成する
第3回	学習指導(2) 一授業力をつける
第4回	生徒指導一子どもの心理と行動
第5回	学級経営一集団で指導する
第6回	学校の組織
第7回	学校の運営
第8回	教員の養成と任用
第9回	教師の資質向上と研修
第10回	教員の服務制度と勤務条件
第11回	時代の流れと教師像の変遷(1) 一戦前期の学校教育と教師像
第12回	時代の流れと教師像の変遷(2) 一戦後教育改革と教育の普及
第13回	教育の今日的課題(1) 一キャリア教育、道徳教育
第14回	教育の今日的課題(2) 一開かれた学校経営と学校評価
第15回	教育の今日的課題(3) 一学校・家庭・地域社会の役割と連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。
- ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努める。
- ・学校教育に関する報道等に関心を持ち、常に問題意識を持って受講する。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努める。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

- ・筆記試験の成績の結果を主とする(90%)
- ・受講後の感想や質問の内容を加味する(10%)

■教科書

佐藤徹(編著)「教職論—教職に就くための基礎・基本—」東海大学出版, 2013

■参考書

秋田喜代美・佐藤学(編著)「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ, 2013

科目名	教職実践演習（小学校）	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教師に求められる力量、学級経営、現代的な教育課題				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

今までの大学での学習を振り返り、次年度、教職にスムーズにつけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけることができる。
- ②教師に求められる力量、学級経営、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。

■授業の概要

- 1 次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、発達障害、学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。
- 2 まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なKJ法、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。
- 3 自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、履修カルテ
第2回	教師に求められる力量(KJ法)
第3回	教師に求められる力量(発表会)
第4回	映像授業「発達障害について」
第5回	映像授業「セクシュアルマイノリティについて」
第6回	模擬授業(道徳)
第7回	模擬授業(外国語活動)
第8回	小学校教育実習報告会(後輩に向けて)
第9回	小学校現場の先輩教師から
第10回	学級経営(実践例、学級通信例)
第11回	校長が求める教員像(現場の校長先生の招へい)
第12回	特別支援学校について知ろう(学校教育コースとの交流会)
第13回	現代的な教育課題(いじめ、体罰など)
第14回	現代的な教育課題(教師のメンタルヘルス、特別支援教育など)
第15回	魅力的な指導者を目指して(児童理解、保護者対応、感じのいい話し方・聞き方など)、履修カルテのまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

授業への取り組み(50%)、話し合いの司会・板書(30%)、提出物(20%)。

■教科書

授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。

■参考書

講義の中で、随時紹介する。

科目名	教職実践演習(中・高)	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会、教師に必要な資質、心の問題、法規範				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえ、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできることを目的とする。

〔到達目標〕

- 履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。
- 急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。
- 教師に求められる規範意識を確認することができる。

■授業の概要

- 講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福祉、スクールカウンセラーの立場から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。
- 教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。
- 社会性や対人関係能力を養う。
- 教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明) 共生社会を生きる
第2回	子どもの世界 -子ども観とは-
第3回	障害児教育を考える
第4回	学校における合理的配慮と環境整備
第5回	教職について考える ① A小学校教諭のドキュメンタリーから教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ
第6回	教職について考える ② 学校文化、教師文化からみる教師像
第7回	教職について考える ③ 生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える
第8回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ① スクールカウンセラーの業務
第9回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ② 教職員として「心の問題」を理解する
第10回	スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える ③ 心の問題として心身症
第11回	教育法規-教師がよってたつべき法規範-① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則
第12回	教育法規-教師がよってたつべき法規範-② 学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法
第13回	授業設計と模擬授業 ① -中学校の教育実習から-
第14回	授業設計と模擬授業 ② -高等学校の教育実習から-
第15回	「教職実践演習」のまとめ;改めて教師とは-使命感・責任感、教育的愛情等を確認する-A小学校の実践事例を通して-

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。
- 授業中に課したミニレポート・履修カルテを必ず提出すること。
- 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の要約もしくは課題をミニレポートと履修カルテにまとめ、指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・小テスト、発表等(80%)、試験またはレポート(20%)を総合して評価する。

■教科書

各担当教員が準備する。

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	教職対策講座I（中・高）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	0 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験、関連法規、教職教養、専門教養				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。

〔到達目標〕

- 1 教職教養の知識を身につける。
- 2 各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。
- 3 面接試験対策等を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

- 1 4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取り組む。
- 2 個人面接、集団面接試験対策を行う。
- 3 学内模擬試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	学習指導要領の変遷-改訂の推移-
第2回	小学校学習指導要領-総則を読み解く-
第3回	中学校学習指導要領-総則を読み解く-
第4回	高等学校学習指導要領-総則を読み解く-
第5回	関連法規の概要-教育基本法、学校教育法、学校保健法-
第6回	教育基本法-教育の目的・理念-
第7回	学校教育に関する法規 ①
第8回	学校教育に関する法規 ②
第9回	教職員に関する法規 ①
第10回	教職員に関する法規 ②
第11回	児童生徒に関する法規 ①
第12回	児童生徒に関する法規 ②
第13回	生徒指導のあり方(生徒指導提要、答申)
第14回	個人面接の内容・進め方
第15回	集団面接の内容・進め方

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテ・ノートの内容(50%)、試験またはレポート(50%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 2 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2012年度版
- 3 時事通信出版局 『月刊 教員養成セミナー』

■参考書

東京アカデミー 『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等

科目名	教職対策講座Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	0 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教員採用試験、願書・自己アピール、直前対策、面接試験				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。

〔到達目標〕

- 1 願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。
- 2 各自自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。
- 3 面接試験対策等を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。

■授業の概要

- 1 3年次の後期から開講している教職対策講座Ⅰを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。
- 2 外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。
- 3 願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。
- 4 学内模擬試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要、評価方法等の説明 教員採用試験対策 教員採用試験の概要説明)
第2回	願書の書き方
第3回	自己アピール文の作成方法・解説
第4回	小論文の書き方
第5回	試験直前対策問題 ① 教育原理・専門教養
第6回	試験直前対策問題 ② 教育原理・専門教養
第7回	試験直前対策問題 ③ 教育原理・専門教養
第8回	試験直前対策問題 ④ 教育法規・専門教養
第9回	試験直前対策問題 ⑤ 教育法規・専門教養
第10回	試験直前対策問題 ⑥ 教育法規・専門教養
第11回	試験直前対策問題 ⑦ 教育時事・専門教養
第12回	試験直前対策問題 ⑧ 教育時事・専門教養
第13回	個人面接試験対策
第14回	集団面接試験対策
第15回	集団討論試験対策

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 1 本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生(3回の欠席で単位認定を認めない)や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求めます。
- 2 教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。
- 3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。
- 4 全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業中に課したミニレポート・履修カルテ・ノートの内容(50%)、試験またはレポート(50%)を総合して評価する。

■教科書

- 1 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)/高等学校学習指導要領(平成21年3月告示)』、東山書房
- 2 東京教友会編著 『教職教養ランナー』 一ツ橋書店、2012年度版
- 3 時事通信出版局 『月刊 教員養成セミナー』
- 4 時事通信出版局 5月号別冊 パーフェクト予想問題

■参考書

東京アカデミー 『教員採用試験』シリーズ、各自自治体が出版している過去問題等

科目名	権利擁護と成年後見制度	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	憲法、行政法、民法、成年後見制度、裁判所、社会福祉士				

■授業の目的・到達目標

成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。

- ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。
- ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。
- ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。

■授業の概要

相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ(人権)
第2回	権利擁護と憲法Ⅱ(統治)
第3回	権利擁護と行政法Ⅰ(行政組織、行政活動)
第4回	権利擁護と行政法Ⅱ(行政救済)
第5回	権利擁護と民法Ⅰ(契約など)
第6回	権利擁護と民法Ⅱ(親族・相続)
第7回	成年後見の概要
第8回	保佐の概要、補助の概要
第9回	法定後見制度の手続等
第10回	任意後見制度、日常生活自立支援事業
第11回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体
第12回	権利擁護にかかわる専門職の役割
第13回	権利擁護活動の実際Ⅰ(成年後見活動の実際)
第14回	権利擁護活動の実際Ⅱ(権利擁護活動の実際)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座19)」中央法規,2014年

■参考書

六法(例:「ポケット六法」有斐閣,平成27、ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房,2015年)
森長秀 編著「法学入門」光生館,2015年

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公衆衛生学				

■授業の目的・到達目標

公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職（又は医療専門職としての）各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べるができる。
併せて将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形式できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。

■授業の概要

社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	公衆衛生学概論	公衆衛生学の目的・範囲等	教科書・オリジナルプリントに筆記した内容を整理し予習復習すること
第2回	保健統計	公衆衛生学における人口問題		人口静態・人口動態・生命表
第3回	衛生行政	機構・業務等及び地域保健・保健活動		
第4回	社会保障制度	概念・医療保障・医療供給システム		
第5回	環境衛生	大気・住居・振動・衣服・飲料水・産業廃棄物・公害等		
第6回	国民栄養と食品衛生	栄養学・食品衛生・食中毒		
第7回	母子保健	意義・歴史的背景・現状・出生率・母性保護		
第8回	成人保健・高齢者保健	成人病・高齢化社会・高齢者保健		
第9回	学校保健	目標・目的・内容・発育・保健管理・学校給食・衛生教育・学校体育		
第10回	産業衛生	作業環境・労働時間と形態・職業病・産業災害		
第11回	(1)疫学と感染症 (2)優生学と精神衛生	感染症 伝染病 遺伝・精神障害		
第12回	医療福祉コミュニケーション	医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション		
第13回	医療福祉危機管理	医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法		
第14回	口腔ケア	口腔ケア・オーラルリハビリテーション		
第15回	総括	まとめ		

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみ依存することなく、口述・板書した内容は、必ず教科書又は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。
講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
教科書・オリジナルプリントは書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。
〔受講のルール〕
初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％） その他オリジナルプリントへの書き込み状況やノートの点検（20％）

■教科書

『シンプル衛生公衆衛生学』最新版 南江堂 15-6・8・12・13・14・15に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	更生保護制度	担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	共生社会 保護観察 社会内処遇 犯罪被害者 犯罪予防				

■授業の目的・到達目標

更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。

■授業の概要

相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	仮釈放等
第3回	保護観察
第4回	生活環境の調整
第5回	更生緊急保護・犯罪被害者対策
第6回	恩赦・犯罪予防活動
第7回	保護観察官・保護司
第8回	更生保護施設・民間協力者
第9回	裁判所との連携
第10回	検察庁・矯正施設との連携
第11回	公共職業安定所・福祉事務所との連携
第12回	医療観察法に基づく処遇、生活環境の調査・調整
第13回	地域社会における処遇、関係機関との連携
第14回	社会復帰調整官等の業務の実際
第15回	更生保護の今後の展望

■受講生に関わる情報および受講のルール

板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。
国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。
5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■授業時間外学習にかかわる情報

各授業内容の重要項目は、予備知識を得ておく。

■オフィスアワー

講師室で授業後30分

■評価方法

定期試験、小論文、小テストを総合的に評価する。(目安)定期試験結果70%、小論文・小テスト30%。

■教科書

新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	高等学校教育実習（公民科）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （80）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 4年次に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、特別な理由がない限り、その日のうちに指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	高等学校教育実習（福祉）	担当教員 （単位認定者）	江原 京子	単位数 （時間数）	2 （80）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 4年次に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、80時間（2週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、特別な理由がない限り、その日のうちに指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず連絡すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	国語科概論	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教材研究、学習指導要領、学習指導案、模擬授業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の基本的な指導法を理解する。

〔到達目標〕

- ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。
- ②国語科の基本的な指導方法を身に付けることができる。

■授業の概要

- 1 学習指導要領の内容が実際の教科書にどのように具体化しているか理解する。
- 2 学習指導要領解説を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、アンケート、採用試験までの道のり、教師の体験談（初任時の失敗談）
第2回	国語科指導の基礎基本（心構え、範読、読み聞かせ、学習指導要領及び解説）、教師の体験談（学級経営と国語科指導）
第3回	国語科指導の基礎基本（板書法、配当漢字、ワークシートとノート指導）、教師の体験談（T.T）
第4回	国語科指導の基礎基本（実際の教科書を見ながら教材の配列・系統を考える、書写）
第5回	学習指導案の作成方法（主な項目）、教材研究の仕方（「2年かたかなで書く言葉」言語事項）
第6回	学習指導案の作成（「2年かたかなで書く言葉」言語事項）
第7回	模擬授業の準備（「2年かたかなで書く言葉」言語事項）
第8回	模擬授業（A班）、授業研究会（A班）（「2年かたかなで書く言葉」言語事項）
第9回	模擬授業（B班）、授業研究会（B班）（「2年かたかなで書く言葉」言語事項）
第10回	教材研究の仕方（「2年すみれとあり」説明文）
第11回	学習指導案の作成（「2年すみれとあり」説明文）
第12回	模擬授業の準備（「2年すみれとあり」説明文）
第13回	模擬授業（B班）、授業研究会（B班）（「2年すみれとあり」説明文）
第14回	模擬授業（A班）、授業研究会（A班）（「2年すみれとあり」説明文）
第15回	学習指導要領及び解説のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

国語や教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等に目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

学期末試験（50%）、授業への取り組み、模擬授業（30%）、提出物（20%）。

■教科書

- 1 文部科学省：小学校学習指導要領「国語編」東洋館出版社、2008年8月。
- 2 田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉 1年上、2年上、3年上、4年上、5年上、6年上、計6冊」教育出版

■参考書

講義の中で、随時紹介する。

科目名	国際福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡田 修一	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉の国際比較、世界各国の社会と福祉、国際社会福祉、国際ボランティア				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

世界各国の福祉を検証するとともに国際社会福祉を理解して、国際的な視野・知見を、福祉・介護・保健・教育・保育・行政の現場で活かせるようにする。

〔到達目標〕

- ①国際社会福祉の意義と活動を理解できる。
- ②世界各国の福祉の知見を仕事・実務に活かすことができる。
- ③社会福祉士試験対策や国際社会理解についての知識・情報を得ることができる。
- ④グローバルな視点で現代社会を多面的に分析できる。
- ⑤コミュニケーション能力・表現力・文章力を高められる。

■授業の概要

国際社会福祉論及び世界各国の福祉について講義を行う。社会福祉士試験対策や国際理解について特別講義・実践報告をする。授業は、社会情報学・都市地理学・地域政策学をベースとし、世界の思想史・法制度・経済・生活文化などから、解りやすく行う。学生個人及びグループで発表を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション（自己紹介・授業の進め方）	国際社会福祉とは
第2回	国際社会福祉の位置づけ・沿革・課題	
第3回	国際社会における支援活動 I. 国際社会における展開	
第4回	国際社会における支援活動 II. 国内・在外社会における展開	
第5回	社会福祉の国際比較（個人・グループ 発表）	アメリカ、スウェーデン
第6回	社会福祉の国際比較（個人・グループ 発表）	デンマーク、イギリス
第7回	社会福祉の国際比較（個人・グループ 発表）	フランス、ドイツ
第8回	社会福祉の国際比較（個人・グループ 発表）	オーストラリア、ニュージーランド
第9回	社会福祉の国際比較（個人・グループ 発表）	中国、韓国
第10回	世界の社会・生活・福祉（フィジー）、国際ボランティア（JICA）活動から	[実践報告・特別講義（英語）]
第11回	世界各国の福祉 I. 欧米の福祉政策を中心に	[社福士試験対策を含む]
第12回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に（その1）	
第13回	世界各国の福祉 II. アジア諸国の福祉政策を中心に（その2）	
第14回	世界の社会・生活・福祉（ドイツ・スイスほか）、教育現場から	[実践報告・特別講義（ドイツ語）]
第15回	まとめ（諸外国の福祉）試験について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業時に配布するレジュメ・資料を理解すること。
- ・質問や意見また要望について、積極的にを行うこと。
- ・発表は、順番を守る。学生相互の質疑応答を能動的に行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

発表について、役立つ情報・解り易い内容・楽しい話題に心掛け、十分に準備すること。また、オリジナリティを發揮すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業への取り組み:20点、発表:30点、試験（レポート提出）:50点。

■教科書

「国際社会福祉論」（川村匡由 ミネルヴァ書房）

■参考書

「世界の社会福祉年鑑」（旬報社）、「世界国勢図会」（公財・矢野恒太記念会）、
「社会福祉のあゆみ」（金子光一 有斐閣アルマ）、世界地図（成美堂出版）

科目名	子どもの食と栄養	担当教員 (単位認定者)	梅山 節子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの食と栄養				

■授業の目的・到達目標

人間形成の上で小児期の持つ意味は非常に大きい。
小児には「遊ぶ」ことを通して発達にならないで「食べる」ことを通しての体力作り、人間形成が極めて重要である。
保育所・認定こども園利用が増加している現状をふまえ“食育”は保育の根源となる。

■授業の概要

なぜバランスよく食べなければいけないの？なぜ食事の前に手を洗うの？元気の力の源は？各自で工夫して食育が行えるよう一部実習を加え知識・技術を習得し、保育の現場で実践出来る能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 子どもの健康と食生活	
第2回	栄養・食に関する基本的知識	
第3回	乳幼児の食事摂取基準	
第4回	こどもの発育・発達と栄養・食生活	
第5回	食育の基本と実践	
第6回	食の安全	
第7回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
第8回	幼児の食事	
第9回	幼児食(和食)	
第10回	幼児食(洋食)	
第11回	幼児食(間食)	
第12回	幼児食(弁当)	
第13回	幼児食(行事食)	
第14回	カルシウム・鉄の多い食事	
第15回	まとめ 実習室の整理	ノート提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中は回りの受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁。
実習時はエプロン・三角巾・ハンドタオルを用意。
長つめ、マニキュア、アクセサリ禁止。衛生面で細心の注意を払う。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 50% 授業への取り組み(身支度、ノート提出) 50%

■教科書

子どもの食と栄養(中山書店) 2,000円+税

■参考書

食品成分表

科目名	子どもの保健Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発育、発達、保育、養護、病状の観察、看護、救急処置、安全環境の確保				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。
- ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。
- ③保育における安全な環境を提供することができる。

■授業の概要

子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気の適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、日常の保育における健康観察
第2回	発育の観察
第3回	生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価
第4回	子どもの健康増進と保健環境
第5回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(1) 食事、排泄
第6回	健康的な生活習慣形成のための支援技術(2) 衣服着脱、清潔
第7回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア
第8回	子どもの疾病と適切な対応
第9回	事故防止および健康安全管理
第10回	保育の場における救急蘇生法
第11回	子どもにおける一次救命処置
第12回	起こりやすい事故と応急手当
第13回	予防すべき感染症
第14回	予防接種、保育の場で行う感染の予防
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書を中心として、プリントを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時の指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(80%)、ノート(20%)。

■教科書

今井七重 編著 子どもの保健Ⅱ (株)みらい 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	肢体不自由教育 I	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育 肢体不自由教育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。

〔到達目標〕

1. 肢体不自由教育の基本知識を獲得する（知識・理解）
2. 肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける（思考）
3. 知識を他者に表現することができる（表現）

■授業の概要

肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 肢体不自由の定義、合理的配慮
第2回	肢体不自由の骨格と関節・筋肉と神経系・脳機能と診断
第3回	肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化
第4回	肢体不自由の心理特性、行動特性
第5回	肢体不自由児の社会的理解
第6回	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用 知能検査、運動検査の方法と活用
第7回	肢体不自由教育における 知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用
第8回	肢体不自由教育における 発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用
第9回	動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎
第10回	肢体不自由教育の歴史 戦前、高木憲次、学校の設立
第11回	肢体不自由教育の歴史 公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備 学習指導要領の制定と改訂
第12回	肢体不自由教育の歴史 養護学校義務制 自立活動の成立と意義 特別支援教育の理念と制度
第13回	肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題 通級による指導の現状と役割
第14回	小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ 特別支援教育に関わる法令 個別の教育支援計画に基づく連携
第15回	肢体不自由教育のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出ること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生に迷惑となる行為（私語・スマホ等）、授業の流れや雰囲気壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■授業時間外学習にかかわる情報

肢体不自由特別支援教育に関する情報に、普段から触れておくこと。
特別支援の教育現場を知ること（見学、ボランティアなど）。

■オフィスアワー

第1回授業時に伝えます。

■評価方法

- ・定期筆記試験 70%
- ・第8回終了時にレポート課題を課します。 30%（第10回授業時に提出、課題に則し考察が述べられている、使用文献が示されている）

■教科書

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」 2015 ミネルヴァ書房

■参考書

中野尚彦著「障害児心理学ものがたり 小さな秩序系の記録 I」2006 明石書店

科目名	肢体不自由教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育、肢体不自由				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

肢体不自由教育の実際を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。

〔到達目標〕

1. 肢体不自由教育の実践知識を獲得する（知識・理解）
2. 肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける（思考）
3. 知識を他者に表現することができる（表現）

■授業の概要

肢体不自由児の教育の実際に関する教育・心理・生理について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 医療的ケア 食事指導 排泄指導
第2回	呼吸障害と姿勢づくり ポジショニングと変形・側湾
第3回	発作の理解と対応 外部専門家との連携 教育課程の基準と学習指導要領
第4回	教育課程の原理と編成 障害特性をふまえた教科指導、体育の指導
第5回	肢体不自由者と領域・教科を合わせた指導 自立と社会参加を目指す総合的な学習の時間 高等部卒業後の進路
第6回	進路指導 キャリア教育 自立活動とは
第7回	自立活動の指導と個別の指導計画 身体の動きの指導 人間関係の形成の指導と評価
第8回	コミュニケーション、チームティーチングの指導と評価 訪問教育 学習指導要領における重複障害者への対応
第9回	肢体不自由特別支援学校の専門性 地域支援 特別支援学校教諭免許状の制度と種類、取得
第10回	特別支援学校教員の養成、採用 現職教員の研修 肢体不自由教育を学ぶ機会 保護者との連携
第11回	脳性まひへの治療と最新アプローチ 小児リハビリテーション 理学療法 障害者福祉関連法
第12回	肢体不自由者、障害児の福祉サービス 身体障害者手帳 肢体不自由者の雇用
第13回	障害者と権利擁護 障害者権利条約 肢体不自由児とインクルーシブ教育、肢体不自由教育における合理的配慮
第14回	就学前の肢体不自由教育・療育 交流及び共同学習
第15回	地域生活と余暇活動 肢体不自由者と家族 肢体不自由者関連団体

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・遅刻、欠席は必ず届け出ること。
- ・積極的な授業参加、予習を求めます。
- ・他の学生に迷惑となる行為（私語・スマホ等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

■授業時間外学習にかかわる情報

肢体不自由特別支援教育に関する情報に、普段から触れておくこと。
学校見学、ボランティアなど、特別支援の教育現場を知ること。

■オフィスアワー

第1回授業時に伝えます。

■評価方法

- ・定期筆記試験 70%
- ・第8回終了時にレポート課題を課します。 30%（第10回授業時に提出、課題に則し考察が述べられている、使用文献が示されていること）

■教科書

筑波大学附属桐が丘特別支援学校編著「肢体不自由教育の理念と実践」ジアース教育新社

■参考書

安藤隆男・藤田継道編著「よくわかる肢体不自由教育」 2015 ミネルヴァ書房
中野尚彦著「障害児心理学ものがたり 小さな秩序系の記録Ⅰ」 2006 明石書店

科目名	肢体不自由者（児）の心理生理病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	原因疾患の定義、病因、疫学、分類、症状、検査と診断、治療、予後、予防、看護、心理特性とケア				

■授業の目的・到達目標

- ①肢体不自由をきたす疾患について説明することができる。
 ②肢体不自由者（児）の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。肢体不自由者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、肢体不自由者（児）の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	脳性麻痺
第3回	二分脊椎
第4回	筋ジストロフィー
第5回	ペルテス病
第6回	骨系統疾患
第7回	手足の先天奇形
第8回	先天性多発性関節拘縮症
第9回	ダウン症の整形外科の合併症
第10回	先天性股関節脱臼
第11回	リハビリテーション
第12回	看護
第13回	療育上とくに留意すべき事項（1）
第14回	療育上とくに留意すべき事項（2）
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずには置しておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（80%）、ノート（20%）。

■教科書

篠田達明監修 肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	社会科概論	担当教員 (単位認定者)	梅山 文秀	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生きる力 考えたことを表現する力 伝統・文化教育の充実 公正に判断する力 問題解決能力 事例学習				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

小学校社会科は、社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情とを育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。

〔到達目標〕

- ①学習指導要領のポイント・特色を理解すること。
- ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。
- ③各学年の学習目標と学習内容を理解すること。
- ④基礎となる考え方を理解すること。

■授業の概要

「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイント・特色について学ぶ。
指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容をワークシートにまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント
第2回	学習指導要領のポイント
第3回	小学校社会科指導要領の特色
第4回	特色を活かすためのポイント 社会科の目標
第5回	小学校社会科指導要領の見方
第6回	小学校社会科学習指導要領の学年別目標
第7回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容①・・・自分たちの住んでいる身近な地域や市、地域の人々の生産や販売
第8回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容②・・・地域の人々の生活にとって必要な飲料水・電気・ガスの確保や廃棄物の処理、地域社会における災害及び事故の防止
第9回	第3学年及び第4学年の学習目標と学習内容③・・・地域の人々の生活、県の様子
第10回	第5学年の学習目標と学習内容①・・・我が国の国土の自然などの様子
第11回	第5学年の学習目標と学習内容②・・・我が国の農業や水産業、我が国の工業生産
第12回	第5学年の学習目標と学習内容③・・・我が国の工業生産、我が国の情報産業や情報化した社会の様子
第13回	第6学年の学習目標と学習内容①・・・我が国の歴史上の主な事象（縄文時代～江戸時代）
第14回	第6学年の学習目標と学習内容②・・・我が国の歴史上の主な事象（幕末～昭和）、我が国の政治の働き
第15回	第6学年の学習目標と学習内容③・・・我が国の政治の働き、世界の中の日本の役割

■受講生に関わる情報および受講のルール

小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。
教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようにしておくこと。
地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。
配付資料やワークシートは必ず保管すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。

■オフィスアワー

火曜日の5限

■評価方法

筆記試験（100％）にて評価する。

■教科書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社 2008

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	社会心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己意識、社会的比較、印象形成、態度、ヒューリスティックス、社会的アイデンティティ他				

■授業の目的・到達目標

人の心と社会の関係を心理学的視点でとらえる視点を学習する。そのことにより、自己と他者の心をより深く理解し、よりよい関係づくりができるようにする。同時に、人が生きる社会の状況を、心理学的に把握するための知識を学ぶ。

■授業の概要

人は“社会”に生まれ“社会”に育ち、“社会”の中で生きている。それゆえ、社会的状況や対人関係に大きく影響を受けながら存在している。社会心理学では、そうした社会的状況における人の心理や行動に注目し、そこに見られる一定の法則性や傾向について明らかにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、社会的認知①
第2回	社会的認知②
第3回	感情
第4回	態度と説得
第5回	自己の成り立ち①
第6回	自己の成り立ち②
第7回	公正さに関わる問題
第8回	対人行動① 援助行動
第9回	対人行動② 攻撃行動
第10回	対人関係
第11回	受容と排斥
第12回	集団の中の個人①
第13回	集団の中の個人②
第14回	集団間関係①
第15回	集団間関係②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる上方〕

・選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱う予定。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。
- ・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

キャリアサポートセンター在室中に声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回(予定5回) = 1 提出物得点(1回6点満点:提出により得点))

■教科書

脇本竜太郎編著(2014) 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社

■参考書

適宜指示。

科目名	社会調査の基礎（社会福祉専攻）	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	量的調査、質的調査、データ分析、エクセル、記述統計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会調査の基礎知識の習得を目指す。

〔到達目標〕

社会調査の基本的な手続き・技法を理解・習得する。

量的調査・質的調査についての知識を得る。

調査における倫理について理解する。

■授業の概要

本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。

講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポートの作成方法についての解説がなされることになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業ガイダンス	イントロダクション・社会調査の意義と目的
第2回	社会調査の対象	
第3回	社会調査における倫理および個人情報保護	
第4回	量的調査の方法	全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第5回	量的調査の方法	全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査
第6回	量的調査の方法	測定
第7回	量的調査の方法	質問紙作成の留意点 調査票の配布と回収
第8回	データ分析	
第9回	データ分析	
第10回	データ分析	
第11回	質的調査の方法	観察法 参与観察・非参与観察
第12回	質的調査の方法	面接法 自由面接法、構造化面接法、半構造化面接法
第13回	質的調査における記録の方法と留意点	コード化の問題について
第14回	質的調査のデータ整理と分析	
第15回	まとめ・到達テスト	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

PC室・LL教室での講義・実習が主体となる。

〔受講のルール〕

データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。

マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識（if関数等）を前もって習得しておくことが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持ってくること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。

■評価方法

コメント評価（20%）、レポートの提出（30%）、到達テスト（30%）、小テスト（20%）。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 第5巻 社会調査の基礎 第3版 中央法規 2010

■参考書

向後 千春・富永 敦子 統計学がわかる（ファーストブック） 技術評論社（購入義務はない） 2007

科目名	社会調査の基礎（子ども専攻）	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計調査				

■授業の目的・到達目標

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学び、実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象（e.g.、社会問題、流行）について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 社会調査を学ぶにあたって
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査
第3回	社会調査の種類 量的調査と質的調査
第4回	社会調査のプロセス 調査実施のためのプロセス
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習
第7回	データの収集法 調査票調査、他記式調査、自記式調査
第8回	調査票（アンケート）の作成 質問項目の執筆における留意点を中心に
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計
第10回	統計分析Ⅰ 変数の種類と代表値
第11回	統計分析Ⅱ データの分散、シグマの法則
第12回	統計分析Ⅲ ピアソンの積率相関係数
第13回	統計分析Ⅳ クロス集計表の作成
第14回	統計分析Ⅴ クロス集計表の独立性の検定
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

アンケート（調査票）による統計調査の方法とその分析法に関する授業です。社会問題や世論などについてデータ（根拠）に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％）の結果に、平常点（20％）（授業への取り組み、提出物）を加味した総合評価を行います。

■教科書

轟 亮・杉野 勇（編）「入門・社会調査法[第2版]—2ステップで基礎から学ぶ—」, 法律文化社, 2013年.

■参考書

適宜紹介

科目名	社会調査の基礎（編入組）	担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	統計調査				

■授業の目的・到達目標

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学び、実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、介護福祉士としての活躍のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象（e.g.、社会問題、流行）について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 社会調査を学ぶにあたって
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査
第3回	社会調査の種類 量的調査と質的調査
第4回	社会調査のプロセス 調査実施のためのプロセス
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習
第7回	データの収集法 調査票調査、他記式調査、自記式調査
第8回	調査票（アンケート）の作成 質問項目の執筆における留意点を中心に
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計
第10回	統計分析Ⅰ 変数の種類と代表値
第11回	統計分析Ⅱ データの分散、シグマの法則
第12回	統計分析Ⅲ ピアソンの積率相関係数
第13回	統計分析Ⅳ クロス集計表の作成
第14回	統計分析Ⅴ クロス集計表の独立性の検定
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

アンケート（調査票）による統計調査の方法とその分析法に関する授業です。社会問題や世論などについてデータ（根拠）に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

統計概念の復習に重点をおき、わからない点は何度でも質問し、理解を深めること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％）の結果に、平常点（20％）（授業への取り組み、提出物）を加味した総合評価を行います。

■教科書

轟 亮・杉野 勇（編）「入門・社会調査法[第2版] —2ステップで基礎から学ぶ—」, 法律文化社, 2013年.

■参考書

適宜紹介

科目名	社会的養護Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的養護・児童虐待・要保護児童・子どもの権利・施設養護				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会的養護について何かを理解し、要保護児童およびその家庭に対する支援方法についての基本を学んでいく。

〔到達目標〕

児童虐待が急増している現況を認識し、社会的養護の課題及び対応策について考察していく力を養う。

■授業の概要

急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、社会的養護の現況、課題、対応策及び児童の権利に関する条約等総括的に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション・社会的養護とは何か
第2回	現代社会に暮らす子どもと家庭
第3回	子どもの権利
第4回	子どもの養護の歴史
第5回	社会的養護の体系 → 家庭・施設・里親
第6回	社会的養護の制度
第7回	施設養護の特質
第8回	施設養護の基本原則
第9回	施設養護の実際 → 日常生活の支援・自立支援
第10回	施設養護の実際 → 治療的・支援的援助
第11回	施設養護の実際 → 親子・地域との関係調整
第12回	社会的養護とソーシャルワーク
第13回	児童福祉施設の運営管理
第14回	児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理
第15回	社会的養護のあるべき姿(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関する情報に関心をもって授業に望みたい。

〔受講のルール〕

・出席時間の厳守、授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・社会的養護に関する法令について、日頃から社会福祉小六法の活用を億劫がらずに習慣づけること。
- ・予習復習に努め、わからない内容があった時は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。

■オフィスアワー

質問事項等ある場合にはコメントカードに記述すること。次回授業時にインフォメーションします。

■評価方法

筆記試験 80%及び授業中の課題(レポート提出)20%。

■教科書

ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著

■参考書

社会福祉小六法を授業時に持参すること。

科目名	社会的養護Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	矢嶋 衛	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもの権利擁護・社会的養護の理念・社会的養護ニーズ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

児童虐待を主とした「要保護児童」の支援策について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。

〔到達目標〕

要保護児童を取り巻く社会的背景、関連する法制度を理解し、児童の権利擁護を基本理念とする要保護児童の保護、自立を支援していく専門機関・児童福祉施設の組織、機能を学び社会的養護の課題、対応策について考察力を養う。

■授業の概要

急増している児童虐待は子どもの心身の成長に深刻な影響を与えており、虐待の予防、早期発見、子どもの権利侵害への介入支援および社会的養護の基本理念、法制度、実践にかかわる技術等将来保育現場や児童養護施設等児童福祉の専門職員を目指す者に対して現場で役に立つ実践的な知識の取得と支援力を内容としている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション・子どもと家族に対する社会的サポート
第2回	社会的養護の意義と役割について
第3回	社会的養護ニーズの変遷
第4回	社会的養護ニーズの変遷から考察される要保護児童問題と対応策について
第5回	児童養護の体系 → 家庭養護・社会的養護
第6回	地域における社会的養護 → 家庭・地域社会と子育て支援
第7回	児童養護の実施機関 → 児童相談所
第8回	家庭的養護(里親制度)・施設養護
第9回	施設における児童養護Ⅰ → 施設養護の基本原則
第10回	施設における児童養護Ⅱ → 治療的支援
第11回	児童福祉施設で実践を支える専門技術Ⅰ → 相談援助・ケアワーク
第12回	児童福祉施設で実践を支える専門技術Ⅱ → 自立支援・家族支援
第13回	児童福祉施設の運営管理Ⅰ → 社会福祉における運営管理のもつ意味・措置制度
第14回	児童福祉施設の運営管理Ⅱ → 最低基準・入所児童の人権擁護等
第15回	社会的養護の課題・将来像

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・児童虐待等要保護児童や子育て支援に関する情報の把握について日々努めること。

〔受講のルール〕

・出席時間の厳守、授業の流れや雰囲気をつぶしたり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

・ボランティア、施設実習等他の児童福祉の専門教科と関連付けてこの授業内容を理解する視野の広い学習に努めること。
・予習復習に努め、わからない内容があった時は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。

■オフィスアワー

質問事項等についてはコメントカードに記述すること。次回の授業時にインフォメーションします。

■評価方法

筆記試験 80%及び授業中の課題(レポート提出)20%。

■教科書

同文書院：保育教育ネオシリーズ松原康雄編著「養護原理」

■参考書

社会福祉小六法を授業時に持参すること。

科目名	社会的養護内容	担当教員 (単位認定者)	吉野 芳郎	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育を取り巻く社会環境 女性の就労の増大 保育ニーズの多様化 各施設の養護特性				

■授業の目的・到達目標

保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活を根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。本演習では、総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。

■授業の概要

施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に活かしていくことを目的としたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、社会的養護の内容とは(総論)
第2回	児童福祉施設入所の意義について
第3回	児童福祉施設の社会的養護について
第4回	子どもの権利の特徴について 子どもの心の理解
第5回	生存と発達保障について
第6回	児童福祉施設における援助・支援の理念
第7回	保育士の倫理及び責務について
第8回	児童福祉施設における子どもの心の理解について
第9回	各施設における具体的な養護の援助内容(乳児院・母子生活支援施設)
第10回	各施設における具体的な養護の援助内容(児童養護施設・児童自立支援・里親委託)
第11回	各施設における具体的な養護の援助内容(知的障害児施設・肢体不自由施設・重症心身児施設)
第12回	ファミリーホーム・自立援助ホーム・家庭支援センターの課題と将来像
第13回	児童福祉施設の援助者の役割について 施設人員配置の課題と将来像
第14回	家庭支援の基本とその内容について
第15回	児童福祉施設における社会的養護の課題と将来像について まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切に学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業に取り組み姿勢(30%) *リポート(50%) *提出物(提出期日厳守)(20%)

■教科書

養護内容 福永博文編者 北大路書房

■参考書

指定しない。

科目名	社会福祉史		担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	社会福祉の歴史的視点					

■授業の目的・到達目標

社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。
日本および各国の福祉史を見ることで、現在の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。

■授業の概要

日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷1
第3回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷2
第4回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷3
第5回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷4
第6回	イギリスの社会福祉の歴史的変遷5
第7回	日本の社会福祉の歴史的変遷1
第8回	日本の社会福祉の歴史的変遷2
第9回	日本の社会福祉の歴史的変遷3
第10回	日本の社会福祉の歴史的変遷4
第11回	日本の社会福祉の歴史的変遷5
第12回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷1
第13回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷2
第14回	アメリカの社会福祉の歴史的変遷3
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで必要に応じて伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで伝える。

■評価方法

期末試験 80% 授業への取り組み 20%

■教科書

清水・朴 編著「よくわかる社会福祉の歴史」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで適宜伝える。

科目名	社会福祉特講Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	国家試験対策担当教員	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士国家試験				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。

〔達成目標〕

社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身につけているのかを自身で判断できる。

■授業の概要

既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション(授業ガイダンス、国家試験の傾向と対策)
第2回	学習目標、学習計画の立案
第3回	人体の構造と機能および疾病
第4回	心理学理論と心理的支援
第5回	月例テスト
第6回	福祉行政と福祉計画
第7回	相談援助の基盤と専門職
第8回	高齢者に対する支援と介護保険制度
第9回	月例テスト
第10回	保健医療サービス
第11回	社会理論と社会システム
第12回	月例テスト
第13回	1年次の復習①
第14回	1年次の復習②
第15回	月例テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。

■オフィスアワー

講義初回にて伝える。

■評価方法

試験またはレポート20%、月例テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。

■教科書

最新の国家試験問題。該当科目のテキスト、ノート、用語辞典、参考書など該当科目問題の解説作りに活用できるもの全て。

■参考書

授業にて適宜紹介する。

科目名	社会福祉法制	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	鰥寡条、目盲条、社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、障害者自立支援法				

■授業の目的・到達目標

社会福祉は、憲法 25 条にその根拠を置くが、その多くは、憲法 25 条を具体化した福祉 6 法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。

- ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。
- ②六法で条文を調べることができる。
- ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ④法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉 6 法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第 1 回授業にて説明します。

第 1 回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系
第 2 回	社会福祉の法と行政のあゆみ
第 3 回	日本国憲法と社会福祉
第 4 回	社会福祉法 I (理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など)
第 5 回	社会福祉法 II (社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など)
第 6 回	生活保護法 I (目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など)
第 7 回	生活保護法 II (保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など)
第 8 回	児童福祉法
第 9 回	母子及び寡婦福祉法
第 10 回	身体障害者福祉法 I (目的、定義、実施機関と専門職務者など)
第 11 回	身体障害者福祉法 II (更生援護、事業および施設など)
第 12 回	知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
第 13 回	障害者総合支援法
第 14 回	老人福祉法、介護保険法
第 15 回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・船水浩行 編著「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房,2010 年

■参考書

社会福祉六法(例:ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房,2013 年)

科目名	住環境福祉論	担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	バリアフリー、住宅改修				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、住環境整備のあり方を理解し、在宅生活においては実際に問題解決を提案できる能力を養う。

〔到達目標〕

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

高齢者や障害者を取りまく住環境の問題点を抽出し、医療・福祉・建築など多方面から解決方法をアプローチする。福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級のテキストを使用し、検定試験にも対応する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性
第2回	高齢者の特性、疾患別住環境整備①(脳血管障害)
第3回	疾患別住環境整備②(廃用症候群、骨折、認知症)
第4回	疾患別住環境整備③(関節リウマチ、パーキンソン病、糖尿病 他)
第5回	小テスト①。障害者の住宅に関する実態、障害別住環境整備①(肢体不自由)
第6回	障害別住環境整備②(内部障害、視覚・聴覚障害 他)
第7回	住宅建築の基礎知識①
第8回	住宅建築の基礎知識②
第9回	介護保険制度における住宅改修、住環境整備の進め方
第10回	小テスト②。住環境整備の共通基本技術①(段差の解消、床材の選択、手すりの取付)
第11回	住環境整備の共通基本技術②(建具・スペース・冷暖房等への配慮)
第12回	生活行為別住環境整備の手法①(外出)
第13回	生活行為別住環境整備の手法②(屋内移動・排泄)
第14回	小テスト③。生活行為別住環境整備の手法③(入浴・更衣・調理)
第15回	生活行為別住環境整備の手法④(就寝)、バリアフリーとユニバーサルデザイン

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義中のノート筆記は必ず行う。小テスト(テキスト準拠・テスト前回の講義時に範囲を提示する)は必ず受ける。

■授業時間外学習にかかわる情報

自分の身の回りの生活環境を、授業で学習した住環境整備の視点で観察し、発見や疑問を授業内で確認、質問する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験で100%の評価をする。

■教科書

東京商工会議所編・出版:福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト 改訂 3 版

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	就職指導	担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数 (時間数)	0 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	就職指導				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

望ましい職業観、社会人としての心構えや基本的なマナーを身につけ、就職及び進路に対する意識の高揚を図る。

〔到達目標〕

1. 自己の適性について理解できる。
2. 自己を振り返り、自己課題を見つけることができる。
3. 自己理解、自己覚知を行い、自分自身の進路選択ができる。

■授業の概要

学生一人ひとりが、建学の精神やボランティア活動を踏まえた中で、実社会において自分の力を存分に発揮できる『適職』を見つけることができるような指導を行う。また社会に貢献できる能力を高めるために、大学生活をより深化するための計画化の徹底を図り、人間にとって職業が重要であることを踏まえた「職業に就くことを志す→職業を見つける→必要な訓練を行う→職業に適応していく」という個人の一連の過程全体を支援する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	就職に対する考え方・キャリアデザイン・指導年間計画・進路希望調査
第3回	自己理解・志望先の決定
第4回	応募から内定までの流れ・基本原則・就職関係書類
第5回	求人票の見方・就職情報システム①
第6回	求人票の見方・就職情報システム②
第7回	マナー指導
第8回	履歴書作成
第9回	応募の基本的事項（電話対応・求人依頼等）
第10回	就職試験・採用側が望む人材とは
第11回	面接の基本・成功する面接
第12回	就職試験・採用側が望む人材とは
第13回	面接の基本・成功する面接
第14回	面接ロールプレイ
第15回	試験前日の心得・採用試験当日の心得・内定後の心得

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・本科目は就職を希望する学生全員が受講すること。
- ・すべての講義に出席すること。
- ・自分自身の適性について理解を深め積極的に就職活動を行う意識を高揚させ講義を受けること。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を確認し積極的に授業に望むこと。
- ・他の学生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

なし

■教科書

『進路の手引き』（群馬医療福祉大学キャリアサポートセンター発行）を資料として使用する。

■参考書

参考書は必要に応じて講義の中で紹介する。

科目名	就労支援サービス	担当教員 (単位認定者)	宮本 雅央	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	就労支援、労働、地域生活				

■授業の目的・到達目標

障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。

〔到達目標〕

- ①労働の権利性について理解し、言語化できる。
- ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。
- ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。
- ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。
- ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法についてイメージした事を言語化できる。

■授業の概要

労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。
この授業では、1) 就労と就労支援の意義 2) 労働市場の動向 3) 労働法規の概要 4) 就労支援制度の概要 5) 就労支援サービスの実施体制 6) 就労支援を取り巻く各分野(労働、福祉、教育など)における連携と実際
これらの内容を中心に、「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション	講義の目的、到達目標、評価方法等の理解
第2回	労働の意義	働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割
第3回	現代の労働を取り巻く状況	労働市場の変化
第4回	労働に関する法律と制度	
第5回	障害者と就労支援 1	障害者の就労の現状
第6回	障害者と就労支援 2	障害者福祉施策における就労支援
第7回	障害者と就労支援 3	障害者雇用施策における就労支援
第8回	障害者と就労支援 4	障害者に対する就労支援における専門職の役割
第9回	障害者と就労支援 5	障害者に対する就労支援における民間の取り組みと諸外国の取り組み
第10回	低所得者と就労支援 1	支援の対象像
第11回	低所得者と就労支援 2	低所得者の就労の現状と就労支援制度
第12回	低所得者と就労支援 3	組織や団体、専門職の役割
第13回	連携とネットワーク 1	就労支援とケアマネジメント
第14回	連携とネットワーク 2	ネットワークを活用した就労支援の実際①
第15回	連携とネットワーク 2	ネットワークを活用した就労支援の実際②

■受講生に関わる情報および受講のルール

この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。なお、小テスト等の課題を毎時間実施し、評価対象とする。

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援法」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

定期試験50%、小テスト等の提出物30%、レポート20% とする。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス」中央法規(最新版)

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	障害児支援法総論	担当教員 (単位認定者)	久田 信行	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱 教育課程、指導法				

■授業の目的・到達目標

本学では知肢病についてはそれぞれの専門科目で履修するが、視覚障害、聴覚障害については、第3欄の科目を履修する必要がある。特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することを目標とする。

■授業の概要

心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む必修科目である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	療育・教育・福祉の制度
第2回	障害児理解と支援のための基本的考え方
第3回	視覚障害児教育の見方と支援法
第4回	聴覚障害児教育の見方と支援法
第5回	肢体不自由児教育の見方と支援法
第6回	言語障害児・病弱児教育の見方と支援法
第7回	知的障害児教育の見方と支援法
第8回	発達障害児教育の見方と支援法
第9回	発達障害と脳科学
第10回	ICFの理念と個別の教育支援計画
第11回	自立活動の理解1
第12回	自立活動の理解2
第13回	個別指導計画とカリキュラム
第14回	インクルーシブ教育
第15回	障害者虐待防止、差別解消の手立て

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業への取り組みを重視する。指導法を中心とするが、生理・病理・心理も合わせて授業をするので、予習を充分に行うこと。調べ学習も取り入れるので、十分な準備をされたい。

■授業時間外学習にかかわる情報

各回、次回の課題を示し、主にインターネットと図書館で事前学習を求めるので、予習を意識されたい。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

事前の短いレポート(10%)と授業への取り組み(30%)に、期末試験60%を合わせて評価する。

■教科書

大塚怜著「インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門」萌文書林、2015

■参考書

文部科学省編「特別支援学校学習指導要領 解説 自立活動編」

科目名	障害児（者）心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障がい特性、障がいの受容、家族支援				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

本講義では、障がい者（児）の心理的特性について学びながら、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 障がいとその心理的影響 ⇒ 障がい者への対応」という道筋で、障がい者（児）への心理面の援助アプローチについても考えることができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①色々な障がいの様々な心理的特性について、理解できる。
- ②障がいを抱えている方の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

人間の成長発達と心理的理解を礎として、障がいをもつこととそのことによる心理的影響を理解した上で、障がい者（児）への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 障がいとは何か、障がいの及ぼす影響
第2回	障がいのとらえ方
第3回	視覚障がいと心理的特性
第4回	聴覚障がいと心理特性
第5回	運動障がいと心理的特徴
第6回	知的障がいと心理的特徴
第7回	発達障がいと心理的特徴（自閉症）
第8回	発達障がいと心理的特徴（学習障がい、ADHD）
第9回	病弱児・者の理解と心理的援助
第10回	その他の障がいと心理的特徴（情緒障がい）
第11回	障がい者のおかれている環境と心理的援助について
第12回	障がい者のおかれている環境と心理的援助について（高齢障がい者）
第13回	障がいの受容
第14回	障がいの受容と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「福祉心理学」、「心理学理論と心理的支援」を受講済みであることがのぞましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題（小レポート等）（40%）②学期末試験（60%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

田中新正・古賀精治 編著 『新訂 障害児・障害者心理学特論』 放送大学教育振興会 2013年

■参考書

和田和弘、福屋靖子編 『障害者の心理と援助』 メヂカルフレンド社 1997年

科目名	障害児保育(子ども専攻4年)	担当教員 (単位認定者)	吉野 芳郎	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解 人間の尊厳 分離保育 統合保育 親の思い				

■授業の目的・到達目標

まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子供たちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。

■授業の概要

障害を理解するということ、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりを感じ、障害の本質を探究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、障害児保育とは(総論)
第2回	障害児福祉の理念について 障害を持つ子の保育について
第3回	障害の概念について ノーマライゼーションに辿り着くまで
第4回	心身の障害とその理解(1) 障害の種類について(知ること・理解すること・慣れること)
第5回	心身の障害とその理解(2) 障害の発見について 障害の原因について
第6回	障害児保育の歴史と現状(1) 社会福祉事業の発端 障害児保育の変遷
第7回	障害児保育の歴史と現状(2) 福祉・医療・教育について
第8回	関係機関との連携について
第9回	障害児に起こりやすい病気について
第10回	健康と発達について 基本的な生活習慣の意義について
第11回	治療教育の考え方 保育・教育の場から社会へ
第12回	保育・療育でのかかわりと育ちについて
第13回	地域・家庭での育ちについて
第14回	障害児保育の形態について 分離・交流・統合保育の特質について
第15回	親の願い 家族の抱える問題 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・人との出会いを大切に学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。
- ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

授業に取り組み姿勢(30%) *リポート(50%) *提出物(提出期日厳守)(20%)

■教科書

指定しない

■参考書

指定しない

科目名	障害児保育(子ども専攻2年)	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害の理解・発達支援・インクルージョン・家族支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

現在の保育所・幼稚園には、診断の有無にかかわらず様々な障害のある子どもが在籍している。それら発達のニーズのある子どもの特性を理解し、その援助方法を知るとともに、インクルーシブ保育の意義や家族への支援について基礎的知識を身につけることを目的とする。保育実習指導Ⅰ(施設)を理解する基礎となる科目であるため、しっかり知識を定着させること。

〔到達目標〕

- ①障害のある子どもの特性と、保育場面での基本的な援助方法を述べることができる。
- ②家庭や関係機関との連携について説明できる。
- ③インクルーシブ保育の意義を説明できる。

■授業の概要

障害の理解と保育における発達の援助について学び、個々の状態に合わせた援助を提供するための取組みや、家族への支援、関係機関との連携についても理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(授業概要 評価方法等の説明)	障害の概要と対象
第2回	障害児保育の歴史の変遷	
第3回	視覚・聴覚障害児の理解と援助	
第4回	肢体不自由児の理解と援助	
第5回	知的障害児の理解と援助	
第6回	発達障害児の理解と援助① ADHD・LD	
第7回	発達障害児の理解と援助② 自閉症スペクトラム	
第8回	個々の発達をうながす生活や遊びの環境	
第9回	子ども同士のかかわりあいと育ち合い	
第10回	保育課程に基づく指導計画の作成と記録	
第11回	個別の支援計画	
第12回	保護者や家庭に対する支援	
第13回	地域の専門機関との連携	
第14回	小学校との連携(就学に向けた支援)	
第15回	福祉・教育における現状と課題	

■受講生に関わる情報および受講のルール

2年次の施設実習指導との近接科目であるので、遅刻・居眠り・私語・携帯操作等を慎み、集中して臨むこと。また、授業で配布した資料を紛失した場合は、再配布しませんので各自で対応してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

障害のある子どもとかかわる機会をもてるボランティア等があれば、積極的に参加してみましょう。

■オフィスアワー

初回の授業で伝達します。

■評価方法

定期筆記試験 90% 授業における演習課題(提出物は期間厳守、取組み状況) 10%

■教科書

障害児保育 基本保育シリーズ⑰ :中央法規出版 2015

■参考書

授業の中で適宜紹介します。

科目名	障害者に対する支援と自立支援制度	担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害者に対する支援と自立支援制度				

■授業の目的・到達目標

障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解するとともに障害者福祉制度の発展過程を学び、相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解し、実践できる知識を習得する。

■授業の概要

障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	障害の概念と理念
第3回	障害者の生活実態とニーズ
第4回	障害者福祉制度の発展過程(障害者権利保障の歴史を含む)
第5回	障害者福祉の法(障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法)
第6回	障害者福祉の法(他の法律)
第7回	障害者の福祉サービス(障害者総合支援法と障害者支援 理念・考え方)
第8回	障害者の福祉サービス(障害者総合支援法と障害者支援 サービス内容・支給決定のプロセス)
第9回	障害者の福祉サービス(障害者総合支援法と障害者支援 その他)
第10回	障害者の所得保障
第11回	障害者の社会生活参加
第12回	障害福祉の整備計画と障害者運動
第13回	専門職の役割と実際(相談支援事業所の内容を含む)
第14回	多職種連携とネットワーキング
第15回	まとめ(事例検討)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語・携帯電話の使用)は厳禁。授業開始時にプリントを配布する場合があります。休んだ場合は、原則友達等にプリントをもらってもらうこと。単元の終わりに小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、学習すること。

■オフィスアワー

第1回のオリエンテーションで説明する。

■評価方法

定期試験 50%、小テスト 20%、リアクションペーパー 30%。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規(最新版)

■参考書

福祉小六法編集委員会『福祉小六法』(株)みらい

科目名	小学校教育実習	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	4 (160)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童理解、教科指導、生活指導、使命感				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能を修得することができる。
- 2 教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことができる。
- 3 「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。

■実習履修資格者

本学における小学校教育実習を履修できる者は、原則として教育職員免許法に定める「小学校教諭一種免許状」取得を目指す4年次の学生で、次に掲げる要件を全て満たす者である。

- ①将来、小学校教諭として小学校の現場で働く意思を強く持っている者
- ②心身の健康状態が、実習を行うのに適当である者
- ③上記免許取得に必要な教育実習事前事後指導、各教科概論、各教科教育法等の単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ④基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱの単位を取得しているか、取得する見込みのある者
- ⑤実習後に各自治体で実施している小学校教員採用試験を受験する者

■実習時期及び実習日数・時間

原則として第4学年の6月中に、160時間(20日間)の実習を行う。

■実習上の注意

- 1 教育実習に参加する要件を備えていること(必修単位取得)。
- 2 事前ガイダンスの受講及び「教育実習の記録」の提出を必須とすること。

〔実習中止の措置〕

本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。また、実習中、不適切な言動があった場合は、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。

■評価方法

- 実習報告会(30%)
- 実習校の評価(50%)
- 「教育実習録」の評価(20%)

科目名	情報メディアの活用	担当教員 (単位認定者)	橋本 登美雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	情報メディア、情報検索、 データベース、 インターネット				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。
- ②データベースの構造を理解できる。
- ③情報検索の理論と技法を習得する。
- ④著作権法を理解できる。

■授業の概要

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、メディア専門職としての司書教諭
第2回	高度情報通信社会と学校図書館
第3回	情報メディアの発達
第4回	情報メディアの特性と選択
第5回	視聴覚メディアの活用
第6回	教育用コンテンツの活用
第7回	データベースと情報検索(1)データベースの構造
第8回	データベースと情報検索(2)情報検索の技法
第9回	インターネットによる情報活用(1)概説
第10回	インターネットによる情報活用(2)情報検索演習
第11回	インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル
第12回	著作権とメディア(1)著作権法概説①
第13回	著作権とメディア(2)著作権法概説②
第14回	著作権とメディア(3)学校図書館と著作権
第15回	著作権とメディア(4)インターネットと著作権、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・指定した予習・復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

期末レポート(試験) 60% 授業中の小レポート 40%

■教科書

井口磯夫編「情報メディアの活用」樹村房(司書教諭テキストシリーズ05)(最新版)

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	初等教育実習事前・事後指導(4年)	担当教員 (単位認定者)	時田 詠子	単位数 (時間数)	1 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習の準備と整理、授業省察				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力」を身に付けることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。
- ②教育実習後の報告会を通して、教育実習の省察することができる。

■授業の概要

- 1 現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。
- 2 模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、教育実習の理解と手続き(実習の心構え、事務手続き)
第2回	教育実習の理解と手続き(実習計画、オリテン日の決定、実習録の作成)
第3回	教育実習の理解と手続き(参観授業、授業実践、研究授業)
第4回	教育実習の理解と手続き(実習校の理解)
第5回	教育実習の理解と手続き(児童、先生方への対応、オリテンの報告)
第6回	教育実習の理解と手続き(実習録の記入の仕方)
第7回	教育実習の理解と手続き(トラブルの対応)
第8回	教育実習の理解と手続き(褒め方・叱り方)
第9回	教育実習
第10回	教育実習
第11回	教育実習
第12回	教育実習
第13回	教育実習報告会その1(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)
第14回	教育実習報告会その2(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)
第15回	教育実習報告会その3(教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。
- ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。

■オフィスアワー

初回の授業で明示する。

■評価方法

教育実習報告会(50%)、提出物(30%)、授業への取り組み(20%)。

■教科書

群馬医療福祉大学:「実習へのガイドブック」2012年

■参考書

その他、講義の中で適宜紹介する。

科目名	人格心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	類型論、特性論、力動論、構成主義、スキーマ、歴史的アイデンティティ、自我体験、ナラティヴ、ライフストーリー、経験としての病い、アイデンティティと暴力				

■授業の目的・到達目標

誰かの「人格」に関わる心理学的理論や「人格」に関わる心理的、社会的諸問題を考える際、それを多面的に扱うことのできる基礎知識と視点を習得し、人間を見る目を深めることを目的とする。

■授業の概要

人間の全体的な理解をめざして、人格（パーソナリティ）とその発達について学んでいく。基礎的な人格理解の視座を学びつつも、抽象化された次元で人を理解するのではなく、一人ひとりの個別の人間を理解するために必要なものはなんなのか、考えを深めていく。また、人格がいかにかに生成し、変容するかについて多面的に学び、「ある人がその人らしく生きる」事に潜む課題を見つめ、それを支援する道を考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、パーソナリティとは
第2回	パーソナリティのアセスメント
第3回	パーソナリティの理論①
第4回	パーソナリティの理論②
第5回	自己意識と自己概念
第6回	愛着とパーソナリティ
第7回	社会性の発達
第8回	アイデンティティの形成
第9回	中年期・高齢期におけるパーソナリティの発達
第10回	パーソナリティの発達と老いへの適応
第11回	文化とパーソナリティ
第12回	人格と存在：人格を否定すること
第13回	家族とパーソナリティ
第14回	ストレスとパーソナリティ変容
第15回	物語に見る人格の変容 教養小説から見る近代的自我と人格

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる上方〕

・選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱う予定。

〔受講のルール〕

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。

・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。

・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

2号館キャリアサポートセンター在室中に声をかけてください。

■評価方法

・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S

・期末試験(筆記試験) 70%、小レポート・感想文等提出物 30% (30 ÷ 提出回(予定 5回) = 1 提出物得点(1回 6点満点; 提出により得点))

■教科書

西川隆蔵・大石史博(2004) 人格発達心理学 ナカニシヤ出版

■参考書

適宜指示。

科目名	人権教育論	担当教員 (単位認定者)	久山 宗彦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人権、国際化、マイノリティー				

■授業の目的・到達目標

第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていかなければならないと思う。

■授業の概要

真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これよっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	人権教育の推進は真の国際化につながる
第2回	“みんな同じ”という幻想
第3回	真の人権教育の視点をもった国際理解とは
第4回	足もとの人権
第5回	国際交流では本来、対立が生じることになる
第6回	多様性の中での統一
第7回	偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い
第8回	私達は皆MINORITYであるのか
第9回	政府関係者の差別発言と日本の文明化の問題
第10回	真の国際化と間違った国際化
第11回	二つの外向きの国際化
第12回	善意の姿勢
第13回	「違い」に対する捉え方が全く違うということ
第14回	差別の根拠がないのに差別の実態がある
第15回	経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・授業レジュメは原則として毎回配布する。
- ・授業には積極的な態度で臨むように。

■授業時間外学習にかかわる情報

世界の国々に関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

■オフィスアワー

リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業時にお答えします。

■評価方法

最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）。

■教科書

教科書は使用しない。授業時に授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。

■参考書

授業時に随時紹介する。

科目名	人体の構造と機能及び疾病	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	人体の構造と機能及び疾病				

■授業の目的・到達目標

社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。
 人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。
 併せて、将来医療福祉分野に携わる者として、ふさわしい人格を形成できる。
 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。
 医療、福祉分野におけるコミュニケーション力、危機管理能力の形成がなされる。
 また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉専門職（又は医療専門職）に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 人体の成長・発達・老化（身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化に伴う身体的・精神的変化）	教科書を予習・筆記した内容を整理し復習すること
第2回	心身機能と身体構造の概要（1） 人体各部位の名称と方向用語	〃
第3回	心身機能と身体構造の概要（2） 各器官の構造と機能1）	〃
第4回	心身機能と身体構造の概要（3） 各器官の構造と機能2）	〃
第5回	心身機能と身体構造の概要（4） 各器官の構造と機能3）	〃
第6回	健康の捉え方 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	〃
第7回	疾病の概要（1）	〃
第8回	疾病の概要（2）	〃
第9回	疾病の概要（3）	〃
第10回	疾病の概要（4）	理解度を判断しつつ配分を行ない進めていく
第11回	障害の概要（1）	〃
第12回	障害の概要（2）	〃
第13回	障害の概要（3）	〃
第14回	障害の概要（4）	〃
第15回	リハビリテーションの概要 リハビリテーションの概念と範囲	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書だけに依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。
 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連、前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

〔受講のルール〕

初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20％）。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集
 『新・社会福祉養成講座1 人体の構造と機能及び疾病—医学一般』最新版 中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学研究法	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	因果と相関関係、実験法、調査法、観察法、面接法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心理学研究法に関連する問いに容易に解答できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験・調査法・観察法の内容・長所・短所を理解する。

実験手続きのロジックを理解する。

検査法の信頼性・妥当性を理解する。

■授業の概要

本講義では、心理学における研究法としての実験、調査、観察の概要を紹介する。また、その研究方法を用いた比較的名な研究を紹介する。また、授業中に、実験や調査などの実施も行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス 実証 科学と実証
第2回	実験と観察 その長所と短所
第3回	実験的研究の紹介1
第4回	実験的研究の紹介2
第5回	実験的研究の紹介3
第6回	実験的研究の紹介4
第7回	振り返り 実験の用語の整理
第8回	観察的研究の紹介1 調査法
第9回	観察的研究の紹介2 調査法
第10回	観察的研究の紹介3 調査法
第11回	観察的研究の紹介4 観察法
第12回	観察的研究の紹介5 観察法、検査法
第13回	観察的研究の紹介6 検査法、到達テストの告知
第14回	振り返り・到達テストの解説
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

メールによるコメントカードの提出が義務付けられている。開始時に小テストへの回答が求められる場合があるため、早めに着席していることが望ましい。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

小テスト・コメントカードでの評価合計(65%)、到達テスト(35%)。

■教科書

高野 陽太郎・岡 隆(編) 心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし 有斐閣アルマ 2004

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	質問紙、実験レポート、量的データ、質的データ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

調査研究に関する知識・技術を習得し、調査レポートを作成できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

実験、量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得する。

実験・調査レポートを作成できるスキルを身につける。

客観的にレポートを採点できるスキルを身につける。

■授業の概要

心理学実験実習Ⅱでは、質問紙法を利用しての人間理解の方法を学ぶ。その基礎として質問紙の作成に関する項目作成、回答方法選択、フェイスシートの作成および倫理の問題、データ分析について触れる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス
第2回	レポートの構成と書式
第3回	レポートの構成と書式
第4回	記述統計における分析(要約統計量)
第5回	記述統計における分析(要約統計量)
第6回	記述統計における分析(データ処理の実際)
第7回	データマイニング(レシートからの分析)
第8回	データマイニング(レシートからの分析)
第9回	質問紙の作成の仕方
第10回	推測統計による分析(t検定)
第11回	推測統計による分析(t検定)
第12回	推測統計による分析(t検定)
第13回	推測統計による分析(相関分析)
第14回	推測統計による分析(相関分析)
第15回	推測統計による分析(相関分析)

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

PC室もしくはLL教室での課題作成が主体となる。

〔受講のルール〕

事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。各テーマごとにミニ課題、レポートの提出が義務付けられている。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内課題(40%)、レポート(40%)、コメント評価(20%)。

■教科書

鎌原雅彦, 宮下一博, 大野木裕明, 中澤 潤 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房 1998 新しい版を買うこと

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	妥当性と信頼性、知能検査、パーソナリティ検査(質問紙法・投影法・作業検査法)、神経心理学的検査				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

社会福祉士や精神保健福祉士に代表される対人援助職に求められる心理査定に関する基礎的な知識を理解し、代表的な知能検査・パーソナリティ検査等の目的・意義・特徴について説明できるようになること。

〔到達目標〕

- ①心理査定の意義、目的について説明できるようになること。
- ②代表的なパーソナリティ検査、知能検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになること。
- ③事例を読み解く際に、どういった心理査定が必要かについて考えることが出来るようになること。

■授業の概要

心理査定とは「個人に対して何らかの課題を与え、それに対する解答や反応をもとに、その人の心理的特性を測定する行為」と定義される。本講義では「信頼性・妥当性が確かめられた検査を使用して個人差を測定する行為」と捉え、実際に相談機関等で使用される知能検査やパーソナリティ検査を用いて、①基礎的な情報の説明 ②心理検査の実施と採点 ③解説 ④振り返りとレポート課題の構成で講義を進める予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、パーソナリティ検査(1) 質問紙法①主要5因子性格検査
第2回	信頼性と妥当性(1) 総論:全体的な解説
第3回	" (2) 演習:レポート課題を用いた討議
第4回	知能の測定(1) グッドイナフ人物画知能検査
第5回	" (2) 知能検査の歴史と理論的背景
第6回	" (3) ウェクスラー式知能検査①
第7回	" (4) " ②
第8回	" (5) ビネー式知能検査
第9回	パーソナリティの測定(2) 総論
第10回	" (3) 質問紙法②Y-G性格検査、MMPI、TEG-II
第11回	" (4) 投影法(ロールシャハテスト、SCT、P-Fスタディ、バウムテスト)
第12回	" (5) 作業検査法(内田クレペリン精神運動検査)
第13回	症状の測定(1) ストレスチェックリストと関連した検査について
第14回	" (2) 神経心理学的検査(Rey-Osterrieth複雑図形、MMSEとHDS-R、時計描画テスト)
第15回	心理査定の倫理とフィードバック

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・検査課題の実施とそれを用いたグループワークが基本となるため、遅刻欠席の連絡を厳密に行うこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

検査に関するレポート課題や授業内で実施した検査の報告書の作成を課題として課すため、図書館・コンピューター室の利用が可能な状態にしておくこと。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

課題の提出:35%、課題内容の評価および授業内課題の評価:65%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

配布資料および実際の心理検査を用いる。

■参考書

下山晴彦(編):「よくわかる臨床心理学[改訂新版]」ミネルヴァ書房 2009.

科目名	心理療法	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神分析的アプローチ、行動療法的アプローチ、来談者中心療法的アプローチ、システムズアプローチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

社会福祉士や精神保健福祉士に代表される対人援助職に求められる心理療法に関する基礎的な知識を理解し、事例への適用について考察することができるようになること。

〔到達目標〕

- ①代表的な心理療法の理論的背景と治療観、効用と限界について説明できるようになること。
- ②「～療法」「～的アプローチ」といった言葉から、そこで行われる働きかけについて考察できるようになること。
- ③それぞれの心理療法の特徴的な技法について説明できるようになること。

■授業の概要

心理療法は、臨床心理学の知見を応用した援助技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴的な技法が存在する。本講義では「心理療法が実施できるようになること」ではなく、これまでの講義で学んできた「心理療法に関する理解」を深め、対人援助職を目指す/対人援助職として活躍する中で、知識を活用できるようになることを目指す。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約
第2回	基礎となる3つの考え方 (1) 精神分析療法
第3回	〃 (2) 行動療法
第4回	〃 (3) 来談者中心療法
第5回	エビデンスを重視する心理療法 (1) 認知療法
第6回	〃 (2) 認知行動療法
第7回	個人ではなくシステムに働きかける (1) システムズアプローチと家族療法
第8回	〃 (2) 家族療法の技法とその実際
第9回	『ことば』に頼らない心理療法 (1) 遊戯療法
第10回	〃 (2) 表現療法・箱庭療法・コラージュ療法
第11回	日本で生まれた心理療法 (1) 森田療法
第12回	〃 (2) 内観療法
第13回	技法に特徴を持つ心理療法 (1) プリーフセラピー/短期療法
第14回	〃 (2) EMDRによるトラウマの治療
第15回	集団に対する心理療法の適用

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・事前学習とそれをういたグループワークが基本となるため、遅刻欠席の連絡を厳密に行うこと。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる事前学習をレポート課題として課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

豆テストへの参加および課題提出:35%、授業外/授業内課題の評価:35%、定期試験:30%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

乾吉佑ほか(編著)「心理療法ハンドブック」創元社 2005.

■参考書

下山晴彦(編):「よくわかる臨床心理学[改訂新版]」ミネルヴァ書房 2009.

科目名	数学概論	担当教員 (単位認定者)	星野 吉也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	小学校における数概念・図形概念の指導原理、集合論〔有限集合と無限集合、関数、集合と論理〕、ブール代数、群・環・体の公理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

算数教育の背景となる数学の基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方の指導の基礎となる集合・論理に関する理解を深め、小学校教師としての基本的知識・技能を養うことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①算数指導の基本原則を理解し、算数指導に役立てることができる。
- ②算数における記号活用の意義や方法を理解し、それらを算数の指導に活用できる。
- ③ものの集まりとしての集合の概念を理解し、論理的な推論ができる。
- ④無限の概念を理解し、これを数直線や曲線の本質の理解に活用できる。
- ⑤数学の基礎的知識を理解し、教員採用試験（一般）の解答に役立てる。

■授業の概要

テキスト「数学概論」に基づいて、小学校算数教育の背景となる数学の内容について講義をし、数学に関する基礎的な知識理解を深めるとともに、算数指導法の基盤となる内容の基本的な理解を深める。授業中は、テキストに書かれた講義内容や課題について考え、その結果や講義内容をテキストの空白や自由記録ノートに書き、学期末のレポートの提出に備える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、後期の学習内容や学習上の留意点について、数の概念形成過程等について
第2回	2. 講義・演習 ○数学指導原理
第3回	3. 講義・演習 ○数学の諸概念と集合
第4回	4. 講義・演習 ○集合とその演算に関する基礎的知識
第5回	5. 講義・演習 ○集合と論理展開 ・ブール代数
第6回	6. 講義・演習 ○数学の演繹的証明法1
第7回	7. 講義・演習 ○数学の演繹的証明法2
第8回	8. 講義・演習 ○命題と間接証明法
第9回	9. 講義・演習 ○命題に関する実用問題
第10回	10. 講義・演習 ○無限集合と濃度
第11回	11. 講義・演習 ○すべての線分は半直線と対等等
第12回	12. 講義・演習 ○群の公理とその意義
第13回	13. 講義・演習 ○環の公理と数の構造
第14回	14. 講義・演習 ○環・体と算数における数と計算の構造
第15回	15. 講義・演習 ○まとめ、形成的評価

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・三角定規、コンパス、ハサミ及び、USBメモリーは、常に持参すること。
- ・毎時間テキスト「数学概論」を持参すること。
- ・講義は、小学校の授業を想定し、授業の前後は起立・礼をし、受講中は私語を慎み、積極的な受講態度を求めます。課題の解答を積極的に発表しよう。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・毎時間テキストに課題があり、その解答も講義中に説明するので、板書等を記録し復習に役立てよう。
- ・教員採用試験問題に関する資料を配付するので、これに市販の参考書などを参考にして教員採用試験の準備をしておこう。

■オフィスアワー

質問・要望は毎時間の最後に配布する「学習カード」に記入し、後日回答します。また放課後、1階の講師室でも説明可能。

■評価方法

- 毎時間の学習ノートを含むレポート（60%）
- 授業への積極性（発言・質問の内容・回数等）（20%）
- 数学に関する形成的評価（20%）

■教科書

※基本的には配布したテキスト「数学概論」と「補充配付資料」を中心に進めます。

■参考書

- テキスト「数学概論」〔講師著作 オリエンテーションで配布〕
- 文部科学省検定済算数教科書〔講師持参〕

科目名	生活科概論	担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自然(植物・生きもの・気象) 行事 文化				

■授業の目的・到達目標

身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。

■授業の概要

四季をとおしての自然と行事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス:生活科とは 生活科のめざすものと内容
第2回	身近な自然と文化のとらえ方 「ドリル」をやってみよう
第3回	春の自然と文化: 「生活科ずかん」作成にあたっての調べ方と諸注意について解説する。
第4回	春の自然と文化: 春の植物・生き物について解説する。
第5回	春の自然と文化: 春の気象・あそび //
第6回	春の自然と文化: 春の行事 //
第7回	夏の自然と文化: 夏の植物・生き物 //
第8回	夏の自然と文化: 夏の気象・あそび //
第9回	夏の自然と文化: 夏の行事 //
第10回	秋の自然と文化: 秋の植物・生き物 //
第11回	秋の自然と文化: 秋の気象・あそび //
第12回	冬の自然と文化: 冬の行事 //
第13回	冬の自然と文化: 冬の植物・生き物・気象 //
第14回	冬の自然と文化: 冬の行事 //
第15回	日本の文化: 日本の文様の意味 //

■受講生に関わる情報および受講のルール

『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。

- ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。
- ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。
- ・計画的に製作を行うこと。
- ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること(コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など)

■授業時間外学習にかかわる情報

授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物(『生活科ずかん』)(70%)・・・各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそび を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。 授業への取り組み方(30%)・・・発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。

■教科書

授業内で適宜紹介する。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	青少年の理解と援助	担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	青少年と現代社会の問題点、教えることと学ぶこと、家庭教育と学校教育、少年期と青年期				

■授業の目的・到達目標

現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、最近の事件をテーマにした話し合いを通して、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら、青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。

■授業の概要

不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・キレる青少年・親殺しなどといったことが社会現象になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育、地域社会教育の実態について教育的視点から分析し、わかりやすく概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方を説明する。
第2回	青少年と教育の現状について。
第3回	教育学の復習：教育とは何か。教えることの意味について。
第4回	学習の意味。
第5回	青少年の人間形成の過程。
第6回	青少年の教育環境。
第7回	DVD鑑賞『禁じられた遊び』
第8回	家庭教育の限界と学校の成立。
第9回	少年期とは。
第10回	少年のころとは：無邪気に遊ぶことの意味。
第11回	青少年の事件簿について話し合う。
第12回	DVD鑑賞『理由なき反抗』（前編：アメリカの青少年の問題）
第13回	DVD鑑賞『理由なき反抗』（後編：青少年の心と大人の反応）
第14回	青年期とは。
第15回	青少年の理解援助のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し授業態度を評価するので、積極的な授業参加や鋭敏な反応を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から青少年に関する事件や情報、文化活動、社会活動等に興味関心を示す態度で生活すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版、2008

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	精神障害者の生活支援システム	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	地域生活支援				

■授業の目的・到達目標

これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の生活支援に焦点をあて意義と特徴について包括的に理解する。

■授業の概要

精神障害者の居住支援、就労支援、相談支援活動を精神保健福祉士の係わりを通して理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	精神障害者の概念
第3回	パラダイムの転換としての一般性
第4回	精神障害者の生活の実際
第5回	地域生活支援システムの概念
第6回	精神障害者の自立と社会参加のための生活支援システム
第7回	相談支援援助
第8回	ソーシャルサポートネットワーク
第9回	クライシスケアシステム
第10回	居住支援①
第11回	居住支援②
第12回	雇用・就労支援①
第13回	雇用・就労支援②
第14回	行政における相談援助①
第15回	行政における相談援助②

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)小テスト、国家試験模擬問題を適宜行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

精神保健福祉の外部情報も連絡する。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他放課後6時過ぎ

■評価方法

試験・レポートによる評価(100%)。

■教科書

(注意)中央法規出版 精神障害者の生活支援システム

■参考書

授業時に指示する。

科目名	精神保健福祉援助実習	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士・精神障害者の理解・アイデンティティ				

■授業の目的・到達目標

- ①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活をするを具体的に理解および把握し、援助実践の具体的な技術を体得する。
- ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を修得する。
- ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は原則として「精神保健福祉士法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。

- ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。
- ②精神保健福祉の学習および実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。
- ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。
- ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。
- ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

■実習上の注意

- ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園 2012を参照し、遵守すること。
- ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を十分に事前学習すること。
- ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。

〔実習中止の措置〕

群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則による。

- ①重大なルール違反（実習先就業規則ならびにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権の侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により精神保健福祉援助実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為をおこなったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習施設・機関の長または実習指導者より精神保健福祉援助実習中止の申し出があったとき。
- ⑦実習担当教員が実習生に行った指摘および指導に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑧その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- ①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合的評価（40%）
- ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%）
- ③実習記録（10%）
- ④実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（15%）
- ⑤実習報告書（10%）
- ⑥その他事前提出の実習計画書および事後提出の実習関係書類の内容および提出状況（10%）

注意1: 実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。

注意2: 精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者の理解、精神保健福祉実習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。
- ②学習をとおして精神疾患を抱えている人間を理解する。
- ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。
- ④精神保健福祉としてのアイデンティティを明確にする。
- ⑤実習の意義について考え、理解する。

■授業の概要

実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立めざす。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	本講義のオリエンテーション
第2回	各実習先種別の学習 ① 精神科医療機関
第3回	各実習先種別の学習 ② 精神科医療機関
第4回	各実習先種別の学習 ③ 精神科医療機関
第5回	各実習先種別の学習 ④ 障害福祉サービス事業所
第6回	各実習先種別の学習 ⑤ 障害福祉サービス事業所
第7回	各実習先種別の学習 ⑥ 障害福祉サービス事業所
第8回	各実習先種別の学習 ⑦ 行政機関
第9回	各実習先種別の学習 ⑧ 行政機関
第10回	各実習先種別の学習 ⑨ 行政機関
第11回	各実習先種別の学習 ⑩ その他
第12回	倫理と秘密保持について ① 精神保健福祉士の倫理綱領
第13回	倫理と秘密保持について ② 精神保健福祉士の倫理綱領
第14回	自らの課題検討
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。
 - a遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。
 - b無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。
- ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。
- ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。
- ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。
- ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

3年生春休み期間中に精神科病院事前見学実習を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ②授業時間外の日常生活での、自己覚知に積極的に取り組むこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み(授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況) 25%
- ② 授業レポート(内容および提出状況含む) 35%
- ③ 定期試験および課題レポート 40%

■教科書

新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習」第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2015 及び「精神保健福祉援助演習(基礎・専門)」日本精神保健福祉士養成校協会 編集 中央法規出版 2012 / 実習へのガイドブック(学生用) 社会福祉相談援助実習 精神保健福祉援助実習 群馬医療福祉大学 2015 / 実習生必携ソーシャルワーク実習ノート 杉本浩章・田中和彦・中島玲子 みらい 2011

■参考書

「相談援助演習」 社会福祉シリーズ編集委員会編 弘文堂 2008 その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	担当教員 (単位認定者)	鈴木 秀夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	精神保健福祉相談援助の基盤				

■授業の目的・到達目標

精神保健福祉と社会福祉の共通点・相違点を明確にし、国家試験受験資格が取得できる福祉系の大学の特色を生かし福祉の多方面の視点を養う。ここでは精神保健福祉の基本を忠実に学ぶ。

■授業の概要

総合的かつ包括的相談援助の理念と方法に関する知識と技術と精神科医療との協働・連携する方法に関する知識と技術を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション	体験学習①
第2回	精神保健福祉士制度の歩み	体験学習②
第3回	精神保健福祉の専門性	体験学習③
第4回	精神障害者理解、精神医学的見方から	体験学習④
第5回	相談援助の定義、相談援助活動の定義と概念	
第6回	エンパワメントとリカバリー	
第7回	相談援助における権利擁護の概念と範囲	
第8回	ソーシャルワークの源流と形成過程	
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	
第10回	イギリスでの展開、アメリカでの展開、日本での展開	
第11回	精神保健福祉分野における相談援助活動の現状と今後の課題	
第12回	精神保健福祉士の概念	
第13回	総合的・包括的援助を支える理論	
第14回	総合的・包括的援助の機能と概要	
第15回	多職種連携(チームアプローチ)の意義と概要	

■受講生に関わる情報および受講のルール

精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の学生は必ず履修すること。(授業中に予備知識、技能上のポイント、学習面の助言が多い)

内容理解には遠慮なく質問し、精神保健福祉の特殊性を体感すること。

原則として毎回小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

適宜、外部情報も連絡をする。

■オフィスアワー

水・金の空き時間の他、放課後6時過ぎ。

■評価方法

試験・レポートによる評価(100%)。

■教科書

精神保健福祉相談援助の基盤「基礎」「専門」 へるす出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	生徒指導論	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	生徒指導論				

■授業の目的・到達目標

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的な資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について個別学習（予習課題）や話し合いや講義やグループ協議等をとおして、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、話し合い学習法①、生徒指導の意義と課題①（生徒指導の目的と必要性）	予習課題
第2回	生徒指導の意義と課題②（生徒指導の領域・内容、生徒指導の今日的課題）	予習課題
第3回	生徒指導と教育課程との関連①（生徒指導と教科との関連）	予習課題
第4回	生徒指導と教育課程との関連②（生徒指導と道徳・特別活動との関連）	予習課題
第5回	生徒指導の原理（生徒指導に関する人間観）	予習課題
第6回	生徒指導の組織と計画	予習課題
第7回	児童生徒理解の考え方	予習課題
第8回	児童生徒理解の方法	予習課題
第9回	生徒指導の方法①（集団指導の意味と意義、集団指導の形態）	予習課題
第10回	生徒指導の方法②（集団活動の指導、集団の評価、集団指導の観点）	予習課題
第11回	生徒指導の方法③（個別指導、教育相談の意義と目的、学校教育相談の特質）	予習課題
第12回	いじめ問題の基本的理解（いじめの定義、形態、実態、事例の考察）	予習課題
第13回	いじめ問題の指導の在り方、いじめの予防対策	予習課題
第14回	進路指導の目的と内容（目的、定義、進路指導の分野と内容、進路情報、進路相談、啓発的体験等）	予習課題
第15回	まとめ	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。状況によっては、退席を求めます。班編成をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％）、予習課題の予習状況（10％）、自己達成度評価（10％）を総合して評価します。

■教科書

江川政成編 生徒指導の理論と方法 三訂版 学芸図書株式会社 定価 1,200 円+税

■参考書

文部科学省 生徒指導提要 教育図書株式会社 定価 290 円

科目名	青年心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アイデンティティ、第二次性徴、ジェンダー・アイデンティティ、チャムシップ、道徳性、ロストジェネレーション他				

■授業の目的・到達目標

単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを大きな目的とする。

■授業の概要

子どもとおとなの間であって、そのどちらにもなれない青年期。この数年間のあり方は、その後の人生を左右するのと同時に、それまでの人生の意味を決定する時期ともなる。人生の十字路口というのにふさわしいこの時期、何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのか。授業では、青年期に大きく浮かび上がる様々なテーマを「問い」の形で整理しながら、その一つ一つについて、青年心理学の知見を通して学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、授業の目的、進め方等について、大学生が考える「青年らしさ」について
第2回	アイデンティティ
第3回	身体の発達：からだどころ
第4回	青年の自立：家族との関係
第5回	友人関係の発達
第6回	恋愛・結婚
第7回	道徳性の発達
第8回	青年の死生観
第9回	青年期と精神疾患
第10回	生きがい感とアイデンティティ
第11回	アイデンティティと物語：アメリカ小説などを手がかりに
第12回	青年と文化：特に大学生を中心に
第13回	ロストジェネレーションから青年期を考える：働くことと青年
第14回	物語を通して見る青年の人格の変容
第15回	青年と危機：そして、その向こう側へ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる上方〕

ある知識を「覚える」科目というより、「理解」し、「問い直す」ための視点を提供することが中心となる。考えることや振り返ることが多いので、自己と自分が生きる世界について考えることに興味がある学生に受講をしてもらいたい。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じます。その場合は、欠席扱いとします。
- ・評価方法にある通り、5回程度小レポートや感想文を課します。それぞれ評価の対象となりますので、必ず提出してください。
- ・受講においては積極的な授業参加と授業準備に心がけること。

■授業時間外学習にかかわる情報

指示がない場合は、シラバスに基づき教科書中の、次回該当部分を予習すること。多くの物語や映画を提示するので、各自参照すること。課題がある場合は、次の授業までに提出すること。

■オフィスアワー

2号館キャリアサポートセンターにて在室中に声をかけてください。

■評価方法

- ・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点 60～69点:C 70～79点:B 80～89点:A 90点以上:S
- ・期末試験（レポート）70%、小レポート・感想文等提出物 30%（30÷提出回（予定5回）=1提出物得点（1回6点満点；提出により得点））

■教科書

宮下一博監修（2009） ようこそ！青年心理学 ナカニシヤ出版

■参考書

適宜指示

科目名	相談援助演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	川端奈津子・富澤一央・柳澤 充・ 松永尚樹・宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	自己覚知、他者理解、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレスに着眼した援助を行うとともに、家族や近隣、地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネリックソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を通して学ぶことを目的とする。また、本演習によって相談援助実習等と理論との融合を目指し、実習において必要な知識・技術の基礎を理解し、説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①福祉専門職として、自己覚知することの重要性を理解し、説明できる。
- ②価値観の多様性について知るとともに、他者を理解するための方法論を学び、援助技術の活用の仕方を説明できる。
- ③言語的及び非言語的コミュニケーションについて理解し、福祉専門職として他者との関わり方を想定して行動することができる。

■授業の概要

相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 相談援助演習の意義・目的及び位置づけ、授業の進め方、授業に参加する上での注意事項
第2回	社会福祉の基本的姿勢・定義(IFSWSのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等)
第3回	社会資源の理解、社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握
第4回	自己覚知 自己概念を学ぶ
第5回	自己覚知 ジェノグラム 自分のルーツ家族関係
第6回	自分の性格の把握
第7回	自己開示、他者理解
第8回	他者理解 共感と同情の違い
第9回	多様な価値観
第10回	コミュニケーション技法(1) コミュニケーションの基本
第11回	コミュニケーション技法(2) 言語的コミュニケーションの特徴
第12回	コミュニケーション技法(3) 言語的コミュニケーション コミュニケーションスタイル
第13回	コミュニケーション技法(4) 非言語的コミュニケーションの特徴
第14回	コミュニケーション技法(5) 非言語的コミュニケーションの観察
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- (1) 履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。
- (2) 学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。
- (3) 予備知識や技能 「相談援助の基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。

■授業時間外学習にかかわる情報

演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。

■オフィスアワー

各教員より授業時に伝える。

■評価方法

試験またはレポート(40%)、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み(60%)。

■教科書

社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂

■参考書

社会福祉六法(出版社は問わない)、社会福祉用語辞典(「相談援助の基盤と専門職」にて指定されたもの)

科目名	相談援助実習	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会福祉士 専門職の倫理 施設・機関の役割 支援方法 他職種連携 記録				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔到達目標〕

- ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。
- ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。
- ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。
- ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。
- ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。
- ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。
- ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。
- ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。
- ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。
- ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。

■実習履修資格者

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。

相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。

- 1 将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者
- 2 社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者
- 3 健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者
- 4 3年次までに哲学、倫理学、道徳教育研究、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育研究、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者）
- 5 3年次において専門演習Ⅰ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（編入生においては、4年次に専門演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者）
- 6 社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目における出席状況及び授業態度が良好な者
- 7 ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者
- 8 相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者
- 9 相談援助実習資格試験に合格している者
- 10 学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者

■実習時期及び実習日数・時間

相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。

相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。

実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。

■実習上の注意

群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準及び実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

〔相談援助実習中止の措置〕

相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。

- 1 重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき
- 2 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき
- 3 心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき
- 4 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき
- 5 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 6 実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき
- 7 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき
- 8 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%）

②実習施設の概要の記載内容（10%）

③相談援助実習記録の記載内容（15%）

④実習のまとめの記載内容（10%）

⑤実習報告書の記載内容（10%）

⑥その他提出物の提出状況（15%）

※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。

※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	富澤一央・柳澤 充・松永尚樹・ 宮本雅央・久田はづき	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	相談援助実習 社会福祉士 根拠法令 施設・機関の役割				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

- ①相談援助実習の意義について理解する。
- ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔到達目標〕

- ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。
- ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。
- ③相談援助実習資格試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。
- ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。

■授業の概要

相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション(シラバス説明、授業方法及び留意事項・相談援助実習資格履修試験について)
第2回	相談援助実習の意義と目的の理解
第3回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解(社会福祉士に求められる職業倫理)
第4回	実習先機関・施設の理解(行政機関)
第5回	実習先機関・施設の理解(行政機関)
第6回	実習先機関・施設の理解(社会福祉協議会、地域包括支援センター)
第7回	実習先機関・施設の理解(高齢者施設)
第8回	実習先機関・施設の理解(高齢者施設)
第9回	実習先機関・施設の理解(児童福祉施設)
第10回	実習先機関・施設の理解(児童福祉施設)
第11回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設)
第12回	実習先機関・施設の理解(障害者支援施設、医療福祉関連施設)
第13回	実習先機関・施設の理解(その他の機関・施設)
第14回	事前学習の意義・目的・方法の理解(実習先希望調査票の提出)
第15回	実習開始までの取り組み(まとめ、レポート課題) 相談援助実習資格試験

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない(公欠を含む)。
- ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。
- ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学(027-253-0294)に連絡を入れること。
- ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉実習部会で対応を協議する。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。

■オフィスアワー

各実習担当教員により異なるため、各教員に確認すること。

■評価方法

相談援助実習資格試験(20%)、課題やグループワークへの取り組み(50%)、提出物の提出状況及びその内容(30%)を総合して評価する。但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない。

■教科書

「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

■参考書

福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版 / 社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料

科目名	相談心理学	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	被援助志向性、援助者の心理、生涯発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

対人援助職/対人援助を学んだ1人の個人として、相談援助場面(受ける/行う)で求められる心理学的知識を学ぶ。

〔到達目標〕

- ① これまでに学んだ心理学、定型発達/発達の異常に関する知識を、相談援助に応用するための知識を得る。
- ② 相談援助における困難場面への対応方法の一般原理に関する知識を得る。
- ③ 相談援助場面や生活場面においてサービスを提供する側/受ける側として、相談援助に基づく配慮と工夫について説明できるようになる。

■授業の概要

相談援助場面で「相談を受ける/相談を行う」際の心理学について、これまで学んできた異常心理学・心理査定・心理療法といった本学における臨床心理学領域の集大成としての位置づけを持つ講義として、架空/公開済の相談事例や場面を設定し、援助を行う者/援助を受ける者の関係の中で生じるさまざまな現象について、講義と演習を通じて紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約	
第2回	相談援助場面における二者関係(相談する側/相談される側)	
第3回	発達段階による相談への対応	(1) 幼児期~児童期:発達と不適応の相談
第4回	"	(2) 思春期:身体の成熟に伴う相談とその対応
第5回	"	(3) 青年期①:アイデンティティの模索に伴う相談とその対応
第6回	"	(4) " ②:パートナーシップに関する相談とその対応
第7回	"	(5) 成人期①:妊娠・出産に関する相談とその対応
第8回	"	(6) " ②:父性/母性に関する心理とその相談
第9回	研究課題発表①	
第10回	相談関係における難しい場面への対応 (1) 相手が『なんとなく合わない/妙に合う』の心理	
第11回	"	(2) どこまでが『援助者としてすべきこと』なのか
第12回	"	(3) その苦情/願いは『モンスター』か
第13回	"	(4) 相談場面という『密室』で自分の身を守る
第14回	"	(5) 画面越しの相談はなぜ難しいのか
第15回	研究課題発表②	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・原則として「臨床心理学」または「カウンセリング」を受講済の学生のみを対象とする。
- ・それ以外の受講希望者は事前に教員に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で紹介した書籍や映像作品、報道されたニュース等については確認する習慣を作ること。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

授業内での課題提出 35%、授業内での発表等の相互評価 25%、研究課題発表 40% (各 20%)。

■教科書

なし(講義内でトピック等をまとめた資料を配布)

■参考書

各回ごとに適宜紹介。

(例) 岡野憲一郎(編):女性心理療法家のためのQ&A 星和書店 2007.

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	専任教員	単位数 (時間数)	6 ()
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	卒業研究				

■授業の目的・到達目標

大学での学習の集大成として、自身の専門領域に関する研究を行い、各自の専門性を高める。

■授業の概要

卒業研究は各自が特定のテーマを決め、それについて調査等を行い、資料や文献を集め、学識を深めることを目的とし、最終的に論文としてまとめることになる。なお、研究目的、方法、結果等を述べ、先人の業績や意見と自分のそれを比較して論ずるので、単なる事例報告は認められないので注意すること。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	卒業研究であるので、個別的に指導を行う。卒業研究を担当できる教員は社会福祉学部所属の専任教員である必要があるため、3年次に各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトを取り、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し、十分な指導を受けること。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ① 3年生は各自の研究課題などを考慮し、指導を受けたい担当教員とコンタクトを取り、研究内容と指導方法等について十分に話し合うこと。
- ② 4年生は適宜指導を受け、指導教員の指示の通り、論文（またはそれに代わるもの）を作成すること。論文の場合は、最終提出は後期終了日までとし、原稿用紙20枚以上の論文を作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

最終的に提出された論文（またはそれに代わるもの）の内容によって評価します。（100％）

■教科書

必要に応じて紹介する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	体育概論	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	体育の特性、学習指導要領、発育・発達、体力、生活、運動指導、安全、保健				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

初等科体育の教材研究と授業の基礎・基本を学び、実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①生涯スポーツの基礎づくりになる理論と実技を理解する。
- ②児童の発達段階に応じた教材の特性と内容を身につける。
- ③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導・助言がおこなえる。

■授業の概要

体育を教えるための基礎的な理論と知識を学習し、学習指導要領の学習内容に応じた実技を指導するために必要な知識と技能指導の基礎的動作を学習する。また、児童が各種の運動に親しみ自ら進んで体力を高めることができるような工夫を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 体育の特色(概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法と学校体育)
第2回	学習指導要領の読み方(概要、改訂の主旨、体育の目標)
第3回	発育・発達(発育の概要、運動機能の発達、運動指導)
第4回	小学生の体力(体力の理解、児童期の体力要素、運動手段、体力測定評価)
第5回	子どもの生活(環境の変化、運動、栄養、休養、生活リズム)
第6回	小学生に対する運動指導(発達の視点に立つ構成要素、運動技能の捉え方、練習・指導、好き嫌い)
第7回	子どもの安全(学校安全、体育活動時における安全)
第8回	保健(毎日の生活と健康、育ちゆくからだと私、心の健康、けがの防止、病気の予防)
第9回	体づくり運動(体づくり運動とは、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、体力を高める運動)
第10回	器械運動(基本の動き、器械・器具を使つての運動遊び、器械運動)
第11回	陸上運動(基本の動き、走の運動、跳の運動)
第12回	水泳(基本の運動、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳)
第13回	ボール運動(ゴール型、ネット型、ベースボール型)
第14回	表現運動(表現リズム遊び、表現運動)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関する情報〕

- ・前半は講義、後半は実技を中心とする。
- ・水泳は夏季集中講義で実施する。
- ・運動着、運動靴の準備をする。
- ・実技でもメモの用意をする。

〔受講のルール〕

- ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。
- ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。

■授業時間外学習にかかわる情報

小学校のボランティア活動を積極的に実施、野外活動やプール指導等で、子ども達の状況を理解しておく。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験・レポート(50%)実技試験(50%)の総合評価。

■教科書

文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編：東洋出版社平成20年 高島二郎：小学校体育：玉川大学出版：平成27年

■参考書

下山伸二：体育の教科書：山と溪谷社：平成23年

科目名	地域子育て支援論	担当教員 (単位認定者)	真下 潔	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子育て支援 社会的支援				

■授業の目的・到達目標

子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。

■授業の概要

テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	子育て支援の理念
第3回	子育て支援の歴史文化的諸相
第4回	幼稚園における子育て支援の取り組み
第5回	幼稚園による地域の子育て支援
第6回	保育所における子育て支援
第7回	子育てセンターの活動と課題
第8回	事例検討
第9回	地域子育て支援活動1
第10回	地域子育て支援活動2
第11回	子育て支援の効果
第12回	父親の子育て支援活動
第13回	事例検討
第14回	子育て支援活動の展望と課題
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・教科書を必ず持参すること。
- ・予習復習を行うこと。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業のなかで適宜伝える。

■オフィスアワー

授業のなかで伝える。

■評価方法

期末試験 80% 授業への取り組み 20%

■教科書

子育て支援プロジェクト研究会編「子育て支援の理論と実践」 ミネルヴァ書房

■参考書

授業のなかで必要に応じて伝える。

科目名	知的障害教育Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知的障害 歴史的背景 教育課程 個別の教育支援計画 生活単元学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。

〔到達目標〕

- ①知的障害児の特性について理解できる。
- ②知的障害教育の基本的な教育課程や考え方、指導形態、指導方法などが理解できる。
- ③特別支援学校学習指導要領について理解できる。

■授業の概要

授業を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、学習指導要領の変遷、知的障害教育の歴史や現状について学習することにより、知的障害教育について幅広く理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション	知的障害児とは
第2回	知的障害児の心理と行動傾向について	発達障害について
第3回	知的障害教育の歴史	学習指導要領の変遷について
第4回	法に基づく障害児教育について	学習指導要領について
第5回	知的障害児の教育課程について	
第6回	教科別の指導について	
第7回	教科別の指導について	
第8回	領域・教科を合わせた指導について	①日常生活の指導 ②遊びの指導
第9回	領域・教科を合わせた指導について	③生活単元学習
第10回	領域・教科を合わせた指導について	④作業学習 他
第11回	自立活動について	6領域
第12回	特別支援学校について	知的障害 授業 知的障害教育
第13回	個別の教育支援計画	個別の指導計画について
第14回	学校卒業後の進路問題について	
第15回	知的障害児の教育の展望と課題について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害特別支援学校の現地視察ができれば、授業の一環として計画する。実施できない場合は各地の特別支援学校の実態を資料をとおして知る。
- ②講義の回数に応じて授業内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。
- ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。
- ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

特別支援学校の見学など、授業の一環として可能であれば実施する。

■オフィスアワー

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。

■評価方法

- ①発表（取り組みと内容）20%
- ②レポート（内容、適切さ）30%
- ③筆記試験（客観 論述）50%

■教科書

本保恭子、中内みさ他：「知的障害児の教育 第2版」 大学出版 2010

■参考書

- ①文部科学省：「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領」 海文堂出版 2009
- ②文部科学省：「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」教育出版 2009
- ③文部科学省：「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部）」海文堂出版 2009
- ④特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」海文堂出版 2009

科目名	知的障害教育Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	アヴェロンの野生児 領域・教科を合わせた指導 ことば・文字・数 見本合わせ学習 教材・教具				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している実態を考慮しながら、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習概要を理解できる。個々の障害児の学習法について考察できる。

〔到達目標〕

- ①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子を知る。
- ②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。
- ③特別支援教育の学習の仕方が理解できる。

■授業の概要

知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに知的障害児には難しいと言われている教科的な学習についてもその実践事例をとおして理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することで知的障害教育の理解を深め、今後の知的障害教育の在り方について考察する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 知的障害教育Ⅰの復習 他
第2回	知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①
第3回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②
第4回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ③
第5回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ④
第6回	領域・教科を合わせた指導①
第7回	領域・教科を合わせた指導②
第8回	知的障害児の教材・教具見学
第9回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」①
第10回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」②
第11回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」③
第12回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」④
第13回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑤
第14回	テキスト「<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法」⑥
第15回	知的障害児の教育の可能性と展望について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害児の指導している現場の視察ができれば、授業の一環として計画する。できない場合は学習に使う教材・教具の見学をし、考察を行う。
- ②講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。
- ②予習、復習は必ず行うこと。
- ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

知的障害児の学習で使用している教材・教具を実際に参観する機会をもちたいので日程調整を行う予定あり。

■オフィスアワー

質問等あれば授業終了後に、またはコメントカードに記載有れば次回以降に対応。

■評価方法

- ①レポート（内容、適切さ）40%②筆記試験（客観 論述）60%

■教科書

進 一鷹:<ことば・文字・数>基礎学習の教材づくりと学習法 明治図書 2005

■参考書

授業内で適宜対応する。

科目名	知的障害者の生理・病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防、支援方法				

■授業の目的・到達目標

- ①知的障害者（児）をきたす疾患について説明することができる。
 ②知的障害者（児）の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

知的障害者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	周産期に生じる脳障害
第3回	染色体異常
第4回	先天性風疹症候群
第5回	二分脊椎
第6回	脳炎、髄膜炎
第7回	先天性代謝異常
第8回	頭部外傷、脳血管障害
第9回	てんかん
第10回	先天性筋ジストロフィー
第11回	胎児性アルコール症候群、水俣病
第12回	発達障害総論
第13回	自閉症
第14回	注意欠陥多動性障害、学習障害
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（80%）、ノート（20%）。

■教科書

なし

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	中学校教育実習（社会科）	担当教員 (単位認定者)	江原 京子	単位数 (時間数)	4 (120)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	教育実習本実習、教員採用試験対策講座、教科または教職に関する科目、教員免許状				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をととして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。

〔到達目標〕

- 1 中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる知識・技能・態度を修得する。
- 2 教科指導や生徒指導などの教育実践をととして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者

- 1 将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
- 2 教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
- 3 健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
- 4 実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。
- 5 ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
- 6 3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
- 7 1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
- 8 4年次に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

■実習時期及び実習日数・時間

原則として当該学年の6月中に、120時間（3週間）の実習を行う。

※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■実習上の注意

- 1 実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと
- 2 実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること
- 3 「教育実習記録」は毎日記録し、特別な理由がない限り、その日のうちに指導教員へ提出すること。実習終了後、本学実習指導教員に提出すること
- 4 授業研究を充分に行い、授業に臨むこと
- 5 実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること
- 6 実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること

【実習中止の措置】

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者
- 2 実習上の注意（1～6）が守れない者
- 3 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき
- 4 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき

■評価方法

- 1 実習中における実習状況・内容の報告（10%）
- 2 実習校の評価（50%）
- 3 教育実習の記録の評価（40%）

科目名	重複障害教育総論	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	重複障害 重度・重複障害 ヘレン・ケラー 視覚・聴覚障害 人間行動の成り立ち 行動の自発				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

(重度)重複障害児の実態の理解、重複障害教育の理解、個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが理解できる。

〔到達目標〕

- ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。
- ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。
- ③重複障害児の実践事例を読み込んで学習の方法が理解できている。

■授業の概要

(重度)重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例から考察する。そして、(重度)重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション(重度・重複障害児とは。重複障害児の世界について理解する)
第2回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その1)
第3回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その2)
第4回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その3)
第5回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その4)
第6回	重複障害教育の実践事例検討① ヘレン・ケラーのケース(その5)
第7回	(重度)重複障害児の理解 実地見学
第8回	重複障害教育の実践事例検討② Y盲学校における指導事例
第9回	重複障害教育の実践事例検討③ G盲学校における指導事例
第10回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その1)
第11回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その2)
第12回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その3)
第13回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その4)
第14回	重複障害教育の実践事例検討④ 重度・重複障害児の指導(その5)
第15回	重複障害教育の展望と課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①知的障害教育Iの受講済みであることが望ましい。
- ②重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児を理解する。

〔受講のルール〕

- ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。
- ②資料の配付は予備がないので欠席者は出席者からコピーをもらうなど対応すること。
- ③将来自分が重複障害児の担任になったつもりで課題を明確にすること。
- ④受講中に他の学生に迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用等)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

重複障害児・者の実際の様子を理解するために、特別支援学校、または入所施設等を見学するので、日程調整が必要になる場合がある。

■オフィスアワー

質問があれば授業終了時に、またコメントカードに記載すれば次回以降に対応。

■評価方法

①レポート(内容、適切さ)40% ②筆記試験(客観 論述)60% 総合評価は①②の合計が60%を超えていること。

■教科書

アン・サリバン:「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」 明治図書 2010
進 一鷹:「重度・重複障がい児の発達と指導法」 明治図書 2010

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	公的扶助・生活保護法				

■授業の目的・到達目標

貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。

■授業の概要

ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い
第2回	公的扶助の概念〔公的扶助の概念および範囲、公的扶助の意義と役割〕
第3回	貧困・低所得者問題と社会的排除〔貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題他〕
第4回	公的扶助制度の歴史〔海外および日本の歴史、貧困・低所得者対策の動向〕
第5回	生活保護制度の仕組み〔生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容および方法他〕
第6回	生活保護制度の仕組み〔保護施設、被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟他〕
第7回	最低生活保障水準と生活保護基準〔最低生活保障水準および生活保護基準の考え方、生活保護基準額の実際他〕
第8回	生活保護の動向〔被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向〕
第9回	低所得者対策の概要〔生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、社会手当制度、ホームレス対策他〕
第10回	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体〔国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割他〕
第11回	貧困・低所得者に対する相談援助活動〔生活保護制度における相談援助活動、他機関・他職種との連携・協働他〕
第12回	生活保護における自立支援〔自立とはなにか、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定および実施〕
第13回	確認テストおよび解答解説
第14回	確認テストおよび解答解説
第15回	授業総括〔重要事項の確認〕

■受講生に関わる情報および受講のルール

私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識向上に向け、予習、復習を励行すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

12:00～12:40〔昼休み時間帯〕

■評価方法

定期試験（100％）による。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版

■参考書

福祉小六法

科目名	読書と豊かな人間性	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	読書と豊かな人間性				

■授業の目的・到達目標

学校図書館は、単に学校教育の一部ではない。読書教育は、豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。総合的な読書指導の方法としてのブックトークの理論と技術を身に付けることを目指す。

■授業の概要

<読み書き>は、人間にとってもっとも根源的な情報価値である。学校図書館は、そうした読書する児童・生徒が、いわば成長させていることを考える。読書指導の方法については、ブックトークを試演し、その評価を試みる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	ガイダンス 読書の勧め 「お勧めの一冊」
第2回	学校図書館法と学習指導要領
第3回	学校図書館の役割 読書とは何か
第4回	図書館利用の指導
第5回	読書指導の方法①
第6回	読書指導の方法②
第7回	読書指導の方法③
第8回	学修情報センターとしての学校図書館
第9回	ブックトークについて
第10回	ブックトークの実践①
第11回	ブックトークの実践②
第12回	ブックトークの実践③
第13回	読書会①
第14回	読書会②
第15回	学校図書館とは(まとめ)

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視する。私語をせず、積極的に受講すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

提出物(読書ノート・学習指導案・レポート) 40%、ブックトーク実技 60%。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	特別活動研究	担当教員 (単位認定者)	瀬下 肇	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別活動研究				

■授業の目的・到達目標

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級(HR)活動・児童(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。

■授業の概要

特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級(HR)活動・児童(生徒会)活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を個別学習(予習課題)や話し合い、講義等をおして理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、班編制、話し合い学習法①	予習課題
第2回	話し合い学習法②	予習課題
第3回	特別活動の内容構成と教育的意義	予習課題
第4回	特別活動の目標と基本的性格①	予習課題
第5回	特別活動の目標と基本的性格②	予習課題
第6回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質①(学校教育からみた特質)	予習課題
第7回	学校教育・特別活動の歴史と特別活動の特質②(特別活動からみた特質)	予習課題
第8回	特別活動と他の教育内容・方法との関連	予習課題
第9回	学校の教育課程の編成・実施と特別活動の授業時数	予習課題
第10回	特別活動の各内容ごとの特質(学級活動・HR活動の活動内容と特質)	予習課題
第11回	特別活動の各内容ごとの特質(児童会・生徒会・クラブ活動の活動内容と特質)	予習課題
第12回	特別活動の各内容ごとの特質(学校行事の活動内容と特質)	予習課題
第13回	特別活動の評価	予習課題
第14回	特別活動の指導(実際の進め方)(指導計画の作成)①	予習課題
第15回	特別活動の指導(実際の進め方)(指導案の書き方等)② まとめ	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。状況によっては退席を求めることもあります。班編成をします。班の中で自己決定による座席指定をします。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(80%)、予習課題の予習状況(10%)、自己達成度評価(10%)を総合して評価します。

■教科書

高橋哲夫、原口誠次、井上裕吉、今泉紀嘉、井田延夫、倉持博編 特別活動研究第三版 教育出版株式会社 2000円+税

■参考書

小・中・高等学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省

科目名	特別支援学校(肢体不自由・知的障害・病弱)教育実習	担当教員 (単位認定者)	今井 雅巳	単位数 (時間数)	2 (80)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	障害のある児童生徒の指導の実践、指導計画、学習指導案、特別支援学校の組織や仕組み				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

障害児の一人一人の実態に即し、教育的ニーズを把握し、指導計画を立て、児童生徒が主体的に活動し、全人的発達を促せる支援ができるような実践的能力・技術を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・障害のある児童生徒の実態把握の方法を知る。
- ・個別の支援計画を理解し、それに基づいた指導計画を立てることができる。
- ・指導計画に基づいた学習指導案を立てることができる。
- ・学習指導案に基づき児童生徒の主体性を生かした授業を実践することができる。
- ・チームティーチングの仕組みを理解し、活用できる。
- ・児童生徒の実態に即した教材教具の開発や工夫ができる。
- ・特別支援学校の組織や仕組み、保護者理解や地域と学校との関連を理解できる。

■実習履修資格者

以下に記載するすべての履修要件を満たした者。

- ①将来教員として学校現場で働く意思を強くもっている者。
- ②小学校・中学校・高等学校の教員免許状を取得可能な単位をもっている者。
- ③特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲をもっている者。
- ④健康状態が教育実習を行うのに適当と認められる者。
- ⑤実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、知的障害教育Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、肢体不自由教育Ⅱ、重複障害教育総論、LD等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者の心理・生理・病理、病弱者の心理・生理・病理、病弱教育、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。
- ⑥ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。
- ⑦実習後都道府県で実施する教員採用試験あるいは私立学校主催の適性試験を必ず受検する者。

■実習時期及び実習日数・時間

- 1 教育実習は、原則として4年次で実施する。
- 2 教育実習は、80時間(2週間)を原則とし、実習校の都合で120時間(3週間)になることもある。事前指導が計画されている場合は、実習校の指示に従うこと。

■実習上の注意

教育実習事前ガイダンスの受講及び「教育実習録」の提出を必須とする。

〔実習中止の措置〕

- 1 本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指示に従えない者。
- 2 実習校の校長より実習中止の申し出があったとき。
- 3 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき。

■評価方法

- 1 事前ガイダンスへの取り組み(10%)
- 2 実習校の評価(50%)
- 3 教育実習録の評価(40%)

科目名	特別支援教育総論	担当教員 (単位認定者)	久田 信行	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	特別支援教育総論				

■授業の目的・到達目標

特別支援教育の教育思想、歴史、教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目的である。特別支援教育とは何か、その全体像を理解することが目標である。

■授業の概要

「改訂新版 障害児者の理解と教育・支援—特別支援教育／障害者支援のガイド—」を教科書として用い、講義形式を中心に実施する。一部、調べ学習等を加える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	特別支援教育の理念と制度
第2回	小・中学校における特別支援教育の仕組み
第3回	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際
第4回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際
第5回	就学までの支援の仕組みとその実際（教育支援委員会など）
第6回	注意欠如多動性障害の理解と支援
第7回	特異な学習障害の理解と支援
第8回	自閉症スペクトラムの理解と支援
第9回	情緒障害の理解と支援
第10回	言語障害の理解と支援
第11回	視覚障害の理解と支援
第12回	聴覚障害の理解と支援
第13回	肢体不自由の理解と支援
第14回	病弱・身体虚弱の理解と支援
第15回	知的障害の理解と支援

■受講生に関わる情報および受講のルール

幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。

■授業時間外学習にかかわる情報

各時間に指示する。

■オフィスアワー

授業日の、授業後あるいは昼休みに、要請がある際は時間を設ける。

■評価方法

授業への取り組み 40%、リアクションペーパーや短いレポート 10%、試験 50%の成績を総合して評価する。

■教科書

「改訂新版 障害児者の理解と教育・支援—特別支援教育／障害者支援のガイド—」

■参考書

適宜指示する。

科目名	人間関係論	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	社会的相互作用、社会学的社会心理学、適応論				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人と人との関わりについて、より科学的な見地から分析できることを目的とする。

〔到達目標〕

社会心理学におけるキーワードを理解する。

囚人のジレンマ、社会的ジレンマ、集団意思決定、社会的影響過程についての知識を得る。

社会現象を解明する上で重要な分析視座を理解する。

■授業の概要

本講義では、社会的相互作用をキーワードに、主に社会心理学の重要なテーマについて触れる。具体的には囚人のジレンマ、社会的ジレンマ、集団決定、社会的認知といったテーマを紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	ガイダンス・殺人・暴力の適応論的研究
第2回	殺人・暴力の適応論的研究
第3回	社会的影響過程
第4回	社会的影響過程
第5回	社会的影響過程
第6回	囚人のジレンマ
第7回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ
第8回	囚人のジレンマ・社会的ジレンマ
第9回	集団意思決定
第10回	集団意思決定
第11回	集団意思決定・まとめ
第12回	集団による知、無知
第13回	集団による知、無知
第14回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)
第15回	研究紹介(進化心理学・文化心理学)・到達確認テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

教室での講義が主体であるが、LLもしくはPC室で作業を行う場合がある。

〔受講のルール〕

メールでのコメントカード記入を毎回実施する。

各トピックごとに小テストを実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内コメントカード(20%)、小テスト・小レポート(50%)、到達テスト(30%)。

■教科書

亀田達也・村田光二 複雑さに挑む社会心理学(改訂版):適応エージェントとしての人間 有斐閣アルマ
(2010年改訂版) 2010

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	認知心理学	担当教員 (単位認定者)	大野 俊和	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	知覚、注意、記憶、言語				

■授業の目的・到達目標

認知心理学の知識を習得するとともに、社会福祉の場面において、その知識をどう活用できるか吟味する能力を得ること。

■授業の概要

認知心理学は、思考や記憶、理解や推論といった人間の認知活動について研究する幅広い学問である。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	認知心理学の誕生と変貌——情報工学から機能的生物学へ
第2回	認知心理学の誕生と変貌——情報工学から機能的生物学へ
第3回	知覚の基礎——環境とのファーストコンタクト
第4回	知覚の基礎——環境とのファーストコンタクト
第5回	高次の知覚——見ることから理解することへ
第6回	高次の知覚——見ることから理解することへ
第7回	注 意——情報の選択と資源の集中
第8回	注 意——情報の選択と資源の集中
第9回	記 憶——過去・現在・未来の自己をつなぐ
第10回	記 憶——過去・現在・未来の自己をつなぐ
第11回	言 語——成長する心の辞書システム
第12回	言 語——成長する心の辞書システム
第13回	問題解決と推論——普遍性と領域固有性の間で
第14回	問題解決と推論——普遍性と領域固有性の間で
第15回	まとめ・到達テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目(206研究室)を予定している。

■評価方法

授業内小テスト 50%、授業内コメントや発言 20%、到達テスト 30%。

■教科書

道又 爾・北崎 充晃・大久保 街亜・今井 久登・山川 恵子・黒沢 学(2011) 認知心理学 - 知のアーキテクチャを探る 新版 有斐閣アルマ

■参考書

適宜指示する。

科目名	発達心理学（保育の心理学Ⅰ）	担当教員 （単位認定者）	島内 晶	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達過程、ピアジェ、愛着				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

子どもが大人へと成長する発達の過程を理解し、その中でも特に出生時から児童期までの子どもを対象に、心理的特性とその発達の過程をさまざまな角度から学習し、理解できるようになることを目的とする。また、現在の高齢社会においては、エイジングが人間におよぼす影響も決して無視することができない状況から、成人期以降の発達についても学習し、理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①人の発達の過程を理解できる。
- ②各発達段階における人の心理的特性を理解できる。

■授業の概要

胎生期から青年期までを中心に、各発達段階の特徴を具体的に挙げながら講義を進める。また、成人期以降の加齢変化についても概観する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション、発達心理学とは
第2回	発達心理学の方法と考え方
第3回	発達の理論
第4回	受胎から誕生まで
第5回	乳児期の発達（身体機能の発達）
第6回	乳児期の発達（認知的発達）
第7回	愛着について
第8回	幼児期の発達（身体機能の発達）
第9回	幼児期の発達（認知発達・ピアジェの理論）
第10回	幼児期の発達（社会性の発達）
第11回	児童期の発達
第12回	青年期の発達
第13回	成人期の発達
第14回	中年期・老年期の発達
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中に入らないこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題（小レポート等）（40%）②学期末試験（60%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

青木紀久代 編 『新時代の保育双書 実践・発達心理学』 みらい 2012年

■参考書

山本利和 編 『現代心理学シリーズ7 発達心理学』 培風館 1999年

科目名	発達心理学特講	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢者、百寿者、障がい				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

子どもが大人へと成長する発達の变化的過程を理解した上で、発達の最終段階である高齢者の心理的特性とその加齢変化をさまざまな角度から理解できるようになることを目的とする。また、障がいをもつということに関して、心理的特性を理解した上で、その心理的援助について、様々な視点から捉えられるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢期に生じるさまざまな問題について、発達心理学的視点にたつて考えることができる。
- ②「障がい」を持つということについて理解した上で、様々な視点にたつて、その支援を考えることができる。

■授業の概要

本講義では、生涯発達の視点から受胎から老年期までの人間の一生における発達上の問題点や発達と障がいの関係について、応用的な側面も含めて考えていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 障害をもつとはどういうことか、加齢とはなにか
第2回	「障がい」のとらえ方
第3回	障がい者に対する支援とは
第4回	障がい者を理解するために必要なこととは
第5回	最新技術と支援
第6回	高齢者の特性（認知的特徴）
第7回	高齢者の特性（精神的特徴）
第8回	高齢者を取り巻く現状と支援
第9回	百寿者が生きた世界
第10回	認知症（定義）
第11回	認知症（ケアのあり方）
第12回	若年性認知症（定義）
第13回	若年性認知症を取り巻く現状と支援
第14回	認知症高齢者と家族
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「発達心理学a」、「福祉心理学」、「障害児（者）心理学」、「老人心理学」を受講済みであることが望ましい。
- ・これまで学習してきた内容を基礎として応用的な側面をとりあげるため、予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・この授業では、様々なテーマに対して、視覚教材（VTRなど）や著書を提示する。受講生は、それらに対して、各自の視点や目的意識をもち、考えることが重要となる。そのため、受講する際、積極的な態度で授業に臨むことが大前提である。
- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。
- ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題（40%） ②学期末試験（もしくは学期末レポート）（60%） ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤眞一著 『認知症「不可解な行動」には理由がある』 ソフトバンク新書 2012年

■参考書

梶地勝人 蘭香代子 長野恵子 吉川昌子 『障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス第2版』 ナカニシヤ出版 2001年
NPO法人生活・福祉環境づくり21・日本応用老年学会 編著 『ニッポンのネクストステージ 高齢社会の「生・活」事典』 社会保険出版社 2011年

科目名	美術概論	担当教員 (単位認定者)	宗 幸子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	美術 芸術 図画工作科の目標及び内容				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

美術や美術教育に関する基礎的な知識を身に付け、また美術教育内容が知的なものよりも感性的であることから、豊かな感性を育む。

〔到達目標〕

- ①自然主義の教育観で表現の意味の発見がなされ、今日もその精神を受け継いでいる図画工作教育の目標、内容が理解できる。
- ②西洋や日本の美術を概観することにより、美術文化に深い関心を持つ。
- ③美術作品や子どもの作品を読み解くことができる。

■授業の概要

- ①芸術・美術の概念
 - ②図画工作科の目標及び内容
 - ③西洋と日本の美術を概観する
 - ④表示のためのデッサン練習
 - ⑤図画工作科教育の歴史
 - ⑥子どもの絵の見方育て方。
- なお西洋美術の概観はDVD視聴も行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	芸術・美術の概念、芸術のジャンル
第3回	造形教育の理念と構造 自然主義の教育観と表現の意味の発見、無意識と表現
第4回	図画工作科の目標及び内容 指導要領の概要
第5回	西洋美術を概観する (中世、ルネサンス、マニエリスム)
第6回	西洋美術を概観する (バロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義)
第7回	西洋美術を概観する (写実主義、印象主義、象徴主義)
第8回	西洋美術を概観する (後期印象主義、現代の絵画)
第9回	日本美術を概観する (琳派)
第10回	日本美術を概観する (現代の日本画)
第11回	表示のためのデッサン練習1
第12回	表示のためのデッサン練習2
第13回	図画工作科教育の歴史
第14回	子どもの絵の見方育て方
第15回	子どもの絵の見方育て方 図画工作科教育の今後の課題

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

毎回授業終了時に絵画鑑賞用コメントカードを提出すること。

〔受講のルール〕

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話、スマートフォン利用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60%、レポートまたは課題提出物 30%、授業への取り組み 10%。

■教科書

「小学校図画工作科の指導」 新井哲夫 編著 建帛社

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	病弱教育	担当教員 (単位認定者)	大谷 幸雄	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	病弱・虚弱 子どもの病気 病気の子どもの気持ち 子の不安 親の不安 学校の対応 配慮事項				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

病弱教育は特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入ってきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解する。

〔到達目標〕

- ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。
- ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。
- ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。

■授業の概要

病弱教育では対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質について考えながら、病弱教育の専門性と基本的な知識を習得できる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション 病弱教育とは
第2回	病弱教育の変遷と現状
第3回	病気の理解と指導について～例：色素性乾皮症 膠原病 血管腫 等
第4回	病気の理解と指導について～例：腎疾患 胆道閉鎖症 等
第5回	学校視察 出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
第6回	病気の理解と指導について～例：アレルギーとぜんそく クロウン病 等
第7回	病気の理解と指導について～例：肥満 糖尿病 等
第8回	病気の理解と指導について～例：筋ジストロフィー 潰瘍性大腸炎 等
第9回	病気の理解と指導について～例：心疾患 ペルテス病 等
第10回	病気の理解と指導について～例：もやもや病 ムコ多糖症 等
第11回	病気の理解と指導について～例：白血病 血友病 等
第12回	病気の理解と指導について～例：脳腫瘍 悪性リンパ腫 高次脳機能障害 等
第13回	病気の理解と指導について～例：てんかん 心の病気 他
第14回	病気の理解と指導について～例：その他の病気
第15回	病弱教育の展望と課題について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係わる情報〕

- ①病弱教育の現地視察ができれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分健康に注意すること。
- ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒の知り得た個人情報取り扱いなどには十分注意すること。
- ③学校参観の日程などは不確実な面があること。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。

〔受講のルール〕

- ①予習復習を必ず行うこと。
- ②自分が病弱の担任になったつもりで受講する。
- ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業充実のため、病弱教育の特別支援学校参観を授業の一環として計画する。

■オフィスアワー

質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。

■評価方法

- ①発表（取り組みと内容）20% ②レポート（内容、適切さ）30% ③筆記試験（客観 論述）50%
総合評価は①②③の合計が60%を超えていること。

■教科書

全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」より引用するのでプリントアウトする。
<http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html>

■参考書

授業中紹介する資料、本など。

科目名	病弱児の心理生理病理	担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	定義、疫学、原因、症状、分類、検査、診断、治療、予後、予防、支援方法				

■授業の目的・到達目標

- ①病弱児の疾患について説明することができる。
- ②病弱児の教育及び社会参加のための支援について説明することができる。

■授業の概要

病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害
第3回	知的障害を伴わない発達障害と二次障害
第4回	循環器疾患の理解と支援
第5回	呼吸器疾患の理解と支援
第6回	悪性腫瘍の理解と支援
第7回	腎・泌尿器疾患の理解と支援
第8回	成長障害、内分泌疾患の理解と支援
第9回	消化器疾患の理解と支援
第10回	神経系疾患の理解と支援(1)
第11回	神経系疾患の理解と支援(2)
第12回	病気、障害の受容とセルフケア
第13回	病気、障害の子どもの心理的特性
第14回	教育・医療・保健・福祉の連携と支援
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンの電源は切り、机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験(80%)、ノート(20%)。

■教科書

小野次朗ら 編著 病弱児の生理・病理・心理 ミネルヴァ書房 最新版

■参考書

講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。

科目名	福祉行財政と福祉計画	担当教員 (単位認定者)	永澤 義弘	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	一般会計 特別会計 地方分権 福祉計画 ソーシャルインクルージョン				

■授業の目的・到達目標

福祉行政における国、県や市町村の役割を理解し、その福祉に関する財源について国と地方との関係を学ぶ。また、福祉計画の目的や意義を考察し、住民参加を含む策定の理論と方法を理解する。

■授業の概要

福祉計画に基づく市町村の社会福祉制度の仕組みと福祉計画の意義を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	授業のすすめ方について
第2回	社会保障と税の一体改革等国の動き
第3回	福祉行財政と福祉計画
第4回	福祉行政
第5回	福祉財政
第6回	福祉行政の組織・団体と専門職の役割
第7回	福祉計画の目的と意義
第8回	福祉計画の倫理と技法(1) 福祉計画の基本と過程
第9回	福祉計画の倫理と技法(2) 評価と住民参加
第10回	福祉計画の事例研究分析の視点
第11回	老人福祉計画・介護保険事業計画
第12回	障害者計画・障害福祉計画
第13回	次世代育成支援行動計画
第14回	地域福祉計画
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業シラバスを確認して事前に教科書等を読んでおくこと。他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

上記に示した授業以外の学修は、地域の社会福祉施設の見学や福祉事務所訪問をして、レポート作成のための資料収集や調査研究を含めて、60時間以上の授業外学修をすること。

■オフィスアワー

本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

■評価方法

授業への取り組み姿勢(30%)と、レポート(70%)による評価。

■教科書

福祉行財政と福祉計画 中央法規

■参考書

福祉小六法 ミネルヴァ書房

科目名	福祉事務所運営論	担当教員 (単位認定者)	永澤 義弘	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
	カリキュラム上の位置づけ	一覧表参照			
キーワード	社会福祉行政 自立支援 セーフティーネット支援 社会福祉主事 アドボカシー ソーシャルワーク				

■授業の目的・到達目標

行政組織の仕組みやそこで働く専門職の実態について理解を深めることにより、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。

■授業の概要

福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運営の今日的課題等を学ぶものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	授業のすすめ方について
第2回	社会保障と税の一体改革
第3回	現代社会と福祉事務所の運営
第4回	福祉事務所の成立と歴史的展開
第5回	福祉事務所をめぐる政策動向
第6回	福祉事務所をめぐる法制度
第7回	福祉事務所の業務と組織
第8回	福祉事務所と関係社会資源との連携
第9回	福祉事務所の運営と民生委員の役割
第10回	福祉事務所の専門職員とその役割
第11回	社会福祉主事の専門性と倫理
第12回	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開
第13回	福祉事務所における自立支援の事例
第14回	福祉事務所の運営をめぐる課題と動向
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業シラバスを確認して事前に教科書等を読んでおくこと。他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

上記に示した授業以外の学修は、地域の社会福祉施設の見学や福祉事務所訪問などを通じたレポートの資料準備を含めて、60時間以上の授業外学修をすること。

■オフィスアワー

本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。

■評価方法

授業への取り組み姿勢（30%）と、レポート（70%）による評価。

■教科書

宇山勝儀/船水浩行編著 『福祉事務所運営論』 ミネルヴァ書房 2011年3月

■参考書

福祉小六法 ミネルヴァ書房

科目名	福祉心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	児童虐待、問題行動、障がい特性、高齢者、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

現代社会においては福祉専門職を目指す人でなくても、福祉に関する知識・理解は必須のものである。この科目は、福祉に関連すると考えられる心理学的知見を幅広く学び、理解できるようになる事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について、理解できる。
- ②さまざまな障がいについて、その特性を理解できる。
- ③高齢者の基本的な心理的特性や、認知症についての基本的な特徴について、理解できる。

■授業の概要

福祉心理学は実際の学問分野において体系づけられた領域が確立されているわけではない。しかし、現代社会においては実際に必要とされている領域ともいえる。援助を必要としている人々の年代は子ども、青年、成人、高齢者と様々であり、また障がいや疾病、さまざまな心理的な困難を抱えている。そのため、授業ではそういった人々の特性を理解し、また児童虐待といった現代社会の問題に対して心理学的視点から学び、さらには援助的な関わりを学ぶことを目的とし、総論的な視点から授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション—福祉心理学とは
第2回	家庭問題の心理学 児童虐待の現状とその背景について概観する
第3回	問題行動の心理学 青少年期の問題行動の種類と特徴、不適応的行動について考える
第4回	問題行動に対する心理学的な援助 様々な心理的な問題に対する援助方法について触れる
第5回	「障がい」理解に向けて 障がいのとらえ方、障がい特性とはなにかについて考える
第6回	感覚障がい者(児)の理解 視覚障がいの特徴と心理的支援について考える
第7回	感覚障がい者(児)の理解 聴覚障がいの特徴と心理的支援について考える
第8回	肢体不自由者(児)の理解 肢体不自由(運動障がい)の特徴、心理的支援について考える
第9回	知的障がい者(児)の理解 知的障がいの発生と特徴、心理的支援について考える
第10回	発達障がい児の心理的理解 自閉症について、定義と心理的支援について考える
第11回	発達障がい児の心理的理解 LD、ADHDの特徴、心理的支援について考える
第12回	高齢者の理解 高齢者の心理的特徴や行動特性、加齢の影響について理解を深める
第13回	認知症の理解 認知症の種類と特徴、認知症高齢者の理解について考える
第14回	障がい者(児)や高齢者を抱える家族への対応 介護に当たる家族の問題、家族支援の方向性について考える
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」の授業を受講済みであることが望ましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中にしまうこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤泰正・山根律子 編著 『福祉心理学 改訂版』 学芸図書 2008年

■参考書

適宜、授業時に紹介します。

科目名	保育課程論		担当教員 (単位認定者)	江島 正子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	保育と教育の実際 日案作り 教育課程とカリキュラム カリキュラムの意義					

■授業の目的・到達目標

保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程の編成、指導計画の作成を行う。この教育課程の作成は単なる技術論ではない。幼児教育の本質に根ざしていなければならない。保育者はこども一人ひとりの特性と発達の課題に即した教育環境を構成する。

■授業の概要

世界とわが国における幼児教育の歴史を振り返り、現状の諸問題点を探る。入園から卒園までのこどもの生活を総括的に知り、保育所の保育計画を含めたカリキュラム、教育課程、指導案について考察を加える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	自己紹介と授業の進め方
第2回	幼稚園教育の歴史を知る
第3回	幼稚園教育の目的と意義を知る
第4回	幼稚園教育要領の理解 基本・目標
第5回	幼稚園教育要領の理解 ねらい・内容
第6回	保育と教育方針 保育の実際と指導計画
第7回	年間計画 月案計画 日案計画(基本的事項と手順)
第8回	教育課程の編成と指導経過の作成
第9回	教育課程の意義
第10回	教育課程と指導経緯の評価の事例 長期指導計画
第11回	演習問題 ディベート
第12回	日案作成 環境の構成・再構成
第13回	日案作成 指導計画 カリキュラム
第14回	指導の必要性 指導の評価
第15回	幼稚園と保育所および小学校の連携

■受講生に関わる情報および受講のルール

欠席や遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。授業中は私語を慎む。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業内容に関係する内容をレポートでまとめる課題が課せられたら、必ず指定日までに提出すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験(60%) レポート(20%) 授業への取り組み(20%) ディベートなどで総合的に判断する。

■教科書

岸井勇雄他著 『あたらしい幼児教育課程総論』 同文書院

■参考書

マリア・モンテッソーリ著 『子ども—社会—世界』 ドンボスコ社 授業中にもそのつど紹介する。

科目名	保育教職実践演習		担当教員 (単位認定者)	田中輝幸・矢島崇裕 吉澤 幸・川端奈津子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照		免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ			一覧表参照			
キーワード	保育職・教職に対する使命感・責任感 子ども理解 学級経営力 保育内容の指導力					

■授業の目的・到達目標

4年間の保育士・幼稚園教諭養成課程の講義及び、保育所実習・幼稚園教育実習の中で学んだ、子どもへの理解や援助、保育者の役割についての認識を深めていきます。その中で「保育職・教職に対する使命感・責任感」「社会性や対人関係能力」「子ども理解や学級経営力」「保育内容の指導力」を高め、保育者としての資質のさらなる向上を目指します。

■授業の概要

保育現場に立つ前の総まとめとして、4年間の講義や実習で学んだ様々な体験をもとに、実践的指導力を有する保育者としてのスキルを高める学習として、事例検討や模擬保育等のグループ活動を多く実施します。また、保育職・教職の意義や役割・責任感、保育者の専門性等のテーマにより、子ども専攻の複数の教員をはじめ、保育現場より外部講師を迎え、より幅広い保育実践力の向上を目指していきます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育者への歩みと足跡 履修カルテの確認等
第3回	子どもの理解の方法と実際
第4回	気になる子どもの行動の理解と対応
第5回	教育課程・保育課程を考える
第6回	保育内容と保育方法の研究(講義・グループ活動)
第7回	保育内容と保育方法の研究(模擬保育)
第8回	保育の振り返り
第9回	協同的な学びと育ちへ
第10回	保護者および地域との関係づくり
第11回	幼保小の接続
第12回	園の安全管理
第13回	保育者の専門性
第14回	保育職・教職に就くものとしての使命感・責任感(外部講師)
第15回	自分の保育者像を目指して

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

保育・幼児教育に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。
実習やボランティア等での体験をまとめておくこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

定期試験(60%) グループ活動への参加状況(20%) 履修カルテ等の提出物・レポート(20%)の総合評価。

■教科書

保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 小櫃 智子 矢藤 誠慈郎 編著 わかば社

■参考書

参考書は随時紹介していきます。

科目名	保育実習Ⅰ（施設）	担当教員 （単位認定者）	川端 奈津子	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	施設保育士 養護 障害 実習記録 自己評価	児童福祉施設			

■授業の目的・到達目標

- ①児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能を具体的に理解する
- ②観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める
- ③既習の教科内容をふまえ、子ども・利用者への保育（養護・療育・介助・介護）及び保護者への支援を総合的に学ぶ
- ④保育（養護・療育・介助・介護）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する
- ⑤保育士等の専門職種職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ

■実習履修資格者

- ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設の現場で働く意志を強くもっている者
- ②児童福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うにあたって適当と認められる者
- ③保育士資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込のある者
- ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込のある者

■実習時期及び実習日数・時間

- ①実習は2年次後期において実施する。
- ②実習時間は、12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を厳守すること。

実習生の帰すべき責任によって、実習の継続が困難と判断される次の事態が生じた場合は、実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
- ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
- ③実習目標の達成状況（10%）
- ④実習日誌等記録の内容（10%）
- ⑤実習報告書の内容（10%）
- ⑥その他提出物の提出状況（10%）

*実習が終了しても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。

*「保育実習指導Ⅰ（施設）」の単位を同一年度において取得できなかった場合は、単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	担当教員 （単位認定者）	田中 輝幸	単位数 （時間数）	2 （90）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 観察実習 参加実習 部分実習				

■授業の目的・到達目標

- ①保育所の役割と機能を理解する。
- ②乳幼児を観察し理解する。
- ③保育士の役割と仕事内容を理解する。
- ④多様な保育内容を理解する。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

【実習中止の措置】

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	2 (90)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育 保育士 乳幼児の発達 指導案 参加実習 責任実習				

■授業の目的・到達目標

- ①乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。
- ②保育士としての資質・能力・技術を習得する。
- ③多様な保育内容に参加する。
- ④家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。

■実習履修資格者

本学における実習履修資格者は、原則として「保育士」取得を目指す第3・4年次の学生で次に掲げる者とする。

- ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。
- ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。
- ③「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育所）」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。

■実習時期及び実習日数・時間

実習は原則として3・4年次において実施する。
実習は12日間以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。

【実習中止の措置】

実習生の帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。

- ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により、実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%）
 - ②巡回での指導状況及び実習態度（10%）
 - ③指導計画、実習日誌（10%）
 - ④実習のまとめ（10%）
 - ⑤実習報告書（10%）
 - ⑥その他の提出物の提出状況（10%）
- ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	保育実習指導I(施設)事後指導	担当教員 (単位認定者)	川端 奈津子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	実習の振り返り 自己評価 教員によるスーパービジョン 実習報告会 職業倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

自らの実習を振り返ることで、保育士となるための今後の自己課題を明確化する。また、他者の報告をとおして体験を共有することで、幅広く児童福祉施設等の社会福祉施設についての理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①客観的に自身の実習を振り返り、自己課題を発見できる。
- ②自分の実習先以外の施設についても概要を理解し、基本的事項を説明できる。
- ③支援者としての職業倫理を身につける。

■授業の概要

実習報告書の作成や自己評価を行うことにより、自身の課題を明確化したうえで、グループ単位(種別ごと)で実習を振り返る。さらに、実習スーパービジョンを行い、個々で実習レポートを作成し、報告会を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション(振り返りの意義・自己評価と実習先評価・自己課題の明確化)	
第2回	グループで体験共有① 施設の概要・実習内容	
第3回	グループで体験共有② 子ども(利用者)および職員との関わり	
第4回	グループで体験共有③ 事前学習のあり方・記録の視点	
第5回	グループで体験共有④ グループ発表	
第6回	個別スーパービジョン(各回8人程度)、実習レポート(個人)および報告会資料(PP)の作成 ①	
第7回	個別スーパービジョン、実習レポート(個人)および報告会資料(PP)の作成 ②	
第8回	個別スーパービジョン、実習レポート(個人)および報告会資料(PP)の作成 ③	
第9回	個別スーパービジョン、実習レポート(個人)および報告会資料(PP)の作成 ④	
第10回	個別スーパービジョン、実習レポート(個人)および報告会資料(PP)の作成 ⑤	
第11回	実習報告会①(乳児院・児童養護施設)	
第12回	実習報告会②(児童発達支援センター・福祉型障害児入所施設)	
第13回	実習報告会③(医療型障害児入所施設・障害者支援施設)	
第14回	実習報告会④(障害者支援施設)	
第15回	実習報告会⑤(障害福祉サービス事業所)	後期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・保育士資格を取得する学生は全ての講義に出席すること。やむを得ず遅刻・欠席の場合は必ず事前に届け出ること。
- ・実習関係書類や配布プリントを整理するためのファイルは、毎回の授業に持参する。なお、配付資料紛失の場合、再配布はしない。

〔受講のルール〕

- ・実習体験の共有化を図るために、他者の発表は真剣に聞くこと。
- ・グループワーク場面では、積極的な授業参加を求める。

■授業時間外学習にかかわる情報

明確化された個々の課題克服にむけた目標を立てること。施設を就職先の選択肢として考慮する場合は、日頃からボランティア等を継続的にしておくこと。

■オフィスアワー

初回の授業で伝達します。

■評価方法

授業内での発表・取組姿勢(30%)、実習関係書類の提出状況(20%)、実習レポートの内容(50%)。

■教科書

- 1 群馬医療福祉大学 発行:実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学 2012
- 2 石橋裕子・林幸範編著:新訂知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 同文書院 2013

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士 参加実習 責任実習 指導案				

■授業の目的・到達目標

保育所実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。

■授業の概要

本講義は保育所実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	保育実習Ⅰ（保育所）振り返り
第3回	実習課題の明確化
第4回	実習の心構えと理解
第5回	責任実習のポイント 指導案について①4、5歳児のポイント
第6回	責任実習のポイント 指導案について②3、4歳児のポイント
第7回	責任実習のポイント 指導案について③未満児のポイント
第8回	保育実習の具体的内容と実習計画
第9回	保育実技について（手作り教材等）
第10回	オリエンテーションについて
第11回	実習中の注意事項について 守秘義務・個人情報等
第12回	保育実習直前指導
第13回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導①自己評価表及び報告書の作成
第14回	保育実習Ⅱ（保育所）事後指導②グループワーク及び評価面談
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。
- 提出物の期限は必ず守ること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

提出物（50％）授業内レポート（30％）小テスト（20％）の総合評価

■教科書

「実習の記録と指導案」 山本 淳子 編著 ひかりのくに 実習へのガイドブック 群馬医療福祉大学

■参考書

参考書は随時紹介していきます。

科目名	保育者論	担当教員 (単位認定者)	吉澤 幸	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育士の役割、保育士の専門性、保育者の協働				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

保育者の役割と職務内容について理解し、保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①保育者の役割と倫理について理解する。
- ②保育士の制度的位置づけについて理解する。
- ③保育士の専門性について考察し、理解する。
- ④保育者の協働について理解する。
- ⑤保育者の専門職的成長について理解する。

■授業の概要

保育士の制度的な位置づけから、保育者に求められる役割や倫理について理解する。また、保育士に求められる専門性について考察を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	保育現場が求める保育者像
第3回	園での保育者の役割と信頼
第4回	保育者の仕事内容と留意点① 保育者の仕事と役割
第5回	保育者の仕事内容と留意点② 子どもに寄り添う生活者としての保育者
第6回	保育者の仕事内容と留意点③ 子どもの安全に対する配慮
第7回	保護者・地域社会と保育者の役割① 信頼される保育者になるために
第8回	保護者・地域社会と保育者の役割② 子ども理解を深める
第9回	行事に対する保育者の取り組み① 「行事」はなぜ必要か
第10回	行事に対する保育者の取り組み② 「行事」における保育者の役割
第11回	保育環境の課題と問題点① 多様化する保育需要
第12回	保育環境の課題と問題点② 保幼小連携
第13回	諸外国の保育から学ぶこと
第14回	保育者の専門職的成長① 専門性の発達
第15回	保育者の専門職的成長② 生涯発達とキャリア形成

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・保育についていつも関心を持っておくこと。
- ・予習復習を必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること。
- ・授業シラバスを確認し、積極的に授業に取り組むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験 60%、平常点（授業への取組、授業時に課すレポート）40%。
総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

①上野恭裕編：プロとしての保育者論. 保育出版社. 2011 ②保育所保育指針解説③幼稚園教育要領解説

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	保育内容（環境）	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容 5領域 教科との違い 環境構成 人的環境 物的環境 保育者				

■授業の目的・到達目標

今日、多様化した環境の中で成長している子ども達を保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、環境に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取り巻く環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方と能力を身につけることを目標とする。

■授業の概要

子ども達は身の回りの環境に働きかけ、かつその影響を受けて育っていく。本講義では、子ども達を取り巻く環境について考え、保育者が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、どう援助すればよいか、それによって子どもの伸びる力を引き出すかなどを考察し学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか
第2回	保育の基本とは
第3回	領域「環境」の位置づけ
第4回	子どもと環境とのかかわり(1) ①身近な環境の捉え方
第5回	子どもと環境とのかかわり(1) ②身近な自然・生き物とのかかわり
第6回	子どもと環境とのかかわり(2) ①物とのかかわり
第7回	子どもと環境とのかかわり(2) ②文字や記号・数量とのかかわり
第8回	子どもと環境とのかかわり(3) 情報や施設とのかかわり
第9回	さまざまな保育環境について【DVD学習】
第10回	園庭の自然や遊具とのかかわり
第11回	室内の遊具・教材・設備とのかかわり
第12回	飼育・栽培・園外保育
第13回	領域「環境」と保育の実際(1) 環境を生活に取り入れる
第14回	領域「環境」と保育の実際(2) 文字・数量の感覚を身に付ける
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

筆記試験(60%) 授業内レポート・小テスト(40%)の総合評価

■教科書

演習 保育内容 環境 柴崎 正行 編著 建帛社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育内容（健康）	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	遊び、健康、発育・発達				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 幼児教育の基本や領域「健康」を理解できる。
- ② 「健康」をめぐる現状と課題を見出すことができる。
- ③ 「健康」と遊び、環境構成、生活習慣、安全教育の態度や技能を身に付けることができる。

■授業の概要

子どもの発育・発達段階に沿って、心とからだの両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康の保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに教育環境、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 幼児教育の目標と領域
第2回	幼児教育の基本とさまざまな役割
第3回	領域「健康」と運動能力の発達
第4回	生活習慣の形成と安全への心構え
第5回	最近の子どもの運動能力の傾向
第6回	乳幼児期をととしての運動能力の発達
第7回	ルールや道具を使った遊び
第8回	固定遊具やささまざまな遊び
第9回	戸外での興味ある遊具の配置
第10回	総合遊具の整備と保育の工夫
第11回	遊びの中で育む生活習慣
第12回	生活習慣を育む保護者の役割
第13回	遊びの中で育む安全の意識
第14回	安全の意識と事故が起きた場合の対応
第15回	幼稚園・保育所・小学校の連携 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ 幼児教育を目指す学生の自覚を持って受講する。
- ・ 事例を中心に授業を展開する。

〔受講のルール〕

- ・ 講義形式であるので、授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話等の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動で、特に幼児の遊びや行動を意識して観察する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

筆記試験（80％）レポート（20％）総合評価 60％以上とする。

■教科書

倉持清美：事例で学ぶ保育内容 領域「健康」改訂版：萌文書林 2010

■参考書

黒井信隆：0～5歳児のための楽しい運動遊び：いかだ社：2010

科目名	保育内容（言葉）	担当教員 （単位認定者）	吉澤 幸	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	領域「言葉」、子どものことばの発達、保育者の指導・支援				

■授業の目的・到達目標

- ・領域「言葉」について理解し、保育・教育計画の立案と評価のための視点を獲得。理論を踏まえてどのように実践が行われているのかを理解し、自らの実践に生かす力を養う。
- ・ことばの重要性について改めて考え、保育者を目指す自分自身のことばをはぐくむ。

■授業の概要

- ・子どもの言葉の発達について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション、保育内容「言葉」の意義	
第2回	幼児と言葉	
第3回	領域「言葉」のねらいと内容	
第4回	子どもの言葉の発達	
第5回	子どもの言葉と環境	
第6回	保育者の指導・支援1	0歳児から2歳児までの言葉と保育者のかかわり
第7回	保育者の指導・支援2	3歳児から6歳児までの言葉と保育者のかかわり
第8回	言葉と国語教育	小学校教育へ
第9回	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援	
第10回	保育者の言葉	言葉の発達を支援する保育者の言葉
第11回	児童文化財1	絵本、素話、紙芝居 など
第12回	児童文化財2	言葉遊び
第13回	児童文化財3	演じられる物語
第14回	言葉の指導計画	
第15回	発展事例	保育内容「言葉」のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・保育士資格を希望する学生はすべての授業に出席すること。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。

〔受講のルール〕

- ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・子どもの言葉の発達だけでなく、子どもの発達全般について理解しておくこと。
- ・児童文化財を積極的に活用すること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

平常点（授業への取り組み、授業時に課す課題等）30%、筆記試験 50%、提出物 20%を総合的に評価する。

■教科書

駒井美智子編：保育者をめざす人の保育内容「言葉」：みらい 2012

幼稚園教育要領

■参考書

保育所保育指針

科目名	保育内容総論	担当教員 (単位認定者)	田中 輝幸	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容 5領域 保育ニーズ 保育者の専門性 あそび				

■授業の目的・到達目標

- ・多岐にわたる保育ニーズに対応するために保育内容はどうか自分なりの考えを持てるようにする。
- ・保育内容を実践するために必要な保育観や保育の援助方法について理解し、より良い保育実践を目指す。

■授業の概要

- ・保育所・幼稚園における保育内容について総合的かつ具体的に理解する。
- ・保育内容を展開するプロセスを理解する。
- ・「保育」の課題を理解し、解決方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	オリエンテーション
第2回	子どもの理解と保育内容
第3回	「あそび」から捉える保育内容①事例検討
第4回	「あそび」から捉える保育内容②グループワーク
第5回	「生活」から捉える保育内容①事例検討
第6回	「生活」から捉える保育内容②グループワーク
第7回	「環境」から捉える保育内容
第8回	「発達」から捉える保育内容
第9回	「行事」をめぐって
第10回	様々な保育形態とその背景としての「保育内容の捉え方」
第11回	保育内容の捉え方とその背景
第12回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容①事例検討
第13回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容②DVD学習
第14回	保育内容と保育者の専門性
第15回	保育内容の今日的課題と保育者の専門性

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・新聞・ニュースなどで保育に関することがあればチェックしておくこと。(レポート提出を予定しています)
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

筆記試験(60%) 授業内レポート・提出物(40%)の総合評価

■教科書

演習 保育内容総論 金子 妙子 佐伯 一弥 編著 建帛社

■参考書

保育所保育指針・幼稚園教育要領

科目名	保育内容（人間関係）	担当教員 （単位認定者）	廣池 利邦	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保育内容（人間関係）の意味、保育所保育指針、幼稚園教育要領、保育者と親の人間関係、幼稚園教諭と親の人間関係				

■授業の目的・到達目標

幼児が保育者や親との人間関係の発達の中で、どのように成長していくのかをしっかりと捉え、分析し、理解したうえで保育者としての適切な行動ができるようにする。現場の事例などを参考にしながら学習するので、実習に生かせるような学習効果が期待できる。

■授業の概要

法律に基づいた保育内容（人間関係）の分析と解釈を通して、保育者としての正しい在り方について、事例の説明やグループディスカッションをしながら、幼児や親との人間関係について理解させる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション：シラバスの読み方と授業の進め方の説明。
第2回	保育内容の『ねらい』の解説
第3回	保育所保育指針の解説（1）、保育所保育指針の解説（2）
第4回	観察記録の分析：幼児と親の人間関係の観察記録について。
第5回	保育所保育指針の解説（3）、保育所保育指針の解説（4）
第6回	保育所保育指針の解説（5）、保育所保育指針の解説（6）
第7回	遊びに関する分析：集団活動に見る人間関係演習について。
第8回	保育所保育指針の解説（7）、保育所保育指針の解説（8）
第9回	保育所保育指針の解説（9）、保育所保育指針の解説（10）
第10回	親子で遊ぶこととは：意味と意義について考える。
第11回	保育所保育指針の解説（11）、保育所保育指針の解説（12）
第12回	保育所保育指針の解説（13）、保育所保育指針の解説（14）
第13回	保育内容の取扱い：保育実施上の配慮事項について。
第14回	幼稚園教育要領について解説する。
第15回	保育内容（人間関係）のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

出席を重視し、授業態度を評価するので、積極的な授業参加と俊敏な反応を期待する。

■授業時間外学習にかかわる情報

日頃から子どもの行動に興味関心を持ち、特に親子や友達の関係における子どもの動きや反応を観察するように心がけること。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。

■教科書

廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容（人間関係）』あるふあ出版、2009

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	保育内容（表現）	担当教員 （単位認定者）	矢島 崇裕	単位数 （時間数）	1 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	領域 保育者 音楽的表現 造形的表現 ごっこ遊び・劇的表現				

■授業の目的・到達目標

「領域 表現」における理論的・実践的な学びを通じ、子どもの創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す。

- ①乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、「領域 表現」の基本的理論を理解する。
- ②乳幼児の表現行動の特徴を知る。
- ③子どもの育ちを支える、学生自身の「感性・表現力」を磨く。
- ④グループ活動を通じ、保育者に必要な他者との「協力して」「創意工夫する」態度を養う。

■授業の概要

本講義では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」についての基本的理解を深めるとともに、保育者を目指す学生にとっての「表現」についての活動を行なう。乳幼児の表現行動の特徴を知り、グループ活動等のなかで学生自身の「感性・表現力」を磨き、保育者に必要な他者との「協力して」「創意工夫する」態度を養う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか
第2回	「表現」をどう捉えるか
第3回	領域「環境」が意味するもの
第4回	乳幼児の発達と表現
第5回	意味受容・意味生成としての身体
第6回	「表現」と環境構成
第7回	園の暮らしの中での「表現」
第8回	コミュニケーションとしての「表現」
第9回	音楽的表現
第10回	造形的表現
第11回	ごっこ遊び・劇的表現
第12回	表現を支える保育者の役割
第13回	現代保育における「表現」のもつ課題
第14回	小学校との連携
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- 保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。
- 関係書類等の提出期限は必ず守ること。
- 欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。
- 授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・身近な「表現」に関するニュースなどに興味を持ち授業に臨むこと。
- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領を参照すること。

■オフィスアワー

授業時に指示します。

■評価方法

筆記試験（60%）授業内レポート・小テスト（40%）の総合評価

■教科書

演習 保育内容 表現 岡 健 金澤 妙子 編著 建帛社

■参考書

授業の中で適宜紹介していく。

科目名	保育の心理学Ⅱ（教育心理学）	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達段階、教授方法とその理論的背景、教育評価、適応/不適応				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

保育現場や幼児教育の場での学習指導や、小学校における授業実践を効果的に行うための教育心理学的な理論と方法について理解し、実践を考える際にその知識を活用した工夫が考案できるようになること。

〔到達目標〕

- ①発達段階や個人差に応じた教育方法を適切に選択できるようになるための知識を得ること。
- ②効果的な教育方法を目指した工夫の背景にある心理学の知識を得ること。
- ③学習指導や授業実践の方法を考える際、教育心理学の基礎知識を活用した工夫が考案できるようになること。

■授業の概要

教育心理学の主要領域である「発達」「教授・学習」「評価・測定」「適応・不適応」に関する基礎知識を解説し、実際に幼児や学齢期の児童に『教える』場面で心理学の理論に基づいた工夫を考察・実践ができるようになるための演習を行う。また、受講生の関心に応じ「小学校への移行」「保護者への対応」「特別支援教育」等の話題も紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約
第2回	発達(1) 保育・教育と発達の間連
第3回	“(2) 遺伝と環境の発達への影響
第4回	教授・学習(1) 教えるのに「適した」時期を考える(成熟論的アプローチ)
第5回	“(2) 学習と行動主義
第6回	“(3) 幼児と児童の認識の仕方の差異を教育に活かす(ピアジェの認知発達段階説)
第7回	“(4) 記憶の仕組みと学習方略
第8回	“(5) 集団での保育/授業で協働学習を促すための考え方
第9回	評価・測定(1) 教育/保育の成果や学業成績をどのように測定するか
第10回	“(2) 知的な能力をどのように測定・評価するか
第11回	“(3) 教育・学習に関する個人差をどのように測定・評価するか
第12回	“(4) 教育評価を効果的に活用する授業プログラム
第13回	適応・不適応(1) 適応/不適応とは何か
第14回	“(2) 園児から小学生になるにあたっての様々な不適応
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・教科書の内容を要約した資料をほぼ毎回配布するため、ファイル等を用いて各自が管理することが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

レポート課題の提出:25%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価:35%、定期試験:40%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

櫻井茂男(監修):「実践につながる教育心理学」北樹出版 2012.

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	保育の表現技術I(体育)	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	遊び、健康、発達・発育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを学び、実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助の方法を理解できる。
- ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。
- ③さまざまな運動遊びの体験を通して支援・援助技法がおこなえる。

■授業の概要

乳幼児期の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業の内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全な遊べるかを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 運動遊びの必要性と目的
第2回	乳幼児期の心身の発達
第3回	運動遊びの指導の実際
第4回	「歩く」「走る」運動遊び
第5回	「ボール」運動遊び
第6回	「縄」を使った運動遊び
第7回	「新聞紙」を使った運動遊び
第8回	伝承遊び、鬼遊び
第9回	課題研究(班での計画立案)
第10回	課題研究(用具、遊びの準備)
第11回	課題研究(発表準備)
第12回	課題研究発表(班別発表①)
第13回	課題研究発表(班別発表②)
第14回	課題研究発表(班別発表③)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・幼児教育を目指す学生の自覚を持って受講する。運動着、運動靴、メモ用紙の準備をする。

〔受講のルール〕

- ・グループ学習を中心に実施する。
- ・グループ単位の課題研究を実施する。

■授業時間外学習にかかわる情報

ボランティア活動で乳幼児の遊びを意識して観察する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

実技・発表試験(60%)、レポート(40%)総合評価60%以上とする。

■教科書

岩崎洋子:「体育あそび120」:チャイルド本社:2010

■参考書

黒井信隆:0～5歳児のたのしい運動遊び:いかだ社:2010

科目名	保健医療サービス	担当教員 (単位認定者)	石井 幸仁	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	保健医療サービス				

■授業の目的・到達目標

保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につけることができる。
併せて将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。

■授業の概要

社会福祉士専門職（又は医療専門職）として患者（利用者）のQOL（生活の質）の向上に寄与・支援できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション 保健医療サービス・保健医療対策の概要	教科書・オリジナルプリントを予習・筆記した内容を整理し復習すること
第2回	医療保険制度 医療保険制度の概要 医療費に関する政策動向	〃
第3回	診療報酬 診療報酬制度の概要	〃
第4回	介護保険制度・自立支援医療を含む公費負担医療制度	〃
第5回	医療施設等の概要 (1) 医療法による医療施設 (2) 保険医療政策による医療施設 (3) 診療報酬における医療施設	〃
第6回	介護保険法における施設/在宅支援システム	〃
第7回	生命倫理学 インフォームド・コンセント等	〃
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割(1) 医師・看護師・保健師制度・医療系療法士 等	〃
第9回	保健医療サービスにおける専門職の役割(2) 社会福祉専門職 等	〃
第10回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(1) 医療ソーシャルワーカー業務指針	〃
第11回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(2) MSWと業務の内容 -理論編-	〃
第12回	医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士(3) MSWと業務の内容 -応用編-	〃
第13回	保健医療サービス関係者との連携と実際(1) 医師・看護師・保健師との連携と実際	〃
第14回	保健医療サービス関係者との連携と実際(2) 地域の社会資源との連携と実際	〃
第15回	医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理 総括	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書のみ依存する事なく口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。
講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。
教科書の通読のみでは正しく十分な理解は困難である。全体像との関連・前後の脈絡も踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容・資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。

〔受講のルール〕

初回の20分間で詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

授業時に指示する。

■評価方法

定期試験（80％）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20％）。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』最新版 中央法規出版
15-15に関してはオリジナルプリントを配布します。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	幼児理解	担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	子どもを理解する、保護者を理解する、保護者との関係				

■授業の目的・到達目標

子どもの援助を行うためには、子どもの成長・発達の過程を理解するとともに子どもを取り巻く家族の理解も必要である。子どもおよびその家族を支援することができる援助方法や関わり方を学び、子どもおよび家族への援助を考えていく。

■授業の概要

〔授業の目的〕人間の成長・発達を学び、その過程における子どもや家族の課題を理解したうえで、子どもを対象とした援助者として必要な子どもおよび家族を理解し、支援できる具体的方法を考え、実践できるようになることを目的とする。

- ① 子どもを含む人間の成長・発達過程における課題についてを学び、理解する。
- ② 子どもを取り巻く環境について学び、理解する。
- ③ 保護者について学び、理解する。
- ④ 保護者からの相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。
- ⑤ 対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	本講義のオリエンテーション 講義の進め方および対人援助専門職における自己覚知 ①
第2回	子どもを理解する ①絵本をとおして子どもを理解する
第3回	子どもを理解する ②子どもを理解する方法
第4回	子どもを理解する ③子どもの視点
第5回	子どもを理解する ④子どもの内なる視点
第6回	子どもを理解する ⑤子どもの成長と発達
第7回	子どもを理解する ⑥援助の必要な子どもの特徴
第8回	子どもを理解する ⑦援助の必要な子どもとの関わり方
第9回	保護者を理解する ①子どもにとっての環境
第10回	保護者を理解する ②保護者からの訴え
第11回	保護者を理解する ③保護者との関わり方
第12回	子どもと家族を支援する ①子どもと保護者の特徴を理解する
第13回	子どもと家族を支援する ②背景を理解する
第14回	子どもと家族を支援する ③相談援助と保護者を支えること
第15回	全体のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ①子どもに関わる対人援助専門職の資格取得にかかわる講義のため、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本となります。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めません。
- ②授業参加状況(相談・連絡・報告ができる、講義理解の確認のための振り返りシートの記述内容)を重視します。
- ③自ら具体的に考え、工夫し、現場における子どもの援助についての視点が持てることを目標に積極的な授業参加を期待します。
- ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等)は謹んでください。
- ⑤欠席した場合、授業配布プリント等は次回自ら申し出てください。欠席者の分を出席者が受け取ることはできません。
- ⑥提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。
- ②授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。

■オフィスアワー

初回の講義内で具体的に案内します。

■評価方法

- ① 授業への取り組み(グループワークなど授業への参加状況) 20%
- ② 授業レポート(内容および提出状況含む) 40%
- ③ 定期試験および課題レポート 40%

■教科書

最新保育講座 こども理解と援助 高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011

■参考書

- ①新・保育講座3 幼児理解と保育援助 森上史朗・浜口順子編 ミネルヴァ書房 2011
 - ②新時代の保育双書 「子どもの理解と保育・教育相談」 小田豊・秋田喜代美編(株)みらい 2009
 - ③「子ども理解と保育実践 子どもを知る・自分を知る」塚本美知子編著 萌文書林 2013
- その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	理科概論	担当教員 (単位認定者)	中津瀬 隆	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	初等科理科、理科の授業、化学、物理、理科教育				

■授業の目的・到達目標

身近にみられる現象や物質を題材として取りあげ、その科学的な原理を理解し、自然現象を科学的にとらえる能力を身につけると共に、小学校教師として必要な知識・技能・思考力・判断力・指導力の養成も目標とする。

■授業の概要

小学校教員免許の取得を目的とする学生のための授業であるので、小学校教科教育法（理科）で扱う題材の中のA区分「エネルギー」と「物質」の分野（物理と化学）を主として取り上げる。この授業では超高倍率・超スローモーション、超高速カメラ等による映像を活用するので学習内容の理解が深まる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	オリエンテーション：理科を学ぶ意義	学習：燃焼とは	指導法：教材、小6「ものを燃やすもの」
第2回	学習：元素記号、元素の周期律		
第3回	学習：酸化数、無機化合物の命名法		
第4回	学習：化学変化と化学反応式の書き方		
第5回	学習：2族元素、酸素・二酸化炭素・酸化カルシウムの反応、	指導法：教材、小6「燃えると出るのは」	
第6回	学習：小学校理科、化学分野の構成と内容、	学習：その2	花火の科学1 花火の仕組み
第7回	学習：花火の科学2 実例		
第8回	学習：乱用される薬物の化学	指導法：教材、小4「水と水蒸気」、「水の状態変化」	
第9回	学習：静電気と電流、電流の担い手、雷		
第10回	学習：電気の計り方	指導法：教材、小3「電気の通り道」、小4「電気の働き」	
第11回	学習：電気で動かす	指導法：教材、小3「磁石の性質」、小5「電流の働き」	
第12回	学習：電磁誘導、発電のしくみ	指導法：教材、小6「電気の利用」、小3「おもちゃの国」	
第13回	学習：力のモーメント	指導法：教材、小5「てこの規則性」、小5「天秤のつりあい」	
第14回	学習：運動と力①落下運動	指導法：教材、小5「ふりこの運動」	
第15回	学習：運動と力②無重力状態、③放物運動		

■受講生に関わる情報および受講のルール

意欲的な学習態度を望む。

■授業時間外学習にかかわる情報

配布された講義資料（プリント）に沿って復習を十分に行う。

■オフィスアワー

授業開始前の1時間と授業終了後の1時間

■評価方法

授業への取り組み 15%、定期試験 85%。

■教科書

教科書：毎回講義資料を配布する。その他、梅木信一 編著 小学校指導法 理科 玉川大学出版会

■参考書

鈴木智恵子著「身近な現象の物理と化学」東海大学出版会（図書室に用意してある）、その他、授業内で適宜紹介する。

科目名	臨床心理学（社会福祉専攻）	担当教員 （単位認定者）	大島 由之	単位数 （時間数）	2 （30）
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	異常心理学、ストレスサーとストレス反応、心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

社会福祉士や精神保健福祉士に代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として、異常心理（こころの病理）、心理査定（アセスメント）、心理療法の概要に関する知識を習得すること。

〔到達目標〕

- ①こころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになること。
- ②心理査定の目的と意義、方法に関する基礎的な内容について説明できるようになること。
- ③代表的な心理療法の背景となっている理論とその技法、効果と課題について説明できるようになること。

■授業の概要

臨床心理学とは「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、応用・実践との関連を紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、こころの異常・失調 (1) 4つの基準
第2回	こころの異常・失調 (2) ストレスサーとストレス反応、対処方略
第3回	〃 (3) 症状や失調の持つ意味と機能
第4回	心理療法の理論 (1) フロイトの精神分析①理論的背景とその技法
第5回	〃 (2) 〃 ②防衛機制
第6回	〃 (3) 行動療法①理論的背景とその技法
第7回	〃 (4) 〃 ②事例への技法の活用
第8回	〃 (5) ロジャースの来談者中心療法
第9回	心理査定 (1) 面接法
第10回	心理査定 (2) 観察法
第11回	心理療法の理論 (6) 家族療法の理論的背景とその技法
第12回	〃 (7) 事例検討:4つの心理療法のアプローチの差異
第13回	こころの異常・失調 (4) 発達障害と二次障害
第14回	心理査定 (3) 検査法
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・子ども専攻の学生の受講は原則として認めない。受講を希望する場合には事前に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

レポート課題の提出：25%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価：35%、定期試験：40%。
（詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う）

■教科書

下山晴彦（編）：「よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕」ミネルヴァ書房 2009.

■参考書

授業内で適宜紹介。

科目名	臨床心理学（子ども専攻）	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	発達の遅れ/偏り、発達障害、ストレスとストレス反応、心理査定、心理療法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をはじめとした子どもに対する援助職に求められる臨床心理学の基礎的知識の習得を目指す。特に、これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。

〔到達目標〕

- ①子どものこころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになること。
- ②子どもに対する心理査定の方法とその意義に関する基礎的な内容について説明できるようになること。
- ③代表的な子どもに対する心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになること。

■授業の概要

臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、子どもとその保護者に対する対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、応用・実践との関連を紹介する予定である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、こころの異常・失調(1) 発達の遅れと偏り
第2回	こころの異常・失調(2) 困りごとを捉える4つの基準
第3回	“(3) スレッサーとストレス反応、対処方略
第4回	“(4) 発達の偏り①自閉的な子/不注意な子/多動な子とは
第5回	“(5) “ ②学習指導上の困難さ
第6回	“(6) 正常発達の中で見られる異常/困りごと
第7回	心理療法の理論(1) 精神分析的なアプローチ
第8回	“(2) 行動療法的なアプローチ①理論的背景とその技法
第9回	“(3) “ ②保育場面/教育場面での応用
第10回	心理査定(1) 面接法
第11回	心理療法の理論(4) カウンセリングと遊戯療法
第12回	心理査定(2) 観察法
第13回	こころの異常・失調(7) 愛着の問題に関連した異常/困りごと
第14回	心理査定(3) 検査法
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・教科書を毎回持参すること。
- ・社会福祉専攻の学生の受講は原則として認めない。受講を希望する場合には事前に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

レポート課題の提出:25%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価:35%、定期試験:40%。
(詳細はシラバスを参照。また初回講義時に説明を行う)

■教科書

山口勝己:「子ども理解と発達臨床」北大路書房 2007.

■参考書

これまでの発達心理学に関する講義で使用した教科書があれば持参することが望ましい。

科目名	臨床心理学特講	担当教員 (単位認定者)	大島 由之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	異常心理学、ストレスサーとストレス反応、中核症状と周辺症状、患者教育				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目標〕

社会福祉士や精神保健福祉士に代表される対人援助職に求められる「こころの異常・失調」の状態像とその生起・維持メカニズムについての知識（異常心理学）を習得し、状態像の持つ意味について考察できるようになること。

〔到達目標〕

- ①代表的な「こころの異常・失調」の生起・維持メカニズムを説明できるようになること。
- ②「こころの異常・失調」が生じている意味や問題となっている構造について考察できるようになること。
- ③代表的な「こころの異常・失調」の概略について、非専門家である第三者に説明できるようになること。

■授業の概要

異常心理学とは、「行動や人格（パーソナリティ）に認められる異常な現象を研究する対象とする分野の総称」と定義され、『病的障害としての異常（精神疾患や精神障害）』や『正常者における異常状態（催眠状態や物質による幻覚、ストレス反応）』が内容に含まれる。本講義では、これらの知識を紹介した上で、演習としてそれぞれの背景を検討することで対人援助職に求められる「こころの異常・失調」に関する理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーションと授業契約、「こころの異常・失調」を見る視点
第2回	知覚の異常(1)「幻聴」本来、聞こえないはずのものが聞こえる
第3回	〃 (2) 幻聴がもたらすもの
第4回	思考内容の異常:「妄想」明らかにありえない/誤っている考えだが、訂正が出来ない考え
第5回	思考体験の異常:「強迫観念」明らかにありえない/誤っていると分かっているが止められない考え
第6回	感情の異常(1)「不安」とにかく怖い
第7回	欲動・行動の異常(1)「依存」やめたいけどやめられない
第8回	〃 (2)「食欲」食べたい/食べたくない
第9回	知能の異常:「認知症」①正常な老化との差異
第10回	〃 ②知能(記憶)の異常がなぜ行動の問題につながるのか
第11回	感情の異常(2)「抑うつ気分」①おちこみとその先
第12回	〃 ②「うつ病は甘え」「頑張れと言っはいけない」と言われるのは何故か
第13回	〃 ③うつを理解して自殺をどのように防ぐか
第14回	感情の異常(3)「高揚気分/躁状態」病的に元気すぎる
第15回	総まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・講義内で図書室やPC室を利用する場合があるため、利用可能な状態にしておくこと。
- ・原則として「臨床心理学」を受講済の学生を対象とする。それ以外の学生で希望する場合には事前に相談すること。

〔受講のルール〕

- ・遅刻/欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。
- ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。
- ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

講義内で紹介した書籍や映像作品、報道されたニュース等については確認する習慣を作ること。

■オフィスアワー

初回の講義時、講師の連絡先と合わせて掲示する。

■評価方法

授業内での課題提出 35%、授業内での発表等の評価 35%、最終レポート 30%。

■教科書

なし（講義内でトピック等をまとめた資料を配布）

■参考書

下山晴彦（編）：「よくわかる臨床心理学 [改訂新版]」 ミネルヴァ書房 2009.

科目名	老人心理学	担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	一覧表参照	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		一覧表参照			
キーワード	高齢期、高齢期の発達課題、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

高齢者について、加齢が及ぼす様々な心理的影響について理解し、それを踏まえた上で、高齢者の心理的側面への対応について考えることができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢期における様々な心理的特性について、理解できる。
- ②高齢期の心理的特性を理解した上で、どのようなサポートが大切か考えることができる。

■授業の概要

本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理への対応について考察する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 老化とその心理的影響 ⇒ 高齢者への対応」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習については第1回授業にて説明します。

第1回	科目オリエンテーション 高齢者とは
第2回	発達心理学の方法と考え方
第3回	老化のとらえ方、老いの自覚
第4回	高齢者の感覚と知覚
第5回	高齢者の身体機能
第6回	高齢者の知的機能とその特徴
第7回	高齢者の記憶機能とその特徴(記憶プロセスにおける加齢の影響)
第8回	高齢者の記憶機能とその特徴(様々な記憶能力における加齢の影響)
第9回	高齢者のパーソナリティの特徴とその変容
第10回	高齢者の社会関係
第11回	高齢者と死の受容と生きがいについて
第12回	高齢期の精神医学的特徴
第13回	認知症
第14回	認知症高齢者と家族の問題
第15回	総括

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・受講に際し、「福祉心理学」、「発達心理学a」、「心理学理論と心理的支援」を受講済みであることがのぞましい。
- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

〔受講のルール〕

- ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン(携帯電話)の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。
- ・他の受講生の迷惑になる行為(私語、など)はしないこと。
- ・授業に関係のない物(スマートフォン・携帯電話など)は鞆の中に入れておくこと。各自の諸事情により、机に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。

■授業時間外学習にかかわる情報

新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。

■オフィスアワー

開講時に指示する。

■評価方法

①授業時に課す課題(小レポート等)(40%) ②学期末試験(60%) ①～②を総合的に評価する。

■教科書

佐藤眞一・高山緑・増本康平著 『老いのころ 加齢と成熟の発達心理学』 有斐閣アルマ 2014年

■参考書

佐藤眞一 著 『ご老人は謎だらけ 老年行動学が解き明かす』 光文社新書 2011年
権藤恭之 編 『高齢者心理学』 朝倉書店 2008年

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（基礎教養科目）

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		福祉教育	福・心	心	教	教	教	教	児・初	児・初	初
				必修	選択																		
1	哲学	1	2	●		●		●		●		●					●	●			●		
2	倫理学	2	2	●		●		●		●		●					●	●			●		
3	心理学理論と心理的支援	1	2	●		●			●		●		●	●	●						●		
4	社会学理論と社会システム	1	2	●		●		●		●		●	●	●			●	●					
5	日本国憲法	2	2		●		●	●			●	●					●	●	●			●	●
6	道徳教育	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●				●
7	健康論	1	2	●		●		●		●		●									●		
8	スポーツ・レクリエーション実技 (体育及びレクリエーション実技)	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●		●	●	●
9	情報処理演習	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●			●	●
10	福祉情報処理	3	2		●		●		●		●		●									●	●
11	英語Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●		●	●	●
12	英語Ⅱ	1	2	●		●		●		●		●						●	●			●	●
13	英語Ⅲ	2	2		●		●		●		●		●									▲	
14	英語Ⅳ	2	2		●		●		●		●		●									▲	
15	韓国語Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●										
16	韓国語Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●										
17	中国語Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●										
18	中国語Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●										
19	英会話	4	2		●		●		●		●		●									▲	●
20	経済学	2	2		●		●		●		●		●				▲	●					
21	政治学Ⅰ	4	2		●		●		●		●		●				●	●					
22	政治学Ⅱ	4	2		●		●		●		●		●				●	●					
23	人間と宗教	4	2		●		●		●		●		●					●					
24	生涯学習概論	4	2		●		●		●		●		●										
25	児童文学	3	2		●		●		●		●		●									▲	
26	読書指導と文芸	4	2		●		●		●		●		●									▲	
27	マスメディア論	4	2		●		●		●		●		●				▲	▲					
28	レクリエーション活動援助法	3	2		●		●		●		●		●										
29	特設科目・論語	4	2	●		●		●		●		●					●						
30	教育原理	1	2		●		●		●		●		●				●	●	●		●	●	●
31	日本史Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●				●						
32	日本史Ⅱ	2	2		●		●		●		●		●				▲						
33	世界史	2	2		●		●		●		●		●				●						
34	地理学	2	2		●		●		●		●		●				●						
35	基礎演習Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●									●		
36	基礎演習Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●									●		
37	専門演習Ⅰ	3	2	●		●		●		●		●									●		
38	専門演習Ⅱ	4	2	●		●		●		●		●									●		
39	ボランティア活動Ⅰ	1	2	●		●		●		●		●					●	●	●			●	●
40	ボランティア活動Ⅱ	2	2	●		●		●		●		●					●	●	●			●	●
41	ボランティア活動Ⅲ	3	1		●		●		●		●		●										▲
42	ボランティア活動Ⅳ	4	1		●		●		●		●		●										▲

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイダンスで確認してください。

群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教育課程等の概要（専門科目）

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校(公民)	高校(備出)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
1	人体の構造と機能及び疾病	1	2	●		●		●		●		●	●							●			
2	保健医療サービス	1	2	●		●		●		●		●	●							●			
3	現代社会と福祉	2	4	●		●		●		●		●	●							●			
4	高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4	●		●		●		●		●	●							●			
5	障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	●		●		●		●		●	●							●			
6	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4	●		●		●		●		●	●							●			
7	相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4	●		●		●		●		●	●							●			
8	相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4	●		●		●		●		●	●							▲			
9	相談援助演習Ⅰ	1	1	●			●		●	●			●	●						●		●	
10	相談援助演習Ⅱ	2	2	●			●		●	●			●	●						▲		●	
11	相談援助演習Ⅲ	3	2	●			●		●		●		●	●						▲			
12	相談援助実習指導Ⅰ	2	1	●			●		●		●		●	●						●			
13	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	●			●		●		●		●	●						●			
14	相談援助実習	3	4	●			●		●		●		●	●						●			
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2	●			●		●		●		●	●									
16	地域福祉の理論と方法	3	2	●			●		●		●		●	●					●	●			
17	社会福祉特講Ⅰ	1	1		●		●		●		●												
18	社会福祉特講Ⅱ	2	2		●		●		●		●												
19	社会福祉特講Ⅲ	3	2		●		●		●		●												
20	社会福祉特講Ⅳ	4	2		●		●		●		●												
21	社会保障	2	4	●			●		●		●		●	●				●	●	▲			
22	権利擁護と成年後見制度	4	2	●			●		●		●		●	●					▲	▲			
23	更生保護制度	4	2	●			●		●		●		●	●					▲	▲			
24	社会調査の基礎	2	2	●			●		●		●		●	●						▲			
25	相談援助の基礎と専門職	1	4	●		●		●		●		●	●										
26	福祉行財政と福祉計画	1	2	●			●		●		●		●	●									
27	福祉サービスの組織と経営	3	4	●			●		●		●		●	●									
28	就労支援サービス	4	2	●			●		●		●		●	●									
29	福祉心理学	1	2	●		●		●		●		●							▲		●	●	
30	社会福祉史	1	2	●			●		●		●									▲			
31	福祉事務所運営論	4	2	●			●		●		●												
32	精神疾患と治療	3	4		●		●						●										
33	精神保健の課題と支援	4	4		●		●						●										
34	精神保健福祉相談援助の基礎(専門)	1	2		●		●						●										
35	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	8		●		●						●										
36	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	4		●		●						●										
37	精神障害者の生活支援システム	3	2		●		●						●										
38	精神保健福祉援助演習(基礎)	3	2		●		●						●										
39	精神保健福祉援助演習(専門)	4	2		●		●						●										
40	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	1		●		●						●										
41	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	1		●		●						●										
42	精神保健福祉援助実習	4	4		●		●						●										
43	アクティビティ・サービス援助技術	4	2		●						●												
44	心理学研究法	1	2		●	●			●											●			
45	学習心理学	1	2		●	●			●											▲			
46	発達心理学 a	1	4		●	●			●	●		●								▲		▲	
47	発達心理学 b (保育の心理学Ⅰ)	1	2						●	●		●										●	●
48	心理統計学	2	4		●	●			●											●			
49	老人心理学	2	2		●	●			●											▲		●	
50	障害児(者)心理学	2	2		●	●			●											▲		●	
51	教育心理学(保育の心理学Ⅱ)	1	2		●	●			●				●							●	●	●	●
52	認知心理学	3	2		●	●			●											▲			
53	社会心理学	3	2		●	●			●											▲			
54	臨床心理学	3	2		●	●			●	●			●							▲			
55	カウンセリング	4	2		●	●			●		●		●							▲		▲	
56	青年心理学	2	2		●		●		●														
57	公衆衛生学	2	2		●		●		●		●		●										
58	心理療法	3	2		●		●		●											▲			
59	人間関係論	2	2		●	●			●											▲			
60	国際福祉論	4	2		●		●		●		●		●										
61	人格心理学	3・4	2		●		●		●											▲			
62	住環境福祉論	4	2		●		●		●		●		●										

※配当年次変更中の科目があり、記載された配当年次と、今年度開講年次が異なる科目があります。履修ガイドンスで確認してください。

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉C		福祉心理C		学校教育C		児童福祉C		初等教育C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校(公民)	教(備前)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択												
63	社会福祉法制	3	2		●		●		●		●		●										
64	相談心理学	4	2		●		●		●							▲							
65	介護技術Ⅰ	2	2		●		●		●		●		●						●				
66	介護技術Ⅱ	3	2		●		●		●		●		●						▲				
67	卒業研究	3・4	6		●		●		●		●		●										
68	心理学実験実習Ⅰ	2	4				●									●							
69	心理学実験実習Ⅱ	3	2				●									●							
70	心理学実験実習Ⅲ	3	2				●									▲							
71	発達心理学特講	4	2				●									▲							
72	臨床心理学特講	3・4	2				●									▲							
73	教職概論	2	2						●			●	●				●	●	●			●	●
74	教育社会学	2	2						●			●	●				●	●	●			●	●
75	社会科教育法Ⅰ	3	4						●								●						
76	社会科教育法Ⅱ	2	4						●								●						
77	公民科教育法	3	2						●									●					
78	福祉科教育法	2	2						●										●				
79	特別活動研究	3	2						●			●		●			●	●	●				●
80	教育方法論	2	2						●			●	●				●	●	●			●	●
81	生徒指導論	3	2						●			●		●			●	●	●				●
82	教育相談論	3	2						●			●		●			●	●	●				●
83	教職実践演習(中・高)	4	2						●								●	●	●				
84	教育実習事前・事後指導(高校)	2・3	1						●								●	●	●				
85	高等学校教育実習	3	4						●									●	●				
86	学校経営と学校図書館	3	2						●		●		●										
87	学校図書館メディアの構成	3	2						●		●		●										
88	学習指導と学校図書館	3	2						●		●		●										
89	読書と豊かな人間性	3	2						●		●		●										
90	情報メディアの活用	3	2						●		●		●										
91	特別支援教育総論	2	2						●												●		
92	障害児支援法総論	2	2						●												●		
93	重複障害教育総論	2	1						●												●		
94	知的障害教育Ⅰ	2	2						●												●		
95	肢体不自由教育Ⅰ	2	2						●												●		
96	知的障害者の心理・生理・病理	3	2						●												●		
97	肢体不自由者の心理・生理・病理	3	2						●												●		
98	知的障害教育Ⅱ	3	2						●												●		
99	肢体不自由教育Ⅱ	3	2						●												●		
100	病弱者の心理・生理・病理	4	2						●												●		
101	病弱教育	4	2						●												●		
102	LD等教育総論	4	2						●												●		
103	教育実習事前・事後指導(特支)	3・4	1						●												●		
104	特別支援学校教育実習	4	2						●												●		
105	中学校教育実習	3	4						●								●						
106	幼児理解	4	2								●	●										●	
107	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2								●											●	
108	幼稚園教育実習	4	4								●											●	
109	生活科概論	2	2								●		●									▲	●
110	地域子育て支援論	4	2								●		●									▲	
111	青少年の理解と援助	4	2								●		●									▲	
112	人権教育論	4	2								●		●									▲	
113	保育原理Ⅰ	1	4							●		●									●	●	
114	社会的養護Ⅰ	2	2							●		●									●		
115	家族援助論	4	2							●		●									●	●	
116	保育内容 総論	4	1							●		●									●	●	
117	保育内容 健康	1	1							●		●									●	●	
118	保育内容 人間関係	2	1							●		●									●	●	
119	保育内容 環境	1	1							●		●									●	●	
120	保育内容 言葉	2	1							●		●									●	●	
121	保育内容 表現	3	1							●		●									●	●	
122	乳児保育Ⅰ(演習)	3	2							●		●									●		
123	障害児保育(演習)	2	1							●		●									●		
124	保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	2							●		●									●	●	

No.	科目名	配当年次	単位	社会福祉 C		福祉心理 C		学校教育 C		児童福祉 C		初等教育 C		社福士	精保士	認定心理	中学校	高校(公民)	教(備前)	特別支援	保育士	幼稚園	小学校	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択													
125	保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2							●		●									●	●		
126	保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1							●		●										●	●	
127	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3	1							●												●		
128	保育実習指導Ⅰ(施設)	2・3	1							●												●		
129	保育原理Ⅱ	3	2							●		●										●	●	
130	社会的養護Ⅱ	2	2							●			●									●		
131	乳児保育Ⅱ(演習)	4	1							●			●									●		
132	児童文化(演習)	2	2							●			●									●		
133	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法A)	2	2							●		●										●	●	
134	保育の表現技術Ⅱ(幼児美術指導法)	3	2							●		●										●	●	
135	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法B)	3	2							●		●										●	●	
136	保育の表現技術Ⅱ(幼児音楽指導法C)	4	2								●		●									▲	▲	
137	国語科概論	2	2										●											●
138	社会科概論	2	2										●											●
139	数学概論	2	2										●											●
140	理科概論	2	2										●											●
141	音楽概論	2	2										●											●
142	美術概論	2	2										●											●
143	家庭科概論	2	2										●											●
144	体育概論	2	2										●											●
145	小学校教育法(国語)	3	2										●											●
146	小学校教育法(社会)	4	2										●											●
147	小学校教育法(算数)	3	2										●											●
148	小学校教育法(理科)	4	2										●											●
149	小学校教育法(生活)	4	2										●											●
150	小学校教育法(音楽)	4	2										●											●
151	小学校教育法(図工)	3	2										●											●
152	小学校教育法(家庭)	4	2										●											●
153	小学校教育法(体育)	3	2										●											●
154	初等教育実習事前事後指導	3・4	1										●											●
155	小学校教育実習	4	4										●											●
156	教職実践演習(小学校)	4	2										●											●
157	保育実習Ⅰ(保育所)	3	2							●			●									●		
158	保育実習Ⅰ(施設)	2	2							●												●		
159	保育実習Ⅱ(保育所)	4	1							●			●									●		
160	子どもの保健Ⅰ	4	2							●			●									●		
161	子どもの保健Ⅱ	3	3							●			●									●		
162	社会的養護内容	2	1							●			●									●		
163	子どもの食と栄養	2	2							●			●									●		
164	保育者論	3	2							●	●		●											
165	保育課程論	3	2							●		●												

平成 28 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・社会福祉コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会理論と社会システム	1	2		
日本国憲法	2		2	
道徳教育	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III (休講)	2		2	
英語 IV (休講)	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	
経済学	2		2	
政治学 I	4		2	
政治学 II	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸 (休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
専門演習 I	3	2		
専門演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	

社会福祉専攻
社会福祉コースは
基礎教養科目にお
いては、必修科目
17 科目 34 単位の
外に選択科目より
8 単位以上履修

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2	4		
相談援助の理論と方法 II	3	4		
相談援助演習 I	1	1		
相談援助演習 II	2	2		
相談援助演習 III	3	2		
相談援助実習指導 I	2	1		
相談援助実習指導 II	3	2		
相談援助実習	3	4		
低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		
地域福祉の理論と方法	3	2		
社会保障	2	4		
権利擁護と成年後見制度	4	2		
更生保護制度	4	2		
社会調査の基礎	2	2		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉行財政と福祉計画	1	2		
福祉サービスの組織と経営	3	4		
就労支援サービス	4	2		
福祉心理学	1	2		
社会福祉史	1	2		
福祉事務所運営論	4	2		
精神疾患とその治療	4		4	
精神保健の課題と支援	4		4	
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	1		2	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2		4	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	3		4	
精神保健福祉に関する制度とサービス	4		4	
精神障害者の生活支援システム	2		2	
精神保健福祉援助演習(基礎)	3		2	
精神保健福祉援助演習(専門)	4		2	
精神保健福祉援助実習指導 I	3		1	
精神保健福祉援助実習指導 II	4		2	
精神保健福祉援助実習	4		4	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
心理学研究法	1		2	
学習心理学	1		2	
発達心理学 a	1		4	
心理統計学	2		4	
老人心理学	2		2	
障害児(者)心理学	2		2	
教育心理学	1		2	
認知心理学	3		2	
社会心理学	3		2	
臨床心理学	3		2	
カウンセリング	4		2	
青年心理学	2		2	
公衆衛生学	2		2	
心理療法	3		2	
人間関係論	2		2	
国際福祉論	4		2	
人格心理学	3~		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
相談心理学	4		2	
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
卒業研究	3		6	
卒業研究	4			
社会福祉特講 I	1		1	
社会福祉特講 II	2		2	
社会福祉特講 III	3		2	
社会福祉特講 IV	4		2	
介護体験実習 I	4		1	
介護体験実習 II	4		1	
介護体験実習指導	4		1	
社会福祉専攻社会福祉コース 最低履修単位			124 単位	

社会福祉専攻
社会福祉コースは
専門科目において
は、必修科目 27
科目 68 単位の外
に選択科目より
14 単位以上履修
のこと
ただし、社会福祉
士受験資格を取得
しない者は、相
談援助演習 III (2
単位)、相談援助
実習指導 I (1 単
位)、相談援助実
習指導 II (2 単
位)、相談援助実
習 (4 単位) の計
9 単位分について
は、選択科目より
14 単位を超えた
分の単位数を充て
ることができるも
のとする。

平成 28 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・福祉心理コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会学理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2		2	
道徳教育	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III (休講)	2		2	
英語 IV (休講)	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	社会福祉専攻 福祉心理コースは 基礎教養科目にお いては、必修科目 16 科目 32 単位の 外に選択科目より 8 単位以上履修
経済学	2		2	
政治学 I	4		2	
政治学 II	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸(休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
専門演習 I	3	2		
専門演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備 考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2	4		
相談援助の理論と方法 II	3	4		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
心理学研究法	1	2		
学習心理学	1	2		
発達心理学 a	1	4		
心理統計学	2	4		
教育心理学	1	2		
心理学実験実習 I	2	4		
心理学実験実習 II	3	2		
心理学実験実習 III	3	2		
認知心理学	3	2		
社会心理学	3	2		
臨床心理学	3	2		
カウンセリング	4	2		
人間関係論	2	2		
老人心理学	2	2		
障害児(者)心理学	2	2		
青年心理学	2		2	
心理療法	3		2	
人格心理学	3~		2	
相談心理学	4		2	
相談援助演習 I	1	1		
相談援助演習 II	2	2		
相談援助演習 III	3	2		
相談援助実習指導 I	2	1		
相談援助実習指導 II	3	2		
相談援助実習	3	4		
低所得者に対する支援と生活保護制度	3	2		社会福祉専攻 福祉心理コースは 専門科目において は、必修科目 25 科目 68 単位の外 に選択必修科目よ り 2 科目 4 単位以 上、その他の選択 科目より 12 単位 以上履修のこと
地域福祉の理論と方法	3	2		
社会保障	2	4		
権利擁護と成年後見制度	4	2		
更生保護制度	4	2		
社会調査の基礎	2	2		
福祉行財政と福祉計画	1	2		
福祉サービスの組織と経営	3	4		
就労支援サービス	4	2		
社会福祉史	1	2		
福祉事務所運営論	4	2		
公衆衛生学	2	2		
国際福祉論	4	2		
住環境福祉論	4	2		
社会福祉法制	3	2		
発達心理学特講	4	2		
臨床心理学特講	3~	2		
介護技術 I	2	2		
介護技術 II	3	2		
精神疾患とその治療	4	4		
精神保健の課題と支援	4	4		
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	1	2		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I	2	4		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	3	4		
精神保健福祉に関する制度とサービス	4	4		
精神障害者の生活支援システム	2	2		
精神保健福祉援助演習(基礎)	3	2		
精神保健福祉援助演習(専門)	4	2		
精神保健福祉援助実習指導 I	3	1		
精神保健福祉援助実習指導 II	4	2		
精神保健福祉援助実習	4	4		
卒業研究	3	6		
卒業研究	4			
社会福祉特講 I	1	1		
社会福祉特講 II	2	2		
社会福祉特講 III	3	2		
社会福祉特講 IV	4	2		
介護体験実習 I	4	1		
介護体験実習 II	4	1		
介護体験実習指導	4	1		
社会福祉専攻福祉心理コース 最低履修単位		124	単位	

平成 28 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(社会福祉専攻・学校教育コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1		2	
社会理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2	2		
道徳教育	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語Ⅰ	1	2		
英語Ⅱ	1	2		
英語Ⅲ(休講)	2		2	
英語Ⅳ(休講)	2		2	
韓国語Ⅰ	2		2	
韓国語Ⅱ	2		2	
中国語Ⅰ	2		2	
中国語Ⅱ	2		2	
英会話	4		2	
経済学	2		2	
政治学Ⅰ	4		2	
政治学Ⅱ	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸(休講)	4		2	
マスメディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1	2		
日本史Ⅰ	2		2	
日本史Ⅱ	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習Ⅰ	1	2		
基礎演習Ⅱ	2	2		
専門演習Ⅰ	3	2		
専門演習Ⅱ	4	2		
ボランティア活動Ⅰ	1	2		
ボランティア活動Ⅱ	2	2		
ボランティア活動Ⅲ	3		1	
ボランティア活動Ⅳ	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1	4		
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	4		
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	4		
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教育心理学	1	2		
教職概論	2	2		
教育社会学	2	2		
心理学研究法	1		2	
学習心理学	1		2	
発達心理学 a	1		4	
心理統計学	2		4	
認知心理学	3		2	
社会心理学	3		2	
臨床心理学	3		2	
カウンセリング	4		2	
人間関係論	2		2	
老人心理学	2		2	
障害児(者)心理学	2		2	
青年心理学	2		2	
心理療法	3		2	
人格心理学	3		2	
相談心理学	4		2	
相談援助演習Ⅰ	1		1	
相談援助演習Ⅱ	2		2	
相談援助演習Ⅲ	3		2	
相談援助実習指導Ⅰ	2		1	
相談援助実習指導Ⅱ	3		2	
相談援助実習	3		4	
低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
地域福祉の理論と方法	3		2	
社会保障	2		4	
権利擁護と成年後見制度	4		2	
更生保護制度	4		2	
社会調査の基礎	2		2	
福祉行財政と福祉計画	1		2	
福祉サービスの組織と経営	3		4	
就労支援サービス	4		2	
社会福祉史	1		2	
福祉事務所運営論	4		2	
公衆衛生学	2		2	
国際福祉論	4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
介護技術Ⅰ	2		2	
介護技術Ⅱ	3		2	
社会科教育法Ⅰ	2		4	
社会科教育法Ⅱ	2		4	
公民科教育法	3		4	
福祉科教育法	2		4	
特別活動研究	3	2		
教育方法論	2	2		
生徒指導論	3	2		
教育相談論	3	2		
教職実践演習(中・高)	4		2	
教育実習事前・事後指導(中・高)	2-3		1	
高等学校教育実習	3		2	
学校経営と学校図書館	3		2	
学校図書館メディアの構成	3		2	
学習指導と学校図書館	3		2	
読書と豊かな人間性	3		2	
情報メディアの活用	3		2	
特別支援教育総論	2		2	
障害児支援法総論	2		2	
重複障害教育総論	2		1	
知的障害教育Ⅰ	2		2	
肢体不自由教育Ⅰ	2		2	
知的障害者の心理・生理・病理	3		2	
肢体不自由者の心理・生理・病理	3		2	
知的障害教育Ⅱ	3		2	
肢体不自由教育Ⅱ	3		2	
病弱者の心理・生理・病理	4		2	
病弱教育	4		2	
LD等教育総論	4		2	
教育実習事前・事後指導(特支)	4		1	
特別支援学校教育実習	4		2	
中学校教育実習	3		4	
高等学校教育実習	3		2	
卒業研究	3		6	
卒業研究	4			
社会福祉特講Ⅰ	1		1	
社会福祉特講Ⅱ	2		2	
社会福祉特講Ⅲ	3		2	
社会福祉特講Ⅳ	4		2	
介護体験実習Ⅰ	3		1	
介護体験実習Ⅱ	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
社会福祉専攻学校教育コース 最低履修単位			124	単位

社会福祉専攻
学校教育コースは
専門科目において
は、必修科目17
科目46単位の外
に選択科目より
36単位以上履修
のこと

平成 28 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 (子ども専攻・児童福祉コース)

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
基礎教養科目				
哲学	1	2		
倫理学	2	2		
心理学理論と心理的支援	1	2		
社会学理論と社会システム	1		2	
日本国憲法	2		2	
道徳教育	1	2		
健康論	1	2		
体育(スポーツ)及びレクリエーション実技	1	2		
情報処理演習	1	2		
福祉情報処理	3		2	
英語 I	1	2		
英語 II	1	2		
英語 III (休講)	2		2	
英語 IV (休講)	2		2	
韓国語 I	2		2	
韓国語 II	2		2	
中国語 I	2		2	
中国語 II	2		2	
英会話	4		2	
経済学	2		2	
政治学 I	4		2	
政治学 II	4		2	
人間と宗教	4		2	
生涯学習概論	4		2	
児童文学	3		2	
読書指導と文芸(休講)	4		2	
メディア論	4		2	
レクリエーション活動援助法	3		2	
特設科目・論語	4	2		
教育原理	1		2	
日本史 I	2		2	
日本史 II	2		2	
世界史	2		2	
地理学	2		2	
基礎演習 I	1	2		
基礎演習 II	2	2		
専門演習 I	3	2		
専門演習 II	4	2		
ボランティア活動 I	1	2		
ボランティア活動 II	2	2		
ボランティア活動 III	3		1	
ボランティア活動 IV	4		1	

授業科目の名称	配当 年次	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
人体の構造と機能及び疾病	1	2		
保健医療サービス	1	2		
現代社会と福祉	2	4		
高齢者に対する支援と介護保険制度	1		4	
障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2		
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
相談援助の理論と方法 I	2		4	
相談援助の理論と方法 II	3		4	
相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉心理学	1	2		
教職概論	2		2	
教育社会学	2		2	
カウンセリング	4		2	
相談援助演習 I	1	1		
相談援助演習 II	2	2		
相談援助演習 III	3		2	
相談援助実習指導 I	2		1	
相談援助実習指導 II	3		2	
相談援助実習	3		4	
低所得者に対する支援と生活保護制度	3		2	
地域福祉の理論と方法	3		2	
社会保障	2		4	
権利擁護と成年後見制度	4		2	
更生保護制度	4		2	
社会調査の基礎	2		2	
福祉行政と福祉計画	1		2	
福祉サービスの組織と経営	3		4	
就労支援サービス	4		2	
社会福祉史	1		2	
福祉事務所運営論	4		2	
公衆衛生学	2		2	
国際福祉論	4		2	
住環境福祉論	4		2	
社会福祉法制	3		2	
アクティビティ・サービス援助技術	4		2	
幼児理解	4		2	
幼稚園教育実習事前事後指導	4		2	
幼稚園教育実習	4		4	
生活科概論	2		2	
地域子育て支援論	4		2	
青少年の理解と援助	3		2	
人権教育論	4		2	
介護技術 I	2		2	
介護技術 II	3		2	
特別活動研究	3		2	
教育方法論	2		2	
生徒指導論	3		2	
教育相談論	3		2	
保育教職実践演習	4		2	
学校経営と学校図書館	3		2	
学校図書館メディアの構成	3		2	
学習指導と学校図書館	3		2	
読書と豊かな人間性	3		2	
情報メディアの活用	3		2	
保育原理 I	1	4		
社会的養護 I	2	2		
発達心理学(保育の心理学 I)	1	2		
教育心理学(保育の心理学 II)	1	2		
子どもの保健 I	4	4		
子どもの保健 II	3	1		
子どもの食と栄養	2	2		
家庭支援論	4	2		
保育内容 総論	4	1		
保育内容 健康	1	1		
保育内容 人間関係	2	1		
保育内容 環境	1	1		
保育内容 言葉	2	1		
保育内容 表現	3	1		
乳児保育 I	3	2		
障害児保育	2	1		
社会的養護内容	1	1		
保育の表現技術 I 音楽	1	2		
保育の表現技術 I 図画工作	1	2		
保育の表現技術 I 体育	1	1		
保育実習 I (保育所)	3	2		
保育実習 I (施設)	2	2		
保育実習 II (保育所)	4	2		
保育実習指導 I (保育所)	3	1		
保育実習指導 I (施設)	2・3	1		
保育実習指導 II (保育所)	4	1		
保育教職実践演習	4	2		
保育原理 II (休講)	3	2		
社会的養護 II	3	2		
乳児保育 II (休講)	4	1		
児童文化(演習)	2	2		
保育の表現技術 II (幼児音楽指導法 A)	2	2		
保育の表現技術 II (幼児美術指導法)	3	2		
保育の表現技術 II (幼児音楽指導法 B)	3	2		
保育の表現技術 II (幼児音楽指導法 C)	4		2	
臨床心理学	3	2		
保育者論	3		2	
保育課程論	3		2	
卒業研究	3			
卒業研究	4		6	
社会福祉特講 I	1		1	
社会福祉特講 II	2		2	
社会福祉特講 III	3		2	
社会福祉特講 IV	4		2	
介護体験実習 I	3		1	
介護体験実習 II	3		1	
介護体験実習指導	3		1	
子ども専攻児童福祉コース 最低履修単位		124	単位	

子ども専攻
児童福祉コースは
専門科目において
は、必修科目 43 科
目 83 単位の他に選
択科目より 3 単位
以上履修のこと
ただし、保育士資
格を取得しない者
は、保育実習 I (保
育所) (2 単位)、
保育実習 II (施設)
(2 単位)、保育実
習 II (保育所) (2
単位)、保育実習
指導 I (保育所) (1
単位)、保育実習
指導 I (施設) (1
単位)、保育実習
指導 II (保育所) (1
単位)の計 9 単位
分については、選
択科目より 3 単位
を超えた分の単位
数を充てることが
できるものとす
る。

平成 28 年度 群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科（子ども専攻・初等教育コース）

授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎教養科目					専門科目				
哲学	1	2			人体の構造と機能及び疾病	1	2		
倫理学	2	2			保健医療サービス	1	2		
心理学理論と心理的支援	1	2			現代社会と福祉	2	4		
社会学理論と社会システム	1	2	2		高齢者に対する支援と介護保険制度	1	2	4	
日本国憲法	2	2			障害者に対する支援と障害者自立支援法	2	2	2	
道徳教育	1	2			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2	4		
健康論	1	2			相談援助の理論と方法Ⅰ	2	2	4	
体育（スポーツ）及びレクリエーション実技	1	2			相談援助の理論と方法Ⅱ	3	3	4	
情報処理演習	1	2			相談援助の基盤と専門職	1	4		
福祉情報処理	3	2	2		福祉心理学	1	2		
英語Ⅰ	1	2			教職概論	2	2		
英語Ⅱ	1	2			教育社会学	2	2		
英語Ⅲ	2	2	2		カウンセリング	4	2	2	
英語Ⅳ	2	2	2		相談援助演習Ⅰ	1	1	1	
韓国語Ⅰ	2	2	2		相談援助演習Ⅱ	2	2	2	
韓国語Ⅱ	2	2	2		相談援助演習Ⅲ	3	2	2	
中国語Ⅰ	2	2	2		公衆衛生学	2	2	2	
中国語Ⅱ	2	2	2		国際福祉論	4	2	2	
英会話	4	2	2	子ども専攻	住環境福祉論	4	2	2	
経済学	2	2	2	初等教育コースは	社会福祉法制	3	2	2	
政治学Ⅰ	4	2	2	基礎教養科目にお	アクティビティ・サービス援助技術	4	2	2	
政治学Ⅱ	4	2	2	いては、必修科目	幼児理解	4	2	2	
人間と宗教	4	2	2	18科目36単位	幼稚園教育実習事前事後指導	4	2	2	
生涯学習概論	4	2	2	外に選択科目より	幼稚園教育実習	4	4	4	
児童文学	3	2	2	8単位以上履修	地域子育て支援論	4	2	2	
読書指導と文芸（休講）	4	2	2		青少年の理解と援助	3	2	2	
マスメディア論	4	2	2		人権教育論	4	2	2	
レクリエーション活動援助法	4	2	2		国語科概論	2	2	2	
特設科目・論語	3	2	2		社会科概論	2	2	2	
教育原理	1	2			数学概論	2	2	2	
日本史Ⅰ	2	2	2		理科概論	2	2	2	
日本史Ⅱ	2	2	2		生活科概論	2	2	2	
世界史	2	2	2		音楽概論	2	2	2	
地理学	2	2	2		美術概論	2	2	2	
基礎演習Ⅰ	1	2	2		家庭科概論	2	2	2	
基礎演習Ⅱ	2	2	2		体育概論	2	2	2	
専門演習Ⅰ	3	2	2		小学校教科教育法（国語）	3	2	2	
専門演習Ⅱ	4	2	2		小学校教科教育法（社会）	4	2	2	
ボランティア活動Ⅰ	1	2	2		小学校教科教育法（算数）	3	2	2	
ボランティア活動Ⅱ	2	2	2		小学校教科教育法（理科）	4	2	2	
ボランティア活動Ⅲ	3	1	1		小学校教科教育法（生活）	4	2	2	
ボランティア活動Ⅳ	4	1	1		小学校教科教育法（音楽）	4	2	2	
					小学校教科教育法（図工）	3	2	2	
					小学校教科教育法（家庭）	4	2	2	
					小学校教科教育法（体育）	3	2	2	
					初等教育実習事前事後指導	3・4	1	1	子ども専攻
					小学校教育実習	4	4	4	初等教育コースは
					介護技術Ⅰ	2	2	2	専門科目において
					介護技術Ⅱ	3	2	2	は、必修科目30
					特別活動研究	3	2	2	科目62単位の外
					教育方法論	2	2	2	に選択科目より
					生徒指導論	3	2	2	18単位以上履修
					教育相談論	3	2	2	のこと
					教育教職実践演習	4	2	2	ただし、幼稚園教
					教職実践演習（小学校）	4	2	2	諭免許を取得しな
					学校経営と学校図書館	3	2	2	い者は、幼稚園教
					学校図書館メディアの構成	3	2	2	育実習（4単位）、
					学習指導と学校図書館	3	2	2	幼稚園教育実習事
					読書と豊かな人間性	3	2	2	前事後指導（2単
					情報メディアの活用	3	2	2	位）の計6単位分
					保育原理Ⅰ	1	4	2	については、選択
					社会的養護Ⅰ	2	2	2	科目より18単位
					発達心理学（保育の心理学Ⅰ）	1	2	2	を超えた分の単位
					教育心理学（保育の心理学Ⅱ）	1	2	2	数を充てるものが
					子どもの保健Ⅰ	4	1	2	できるものとす
					子どもの保健Ⅱ	3	2	2	る。
					子どもの食と栄養	2	2	2	
					家庭支援論	4	1	1	
					保育内容 総論	1	1	1	
					保育内容 健康	2	1	1	
					保育内容 人間関係	1	1	1	
					保育内容 環境	2	1	1	
					保育内容 言葉	3	1	1	
					保育内容 表現	3	1	1	
					乳児保育Ⅰ	3	2	2	
					障害児保育	2	1	1	
					社会的養護内容	2	2	2	
					保育の表現技術Ⅰ 音楽	1	2	2	
					保育の表現技術Ⅰ 図画工作	1	2	2	
					保育の表現技術Ⅰ 体育	1	1	1	
					保育実習Ⅰ（保育所）	3	2	2	
					保育実習Ⅰ（施設）	2	2	2	
					保育実習Ⅱ（保育所）	4	2	2	
					保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1	1	
					保育実習指導Ⅰ（施設）	2・3	1	1	
					保育実習指導Ⅱ（保育所）	4	1	1	
					保育原理Ⅱ（休講）	4	2	2	
					社会的養護Ⅱ	3	2	2	
					乳児保育Ⅱ（休講）	4	1	1	
					児童文化（演習）	2	2	2	
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）	2	2	2	
					保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）	2	2	2	
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）	3	2	2	
					保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）	4	2	2	
					臨床心理学	4	2	2	
					保育者論	3	2	2	
					保育課程論	3	2	2	
					卒業研究	3	3	3	
					卒業研究	3	6	6	
					介護体験実習Ⅰ	4	1	1	
					介護体験実習Ⅱ	3	1	1	
					介護体験実習指導	3	1	1	
					子ども専攻初等教育コース 最低履修単位	124	124	124	

教科書の購入について

各シラバスに記載されている教科書は必ず購読し、毎授業に持参することが大学生としての基本です。

文部科学省は『大学における教育内容・方法の改善等について』において以下のように答申している。

単位制度は、教室での授業と授業の事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与することを前提としており、各大学において1単位当たりの必要な授業時間を確保するとともに、学生には大学の教室で授業を受けるだけでなく、教室外においても自主的な学習を行うことが求められます。

つまり、大学において単位を取得するためには教室での授業及び授業の事前・事後の準備学習・復習が重要です。事前・事後の準備学習・復習のためには教科書の購入が必須であり、学校のロッカーに教科書を入れているという現状はこの準備学習・復習をしていないということを顕著に表しています。

今年度は必ず、教科書を購入するとともに自宅で準備学習・復習をする習慣を身に付けてください。また、学習方法がわからない場合や学習内容でわからない場合は、教職員に聞いてみましょう。また、図書館で学習する習慣をつけることで、最終学年で受験するであろう社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験の受験対策にもつながります。

以下に専攻・コースにおける必携書籍を提示するので、必ず購入し授業及び準備学習・復習に役立ててください。

社会福祉学部及び短期大学部の学生

◆社会福祉6法（社会福祉小6法）

※出版社は指定しないが法改正があるため、毎年購入することが望ましい。

◆国語辞典

◆漢和辞典

◆英和辞典

※国語辞典、漢和辞典、英和辞典は高校等で使っていたものでかまわない。

◆社会福祉用語辞典